茨城県教育財団文化財調査報告第170集

中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

中原遺跡 3
上巻

平成13年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第170集

中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

中原（なかはら）遺跡 3
（上　巻）

平成13年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人　茨城県教育財団

序

つくば市は，国際交流の拠点にふさわしい町づくりを進めております。この町づくりの一環として，つくば市と都市基盤整備公団茨城地域支社は，市と東京圏を直結する常磐新線の開発と同時に，沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業を計画的に推進しています。

財団法人茨城県教育財団は，都市基盤整備公団茨城地域支社から開発地内の埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成８年４月から平成９年７月までは中谷津遺跡の発掘調査を，平成９年８月からは中原遺跡の発掘調査を実施してまいりました。その成果の一部はすでに当財団の文化財調査報告第139集，第155集，第159集として報告したところであります。

本書は，中原遺跡の平成11年度における調査の成果を収録したものであります。本書が，研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，ひいては教育・文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお，発掘調査及び整理を進めるにあたり，委託者である都市基盤整備公団茨城地域支社から賜りました多大なる御協力に対し，心から御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導・御協力を賜りましたことに対し，衷心より感謝の意を表します。

平成13年３月

財団法人　茨城県教育財団

理事長　齋藤　佳郎

例　　言

1　本書は，住宅・都市整備公団茨城地域支社の委託により財団法人茨城県教育財団が平成11年４月から平成12年３月まで発掘調査を実施した，つくば市大字東岡に所在する中原遺跡の発掘調査報告書である。なお，住宅・都市整備公団茨城地域支社は，平成11年10月に都市基盤整備公団茨城地域支社と名称を変更した。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は，以下のとおりである。

調　査　平成11年４月１日～平成12年３月31日

整　理　平成12年４月１日～平成13年３月31日

3　当遺跡の発掘調査は，調査課第二課長小泉光正の指揮のもと，調査課第一班長中山忠久，主任調査員白田正子，島田和宏，調査員駒澤悦郎が平成11年４月から平成12年３月まで，主任調査員仲村浩一郎が平成11年４月から10月まで，主任調査員高野節夫が平成11年８月から平成12年３月まで，主任調査員菱沼良幸が平成11年４月から６月，同年11月から平成12年３月まで担当した。

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理課長川井正一，首席調査員荻野谷悟の指揮のもと，主任調査員高野節夫，白田正子，仲村浩一郎，島田和宏が担当した。執筆分担は，以下のとおりである。なお，第３章第３節４(1)奈良・平安時代の竪穴住居跡，(3)掘立柱建物跡については，遺構番号を記した。

高野　第２章，第３章第３節２・３，第３節４(4)，第３節５(1)，第３節６(2)
26,27,80,200,202,203,211,226～228,306,320,321,323,324,328～332,360～365,367～371,375,391～424,481,482,489～494,496号竪穴住居跡

白田　例言・凡例・抄録，第３章第３節４(4)の一部（第740Ａ・Ｂ土坑，第898号土坑・第1588号土坑），第３章第４節まとめ　１奈良・平安時代の土器の変遷　３集落の変遷　４中原遺跡の性格
1,7,84Ａ,84Ｂ,85,163,171,172,176,194,315,318,333,338～340,342,343,345,346,348,350～354,356～359,453～480,483～488,497,498号竪穴住居跡
14,15,52,54,63,64,80,81,82,85,89～92,94,95,98～101,104,106,107,109,111～117,121～124,128～147号掘立柱建物跡

仲村　第３章第１・２節，第３節１
266～305,307～314,317,325～327,334～337,349,366,372～374,376～385,390,499号竪穴住居跡
84,86～88,93,96,97,102,105,108,118,119,125,126号掘立柱建物跡

島田　第１章，第３章第３節５(2)，第３節６(1)(2)
53,56,65,103,229～265,387,389,425～444,446～452号竪穴住居跡

川井　第３章第４節　２文字資料について

5　本書の作成にあたり，墨書・刻書土器の文字の判読については国立歴史民俗博物館教授の平川南氏に，郡衙周辺域の様相については奈良国立文化財研究所集落研究室長の山中敏史氏に，舶載陶磁器については福岡県太宰府市教育委員会の山本信夫氏に御指導をいただいた。

6　石器の実測業務については，大成エンジニアリング株式会社に委託した。

7　発掘調査及び整理に際し，御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

凡　　例

1　遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を用いて区画し，中原遺跡はX軸＝＋10,640m，Y軸＝＋26,040mの交点を（A 1 a1）とした。

大調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C‥‥，西から東へ1，2，3‥‥とし，「A 1区」，「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区も同様に北から南へa，b，c‥‥j，西から東へ1，2，3‥‥0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」，「B 2 b2区」のように呼称した。

2　遺構番号は平成９年度調査からの継続である。

3　土層の観察と遺物の観察における色調の判定には，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

4　遺構，土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺構　住居跡-ＳＩ　方形竪穴状遺構-ＳＨ　掘立柱建物跡-ＳＢ　溝-ＳＤ　土坑-ＳＫ　道路跡-ＳＦ

土層　撹乱-Ｋ

5　遺構及び遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

竈・焼土・施釉陶器　粘土・棚・黒色処理・墨　柱痕・抜き取り痕・油煙・煤・繊維土器・緑彩文

●　土器　▲　土製品　■　石器・石製品　△　金属製品　★　瓦　—·—·—　硬化面

6　遺構・遺物実測図の掲載方法については，次のとおりである。

（1）　遺構全体図は500分の1，各遺構の平面図は原則として60分の１に縮尺で掲載することを基本とした。

（2）　遺物は，原則として３分の１の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

7　「主軸方向」は，炉・竈を通る軸線あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線を主軸とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例　「N－10°－E」）

なお，推定値は［　］を付して示した。

8　遺物観察表の作成方法については次のとおりである。

（1）　土器の計測値は，口径-Ａ　器高-Ｂ　底径-Ｃ　高台（脚）径-Ｄ　高台（脚）高-Ｅ　つまみ径-Ｆ　つまみ高-Ｇとし，単位はcmである。なお，現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。

（2）　備考の欄は，土器の残存率，及びその他必要と思われる事項を記した。

抄　　録

ふりがな	なかはら・こんだだいとくていとちくかくせいりとぼっうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
副書名	中原遺跡 3
巻次	Ⅳ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第170集
著者名	高野節夫　白田正子　仲村浩一郎　島田和宏
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL　029-225-6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL　029-225-6587
発行日	2001年(平成13年)3月21日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
なかはら 中原遺跡	いばらきけん つくばし 茨城県つくば市 おおあざなかはら 大字東岡字中原 180番地の1ほか	08220 ｜ 222	36度 5分 36秒	140度 7分 29秒	23.4m ～ 25.3m	19990401 ～ 20000331	37,714㎡	中根・金田台特定土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中原遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡　3軒 土坑　1基	縄文土器深鉢，縄文土器片，石鏃	8世紀初頭から10世紀初頭に隆盛した集落跡。隣接する九重廃寺・河内郡衙に関連する集落であり，郡衙機能の一部を担っていたものと思われる。 搬載陶磁器の青・白磁が多量の緑釉陶器と共に出土している。また，「常陸国河内郡真幡郷戸主刑部歌人」の墨書土器も出土している。
		古墳	竪穴住居跡　7軒	土師器(椀・高坏・坩・甕・手捏土器)	
		奈良・平安	竪穴住居跡　281軒 方形竪穴状遺構　7基 掘立柱建物跡　69棟 土坑　741基	土師器(坏・高台付坏・椀・高台付椀・高台付皿・耳皿・甕・瓶・墨書土器・朱書土器)，須恵器(坏・高台付坏・盤・高盤・壷・鉢・長頸瓶・短頸壺・甕・瓶・円面硯・墨書土器)，灰釉・緑釉陶器(椀・稜椀・皿・長頸瓶)青磁，白磁，瓦，土製品(紡錘車・管状土錘)，石器・石製品(砥石・紡錘車)，金属製品(紡錘車・刀子・短刀・鋼鏡・鈴具・鐔・釘・鏃・鋤先・火打金・鬥)	
	その他	旧石器	石器集中地点3か所	ナイフ形石器，掻器，尖頭器	
		縄文～奈良・平安	遺物包含層　1か所	縄文土器片，土師器片，須恵器片，灰釉陶器片，緑釉陶器片，土製品	
		中・近世	地下式壙　1基 溝　35条 道路跡　1条	土師質土器，陶器片，磁器片，瓦 土師器片，須恵器片，陶器片，磁器片	
		時期不明	土坑　77基		

目　　次

―上 巻―

序
例言
凡例
抄録
第１章　調査経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
第２章　位置と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　調査の成果 …… 9
　第１節　遺跡の概要 …… 9
　第２節　基本層序の検討 …… 9
　第３節　遺構と遺物 …… 11
　　1　旧石器時代 …… 11
　　(1)　調査の概要と方法 …… 11
　　(2)　石器集中地点 …… 12
　　2　縄文時代 …… 31
　　(1)　竪穴住居跡 …… 31
　　(2)　土坑 …… 35
　　3　古墳時代 …… 36
　　(1)　竪穴住居跡 …… 36
　　4　奈良・平安時代 …… 56
　　(1)　竪穴住居跡 …… 56

―中 巻―

　　4　奈良・平安時代 …… 517
　　(1)　竪穴住居跡 …… 517
　　(2)　方形竪穴状遺構 …… 809
　　(3)　掘立柱建物跡 …… 819
　　(4)　土坑 …… 936
　　5　中・近世 …… 972
　　(1)　地下式横 …… 972
　　(2)　溝 …… 973
　　(3)　道路跡 …… 977

6　その他の遺構と遺物 ……978
(1)　遺物包含層 ……978
(2)　遺構外出土遺物 ……982
第4節　まとめ ……998

―下　巻―

写真図版
付　図

挿　図　目　次

―上　巻―

第1図　中原遺跡周辺遺跡位置図……6
第2図　中原遺跡調査区設定図……8
第3図　基本土層図……10
第4図　旧石器調査区設定図……12
第5図　第8号石器集中地点遺物出土分布図（器種）……13
第6図　第8号石器集中地点遺物出土分布図（石材）……14
第7図　第8号石器集中地点出土遺物実測図（1）……14
第8図　第8号石器集中地点出土遺物実測図（2）……15
第9図　第8号石器集中地点出土遺物実測図（3）……16
第10図　第9号石器集中地点遺物出土分布図（器種）……17
第11図　第9号石器集中地点遺物出土分布図（石材）……18
第12図　第9号石器集中地点出土遺物実測図（1）……19
第13図　第9号石器集中地点出土遺物実測図（2）……20
第14図　第9号石器集中地点出土遺物実測図（3）……21
第15図　第10号石器集中地点遺物出土分布図……23
第16図　第10号石器集中地点出土遺物実測図（1）……24
第17図　第10号石器集中地点出土遺物実測図（2）……25
第18図　石器集中地点外出土遺物実測図（1）……26
第19図　石器集中地点外出土遺物実測図（2）……27
第20図　石器集中地点外出土遺物実測図（3）……28
第21図　第316号住居跡実測図……31
第22図　第316号住居跡出土遺物実測図……32
第23図　第445号住居跡実測図……33
第24図　第445号住居跡出土遺物実測図……34
第25図　第495号住居跡実測図……34
第26図　第495号住居跡出土遺物実測図……35
第27図　第1700号土坑出土遺物実測図……35
第28図　第319号住居跡・出土遺物実測図……37
第29図　第322号住居跡実測図（1）……39
第30図　第322号住居跡実測図（2）……40
第31図　第322号住居跡出土遺物実測図……41
第32図　第341号住居跡実測図……44
第33図　第341号住居跡出土遺物実測図……45
第34図　第344号住居跡実測図……47
第35図　第344号住居跡出土遺物実測図……47
第36図　第347号住居跡・出土遺物実測図……48
第37図　第355号住居跡実測図……50
第38図　第355号住居跡・出土遺物実測図……51

第39図　第355号住居跡出土遺物実測図 ……52
第40図　第386号住居跡・出土遺物実測図 ……54
第41図　第386号住居跡出土遺物実測図 ……55
第42図　第１号住居跡・出土遺物実測図……56
第43図　第７号住居跡実測図……58
第44図　第26号住居跡・出土遺物実測図……59
第45図　第27号住居跡・出土遺物実測図……60
第46図　第53号住居跡実測図……62
第47図　第53号住居跡出土遺物実測図……63
第48図　第56号住居跡・出土遺物実測図……65
第49図　第56号住居跡出土遺物実測図……66
第50図　第65号住居跡・出土遺物実測図……67
第51図　第80号住居跡実測図……69
第52図　第80号住居跡出土遺物実測図……70
第53図　第84Ａ号住居跡・出土遺物実測図……71
第54図　第84Ｂ号住居跡実測図……73
第55図　第84Ｂ号住居跡・出土遺物実測図……74
第56図　第84Ｂ号住居跡出土遺物実測図……75
第57図　第85号住居跡・出土遺物実測図……77
第58図　第103号住居跡実測図 ……78
第59図　第103号住居跡出土遺物実測図 ……79
第60図　第163号住居跡・出土遺物実測図 ……81
第61図　第171号住居跡・出土遺物実測図 ……82
第62図　第172号住居跡・出土遺物実測図 ……84
第63図　第176号住居跡実測図 ……86
第64図　第176号住居跡出土遺物実測図 ……87
第65図　第194号住居跡実測図 ……89
第66図　第194号住居跡出土遺物実測図 ……90
第67図　第200号住居跡・出土遺物実測図 ……91
第68図　第202・306号住居跡実測図……93
第69図　第202号住居跡実測図……94
第70図　第202号住居跡出土遺物実測図 ……95
第71図　第203号住居跡実測図 ……97
第72図　第203号住居跡出土遺物実測図（１）……98
第73図　第203号住居跡出土遺物実測図（２）……99
第74図　第211号住居跡実測図（１） ……103
第75図　第211号住居跡実測図（２） ……104
第76図　第211号住居跡出土遺物実測図……105
第77図　第226号住居跡実測図……106
第78図　第226号住居跡出土遺物実測図……107
第79図　第227号住居跡実測図……109
第80図　第227号住居跡出土遺物実測図……110
第81図　第228号住居跡実測図……112
第82図　第228号住居跡出土遺物実測図……113
第83図　第229号住居跡実測図（１） ……116
第84図　第229号住居跡実測図（２） ……117
第85図　第229号住居跡出土遺物実測図 ……118
第86図　第232号住居跡実測図……121
第87図　第232号住居跡出土遺物実測図……123
第88図　第233号住居跡実測図……125
第89図　第233号住居跡出土遺物実測図……126
第90図　第234号住居跡実測図……128
第91図　第234号住居跡出土遺物実測図……129
第92図　第235号住居跡実測図……131
第93図　第235号住居跡出土遺物実測図（１） …132
第94図　第235号住居跡出土遺物実測図（２） …133
第95図　第236号住居跡・出土遺物実測図……136
第96図　第237号住居跡実測図……138
第97図　第237号住居跡出土遺物実測図……139
第98図　第238号住居跡実測図……141
第99図　第238号住居跡出土遺物実測図……142
第100図　第239号住居跡実測図 ……144
第101図　第239号住居跡出土遺物実測図 ……145
第102図　第240号住居跡実測図 ……147
第103図　第240号住居跡出土遺物実測図 ……149
第104図　第241号住居跡実測図 ……151
第105図　第241号住居跡出土遺物実測図 ……152
第106図　第242号住居跡出土遺物実測図 ……154
第107図　第242号住居跡・出土遺物実測図 ……155
第108図　第243号住居跡実測図 ……158
第109図　第243号住居跡出土遺物実測図 ……159
第110図　第244号住居跡実測図 ……161

第111図　第244号住居跡出土遺物実測図 ……162
第112図　第245号住居跡実測図 ……163
第113図　第246号住居跡実測図 ……164
第114図　第246号住居跡出土遺物実測図 ……165
第115図　第247号住居跡・出土遺物実測図 ……167
第116図　第247号住居跡出土遺物実測図 ……168
第117図　第248号住居跡実測図 ……170
第118図　第248号住居跡出土遺物実測図 ……170
第119図　第249号住居跡実測図 ……172
第120図　第249号住居跡出土遺物実測図 ……173
第121図　第250号住居跡実測図 ……175
第122図　第250号住居跡出土遺物実測図 ……176
第123図　第251号住居跡実測図 ……177
第124図　第251号住居跡出土遺物実測図 ……178
第125図　第252号住居跡・出土遺物実測図 ……179
第126図　第253・264号住居跡，第253号住居跡
出土遺物実測図 ……181
第127図　第254号住居跡実測図 ……183
第128図　第255号住居跡・出土遺物実測図 ……184
第129図　第257号住居跡実測図 ……186
第130図　第257号住居跡出土遺物実測図 ……187
第131図　第258号住居跡実測図 ……189
第132図　第258号住居跡出土遺物実測図 ……190
第133図　第259号住居跡・出土遺物実測図 ……192
第134図　第260号住居跡実測図 ……195
第135図　第260号住居跡・出土遺物実測図 ……196
第136図　第260号住居跡出土遺物実測図（1）…197
第137図　第260号住居跡出土遺物実測図（2）…198
第138図　第261号住居跡実測図 ……200
第139図　第261号住居跡出土遺物実測図 ……200
第140図　第262号住居跡実測図 ……202
第141図　第262号住居跡出土遺物実測図 ……203
第142図　第263号住居跡・出土遺物実測図 ……205
第143図　第263号住居跡出土遺物実測図 ……206
第144図　第264号住居跡出土遺物実測図 ……207
第145図　第265号住居跡実測図 ……209
第146図　第265号住居跡出土遺物実測図 ……210
第147図　第266・267号住居跡実測図……212
第148図　第266号住居跡出土遺物実測図 ……213
第149図　第268A・B号住居跡実測図 ……215
第150図　第268A号住居跡出土遺物実測図 ……216
第151図　第268B号住居跡出土遺物実測図 ……218
第152図　第269号住居跡実測図（1）……220
第153図　第269号住居跡実測図（2）……221
第154図　第269号住居跡出土遺物実測図 ……221
第155図　第270号住居跡実測図 ……223
第156図　第270号住居跡出土遺物実測図 ……224
第157図　第271号住居跡実測図 ……226
第158図　第271号住居跡出土遺物実測図（1）…227
第159図　第271号住居跡出土遺物実測図（2）…228
第160図　第272号住居跡実測図 ……230
第161図　第272号住居跡・出土遺物実測図 ……231
第162図　第273号住居跡・出土遺物実測図 ……233
第163図　第274号住居跡実測図 ……234
第164図　第275号住居跡実測図 ……236
第165図　第275号住居跡出土遺物実測図 ……237
第166図　第276号住居跡実測図 ……238
第167図　第276号住居跡・出土遺物実測図 ……239
第168図　第277号住居跡実測図 ……241
第169図　第277号住居跡出土遺物実測図 ……242
第170図　第278A・B号住居跡実測図 ……243
第171図　第278A号住居跡・出土遺物実測図 …244
第172図　第279号住居跡・出土遺物実測図 ……247
第173図　第279号住居跡出土遺物実測図 ……248
第174図　第280号住居跡実測図 ……249
第175図　第280号住居跡出土遺物実測図 ……249
第176図　第281号住居跡実測図（1）……250
第177図　第281号住居跡実測図（2）……251
第178図　第281号住居跡出土遺物実測図（1）…253
第179図　第281号住居跡出土遺物実測図（2）…255
第180図　第282号住居跡実測図 ……256
第181図　第282号住居跡出土遺物実測図 ……257

第182図　第283号住居跡実測図 ……259
第183図　第283号住居跡出土遺物実測図 ……260
第184図　第284号住居跡実測図 ……261
第185図　第284号住居跡出土遺物実測図 ……262
第186図　第285号住居跡実測図 ……264
第187図　第285号住居跡出土遺物実測図 ……264
第188図　第286号住居跡・出土遺物実測図 ……266
第189図　第286号住居跡出土遺物実測図 ……267
第190図　第287号住居跡・出土遺物実測図 ……268
第191図　第288号住居跡実測図 ……270
第192図　第288号住居跡・出土遺物実測図 ……271
第193図　第289号住居跡・出土遺物実測図 ……273
第194図　第289号住居跡出土遺物実測図 ……274
第195図　第290号住居跡実測図 ……275
第196図　第290号住居跡出土遺物実測図 ……276
第197図　第291号住居跡実測図 ……277
第198図　第291号住居跡出土遺物実測図 ……278
第199図　第293号住居跡実測図 ……280
第200図　第293号住居跡出土遺物実測図 ……281
第201図　第294号住居跡・出土遺物実測図 ……283
第202図　第294号住居跡出土遺物実測図 ……284
第203図　第295号住居跡実測図 ……286
第204図　第295号住居跡出土遺物実測図 ……287
第205図　第296号住居跡実測図 ……289
第206図　第296号住居跡出土遺物実測図 ……290
第207図　第297号住居跡実測図 ……292
第208図　第297号住居跡出土遺物実測図 ……292
第209図　第298号住居跡・出土遺物実測図 ……294
第210図　第298号住居跡出土遺物実測図 ……295
第211図　第299号住居跡実測図 ……297
第212図　第300号住居跡実測図 ……299
第213図　第300号住居跡出土遺物実測図 ……300
第214図　第301号住居跡実測図 ……301
第215図　第301号住居跡出土遺物実測図 ……302
第216図　第302号住居跡実測図 ……304
第217図　第302号住居跡・出土遺物実測図 ……305
第218図　第303号住居跡実測図 ……307
第219図　第303号住居跡出土遺物実測図（1）…308
第220図　第303号住居跡出土遺物実測図（2）…309
第221図　第304号住居跡実測図 ……311
第222図　第305号住居跡実測図 ……312
第223図　第305号住居跡出土遺物実測図 ……313
第224図　第307号住居跡実測図 ……316
第225図　第307号住居跡出土遺物実測図 ……317
第226図　第308号住居跡実測図 ……318
第227図　第308号住居跡出土遺物実測図 ……319
第228図　第310号住居跡実測図 ……321
第229図　第310号住居跡出土遺物実測図 ……322
第230図　第311号住居跡実測図 ……323
第231図　第311号住居跡出土遺物実測図 ……323
第232図　第312号住居跡実測図 ……325
第233図　第312号住居跡出土遺物実測図 ……326
第234図　第313号住居跡・出土遺物実測図 ……313
第235図　第314号住居跡実測図 ……331
第236図　第314号住居跡出土遺物実測図 ……332
第237図　第315号住居跡実測図 ……334
第238図　第315号住居跡出土遺物実測図 ……335
第239図　第317号住居跡実測図（1）……337
第240図　第317号住居跡実測図（2）……338
第241図　第317号住居跡出土遺物実測図 ……339
第242図　第318号住居跡実測図 ……342
第243図　第318号住居跡出土遺物実測図 ……342
第244図　第320号住居跡実測図 ……344
第245図　第320号住居跡出土遺物実測図（1）…345
第246図　第320号住居跡出土遺物実測図（2）…346
第247図　第321号住居跡実測図 ……347
第248図　第321号住居跡出土遺物実測図 ……348
第249図　第323号住居跡・出土遺物実測図 ……349
第250図　第324A・B号住居跡実測図 ……351
第251図　第324A号住居跡出土遺物実測図 ……352
第252図　第324B号住居跡出土遺物実測図 ……353
第253図　第325号住居跡実測図 ……355

第254図　第325号住居跡出土遺物実測図 ……355
第255図　第326号住居跡実測図 ……356
第256図　第327号住居跡実測図 ……357
第257図　第327号住居跡出土遺物実測図 ……358
第258図　第328号住居跡実測図 ……359
第259図　第328号住居跡出土遺物実測図 ……360
第260図　第329号住居跡実測図（1）……361
第261図　第329号住居跡実測図（2）……362
第262図　第329号住居跡出土遺物実測図 ……363
第263図　第330号住居跡実測図 ……365
第264図　第330号住居跡出土遺物実測図 ……366
第265図　第331号住居跡実測図 ……368
第266図　第331号住居跡出土遺物実測図 ……369
第267図　第332号住居跡・出土遺物実測図 ……371
第268図　第332号住居跡出土遺物実測図 ……372
第269図　第333号住居跡・出土遺物実測図 ……373
第270図　第335号住居跡実測図 ……364
第271図　第335号住居跡出土遺物実測図 ……375
第272図　第336号住居跡実測図 ……377
第273図　第336号住居跡出土遺物実測図 ……378
第274図　第337号住居跡実測図 ……381
第275図　第337号住居跡出土遺物実測図 ……381
第276図　第338号住居跡実測図 ……383
第277図　第338号住居跡・出土遺物実測図 ……384
第278図　第338号住居跡出土遺物実測図 ……384
第279図　第339号住居跡実測図（1）……387
第280図　第339号住居跡実測図（2）……388
第281図　第339号住居跡出土遺物実測図（1）…389
第282図　第339号住居跡出土遺物実測図（2）…390
第283図　第340号住居跡実測図（1）……393
第284図　第340号住居跡実測図（2）……394
第285図　第340号住居跡出土遺物実測図（1）…395
第286図　第340号住居跡出土遺物実測図（2）…396
第287図　第342号住居跡実測図 ……399
第288図　第342号住居跡出土遺物実測図（1）…400
第289図　第342号住居跡出土遺物実測図（2）…401
第290図　第343号住居跡実測図 ……402
第291図　第345号住居跡実測図 ……404
第292図　第345号住居跡・出土遺物実測図 ……405
第293図　第345号住居跡出土遺物実測図 ……406
第294図　第346号住居跡実測図 ……407
第295図　第346号住居跡出土遺物実測図 ……408
第296図　第348号住居跡・出土遺物実測図 ……409
第297図　第349号住居跡実測図 ……410
第298図　第349号住居跡出土遺物実測図 ……410
第299図　第350号住居跡実測図 ……412
第300図　第350号住居跡出土遺物実測図 ……412
第301図　第351号住居跡実測図 ……414
第302図　第351号住居跡出土遺物実測図 ……415
第303図　第352号住居跡実測図 ……417
第304図　第352号住居跡出土遺物実測図（1）…418
第305図　第352号住居跡出土遺物実測図（2）…419
第306図　第353号住居跡実測図 ……421
第307図　第353号住居跡出土遺物実測図 ……422
第308図　第354号住居跡実測図 ……424
第309図　第354号住居跡出土遺物実測図（1）…425
第310図　第354号住居跡出土遺物実測図（2）…426
第311図　第356号住居跡実測図 ……428
第312図　第356号住居跡出土遺物実測図 ……429
第313図　第357号住居跡実測図 ……430
第314図　第357号住居跡出土遺物実測図 ……431
第315図　第358号住居跡・出土遺物実測図 ……434
第316図　第358号住居跡出土遺物実測図 ……435
第317図　第359号住居跡・出土遺物実測図 ……436
第318図　第360号住居跡実測図 ……438
第319図　第360号住居跡出土遺物実測図 ……438
第320図　第361号住居跡実測図 ……440
第321図　第361号住居跡出土遺物実測図 ……440
第322図　第362号住居跡実測図 ……442
第323図　第362号住居跡出土遺物実測図 ……443
第324図　第363号住居跡実測図 ……444
第325図　第363号住居跡出土遺物実測図 ……445

第326図　第364号住居跡・出土遺物実測図 ……446
第327図　第365号住居跡実測図 ……448
第328図　第365号住居跡出土遺物実測図 ……449
第329図　第366号住居跡実測図 ……450
第330図　第366号住居跡出土遺物実測図 ……451
第331図　第367号住居跡実測図 ……453
第332図　第367号住居跡出土遺物実測図 ……454
第333図　第368・369号住居跡，第368号住居跡
出土遺物実測図 ……456
第334図　第369号住居跡出土遺物実測図 ……457
第335図　第370号住居跡・出土遺物実測図 ……459
第336図　第370号住居跡出土遺物実測図 ……460
第337図　第371号住居跡・出土遺物実測図 ……462
第338図　第372号住居跡・出土遺物実測図 ……464
第339図　第372号住居跡出土遺物実測図 ……465
第340図　第373号住居跡・出土遺物実測図 ……467
第341図　第373号住居跡出土遺物実測図（1）…468
第342図　第373号住居跡出土遺物実測図（2）…469
第343図　第374号住居跡・出土遺物実測図 ……471
第344図　第375号住居跡実測図 ……472
第345図　第376号住居跡実測図 ……474
第346図　第376号住居跡出土遺物実測図 ……475
第347図　第377号住居跡実測図 ……476
第348図　第378号住居跡実測図 ……478
第349図　第378号住居跡出土遺物実測図 ……479
第350図　第379号住居跡・出土遺物実測図 ……481
第351図　第379号住居跡出土遺物実測図 ……482
第352図　第380号住居跡実測図 ……484
第353図　第380号住居跡出土遺物実測図 ……485
第354図　第381号住居跡実測図 ……487
第355図　第381号住居跡・出土遺物実測図 ……488
第356図　第381号住居跡出土遺物実測図 ……489
第357図　第382号住居跡実測図 ……491
第358図　第382号住居跡出土遺物実測図 ……492
第359図　第383号住居跡実測図 ……493
第360図　第383号住居跡出土遺物実測図 ……494
第361図　第384号住居跡実測図 ……496
第362図　第384号住居跡出土遺物実測図 ……497
第363図　第385号住居跡・出土遺物実測図 ……499
第364図　第385号住居跡出土遺物実測図 ……500
第365図　第387号住居跡実測図 ……502
第366図　第387号住居跡出土遺物実測図 ……503
第367図　第388号住居跡実測図 ……504
第368図　第388号住居跡出土遺物実測図 ……505
第369図　第389号住居跡実測図 ……507
第370図　第389号住居跡出土遺物実測図 ……508
第371図　第390号住居跡実測図 ……510
第372図　第390号住居跡出土遺物実測図 ……511
第373図　第391号住居跡・出土遺物実測図 ……512
第374図　第392号住居跡・出土遺物実測図 ……515
第375図　第392号住居跡出土遺物実測図 ……516

—中　巻—

第376図　第393号住居跡実測図 ……518
第377図　第393号住居跡出土遺物実測図 ……519
第378図　第394号住居跡実測図 ……521
第379図　第395号住居跡実測図 ……523
第380図　第395号住居跡出土遺物実測図（1）…524
第381図　第395号住居跡出土遺物実測図（2）…525
第382図　第396号住居跡実測図 ……527
第383図　第396号住居跡出土遺物実測図 ……528
第384図　第397号住居跡実測図 ……530
第385図　第397号住居跡出土遺物実測図 ……531
第386図　第398号住居跡実測図 ……533
第387図　第398号住居跡出土遺物実測図 ……533
第388図　第399号住居跡・出土遺物実測図 ……536
第389図　第399号住居跡出土遺物実測図 ……537
第390図　第400号住居跡実測図 ……540
第391図　第400号住居跡・出土遺物実測図 ……541
第392図　第400号住居跡出土遺物実測図 ……542
第393図　第401号住居跡実測図（1）……545
第394図　第401号住居跡実測図（2）……546
第395図　第401号住居跡出土遺物実測図 ……547

第396図　第402号住居跡実測図 ……549
第397図　第402号住居跡出土遺物実測図 ……550
第398図　第403号住居跡実測図 ……552
第399図　第403号住居跡出土遺物実測図 ……553
第400図　第404号住居跡実測図 ……554
第401図　第404号住居跡・出土遺物実測図 ……555
第402図　第405号住居跡実測図 ……557
第403図　第405号住居跡出土遺物実測図 ……558
第404図　第406号住居跡実測図（1）……560
第405図　第406号住居跡実測図（2）……561
第406図　第406号住居跡出土遺物実測図（1）…562
第407図　第406号住居跡出土遺物実測図（2）…563
第408図　第407号住居跡実測図 ……565
第409図　第407号住居跡出土遺物実測図 ……566
第410図　第408号住居跡実測図 ……568
第411図　第408号住居跡出土遺物実測図 ……569
第412図　第409号住居跡・出土遺物実測図 ……571
第413図　第410号住居跡実測図 ……573
第414図　第411号住居跡実測図 ……574
第415図　第411号住居跡出土遺物実測図 ……575
第416図　第412号住居跡実測図 ……576
第417図　第412号住居跡出土遺物実測図 ……577
第418図　第413号住居跡実測図 ……579
第419図　第413号住居跡出土遺物実測図 ……580
第420図　第414号住居跡実測図 ……581
第421図　第414号住居跡出土遺物実測図 ……582
第422図　第415号住居跡実測図 ……584
第423図　第415号住居跡出土遺物実測図 ……585
第424図　第416号住居跡・出土遺物実測図 ……587
第425図　第416号住居跡出土遺物実測図 ……588
第426図　第417号住居跡実測図 ……589
第427図　第417号住居跡出土遺物実測図 ……591
第428図　第418号住居跡実測図 ……593
第429図　第418号住居跡出土遺物実測図 ……594
第430図　第419号住居跡実測図 ……595
第431図　第419号住居跡出土遺物実測図 ……596
第432図　第420号住居跡実測図 ……598
第433図　第420号住居跡出土遺物実測図 ……599
第434図　第421号住居跡・出土遺物実測図 ……602
第435図　第421号住居跡出土遺物実測図 ……603
第436図　第422号住居跡実測図 ……605
第437図　第422号住居跡出土遺物実測図 ……606
第438図　第423号住居跡実測図 ……608
第439図　第423号住居跡出土遺物実測図 ……608
第440図　第424号住居跡・出土遺物実測図 ……609
第441図　第424号住居跡出土遺物実測図 ……610
第442図　第425号住居跡・出土遺物実測図 ……612
第443図　第425号住居跡出土遺物実測図 ……613
第444図　第426号住居跡実測図 ……614
第445図　第426号住居跡出土遺物実測図（1）…615
第446図　第426号住居跡出土遺物実測図（2）…616
第447図　第427号住居跡実測図 ……618
第448図　第427号住居跡出土遺物実測図 ……619
第449図　第428号住居跡・出土遺物実測図 ……620
第450図　第429A号住居跡・出土遺物実測図 …622
第451図　第429B号住居跡実測図 ……623
第452図　第431号住居跡実測図 ……625
第453図　第431号住居跡出土遺物実測図 ……626
第454図　第432号住居跡実測図 ……628
第455図　第432号住居跡出土遺物実測図 ……629
第456図　第433号住居跡実測図 ……630
第457図　第433号住居跡出土遺物実測図（1）…631
第458図　第433号住居跡出土遺物実測図（2）…632
第459図　第435号住居跡・出土遺物実測図 ……634
第460図　第436号住居跡実測図（1）……635
第461図　第436号住居跡実測図（2）……636
第462図　第436号住居跡出土遺物実測図 ……637
第463図　第437号住居跡実測図 ……639
第464図　第437号住居跡出土遺物実測図 ……640
第465図　第438号住居跡実測図 ……642
第466図　第438号住居跡出土遺物実測図 ……643
第467図　第439号住居跡・出土遺物実測図 ……645

第468図　第440号住居跡実測図 ……647
第469図　第440号住居跡出土遺物実測図（1）…648
第470図　第440号住居跡出土遺物実測図（2）…649
第471図　第441号住居跡・出土遺物実測図 ……651
第472図　第442号住居跡実測図 ……653
第473図　第442号住居跡出土遺物実測図 ……654
第474図　第443号住居跡・出土遺物実測図 ……656
第475図　第444号住居跡実測図 ……659
第476図　第444号住居跡・出土遺物実測図 ……660
第477図　第444号住居跡出土遺物実測図 ……661
第478図　第446号住居跡実測図 ……663
第479図　第446号住居跡出土遺物実測図 ……664
第480図　第447号住居跡実測図 ……667
第481図　第447号住居跡・出土遺物実測図 ……668
第482図　第447号住居跡出土遺物実測図 ……669
第483図　第448号住居跡実測図（1）……672
第484図　第448号住居跡実測図（2）……673
第485図　第448号住居跡出土遺物実測図 ……673
第486図　第449号住居跡・出土遺物実測図 ……675
第487図　第450号住居跡・出土遺物実測図 ……677
第488図　第450号住居跡出土遺物実測図 ……678
第489図　第451号住居跡実測図 ……680
第490図　第451号住居跡・出土遺物実測図 ……681
第491図　第452号住居跡・出土遺物実測図 ……683
第492図　第453号住居跡実測図 ……686
第493図　第453号住居跡出土遺物実測図（1）…687
第494図　第453号住居跡出土遺物実測図（2）…688
第495図　第454号住居跡実測図 ……691
第496図　第454号住居跡出土遺物実測図 ……692
第497図　第455号住居跡実測図 ……694
第498図　第455号住居跡出土遺物実測図 ……695
第499図　第456号住居跡実測図 ……697
第500図　第456号住居跡出土遺物実測図（1）…698
第501図　第456号住居跡出土遺物実測図（2）…699
第502図　第457号住居跡実測図 ……701
第503図　第457号住居跡出土遺物実測図 ……702
第504図　第458号住居跡実測図 ……704
第505図　第458号住居跡・出土遺物実測図 ……705
第506図　第458号住居跡出土遺物実測図 ……706
第507図　第459号住居跡・出土遺物実測図 ……708
第508図　第460号住居跡実測図（1）……710
第509図　第460号住居跡実測図（2）……711
第510図　第460号住居跡実測図（3）……712
第511図　第460号住居跡出土遺物実測図（1）…714
第512図　第460号住居跡出土遺物実測図（2）…715
第513図　第461号住居跡実測図 ……718
第514図　第461号住居跡出土遺物実測図 ……718
第515図　第462号住居跡実測図 ……720
第516図　第462号住居跡出土遺物実測図 ……721
第517図　第463号住居跡実測図 ……723
第518図　第463号住居跡出土遺物実測図 ……723
第519図　第464号住居跡実測図 ……725
第520図　第464号住居跡出土遺物実測図 ……725
第521図　第465・466号住居跡実測図（1）……727
第522図　第465・466号住居跡実測図（2）……728
第523図　第465号住居跡出土遺物実測図（1）…728
第524図　第465号住居跡出土遺物実測図（2）…729
第525図　第466号住居跡出土遺物実測図 ……730
第526図　第467号住居跡・出土遺物実測図 ……732
第527図　第467号住居跡出土遺物実測図 ……733
第528図　第468号住居跡実測図 ……734
第529図　第468号住居跡出土遺物実測図 ……735
第530図　第469号住居跡・出土遺物実測図 ……736
第531図　第470号住居跡実測図 ……738
第532図　第470号住居跡出土遺物実測図 ……738
第533図　第471・472号住居跡実測図……740
第534図　第472号住居跡実測図 ……741
第535図　第471号住居跡出土遺物実測図 ……741
第536図　第472号住居跡・出土遺物実測図 ……742
第537図　第473号住居跡実測図（1）……744
第538図　第473号住居跡実測図（2）……745
第539図　第473号住居跡出土遺物実測図 ……746

第540図　第474号住居跡実測図 ……748
第541図　第474号住居跡・出土遺物実測図 ……749
第542図　第474号住居跡出土遺物実測図 ……751
第543図　第475号住居跡実測図 ……753
第544図　第475号住居跡出土遺物実測図 ……754
第545図　第476号住居跡・出土遺物実測図 ……756
第546図　第476号住居跡出土遺物実測図 ……757
第547図　第477号住居跡・出土遺物実測図 ……759
第548図　第478号住居跡・出土遺物実測図 ……761
第549図　第479号住居跡・出土遺物実測図 ……763
第550図　第480号住居跡実測図 ……765
第551図　第480号住居跡出土遺物実測図（1）…766
第552図　第480号住居跡出土遺物実測図（2）…767
第553図　第481号住居跡・出土遺物実測図 ……769
第554図　第481号住居跡出土遺物実測図 ……770
第555図　第482号住居跡・出土遺物実測図 ……772
第556図　第483号住居跡実測図 ……773
第557図　第483号住居跡出土遺物実測図 ……774
第558図　第484号住居跡・出土遺物実測図 ……775
第559図　第485号住居跡・出土遺物実測図 ……777
第560図　第485号住居跡出土遺物実測図 ……778
第561図　第486号住居跡実測図 ……779
第562図　第486号住居跡出土遺物実測図 ……780
第563図　第487号住居跡実測図 ……781
第564図　第487号住居跡出土遺物実測図 ……782
第565図　第488号住居跡実測図 ……783
第566図　第488号住居跡出土遺物実測図 ……784
第567図　第489号住居跡・出土遺物実測図 ……786
第568図　第489号住居跡出土遺物実測図 ……787
第569図　第490号住居跡実測図 ……788
第570図　第490号住居跡出土遺物実測図 ……789
第571図　第491号住居跡実測図 ……791
第572図　第491号住居跡出土遺物実測図 ……792
第573図　第492号住居跡実測図 ……795
第574図　第492号住居跡出土遺物実測図 ……796
第575図　第493号住居跡・出土遺物実測図 ……798
第576図　第494号住居跡実測図（1）……800
第577図　第494号住居跡実測図（2）……801
第578図　第494号住居跡出土遺物実測図 ……802
第579図　第496号住居跡実測図 ……804
第580図　第496号住居跡出土遺物実測図 ……805
第581図　第497号住居跡・出土遺物実測図 ……806
第582図　第499号住居跡実測図 ……807
第583図　第499号住居跡出土遺物実測図 ……808
第584図　第１号方形竪穴状遺構・出土遺物
実測図 ……810
第585図　第２号方形竪穴状遺構・出土遺物
実測図 ……811
第586図　第３号方形竪穴状遺構実測図……812
第587図　第４号方形竪穴状遺構実測図……813
第588図　第４号方形竪穴状遺構出土遺物
実測図 ……814
第589図　第５号方形竪穴状遺構・出土遺物
実測図 ……815
第590図　第６号方形竪穴状遺構実測図……816
第591図　第６号方形竪穴状遺構出土遺物
実測図 ……817
第592図　第７号方形竪穴状遺構・出土遺物
実測図 ……818
第593図　第14号掘立柱建物跡実測図……819
第594図　第15号掘立柱建物跡実測図……821
第595図　第52号掘立柱建物跡出土遺物実測図…822
第596図　第52号掘立柱建物跡実測図……822
第597図　第54号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図 ……824
第598図　第63号掘立柱建物跡・出土遺物実測図
実測図 ……825
第599図　第64号掘立柱建物跡実測図（1）……826
第600図　第64号掘立柱建物跡実測図（2）……827
第601図　第64号掘立柱建物跡出土遺物実測図…828
第602図　第80号掘立柱建物跡実測図……829
第603図　第80号掘立柱建物跡出土遺物実測図…830

第604図　第81号掘立柱建物跡実測図……831
第605図　第82号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図……832
第606図　第84号掘立柱建物跡実測図……834
第607図　第84号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図……835
第608図　第85号掘立柱建物跡出土遺物実測図…836
第609図　第85号掘立柱建物跡実測図……837・838
第610図　第86号掘立柱建物跡実測図……840
第611図　第86号掘立柱建物跡出土遺物実測図…841
第612図　第87号掘立柱建物跡実測図……842
第613図　第88号掘立柱建物跡実測図……844
第614図　第89号掘立柱建物跡出土遺物実測図…845
第615図　第89・90号掘立柱建物跡実測図……846
第616図　第91号掘立柱建物跡実測図……848
第617図　第91号掘立柱建物跡出土遺物実測図…849
第618図　第92号掘立柱建物跡実測図……850
第619図　第92号掘立柱建物跡出土遺物実測図…851
第620図　第93号掘立柱建物跡実測図……852
第621図　第93号掘立柱建物跡出土遺物実測図…853
第622図　第94号掘立柱建物跡実測図（1）……854
第623図　第94号掘立柱建物跡実測図（2）……855
第624図　第95号掘立柱建物跡実測図……856
第625図　第95号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図……857
第626図　第96号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図……859
第627図　第97号掘立柱建物跡実測図……860
第628図　第98号掘立柱建物跡実測図（1）……862
第629図　第98号掘立柱建物跡実測図（2）……863
第630図　第99号掘立柱建物跡実測図……864
第631図　第100号掘立柱建物跡実測図……865
第632図　第101号掘立柱建物跡実測図……867
第633図　第102号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図……869
第634図　第104号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図……870
第635図　第105号掘立柱建物跡実測図……872
第636図　第106号掘立柱建物跡実測図……873
第637図　第107号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図……874
第638図　第108号掘立柱建物跡実測図……876
第639図　第109号掘立柱建物跡実測図……877
第640図　第111号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図……879
第641図　第112号掘立柱建物跡実測図……881
第642図　第112号掘立柱建物跡出土遺物実測図 882
第643図　第113号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図……883
第644図　第113号掘立柱建物跡出土遺物実測図 884
第645図　第114号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図……886
第646図　第115号掘立柱建物跡出土遺物
実測図……887
第647図　第115号掘立柱建物跡実測図……888
第648図　第116号掘立柱建物跡・出土遺物実測図…889
第649図　第117号掘立柱建物跡実測図……891
第650図　第118号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図……892
第651図　第119号掘立柱建物跡実測図……894
第652図　第121号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図……896
第653図　第122号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図……898
第654図　第123号掘立柱建物跡実測図……899
第655図　第124号掘立柱建物跡実測図……901
第656図　第125号掘立柱建物跡実測図……902
第657図　第125号掘立柱建物跡出土遺物
実測図……903
第658図　第126号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図……904

第659図　第128号掘立柱建物跡実測図 ……905
第660図　第129号掘立柱建物跡実測図 ……907
第661図　第130号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図 ……908
第662図　第131号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図 ……911
第663図　第132号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図 ……912
第664図　第133号掘立柱建物跡実測図 ……914
第665図　第134号掘立柱建物跡実測図 ……915
第666図　第135号掘立柱建物跡実測図 ……917
第667図　第136号掘立柱建物跡実測図 ……918
第668図　第137号掘立柱建物跡実測図 ……919
第669図　第138号掘立柱建物跡実測図 ……920
第670図　第139号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図 ……922
第671図　第140号掘立柱建物跡出土遺物
実測図 ……923
第672図　第140号掘立柱建物跡実測図 ……924
第673図　第141号掘立柱建物跡実測図 ……925
第674図　第142号掘立柱建物跡実測図 ……927
第675図　第143号掘立柱建物跡実測図 ……928
第676図　第143号掘立柱建物跡出土遺物
実測図 ……929
第677図　第144号掘立柱建物跡・出土遺物
実測図 ……930
第678図　第145号掘立柱建物跡実測図 ……932
第679図　第146号掘立柱建物跡実測図 ……933
第680図　第147号掘立柱建物跡実測図 ……935
第681図　第147号掘立柱建物跡出土遺物
実測図 ……936
第682図　第736号土坑・出土遺物実測図 ……937
第683図　第740A・B号土坑・出土遺物
実測図 ……938
第684図　第740A・B号土坑出土遺物実測図 …939
第685図　第812号土坑・出土遺物実測図 ……942
第686図　第898号土坑・出土遺物実測図 ……943
第687図　第940号土坑・出土遺物実測図 ……945
第688図　第949号土坑・出土遺物実測図 ……946
第689図　第957号土坑・出土遺物実測図 ……948
第690図　第1198号土坑・出土遺物実測図……949
第691図　第1202号土坑・出土遺物実測図……951
第692図　第1295号土坑・出土遺物実測図……952
第693図　第1570号土坑・出土遺物実測図……953
第694図　第1580号土坑・出土遺物実測図……954
第695図　第1588号土坑・出土遺物実測図……955
第696図　第1588号土坑出土遺物実測図……956
第697図　第1692号土坑・出土遺物実測図……957
第698図　第1857号土坑・出土遺物実測図……958
第699図　第1891号土坑・出土遺物実測図……959
第700図　その他の土坑出土遺物実測図（1） …959
第701図　その他の土坑出土遺物実測図（2） …960
第702図　第1号地下式壙実測図……973
第703図　溝実測図（1） ……974
第704図　溝実測図（2） ……975
第705図　第1号道路跡・出土遺物実測図……977
第706図　遺物包含層実測図（1） ……979
第707図　遺物包含層実測図（2） ……980
第708図　遺物包含層出土遺物
実測図（1） ……980
第709図　第1号遺物包含層出土遺物
実測図（2） ……981
第710図　遺構外出土遺物実測図（1） ……983
第711図　遺構外出土遺物実測図（2） ……984
第712図　中原遺跡第Ⅰ期の土器群……999
第713図　中原遺跡第Ⅱ期の土器群（1）……1001
第714図　中原遺跡第Ⅱ期の土器群（2）……1002
第715図　中原遺跡第Ⅲ期の土器群（1）……1003
第716図　中原遺跡第Ⅲ期の土器群（2）……1004
第717図　中原遺跡第Ⅳ期の土器群 ……1005
第718図　中原遺跡第Ⅴ期の土器群 ……1007
第719図　中原遺跡第Ⅵ期の土器群（1）……1008

第720図　中原遺跡第Ⅵ期の土器群（2）……1009
第721図　中原遺跡第Ⅵ期の土器群 ……1011
第722図　中原遺跡第Ⅰ期遺構群 ……1021
第723図　中原遺跡第Ⅱ期遺構群 ……1023
第724図　中原遺跡第Ⅲ期遺構群 ……1025
第725図　中原遺跡第Ⅳ期遺構群 ……1027
第726図　中原遺跡第Ⅴ期遺構群 ……1029
第727図　中原遺跡第Ⅵ期遺構群 ……1031
第728図　中原遺跡第Ⅶ期遺構群 ……1033

表 目 次

表1　中原遺跡周辺遺跡一覧表 ……7
表2　石器集中地点外出土遺物 ……11
表3　第8号石器集中地点出土遺物 ……13
表4　第9号石器集中地点出土遺物 ……19
表5　第10号石器集中地点出土遺物 ……24
表6　土坑一覧表 ……961～972
表7　溝一覧表 ……976～977
表8　縄文時代住居跡一覧表 ……986
表9　古墳時代住居跡一覧表 ……986
表10　奈良・平安時代住居跡一覧表 ……986～995
表11　方形竪穴状遺構一覧表 ……995
表12　掘立柱建物跡一覧表 ……995～997
表13　出土文字資料一覧表 ……1015～1019

第1章　調 査 経 緯

第1節　調査に至る経緯

つくば市は，世界に開かれた国際交流の中心，世界の科学技術をリードする研究開発の拠点として，21世紀の新しい街づくりを進めている。その一環として取り組んでいるのが，西暦2005年開業をめざした常磐新線の建設とそれに伴う沿線開発である。中根・金田台地区については，住宅・都市整備公団つくば開発局（平成9年10月から住宅・都市整備公団茨城地域支社に，平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に名称を変更）を事業主体として，土地区画整理事業を進めている。

平成6年11月18日，住宅・都市整備公団つくば開発局は茨城県教育委員会あてに，中根・金田台特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これに対して茨城県教育委員会は平成7年5月15日から6月8日にかけて現地踏査を，10月9日から13日にかけて試掘・確認調査を実施し，金田台地区において中原遺跡の所在を確認し，12月28日，住宅・都市整備公団つくば開発局及びつくば市教育委員会あてに，その旨回答した。平成9年3月11日，住宅・都市整備公団つくば開発局は茨城県教育委員会と，事業地内に所在する中原遺跡（17,861㎡）の取り扱いについて協議した。その結果，3月17日，茨城県教育委員会は，住宅・都市整備公団つくば開発局あてに記録保存とする旨回答し，調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。そこで，住宅・都市整備公団つくば開発局は財団法人茨城県教育財団と中原遺跡の発掘調査に関する委託契約を結んだ。財団法人茨城県教育財団は，平成9年4月1日から発掘調査を開始した。

平成9年12月1日，財団法人茨城県教育財団は，遺構数が極めて多く，予定期間内に調査を終了することが困難なため，茨城県教育委員会あてに発掘調査計画の変更協議を出し，平成10年1月6日，茨城県教育委員会は，住宅・都市整備公団茨城地域支社と計画変更に関する協議を行い，財団法人茨城県教育財団あてに，当初調査区域の一部（10,389㎡）を次年度へ繰り越すこととする旨回答した。これにより，財団法人茨城県教育財団は10年3月31日までに，調査Ⅰ・ⅡA区（7,472㎡）の調査を，平成10年4月1日から平成11年3月31日にかけて，調査ⅡB・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ区の調査を実施した。

平成11年3月9日，住宅・都市整備公団茨城地域支社から茨城県教育委員会に，事業地内に所在する中原遺跡（37,714㎡）の取り扱いに関する協議が出された。3月15日，茨城県教育委員会は，住宅・都市整備公団茨城地域支社あてに中原遺跡を記録保存とする旨回答し，調査機関として紹介した。そこで，住宅・都市整備公団茨城地域支社は財団法人茨城県教育財団と中原遺跡の発掘調査に関する，委託契約を結び，財団法人茨城県教育財団が平成11年4月1日から平成12年3月31日にかけて，発掘調査を実施することとなった。

第2節　調 査 経 過

平成11年度の調査は，平成11年4月1日から平成12年3月31日までの1年間にわたって実施した。以下，調査経過について，その概要を記述する。

4月　発掘調査を開始するため，現場休憩所や倉庫の移設，調査器材の搬入等の諸準備を行った。22日に調査補助員を投入し，試掘を開始した。26日から重機による第一期の表土除去を実施し，遺構確認作業を行った。

5月　引き続き，表土除去と遺構確認作業を行った。その結果，竪穴住居跡105軒，掘立柱建物跡25棟，土坑599基，溝27条を確認した。21日に遺構調査を開始した。土坑6基，溝1条の調査を終了した。

6月　引き続き，遺構調査を行い，竪穴住居跡27軒，掘立柱建物跡3棟，方形竪穴状遺構2基，土坑47基，溝2条の調査を終了した。

7月　遺構調査と並行して，21日から重機による第二期の表土除去を実施した。竪穴住居跡19軒，掘立柱建物跡11棟，方形竪穴状遺構2基，土坑88基，溝5条の調査を終了した。

8月　遺構調査と並行して，表土除去及び遺構確認作業を行った。竪穴住居跡23軒，掘立柱建物跡4棟，土坑76基，溝4条の調査を終了した。

9月　4日までに表土除去及び遺構確認作業を終了した。その結果，竪穴住居跡189軒，掘立柱建物跡36棟，土坑1436基，溝40条，遺物包含層1か所を確認した。今年度の調査区域は遺構が多いため，期間内に調査を終了することが難しいとの見通しから対応策の検討を進め，17日に委託者である住宅・都市整備公団茨城地域支社と茨城県教育財団とで協議を行った。協議の結果，期間内に調査を終了させるため，補助員を追加雇用することになった。竪穴住居跡31軒，掘立柱建物跡9棟，土坑85基の調査を終了した。

10月　竪穴住居跡25軒，掘立柱建物跡4棟，土坑124基，溝6条の調査を終了した。

11月　竪穴住居跡39軒，掘立柱建物跡8棟，土坑75基，溝4条の調査を終了した。

12月　竪穴住居跡34軒，掘立柱建物跡7棟，土坑115基，溝5条，地下式壙1基の調査を終了した。

1月　竪穴住居跡30軒，掘立柱建物跡15棟，方形竪穴状遺構2基，土坑109基，溝3条の調査を終了した。

2月　遺構調査と並行して，22日から調査区域南部の遺物包含層の調査を，25日から旧石器時代の遺物が数多く出土した地点を中心に，グリッド法による調査を実施した。竪穴住居跡47軒，掘立柱建物跡5棟，方形竪穴状遺構1基，土坑48基，溝3条の調査を終了した。

3月　9日に航空写真撮影を実施した。15日には遺構調査をほぼ終了した。最終的な調査遺構数は竪穴住居跡291軒，掘立柱建物跡69棟，方形竪穴状遺構7基，土坑819基，溝35条，地下式壙1基，道路跡1条，旧石器集中地点3か所，遺物包含層1か所となった。当初の確認数と差ができた原因は，大形の竪穴住居跡と考えていたものが，重複した竪穴住居跡であったり，土坑として調査したものが掘立柱建物跡になったためである。21日に委託者に対して，業務報告会を行った。22日には補足調査と調査区域の安全対策を終了した。その後，現場事務所で諸帳簿や諸記録の点検を行い，27日に現場事務所を閉鎖した。

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

中原遺跡は，茨城県つくば市大字東岡字中原187番地ほかに所在する。

つくば市は，茨城県の南西部に位置し，北は真壁郡明野町，同郡真壁町，新治郡八郷町に，東は土浦市，新治郡新治村に，南は牛久市，稲敷郡茎崎町，筑波郡伊奈町，同郡谷和原村に，西は水海道市，下妻市，結城郡石下町，同郡千代川村に接している。

つくば市の東方約5kmには霞ヶ浦が，北端には筑波山が位置しており，つくば市域は，筑波山の南西麓を南下する桜川の低地と，市の西側を南下する小貝川の低地及びそれらに挟まれた台地からなっている。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ，千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部であり，地質的には，新生代第四紀洪積世に形成された地層が堆積する。下層は成田層及び竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし，その上に板橋層または常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層（0.3～5.0m），その上に関東ローム層（0.5～2.5m）が堆積し，最上部は腐植土層となっている。関東ローム層は，新期ロームに属し，武蔵野ローム，立川ロームに比定され，軽石層の分布をみると，富士・箱根火山群の活動に由来するものと考えられる。なお，標高は25～26mで，ほぼ平坦である。この台地の両端を流れる桜川と小貝川によって大きく開析された流域は，標高約5mほどの沖積低地になっており，台地との標高差は約20mになっている。また，この二つの河川の間の台地上を花室川，蓮沼川，東谷田川，西谷田川などの中小規模の河川が南流しており，台地を浅く開析している。そのため谷津や低地が南北に細長く入り込んでおり（第1図），北から南に延びる舌状台地が発達している。

当遺跡は，つくば市の東部，つくば市立桜中学校から西に約700mの地点に所在し，花室川の低地を西に望む花室川左岸の標高23.4～25.3mの舌状台地上に立地している。この舌状台地は，北から南に向かって約950m延びており，幅約305mで，遺跡の東側には谷津が細長く入り込んでいる。

当遺跡と周辺の土地利用の現状は，台地上は主として畑地及び平地林となっており，花室川流域の沖積低地は水田として利用されている。

第2節　歴史的環境

中原遺跡は，旧石器時代から中・近世にかけての複合遺跡である。当遺跡周辺は桜川と花室川などの水系に属し，古代から人々が生活を営む場としては絶好の舞台となってきた。ここでは，当遺跡と同時代の遺跡を中心に，分布状況等の概要を述べることにする。

旧石器時代の遺構は発見例がないものの，生活の道具である石器は数多く出土している。桜川左岸の新治村高崎根遺跡〈14〉，同村大畑本田遺跡〈33〉から尖頭器と剥片が出土しており，どちらも1万3千年前から1万2千年前のものと考えられる。他に同じく桜川左岸のつくば市中台遺跡，東谷田川右岸の同市前野遺跡，花室川左岸の同市柴崎遺跡〈18〉，天の川右岸の土浦市原出口・西原遺跡，蓮沼川左岸のつくば市神田遺跡〈25〉からナイフ形石器や尖頭器の出土がみられる。特に原出口遺跡は尖頭器を中心とした石器製作遺跡と考えられている。該期の遺物の出土例は，近年の発掘調査によって年々増加しており，表面採集や表土中からのものが多いが，貴重な資料がみられる。

縄文時代になると，桜川流域では新治村藤沢東町遺跡(前期～中期)〈37〉，つくば市天神遺跡(中期)〈17〉，同市中台遺跡，新治村田宮梶の宮遺跡(中期～後期)〈12〉など，多くの該期の遺跡が存在し，現在40遺跡が判明している。また，桜川と花室川流域の台地には，貝塚が多く所在しており，国指定史跡の土浦市上高津貝塚〈57〉もその一つである。これらの遺跡の中には湮滅した遺跡もあるが，まだ学術調査が行われていない遺跡も多く，今後の調査が待たれる。

弥生時代の遺跡は桜川流域では10遺跡以上が確認されている。中台遺跡において竪穴住居跡10軒が，原出口遺跡をはじめとする原田北遺跡群において竪穴住居跡183軒が確認されている。これらの多くが洪積台地縁辺に立地しており，縄文時代の遺跡と複合している。

古墳時代の遺跡は，花室川と桜川流域では約80遺跡が確認されている。特に，1983年に調査された新治村武者塚古墳〈42〉では，石室内から大刀，青銅製の杓，銀製の帯状透彫金具，美豆良を結った頭髪，鬆が出土している。また，桜川左岸では，つくば市中台遺跡で100軒の竪穴住居跡，65基の古墳，２基の方形周溝墓が確認され，同市小田橋遺跡では，６～７世紀の竪穴住居跡９軒が確認されている。桜川右岸では，同市玉取古墳群〈46〉をはじめ，円筒埴輪・人物埴輪・動物埴輪が出土した同市滝の台古墳群〈48〉，円墳２基から埴輪片・石棺破片が出土している同市横町古墳群〈50〉，前方後円墳２基と円墳１基からなる同市松塚古墳群〈55〉などがある。当時，この地方にも力を持った豪族が出現したことを示すと同時に，多くの集落が形成され，人々が生活していたことを示している。

奈良・平安時代になると，律令制度の確立に伴い，桜地区は河内郡菅田郷に所属するようになり，のち12世紀にかけて，田中庄と呼ばれることになる。この時代の遺跡としては，花室川と桜川流域において32遺跡が確認されている。注目したいのは，当遺跡に隣接しているつくば市九重廃寺跡（東岡遺跡）〈20〉と同市西坪遺跡である。九重廃寺跡は以前から，礎石，瓦塔，蔵骨器などが出土しており，旧河内郡の郡寺と考えられていた。1984年には当時の桜村教育委員会から委託された筑波大学によって部分的な発掘調査がなされ，東岡遺跡として報告されている。検出された遺構は基壇の一部とその周溝及び井戸跡であり，出土した遺物は，土師器片・須恵器片・軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦などで，瓦は筑波廃寺系と結城廃寺系のものと考えられている。西坪遺跡は，1959年に桜中学校校庭の拡張工事に伴い表土を除去したところ，倉庫跡と考えられる３間×４間の総柱の掘立柱建物跡３棟と炭化米が多量に出土した。九重廃寺跡が隣接し，立地している台地の下の桜川の低地には，条里遺跡も存在することから，旧河内郡の郡衙跡と推定されている。このような環境の中，この地域は当時の地方政治・文化の中心として栄えていたことが推測される。両遺跡とも全容を明らかにするような発掘調査は行われておらず，今後の調査研究が待たれるところである。桜川左岸には，つくば市平沢の筑波郡衙及び郡寺とされる平沢官衙遺跡や筑波廃寺（中台廃寺）跡が所在している。律令政治が実施され，地方に国・評（郡）・里（郷）制が成立した当時の様子を知るための大きな手がかりになっている。他にも，160軒以上の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出されたつくば市柴崎遺跡や，８世紀代の九重廃寺系の軒平瓦と筑波廃寺系の軒丸瓦が出土した同市下大島遺跡〈11〉などが確認されている。また，当遺跡から出土している多量の須恵器の中には，新治村の小高，東城寺，小野の３地区に広がっている須恵器窯から供給されたと考えられるものが多い。同村の小野須恵器窯跡〈３〉，東城寺須恵器窯跡〈４〉，東城寺桑木須恵器窯跡〈５〉，東城寺寄居前須恵器窯跡〈６〉，小高須恵器窯跡〈８〉，小高村内須恵器窯跡〈９〉，田宮須恵器窯跡〈10〉など，常陸国における一大窯業地として栄えていたこれらの窯群と，官衙や寺院，その周辺集落との供給関係の解明は，今後の調査の進展にかかっている。

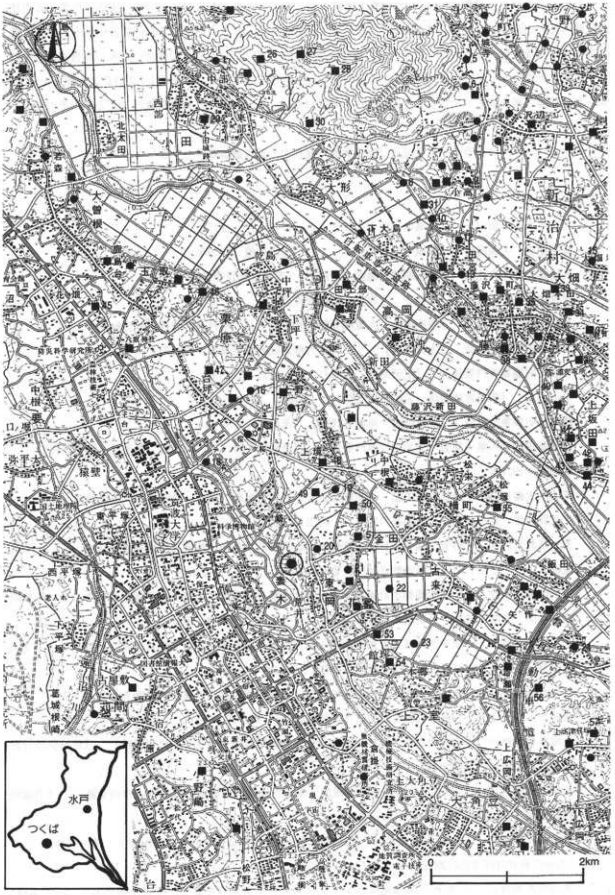
中世以降の遺跡としては，特に城館跡が多く，桜川左岸では，小田氏の居城であったつくば市小田城跡〈29〉

をはじめ，新治村田土部館跡〈32〉，同村藤沢城跡〈38〉などが，桜川右岸には，つくば市内に位置する方穂故城跡〈45〉，金田城跡〈51〉，花室城跡〈53〉，上ノ室城跡〈54〉などがある。また，筑波山の南，三村山麓一帯には中世寺院群があり，つくば市三村山清冷院極楽寺跡〈27〉には，13世紀半ば，大和の高僧忍性が来往し，布教に努めたことが伝えられている。戦国の世から江戸時代において，当地域は，佐竹氏の支配下を経て，多くが土浦藩に属することになる。特に，金田台地区は明治４年（1871年）の廃藩置県に至るまでその支配下にあった。

※　文中の〈　〉内の番号は，第１図及び周辺遺跡一覧表中の該当遺跡番号と一致している。

参考文献

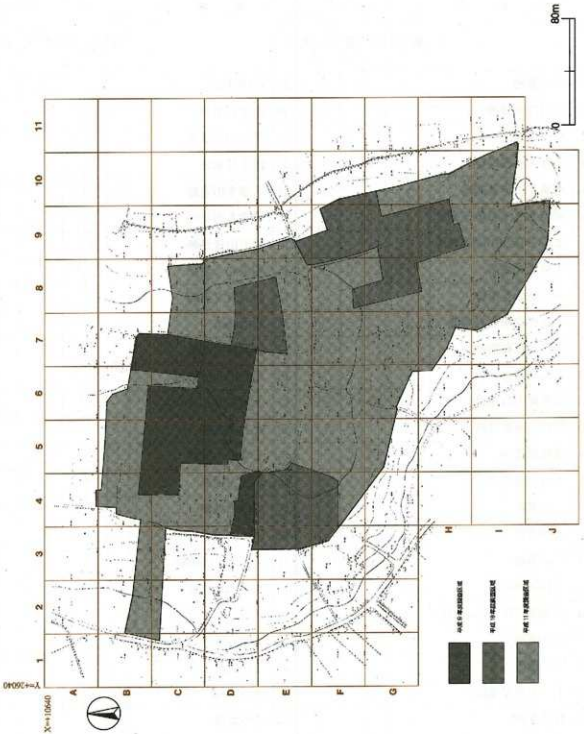
・大山年次，蜂須紀夫　『茨城県　地学のガイド』　コロナ社　1977年
・蜂須紀夫，大森昌衛　『茨城の地質をめぐって』　築地書館　1979年
・茨城県教育庁文化課　『茨城県遺跡地図（２版）』　茨城県教育委員会　1990年
・桜村史編さん委員会　『桜村史　上巻』　桜村教育委員会　1982年
・九重廃寺遺跡調査団　『東岡遺跡－九重廃寺跡調査報告－』　桜村教育委員会　1984年
・大穂町史編纂委員会　『大穂町史』　つくば市大穂地区教育事務所　1989年
・筑波町史編纂専門委員会　『筑波町史　上巻』　つくば市　1988年
・中山信名　『新編常陸国誌（宮崎報恩会版）』　嵩書房　1969年
・茨城県史編集委員会　『茨城県史　原始古代編』　茨城県　1985年
・茨城県史編さん第一部会　原始古代専門委員会　『茨城県史料　考古資料編　先土器・縄文時代』　茨城県　1979年
・茨城県史編集会　茨城県立歴史館　『茨城県史料　考古資料編　奈良・平安時代』　茨城県　1995年
・佐久間好雄　他　『図説　茨城県の歴史』　河出書房新社　1995年
・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）　柴崎遺跡Ⅰ・Ⅱ－１区」　『茨城県教育財団文化財調査報告』 第54集 1989年
・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅱ）　柴崎遺跡Ⅱ区　中塚遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告』 第63集 1991年
・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）　柴崎遺跡Ⅲ区」　『茨城県教育財団文化財調査報告』 第72集 1992年
・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）　柴崎遺跡Ⅱ区・Ⅲ区」　『茨城県教育財団文化財調査報告』 第93集 1994年
・茨城県教育財団　「土浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　原出口遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告』 第94集 1995年
・茨城県教育財団　「（仮称）北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書　中台遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告』 第102集 1997年
・茨城県教育財団　「（仮称）葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　神田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第121集 1997年
・茨城県教育財団　「（仮称）葛城地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　神田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第134集 1998年



第1図　中原遺跡周辺遺跡位置図

表1　中原遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世	番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世
◎	中原遺跡	○	○		○	○	○	29	小田城跡						○
1	小田田向遺跡		○			○		30	小田古墳群				○		
2	小田橋遺跡				○	○		31	高崎山古墳群				○		
3	小野須恵器窯跡					○		32	田土部館跡						○
4	東城寺須恵器窯跡					○		33	大畑本田遺跡	○	○	○	○		
5	東城寺桑木須恵器窯跡					○		34	大畑本田貝塚		○				
6	東城寺宮居前須恵器窯跡					○		35	藤沢山後遺跡		○	○	○		
7	小高天神遺跡		○	○	○	○		36	藤沢北斗遺跡		○	○			
8	小高須恵器窯跡					○		37	藤沢東町遺跡		○				
9	小高村内須恵器窯跡					○		38	藤沢城跡						○
10	田宮須恵器窯跡					○		39	藤沢南原遺跡		○	○			
11	下大島遺跡					○		40	北坂田北部貝塚		○	○	○		
12	田宮梶の宮遺跡		○	○	○	○		41	上坂田寺裏貝塚		○	○			
13	田宮古墳群遺跡				○	○		42	武者塚古墳				○		
14	高岡根遺跡	○	○	○	○	○		43	上坂田古墳群				○		
15	大畑新田遺跡		○	○	○	○		44	坂田古墳群				○		
16	大山遺跡		○		○	○		45	方穂故城跡						○
17	天神遺跡		○		○	○		46	玉取古墳群				○		
18	柴崎遺跡	○	○		○	○	○	47	台坪才十郎遺跡		○				
19	中谷津遺跡	○	○		○	○	○	48	滝の台古墳群				○		
20	九重廃寺跡（東岡遺跡）					○		49	旭台貝塚		○				
21	西坪遺跡		○	○	○	○		50	横町古墳群				○		
22	本田遺跡					○		51	金田城跡						○
23	上ノ室条里遺跡					○		52	花室遺跡		○				
24	般若寺跡					○	○	53	花室城跡						○
25	神田遺跡	○	○	○	○	○	○	54	上ノ室城跡						○
26	尼寺入廃寺跡						○	55	松塚古墳群				○		
27	三村山清冷院極楽寺跡						○	56	東古墳群				○		
28	常願寺廃寺跡						○	57	上高津貝塚	○	○				



第２図　中原遺跡調査区設定図

第3章　調査の成果

第1節　遺跡の概要

中原遺跡は，つくば市の東部に位置し，花室川左岸の標高23.4～25.3mの舌状台地上に立地している。調査前の現況は畑地，平地林である。

当遺跡は，奈良時代から平安時代前期を中心とする，旧石器時代から中・近世までの複合遺跡である。平成9年度から調査が実施され，平成11年度までに竪穴住居跡505軒が検出された。その内訳は縄文時代が3軒，古墳時代が7軒で，残りはすべて奈良・平安時代であった。遺跡の中心となる時期は，8世紀から10世紀にかけての奈良・平安時代で，この時期の竪穴住居跡496軒，掘立柱建物跡140棟が検出されている。竪穴住居跡は遺跡全体に分散しているが，掘立柱建物跡は7つのブロックに分かれて検出されている。

平成11年度の調査では，竪穴住居跡291軒，方形竪穴状遺構7基，掘立柱建物跡69棟，土坑823基，地下式壙1基，溝35条，道路跡1条，旧石器集中地点3か所，遺物包含層1か所を確認した。時代別にみてみると，旧石器時代では石器集中地点3か所から200点以上の石器・剝片等が出土した。縄文時代の遺構は，竪穴住居跡3軒，土坑1基である。古墳時代の遺構は，竪穴住居跡7軒である。奈良・平安時代の遺構は，竪穴住居跡281軒，掘立柱建物跡69棟，土坑745基，遺物包含層1か所である。中・近世の遺構は，地下式壙1基，溝35条，道路跡1条である。時期不明の土坑が77基である。

奈良・平安時代の遺構は，8世紀前葉から10世紀前葉までの竪穴住居跡が中心である。北側に竈を持った住居跡がほとんどで，竈の両側や片側に棚を持つものも確認された。掘立柱建物跡は総柱の建物跡が4棟，側柱の建物跡が66棟で，その内，四面庇及び二面庇の掘立柱建物跡をそれぞれ1棟ずつ検出した。

遺物は，遺物コンテナ（60×40×20cm）に350箱出土している。旧石器時代の遺物は，ナイフ形石器，楔形石器，掻器，削器，尖頭器，剝片が出土している。縄文時代の遺物は，縄文土器の深鉢及び土器片，石鏃である。古墳時代の遺物は，土師器（椀・高坏・坩・甕・手捏土器）である。奈良・平安時代の遺物は，土師器（坏・高台付坏・椀・高台付椀・高台付皿・耳皿・甕・甑・二面硯・墨書土器・朱書土器），須恵器（坏・高台付坏・盤・高盤・壺・鉢・長頸瓶・短頸壺・甕・甑・円面硯・墨書土器），灰釉・緑釉陶器（椀・稜椀・皿・長頸瓶），青磁（碗），白磁（碗），瓦，土製品（紡錘車・球状土錘・管状土錘），石器（砥石・紡錘車），金属製品（紡錘車・刀子・短刀・銅銙・鈹具・鉄鏃・釘・鎌・鑿先・火打金・鬥）である。中世から近世にかけての遺物は，土師質土器，陶器片，磁器片，瓦である。

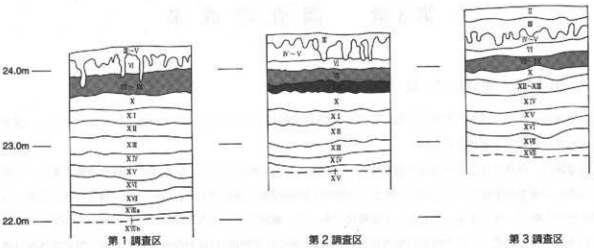
第2節　基本層序の検討

平成11年度の調査では，3か所（E5g5区，F4i6区，G7d7区）にテストピットを設定して，基本土層の観察を行った（第3図）。ローム層の層序区分については，武蔵野台地での層序区分に従い，ローマ数字で示すことにする（第3図）。

Ⅰ層は灰褐色の表土層，Ⅱ層は腐植土層である。Ⅱ層は表土とローム層の間層と考えられるが，遺構確認のため除去されている。

Ⅲ～Ⅳ層は，褐色のソフトローム層で締まっている。層厚は9～14cmである。Ⅲ・Ⅳ層は分層できなかった。

Ⅴ層にあたる第一黒色帯（BBⅠ）は確認できなかった。



第３図　基本土層図

Ⅵ層は，褐色のハードローム層である。若干のガラス質粒子を含むことから，姶良Ｔｎ火山灰（ＡＴ）を含む層と考えられる。層厚は15～21cmである。

Ⅶ層は，褐色のハードローム層である。第二黒色帯（ＢＢⅡ）の最上部と考えられ，層厚は15～21cmである。

Ⅸ層は，黒褐色のハードローム層である。白色粒子・スコリア粒子を極少量含んでいる。第二黒色帯下部と考えられ，層厚は９～21cmである。

Ⅹ層は，暗褐色のローム層である。白色スコリア粒子を少量，灰白色粘土粒子・鉄分を極少量含み，硬く締まっている。層厚は16～22cmである。この層までが立川ローム層に比定されると考えられる。

Ⅺ層は，暗褐色のローム層である。白色粒子・灰白色粘土粒子・鉄分を極少量含み，粘性が強く，硬く締まっている。上位でスコリア粒子が極少量認められた。層厚は13～22cmである。この層以下が武蔵野ローム層に比定されると考えられる。

Ⅻ層は，暗褐色のローム層である。白色粒子を少量，灰白色粘土粒子・炭化粒子を極少量含み，粘性が強く，締まっている。層厚は16～31cmである。

XIII層は，暗褐色のローム層である。白色粒子・灰白色粘土粒子を少量含み，粘性が強く，締まっている。層厚は11～24cmである。

XIV層は，オリーブ褐色のローム層である。白色粒子を少量，灰白色粘土粒子・鉄分の黒色粒子を極少量含み，粘性が強く，締まっている。層厚は10～18cmである。

XV層は，オリーブ褐色のローム層である。白色粒子・鉄分の黒色粒子を少量，灰白色粘土粒子を極少量含み，粘性が強く，締まっている。層厚は11～20cmである。

XVI層は，オリーブ褐色のローム層である。鉄分の黒色粒子を少量，灰白色粘土粒子を極少量含み，粘性が非常に強く，締まっている。層厚は16～22cmである。

XVII層は，オリーブ褐色のローム層である。鉄分の黒色粒子を中量，灰白色粘土粒子を少量含み，粘性が非常に強く，締まっている。層厚は11～19cmである。

XVIII層以下は，常総粘土層で，ａ層とｂ層に分層することができる。ａ層は，明緑灰色の粘土層で，鉄分の黒色粒子を多量含み，粘性が非常に強く，締まっている。層厚は６～22cmである。ｂ層は，明緑灰色の粘土層で，粘性が非常に強い。

なお，遺構の多くは，Ⅲ～Ⅳ層の上面で確認され，Ⅲ層からⅩ層にかけて掘り込まれている。

第3節　遺構と遺物

1　旧石器時代

(1) 調査の概要と方法（第4図，表2）

平成9年度の発掘調査では，4か所の石器集中地点が確認され，ナイフ形石器・彫刻刀形石器・抉入石器・石核・剥片・砕片など88点が出土している。また，平成10年度の発掘調査では，3か所の石器集中地点が確認され，彫刻刀形石器・抉入石器・石刃・錐・剥片など79点が出土している。平成11年度の発掘調査においても，遺構確認調査及び各時代の遺構調査を進めていく中で多数の旧石器時代の遺物が出土している。これら表土中及び後世の遺構の覆土中から出土した旧石器時代の遺物は，ナイフ形石器1点，掻器6点，楔形石器1点，尖頭器5点，石核4点，石刃5点，剥片203点で，合計225点にのぼった。そこで，竪穴住居跡等の遺構の調査終了後に，旧石器時代の文化層が確認できると思われる地点に調査区を設定し，ローム層の掘り下げを行った。

調査区は3か所に設定した。第1調査区は，調査区域の南東部（G7d5～G7d8，G7e5～G7e8，G7f6～G7f8），第2調査区は，調査区域の南西部（F4f3～F4f7，F4g3～F4g7，F4h3～F4h7，F4i5～F4i7），第3調査区は，調査区域の中央部（E5f5・E5f6・E5g5・E5g6）である。地形的には，第1調査区が標高23～24mの台地縁辺部から南側の低地に向かう緩斜面，第2調査区が標高23～24mの台地縁辺部から南西側の谷部に向かう緩斜面，第3調査区が標高25mの台地上の平坦部である。面積は，第1調査区が約176㎡，第2調査区が約272㎡，第3調査区が約36㎡で，総面積は約484㎡である。

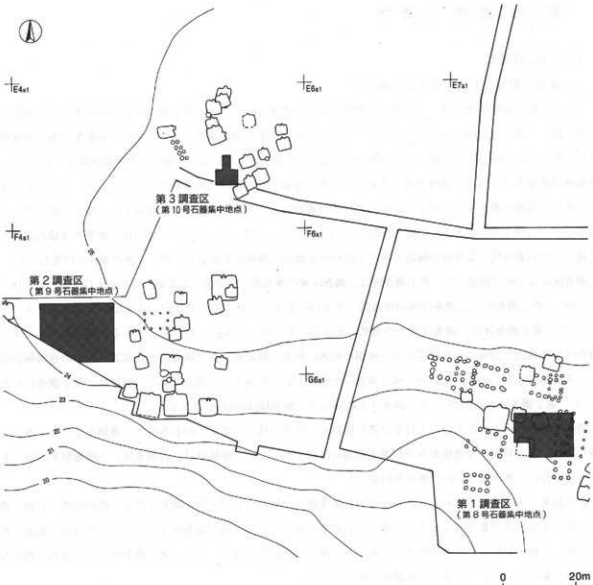
調査の過程で出土した石器などは原位置を保持し，柱状に残したまま，旧石器時代の遺構などにも注意して掘り下げ，出土状況の写真撮影及び位置と標高の計測を行った。土層観察は，各調査区に土層観察用ベルトを設定して行い，基本層序と出土層位を同定した。

その結果，各調査区でそれぞれ1か所の石器集中地点が確認された。第1調査区では，楔形石器・石核・礫片・剥片など21点が集中して出土し，第8号石器集中地点とした。第2調査区では，ナイフ形石器・掻器・楔形石器・石核・剥片など66点が集中して出土し，第9号石器集中地点とした。第3調査区では，掻器・剥片など46点が集中して出土し，第10号石器集中地点とした。

以下，石器集中地点及び石器集中地点外の出土遺物について記載する。

表2　石器集中地点外出土遺物

石材＼器種	ナイフ形石器	彫刻刀形石器	掻器	削器	楔形石器	抉入石器	錐	尖頭器	両面調整石器	石核	石刃	礫片	剥片	合計
硬質頁岩	1				1			2		2	2		11	19
珪質頁岩			1					1					2	4
瑪瑙										1			2	3
チャート								1					11	12
黒曜石			5					1		1			169	176
安山岩(トロトロ石を含む)											1		5	6
粘板岩														
凝灰岩											1		2	3
流紋岩														
ホルンフェルス											1		1	2
合計	1		6		1			5		4	5		203	225



第４図　旧石器調査区設定図

(2) 石器集中地点

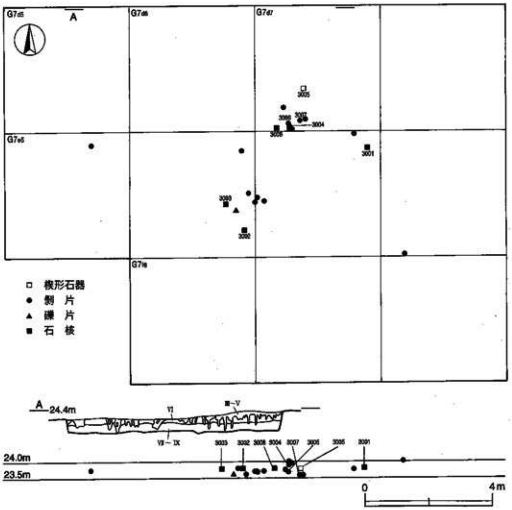
第８号石器集中地点（第５～９図，表３）

位置　調査区域の南東部，Ｇ７d6～Ｇ７d8・Ｇ７e6～Ｇ７e8・Ｇ７f7・Ｇ７f8区。

出土状況　南北6.7m，東西5.8mの範囲内に存在する。標高23.58～24.15mにかけて出土している。これは当遺跡の基本層序（第３図）のⅥ～Ⅶ層に相当し，第二黒色帯（ＢＢⅡ）の上層を含んでいる。

遺物　楔形石器１点，石核４点，剥片15点，礫片１点が出土している。石材は，硬質頁岩，瑪瑙，安山岩，流紋岩である。第８図3001・3002・3003の接合資料は，節理によって3001と3002・3003の接合資料に分割され，さらに3003から3002が剥離されている。

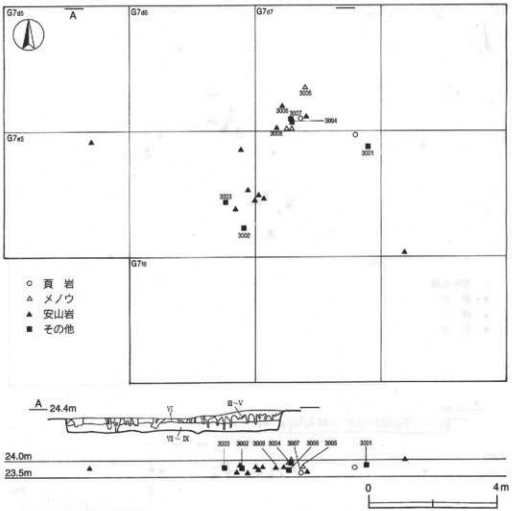
所見　当集中地点の石器群の構成器種は，剥片と石核がほとんどであり，石材は安山岩と流紋岩を主体としている。３点が接合する流紋岩の石核が確認されている。当集中地点は，遺物の平面分布及び石材別の垂直分布から，同一時期の可能性が高いと思われる。また，石核と多数の剥片が出土していることから，同一時期の石器製作跡の可能性が考えられる。



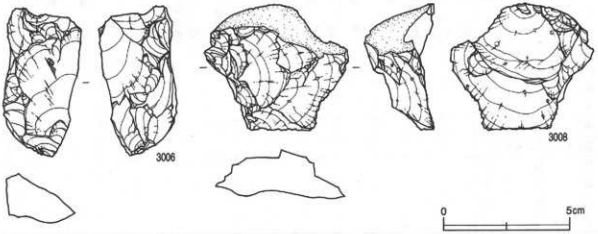
第5図　第8号石器集中地点遺物出土分布図(器種)

表3　第8号石器集中地点出土遺物

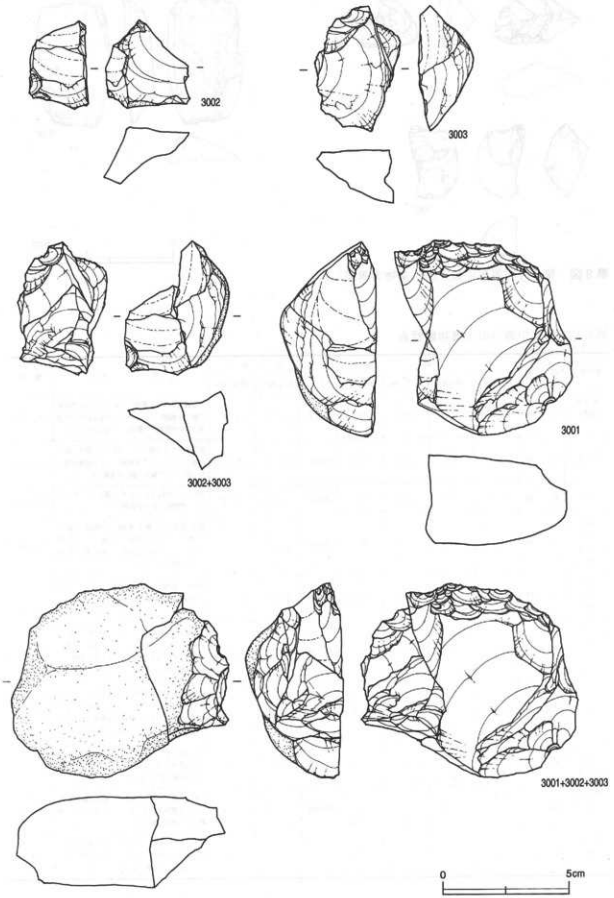
器種 / 石材	ナイフ形石器	彫刻刀形石器	掻器	削器	石核形石器	抉入石器	錐	尖頭器	両面調整石器	石核	石刃	礫片	剥片	合計
硬質頁岩													2	2
珪質頁岩														
瑪瑙					1								2	3
チャート														
黒曜石														
安山岩(トロトロ石を含む)										1		1	9	11
粘板岩														
凝灰岩														
流紋岩										3			2	5
ホルンフェルス														
合計					1					4		1	15	21



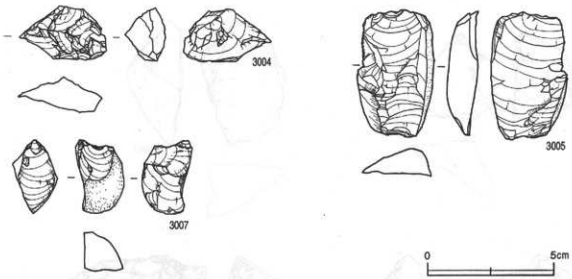
第6図　第8号石器集中地点遺物出土分布図(石材)



第7図　第8号石器集中地点出土遺物実測図(1)



第8図　第8号石器集中地点出土遺物実測図（2）



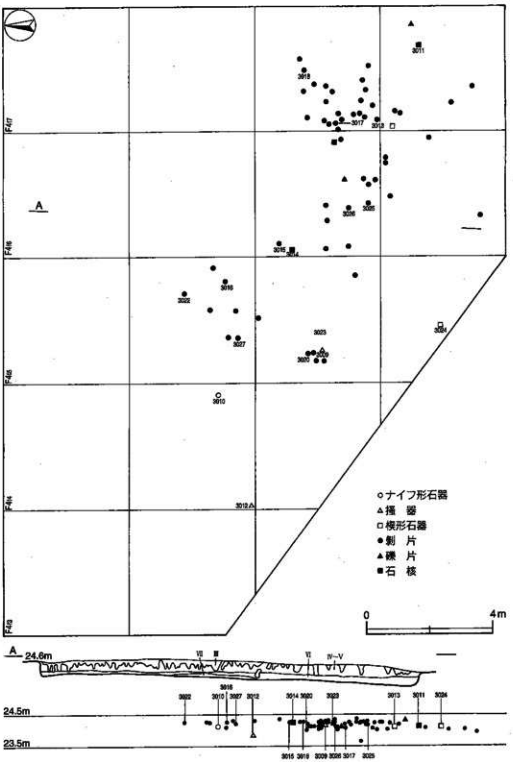
第９図　第８号石器集中地点出土遺物実測図（３）

第８号石器集中地点出土遺物観察表

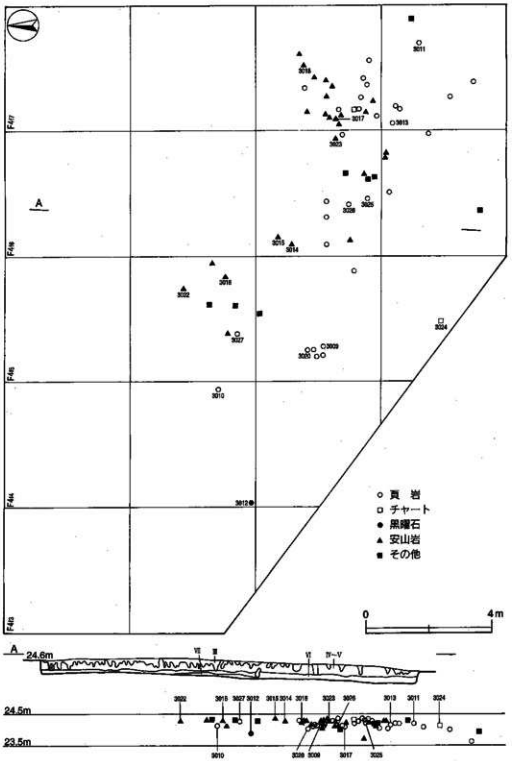
遺物番号	器種	計測値				石材	出土地点		特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		出土地区	標高(m)		
第８図 3001	石核	7.7	7.0	3.8cm	220.0	流紋岩	G 7 e7	24.145	半割礫を素材とし礫面を打面として小形で横長の剥片を剥離している。上下の剥面に打面が設定され、分割面が作業面として設定されている。	P L 182
3002	石核	3.5	3.4	2.4	20.9	流紋岩	G 7 e6	23.780	節理を介する分割によって得られた厚手の剥片を素材としている。素材剥片の主要剥離面傾から３枚の小形で横長の剥片が剥離されている。	P L 182
3003	石核	5.0	3.4	2.2	29.2	流紋岩	G 7 e6	23.742	3001から分割された石核で稜面を一部に残す。分割後は3002が剥離されている。	P L 182
3001 3002 3003 接合	石核	7.7	8.6	3.9	270.1	流紋岩	G 7 e6 G 7 e7	-	接合状態は、礫を半割した板状の剥片である。この分割面を打面とし、節理を介して、3001と3002、3003を含む剥片に分割している。	P L 182
3002 3003 接合	石核	5.2	4.1	3.5	50.1	流紋岩	G 7 e6	-	3001と節理によって分割した後に3003から3002が剥離されている。	
第９図 3004	剥片	2.1	3.5	1.6	7.2	鳴瀬	G 7 d7	27.070	半剥離面から剥離された厚手の横長剥片である。背面は、上下両方向からの小形で横長の剥離面が認められるほかに、中央に走る高い稜線上からの剥離も認められる。	P L 182
3005	楔形石器	5.0	3.1	1.0	16.8	硬質頁岩	G 7 d7	23.772	厚手の縦長剥片を素材とし、背面には上下方向からの剥離面が対向している。両側縁には自然面を多く残し、また、側縁には微細な刃こぼれ状の剥離痕が見られる。縦断面は楔形を呈する。	P L 183
第７図 3006	剥片	5.9	3.1	2.0	36.7	流紋岩	G 7 d7	23.664	厚手の縦長剥片である。打面は半剥離面で、背面には礫面が残されており、主要剥離面と反対方向の剥離が認められる。	P L 182
第９図 3007	剥片	2.9	2.0	1.8	8.2	硬質頁岩	G 7 d7	23.590	小形の円礫を分割した剥片。打面は半剥離面で、背面には礫面を大き（残し、同方向の剥片が剥離された痕跡が認められる。	P L 182
第７図 3008	石核	5.0	5.7	2.8	51.3	安山岩	G 7 d7	23.766	厚手の剥片を素材とする石核。素材剥片は稜面を打面とする厚自した剥片で、主要剥離面側において稜面から剥離が始されている。	P L 183

第９号石器集中地点（第10～14図，表４）

位置　調査区域の南西部，Ｆ４f6・Ｆ４g4・Ｆ４g5・Ｆ４h5～Ｆ４h7・Ｆ４i5～Ｆ４i7区。



第10図　第９号石器集中地点遺物出土分布図（器種）



第11図 第9号石器集中地点遺物出土分布図(石材)

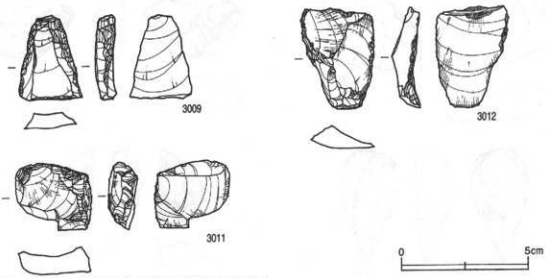
出土状況　南北9.6m，東西15.5mの範囲内に存在するが，遺物は南東部に集中している。標高23.37～24.43mにかけて出土している。これは当遺跡の基本層序（第３図）のⅢ～Ⅴ層に相当し，姶良Ｔｎ火山灰（ＡＴ）を含む，下総等でいうⅥ層上部になる。

遺物　ナイフ形石器１点，掻器２点，楔形石器２点，石核３点，礫片２点，剥片56点が出土している。石材は，硬質頁岩31点，安山岩23点，凝灰岩４点，ホルンフェルス３点，チャート２点，黒曜石1点，珪質頁岩１点，粘板岩１点である。

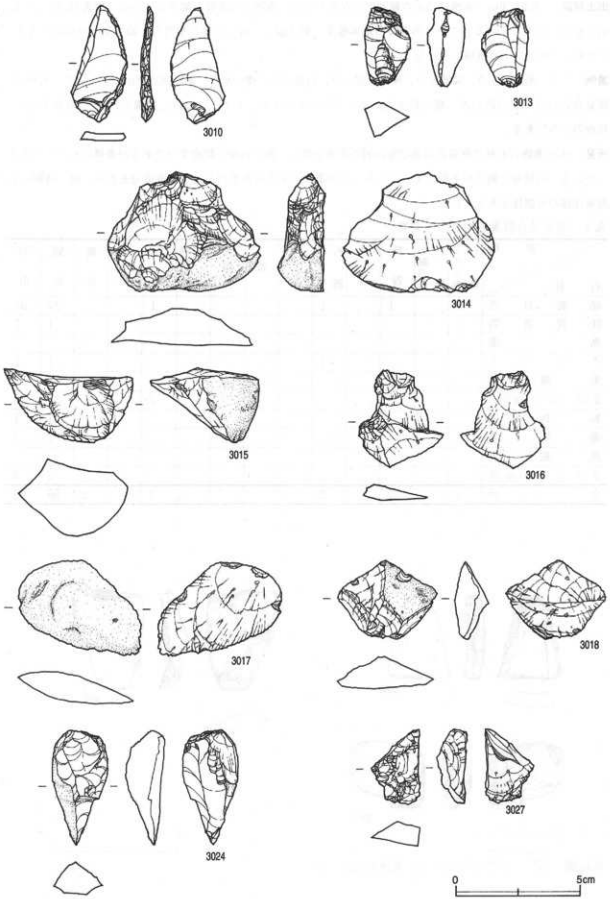
所見　出土遺物の石材は硬質頁岩及び安山岩の比率が高く，他の石材も数点ずつであるが多種にわたって出土している。石核及び剥片が多数出土していることや遺物の平面分布及び石材別の垂直分布から，同一時期の石器製作跡の可能性が考えられる。

表４　第９号石器集中地点出土遺物

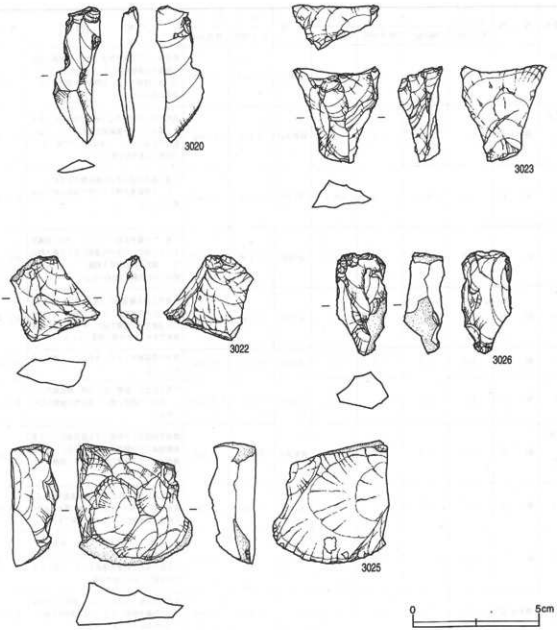
器種／石材	石ナイフ形器	石彫器	剥刃形器	掻器	削器	石器	楔形	抉入石器	錐	尖頭器	石器	両面調整	石核	石刃	礫片	剥片	合計
硬質頁岩	1			1			1						1			27	31
珪質頁岩																1	1
瑪瑙																	
チャート							1									1	2
黒曜石				1													1
安山岩(トロトロ石を含む)													2			21	23
粘板岩																1	1
凝灰岩															2	2	4
流紋岩																	
ホルンフェルス																3	3
合計	1			2			2						3		2	56	66



第12図　第９号石器集中地点出土遺物実測図（１）



第13図　第９号石器集中地点出土遺物実測図（２）



第14図　第９号石器集中地点出土遺物実測図（３）

第９号石器集中地点出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値				石　材	出土地点		特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		出土地区	標高(m)		
第12図 3009	スクレイパー	(3.3)	(2.4)	(0.8)	(7.1)	硬質頁岩	F 4 h 5	24.112	縦長剥片を素材とし，2側縁に主要剥離面側から急角度の細かい調整を連続して施している。器体の下半部を欠損する。	P L 183
第13図 3010	ナイフ形石器	4.6	2.2	0.6	4.0	硬質頁岩	F 4 g 4	24.140	縦長剥片を素材とし，1側縁及び基部に主要剥離面側から刃潰し加工を施している。背面及び主要剥離面の剥離方向は同一で，打面は平面で凸形打痕を残している。	P L 183
第12図 3011	石　核	2.7	3.0	1.2	9.2	硬質頁岩	F 4 i 7	24.165	素材は厚手の横長剥片である。剥離は素材の両面にわたって行われている。表面では横長の剥片が，裏面では縦長の剥片が剥離されている。さらには側面においても表裏全剥離が認められる。素材を剥離し尽くした石核である。	P L 183

遺物番号	器種	計測値				石材	出土地点		特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		出土地区	標高(m)		
第12図 3012	スタンパー	4.0cm	2.9	1.1	8.3	黒曜石	F 4 g3	23.869	縦長剥片の下半部を素材にして、両側縁と末端に連続する調整を施して、刃部を作出している。加工は左側縁の上部と右側縁の下部にとりわけ顕著に認められる。	P L 183
第13図 3013	楕形石器	3.2	1.8	1.5	6.5	硬質頁岩	F 4 i7	24.066	表面では上下両端からの剥離が認められ、裏面は下端からの広い剥離痕が認められる。下端は鈍角の打面であり、上端は扁ぺた打面である。右側面には素材面を残している。	P L 183
3014	石核	4.8	6.0	1.9	46.8	安山岩	F 4 h6	24.287	末端に礫面を残す厚手の横長剥片を素材としている。主要剥離前面から小型で横長の剥片が剥離されている。	P L 183
3015	石核	3.0	5.1	4.3	46.9	安山岩	F 4 h6	24.315	半割した円礫を素材としている。背面には礫面を大きく残す。石核の作業面の高さを最大限利用して幅広の縦長剥片を剥離している。打面調整などの石核調整は認められない。	P L 184
3016	剥片	3.9	3.4	0.7	6.2	安山岩	F 4 g5	24.250	下縁が広がる縦長剥片である。打面は点状で、背面には主要剥離面と同方向の剥離の他に、それとは逆方向の剥離が認められるが、これは素材面である。やや外側に弯曲している。	P L 184
3017	剥片	3.8	4.9	1.2	16.7	安山岩	F 4 h7	24.096	厚手の横長剥片である。背面はすべて礫面に覆われている。	P L 184
3018	剥片	3.1	4.0	1.4	11.6	安山岩	F 4 h7	24.164	平坦な打面から剥離された分厚い横長剥片である。背面には礫面の他に、前段階の剥離も認められる。	P L 184
第14図 3020	剥片	5.4	1.9	0.9	3.5	硬質頁岩	F 4 h5	24.050	礫面を打面とした先細りする横長剥片で、主要剥離面側にやや弯曲している。背面には主要剥離面と同方向の剥離が認められる。稜線がやや隆起している。	P L 183
3022	剥片	3.4	3.6	1.2	10.9	安山岩	F 4 g5	24.232	礫面を打面とする幅広で厚手の縦長剥片である。背面には上下両方向からの剥離が認められる。右側面は背面側からの力による折断である。	P L 184
3023	剥片	3.8	3.4	1.8	15.0	安山岩	F 4 h6	24.156	厚手で末広がりの縦長剥片である。背面には主要剥離面と逆方向の剥離が認められる。末端部の形状や背面の剥離痕構成からみて石核の作業面再生剥片である可能性が高い。	P L 184
第15図 3024	楕形石器	4.5	2.2	1.6	10.9	チャート	F 4 i5	24.086	先細りする剥片を素材とする。両面に上下両端からの剥離が認められる。上端は鋭利の打面で、下端の打面は点状である。	P L 184
第16図 3025	剥片	4.9	4.7	1.9	35.1	頁岩	F 4 h6	24.130	低位の頁岩の円礫から剥離された、厚手の横長剥片。両側面に礫面を残している。主要剥離面は節理面を介在している。背面には多方向からの凹状を呈する剥離痕が認められる。	P L 184
3026	剥片	4.1	2.0	1.7	11.6	頁岩	F 4 h6	24.154	横長剥片の下端部。末端部には礫面が残されている。背面には多方向からの凹状を呈する剥離痕が認められる。	P L 184
第17図 3027	剥片	3.0	2.0	1.2	4.7	黒曜石	F 4 g5	24.173	珪素を多く含む黒曜石を用いた縦長剥片の下端部。上半部と右半部は背面からの力によって損傷している。背面は複方向からの剥離もみとめられる。	P L 184

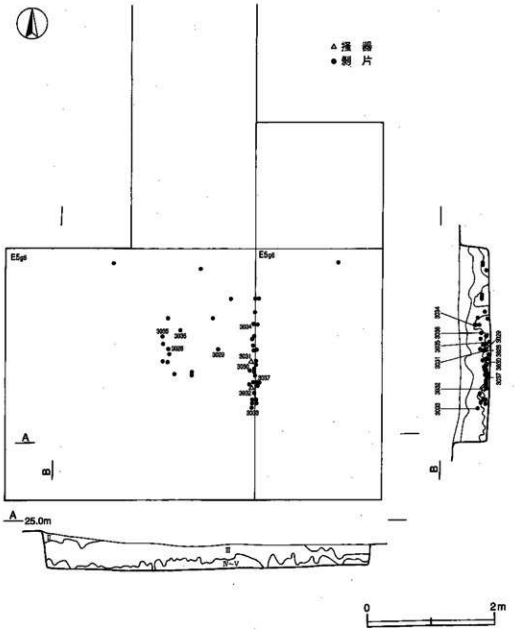
第10号石器集中地点（第15～17図，表５）

位置　調査区域の中央部，Ｅ５g5・Ｅ５g6区。

出土状況　南北2.3m，東西3.6mの範囲内に存在するが，遺物は南部の半径１mの円内に43点が集中している。標高24.20～24.36mにかけて出土している。これは当遺跡の基本層序（第３図）のⅢ～Ⅳ層に相当する。

遺物　掻器２点，　片44点が出土している。石材は，すべて黒曜石である。

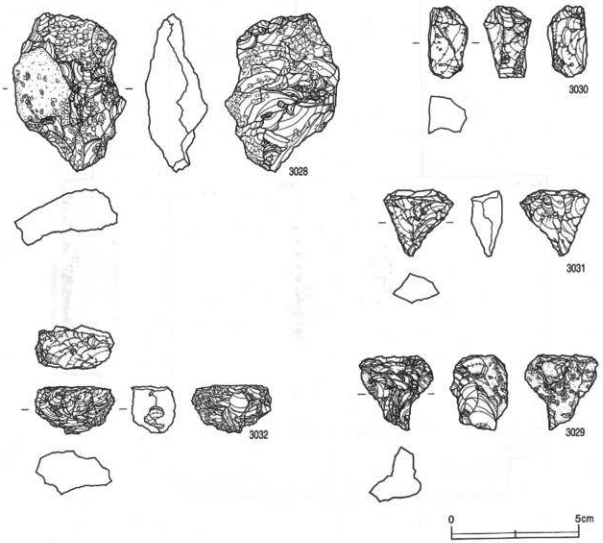
所見　出土遺物の石材はすべて黒曜石であり，他地域から持ち込まれたものと考えられる。当集中地点は，遺物の平面分布及び石材別の垂直分布から，同一時期の可能性が高いと思われる。また，遺物は多数の　片が半径１mの円内の範囲で出土していることから，石器製作跡の可能性が考えられる。　剝



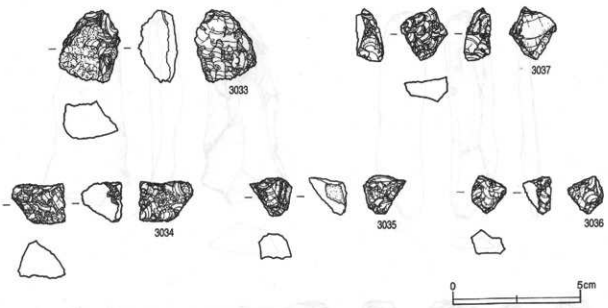
第15図　第10号石器集中地点遺物出土分布図

表5　第10号石器集中地点出土遺物

器種 ＼ 石材	石ナイフ形器	石彫刻刀形器	掻器	削器	石錐形器	抉入石器	錐	尖頭器	両面調整石器	石核	石刃	礫片	剥片	合計
硬質頁岩														
珪質頁岩														
瑪瑙														
チャート														
黒曜石			2										44	46
安山岩(トロトロ石を含む)														
粘板岩														
凝灰岩														
流紋岩														
ホルンフェルス														
合計			2										44	46



第16図　第10号石器集中地点出土遺物実測図(1)



第17図　第10号石器集中地点出土遺物実測図（2）

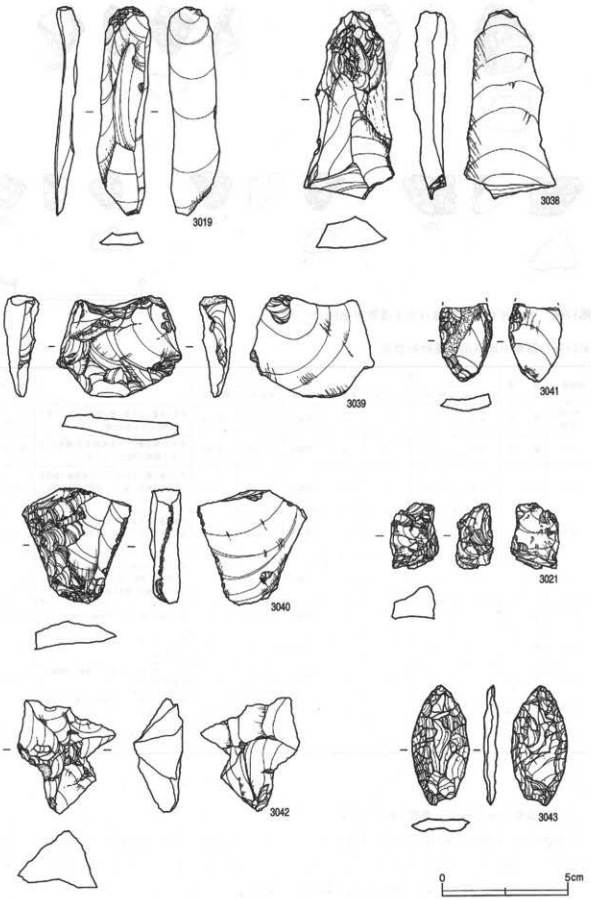
第10号石器集中地点出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	出土地点 出土地区	標高(m)	特徴	備考
第16図 3028	剥片	6.3	4.5	2.5	46.8	黒曜石	E 5 g5	24.300	結果を多量に含む質の悪い黒曜石を用いた厚手の縦長剥片。打面部は欠損している。	P L.185
3029	剥片	3.0	2.9	2.3	14.5	黒曜石	E 5 g5	24.287	厚手の横長剥片。末端部と左側面には大きく礫面が残されている。	P L.185
3030	スクレイパー	2.9	1.6	1.8	8.9	黒曜石	E 5 g5	24.253	厚手の横長剥片を素材とし，打面部側に急角度の調整を連続的に施して，弧状の刃部を作出している。	P L.185
3031	剥片	2.6	2.8	1.3	6.1	黒曜石	E 5 g5	24.331	平面形状が三角形を呈する厚手の剥片。単剥離面を打面とする。背面には多方向の剥離が認められる。	P L.185
3032	スクレイパー	1.9	3.2	1.7	10.9	黒曜石	E 5 g5	24.353	厚手の剥片を素材とする円形掻器。全周にわたって急角度の調整を施して刃部を作出している。とりわけ末端部に顕著な調整が認められる。	
第17図 3033	剥片	2.9	2.5	1.5	8.3	黒曜石	E 5 g5	24.420	厚手で幅広の縦長剥片。打面部は欠損している。	P L.185
3034	剥片	1.5	2.2	1.6	4.7	黒曜石	E 5 g5	24.445	厚手で小形の剥片の末端部。結果が原因となって折損している。	P L.185
3035	剥片	1.6	1.7	1.5	2.4	黒曜石	E 5 g5	24.204	厚手で小形の剥片の末端部。左側縁には微細な剥離痕が認められる。	P L.185
3036	剥片	1.5	1.4	1.2	1.5	黒曜石	E 5 g5	24.358	厚手で小形の剥片。平面形態は方形で，末端部方向にやや細くなる。	P L.185
3037	剥片	2.1	1.9	1.1	2.9	黒曜石	E 5 g5	24.279	小形の剥片の下端部。上平面は結果が原因となって折損している。	P L.185

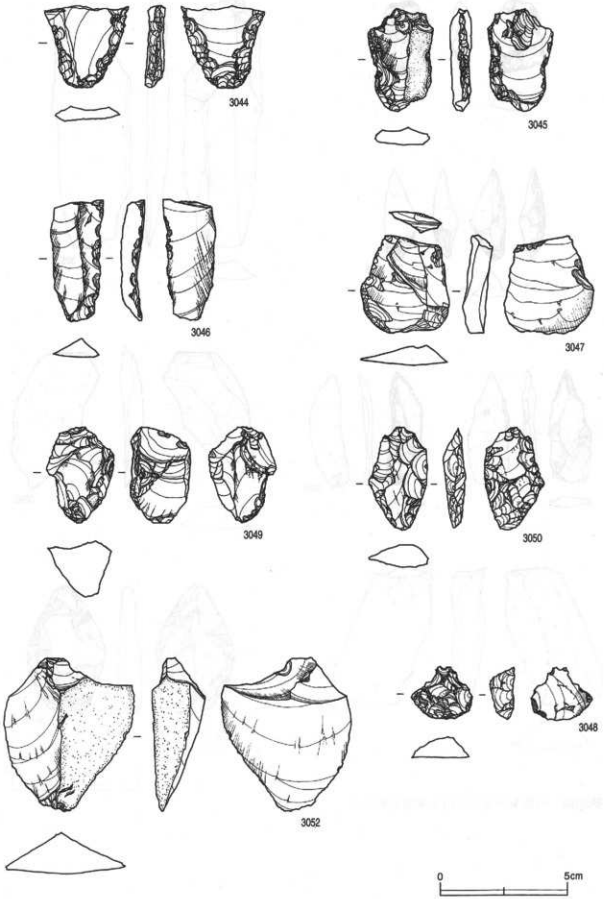
(3) 石器集中地点外出土遺物（第18～20図）

当遺跡では，石器集中地点以外からも石器が出土している。出土遺物はナイフ形石器1点，掻器6点，楔形石器1点，尖頭器3点，石核2点，石刃5点，　片207点で，合計225点である。これらについては，主なものについて図示すると共に，　離と調整の特徴を剥察表に記載する。

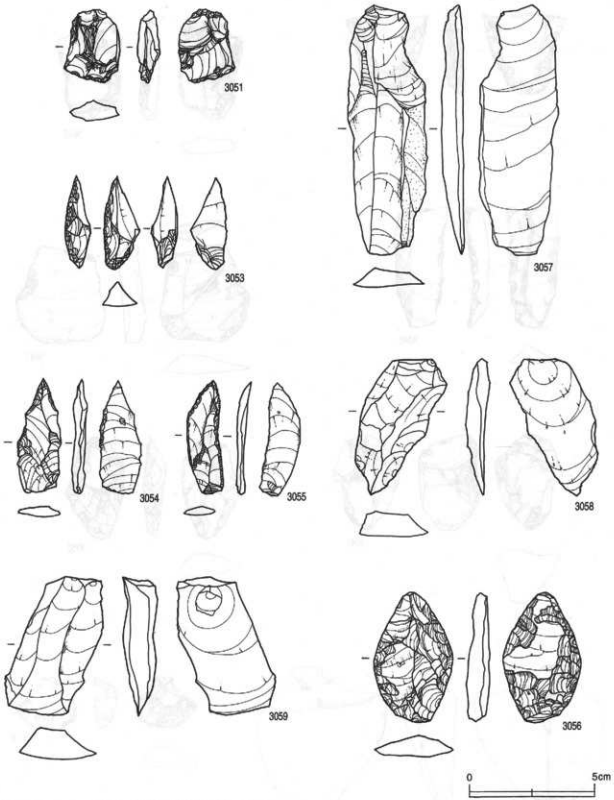
剥



第18図　石器集中地点外出土遺物実測図（1）



第19図　石器集中地点外出土遺物実測図（2）



第20図　石器集中地点外出土遺物実測図（3）

石器集中地点外出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	出土地点 出土地区	標高(m)	特徴	備考
第18図 3019	石刃	8.3	2.2	1.0	11.2	硬質頁岩	F 4 f6	23.333	背面に2本の稜線をもつ石刃である。背面には主要剥離面と同方向の剥離のほかに、右方向からの剥離も認められる。打面は微整打面で、側部調整も入念に施されている。左側辺の中央部に微細な調整もわずかに認められる。	PL186
3021	石核	2.6	1.9	1.5	6.4	黒曜石	F 4 f6	23.248	発泡を多く含む質の悪い黒曜石を用いて、小形の剥片が剥離された石核。表面や側面では小形の後長剥片が剥離され、裏面ではやや長長の剥片が剥離されている。	PL186
3038	2次加工を有する剥片	7.5	3.6	1.4	27.9	硬質頁岩	第2調査区表採	-	厚手で大形の縦長剥片の下半部。背面には調整を施す。鋭い稜線をもち、微作用の調整も認められる。両側縁に微細な使用痕及び光沢が認められる。折断面の一部に急角度の調整が施される。	PL186
3039	打面調整剥片	4.0	5.0	1.5	21.2	硬質頁岩	第2調査区表採	-	多方向からの剥離が認められる打面再生剥片。礫面を打面としている。末端部に微細な剥離痕が認められる。	PL186
3040	スクレイパー	4.6	4.4	1.3	21.0	黒曜石	第2調査区表採	-	縦長剥片の末端部に弧状に刃部を作出したスクレイパー。左側縁に認められる平坦な調整は、二次調整ではなく、左側面から抜きた素材剥片剥離以前の先行剥離である。刃部は主要剥離面側に向かってやや弯曲している。	PL186
3041	ナイフ形石器	3.1	2.1	0.7	3.9	頁岩	第2調査区表採	-	縦長剥片を素材とし、打面部を基部に残置している。右側縁下半部は急傾斜に整えた調整を施し、調整は施されていない。右側縁の上半部は両面にわたって部分だけに加工が施されている。尖頭器の基部の可能性もある。	PL186
3042	石核	4.6	3.9	2.0	18.0	珪質頁岩	表採	-	厚手の横長剥片を素材とした石核。主要剥離面を打面に設定して、小形の横長剥片が剥離されている。打面は作業面側から一括の剥離が加えられている。	PL187
3043	尖頭器	4.7	2.3	0.5	6.4	チャート	SI433 覆土中	-	やや質の悪いチャートの縦長剥片を素材とした両面調整の尖頭器である。左側縁は交互剥離によって丁寧な調整が施されている。右側縁はややいびつで、側縁調整もまばらである。	PL188
第19図 3044	スクレイパー	3.2	3.4	0.8	8.0	珪質頁岩	SI232 覆土中	-	縦長剥片を素材として、その側縁と末端において、両面にわたって平面な加工が施されて刃部が作出されている。上半部は主要剥離面からの力により折損している。	PL186
3045	スクレイパー	4.1	2.6	0.8	9.0	黒曜石	SI467 覆土中	-	透明度の高い良質の黒曜石の縦長剥片を素材としたスクレイパー。左側縁は背面に、右側縁は主要剥離面に、連続する調整が施されて刃部が作出されている。	PL186
3046	スクレイパー	4.9	2.1	1.0	7.0	黒曜石	SI489 覆土中	-	良質の黒曜石による石刃を素材として、左側縁の下半部と、右側縁に加工を施して刃部を作出している。上半部は欠損している。	PL187
3047	スクレイパー	3.8	3.5	0.8	10.3	黒曜石	SI420 覆土中	-	縦長剥片を素材とする。素材上部は主要剥離面側からの加撃により折断し、刃部は主要剥離面側からの急角度の調整により、鋭い刃部が作出されている。また、側縁及び刃部は微細な調整が加えられ、丁寧に整形されている。	PL187
3048	スクレイパー	2.1	2.4	1.0	3.6	黒曜石	SI437 覆土中	-	末端部は平面な加工によって刃部が作出され、上半部は急角度の剥離を側面状に施すことで刃部を作出している。平面形態は流近が弧状を呈する台形状である。	PL187

遺物番号	器種	計測値				石材	出土地点		特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		出土地区	標高(m)		
第19図 3049	石核	3.8	2.7	2.4	20.4	頁岩	SI322 覆土中	-	上下に打面を設定し，縦長剥片が剥離された石核である。裏面の左側縁末端部付近には使作当の調整も認められる。上下の打面とも両生側が潰んだため打面と作業面のなす角が鋭角となっている。	PL186
3050	尖頭器	4.1	2.3	1.0	7.4	珪質頁岩	SK1875 覆土中	-	明灰色の良質な頁岩を用いた有茎尖頭器。平面形態は左側縁が張り，右側縁は弧状となる非対称な形状を呈する。左側縁の張り出し部は，先端部からの細状剥離とそれに対向する調整によって作出されている。	PL187
第20図 3051	楔形石器	2.9	2.3	0.9	5.1	頁岩	SK1524 覆土中	-	横長剥片を素材とする。上下両端部と右側縁に剥離が認められる。	PL187
第19図 3052	石核	6.1	5.2	2.2	39.3	頁岩	G 7b8	23.925	厚手で幅広の剥片を素材とする。背面側からの剥離が認められる。	PL187
第20図 3053	ナイフ形石器	3.6	1.4	1.0	3.5	硬質頁岩	SI342 覆土中	-	厚手の縦長剥片を素材とし，1側縁を残して主要剥離面側からの刃潰し加工を施し，切り出し刀状の形状を作出している。刃潰し加工は最初にやや大きな調整を加えた後，細かい調整を連続して施し，丁寧に仕上げている。基部調整は一部抉り込むような急角度の調整が施され，基部の幅を減じている。断面は三角形を呈し，打面は平坦である。	PL187
3054	尖頭器	4.5	1.7	0.5	3.1	硬質頁岩	SK1601 覆土中	-	縦長剥片を素材とし，主要剥離面側からの急角度の調整により尖頭部を作出している。また，背面には前段階の剥離面が残り，基部は背面側からはほぼ全面が直線的に折断されている。両側縁には部分的に微細な剥離痕が施されている。	PL187
3055	尖頭器	4.5	1.5	0.5	1.8	硬質頁岩	表採	-	薄手の縦長剥片を素材とし，両側縁には主要剥離面側から細かい連続する調整を施し，尖頭部はやや大きい急角度の調整で鋭い先端を作出している。	PL188
3056	尖頭器	5.1	3.1	1.0	12.7	黒曜石	SI843 覆土中	-	縦長剥片を素材とした両面調整の有茎尖頭器で，先端から左側縁にかけて線状剥離が2度にわたって施されている。背面は素材の部分を残しるような調整が全面に及ぶ。主要剥離面には基部の調整縁を中心とし，平坦な良整状の調整が連続する。また，細やかな側縁の調整により，丁寧に仕上げられている。先端及び基部は，共に折損している。	PL187
3057	石刃	9.9	3.1	0.8	24.5	硬質頁岩	SK899 覆土中	-	背面には主要剥離面と反対方向の剥離面が使なし，一部に自然面を残す。打面は主要剥離面からの剥離によって除去され，その剥離面は樋番状剥離を呈している。両側縁は鋭く，微細な刃こぼれ状の使用痕が認められる。	PL186
3058	剥片	5.4	2.9	0.9	13.2	鬼瑪	SI310 覆土中	-	背面には主要剥離面と同方向の剥離のほかに，右方向からの剥離も認められる。	PL188
3059	剥片	5.5	3.2	1.2	24.7	硬質頁岩	表採	-	縦面を打点として，背面に2本の使をもち，主要剥離面と同方向の剥離が認められる。	PL188

2　縄文時代

当遺跡からは，縄文時代の住居跡３軒，土坑１基が確認されている。これらの遺構は，調査区域の北部で１軒，南部で１軒と１基，西部で１軒確認され，時期は前期前半から中期にわたっている。以下，それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について，記述していくこととする。

（1）竪穴住居跡

第316号住居跡（第21・22図）

位置　調査区域の南東部，Ｈ８g2区。

規模と平面形　確認された長径4.13m，短径3.57mの楕円形である。南側と西側は，攪乱を受けて壊されている。

長径方向　Ｎ－61°－Ｅ

壁　壁高は８～14cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，特に踏み固められた部分は認められない。

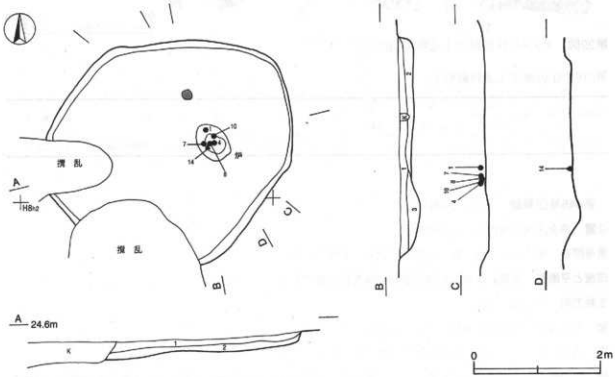
炉　中央部やや東寄りに設けられている。規模は，長径64cm，短径45cmの楕円形で，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。この地床炉の北西40cmの位置には，床面が被熱して赤変した径15cmほどの部分が検出された。

覆土　３層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム大ブロック多量，焼土粒子少量
2　褐　色　ローム大ブロック多量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量

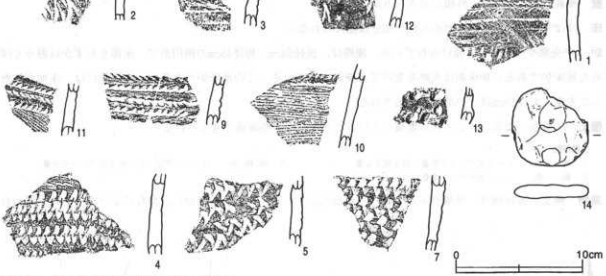
遺物　縄文土器片68点，黒曜石４点（剥片）が出土している。これらのほかに，攪乱により混入したと思われ



第21図　第316号住居跡実測図

る土師器片25点，須恵器片８点が出土している。第22図２・12は深鉢の口縁部付近の破片で，いずれも口唇部にキザミが斜位に施されている。いずれも覆土中から出土している。１・３は深鉢の口縁部片，９・11は深鉢の胴部片で，いずれも変形爪形文と波状貝殻文が施されている。３は口縁部にキザミが縦位に施されている。１は炉付近の覆土下層から，３・９・11は覆土中からそれぞれ出土している。４・５・７は深鉢の胴部片で，いずれも肋のない波状貝殻文が施されている。４・７は炉周辺の覆土下層から，５は覆土中からそれぞれ出土している。10は深鉢の胴部片で，半裁竹管による平行沈線文と波状貝殻文が施されており，炉付近の覆土下層から出土している。13は深鉢の胴部片で，凹凸文が施されており，覆土中から出土している。14の不明土製品は，炉付近の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，縄文時代前期後半の興津式期と推定される。



第22図　第316号住居跡出土遺物実測図

第316号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第22図14	不明	(6.1)	6.1	1.0	(37.4)	土製	隅丸方形状で一部欠損。整形のための指頭押圧痕あり。	PL250

第445号住居跡（第23・24図）

位置　調査区域の南西部，F４e9区。

重複関係　第1001号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.56m，短軸3.20mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－13°－W

壁　壁高は13～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　凸凹がみられる。炉の周囲が踏み固められている。

炉　中央部やや北寄りに設けられている。規模は，長径88cm，短径72cmの不整形で，床面を８cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火熱を受け，赤変硬化している。

炉土層解説

1　赤 褐 色　　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量
2　暗赤褐色　　焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
3　暗赤褐色　　焼土中ブロック・焼土粒子少量
4　赤 褐 色　　焼土小ブロック多量，焼土中ブロック少量
5　褐　　色　　ローム粒子少量，焼土粒子微量

ピット　13か所（Ｐ１～Ｐ13）。Ｐ１は径28cmの円形，深さ15cmで，中央部と南壁下の中間に位置する。規模と位置から主柱穴と思われる。Ｐ２～Ｐ12は，径15～23cmの円形，深さ９～44cmである。Ｐ13は東壁際に，Ｐ３～Ｐ５は中央部に，Ｐ６～Ｐ８はＰ１付近に，Ｐ９～Ｐ11は西壁付近に，Ｐ２・Ｐ12は北壁付近にそれぞれ位置し，性格は不明である。

ピット１土層解説

1　暗 褐 色　　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

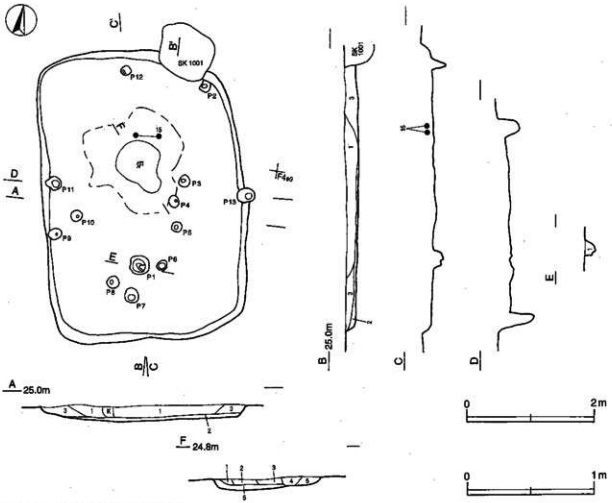
覆土　３層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

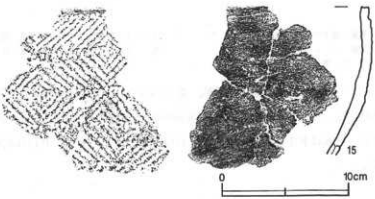
1　褐　　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量
3　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　縄文土器片10点，黒曜石２点（剥片）が出土している。これらのほかに，攪乱により混入したと思われる土師器片49点，須恵器片19点が出土している。第24図15は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，結束ＲＬとＬＲの単節縄文が施されており，炉付近の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，縄文時代前期前半の関山式期と推定される。



第23図　第445号住居跡実測図



第24図　第445号住居跡出土遺物実測図

第495号住居跡（第25・26図）

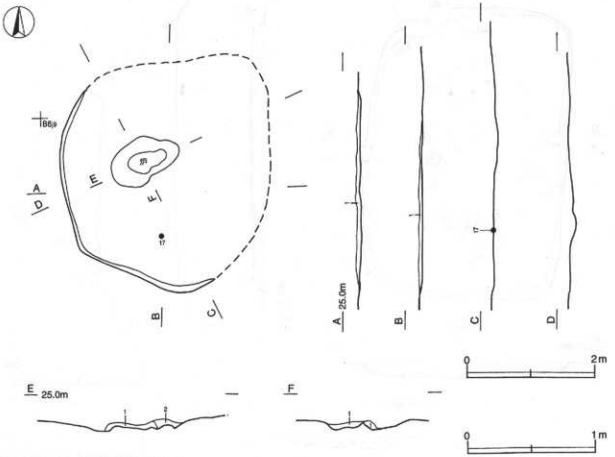
位置　調査区域の中央部，Ｂ６ｊ9区。

規模と平面形　推定長径4.02m，短径3.69mの楕円形である。北部から東部にかけて削平されている。

長径方向　Ｎ－44°－Ｅ

壁　壁高は最大５cmで，外傾気味に立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，炉の周辺で凹凸がわずかに認められる。



第25図　第495号住居跡実測図

炉　中央部やや西側に設けられている。規模は，長径63cm，短径33cmの不整楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗 褐 色　焼土粒子少量，炭化粒子微量

覆土　単一層である。覆土が薄く，堆積状況は不明である。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

遺物　縄文土器片20点が出土している。第26図17は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，口唇部直下に沈線を巡らしており，中央部南寄りの床面から出土している。

第26図　第495号住居跡出土遺物実測図

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，縄文時代中期（加曽利ＥⅢ～Ⅳ式期）と推定される。

（2）土坑

今回の調査では，823基の土坑を確認した。その中で，時期を縄文時代と特定できる土坑１基を検出した。

第1700号土坑（第27図）

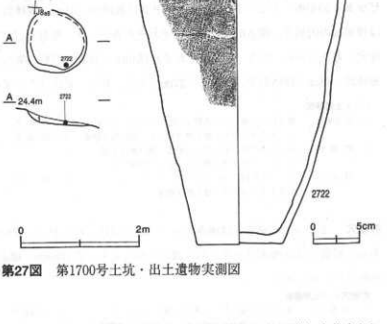
位置　調査区域の南部，Ｊ８a8区。

規模と形状　長径1.04m，短径1.02mの円形で，深さ0.1mである。削平されており，壁の立ち上がりは不明である。底面はほぼ平坦である。

覆土　１層からなる。覆土が薄いため，堆積状況は不明である。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，黒色粒子微量

遺物　縄文土器片９点が出土している。第27図2722の深鉢形土器は，底面から出土している。



第27図　第1700号土坑・出土遺物実測図

所見　本跡は，削平され全体の形状がとらえられないため，性格は不明である。時期は，出土土器から縄文時代中期（加曽利ＥⅡ～Ⅲ期）と推定され

第1700号土坑出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第27図 2722	深　鉢 縄文土器	A　23.5 B　32.4 C　9.6	胴部から口縁部一部欠損。平底。胴部下位は内彎気味に立ち上がり，上位から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。緩やかな３単位の波状口縁。口唇部内そぎ。口縁部外面横位の磨き。胴部縦位のナデ上げ。胴部はＬＲを縦としてこれに別の縦いＬＲを付加した縄文が施されている。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色 普通	95%　ＰＬ189

3　古墳時代

当遺跡からは，古墳時代の住居跡７軒が確認され，いずれも調査区域の南東部で確認されている。時期では，５世紀前葉と推定される住居跡が５軒，６世紀後葉と推定される住居跡が１軒，古墳時代と推定される住居跡が１軒である。弥生時代の遺構・遺物は確認されていない。

（1）竪穴住居跡

第319号住居跡（第28図）

位置　調査区域の南東部，Ｉ８a3区。

重複関係　第12Ａ・13号溝，第1603・1677・1678号土坑に掘り込まれており，いずれよりも古い。

規模と平面形　長軸5.57m，短軸4.55mの長方形を呈していたものと思われる。

主軸方向　Ｎ－11°－Ｗ

壁　壁高は10cmで，外傾して立ち上がる。南壁側は削平されて遺存しない。

壁溝　東壁下及び西壁下を巡っている。上幅12～16cm，下幅４～９cm，深さ10cmで，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦であり，特に踏み固められた部分は検出されなかった。地山を平坦に掘り込んで床面としている。

炉　中央部やや北西寄りに設けられている。径65cmの円形で，床面を28cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状を呈しており，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1	暗褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	赤褐色	焼土粒子中量	5	褐　色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子微量

ピット　10か所（Ｐ１～Ｐ10）。Ｐ１～Ｐ３は長径38～51cm，短径33～34cmの楕円形で，深さ52～68cm，Ｐ４は径30cmの円形で，深さ63cmであり，それぞれ各コーナー部付近に位置する。Ｐ１～Ｐ４は規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５・Ｐ10はそれぞれ径46cm・44cmの円形，深さ57cm・26cm，Ｐ６～Ｐ９は長径39～68cm，短径27～48cmの楕円形で，深さ７～27cmである。Ｐ５～Ｐ10は，いずれも性格は不明である。

ピット土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量	5	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
3	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量	6	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

貯蔵穴　２か所。貯蔵穴１は南西コーナー部に設けられており，径61cmの円形，深さ49cmで，断面は半円状である。貯蔵穴２は南東コーナー部に設けられており，長径83cm，確認された短径66cmの楕円形，深さ38cmで，断面はＵ字形である。

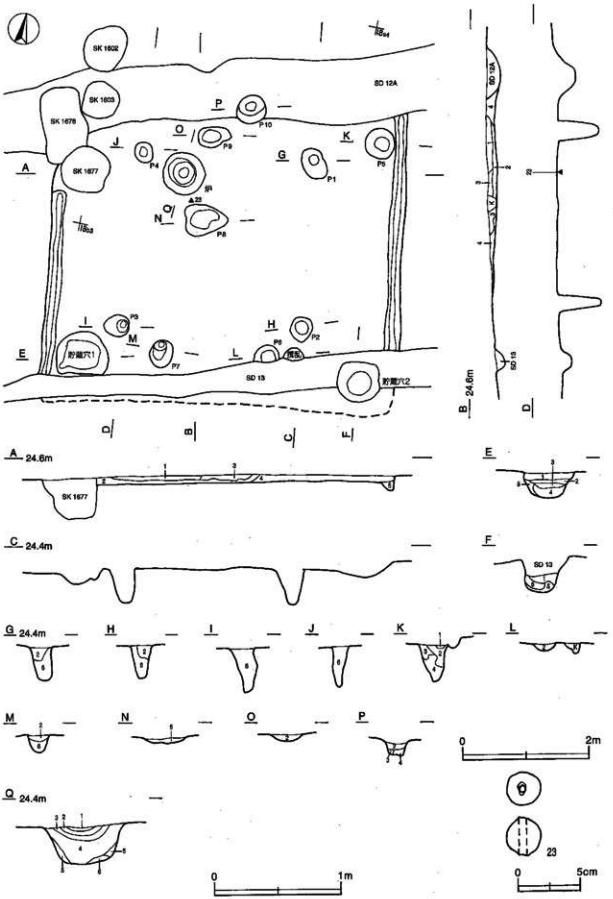
貯蔵穴1・2土層解説

1	暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量	4	極暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量	5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3	赤褐色	焼土中ブロック中量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量	6	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　５層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム大ブロック少量	4	褐　色	ローム大ブロック中量
2	暗褐色	ローム大ブロック・焼土中ブロック中量	5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
3	褐　色	ローム中ブロック中量			



第28図　第319号住居跡・出土遺物実測図

遺物　土師器片87点，土製品１点（球状土錘）が出土している。これらのほかに，混入したとみられる縄文土器片１点，撹乱により混入したとみられる須恵器片15点が出土している。第28図23の球状土錘は，中央部の炉付近の覆土下層から出土している。

所見　23の球状土錘を除いては，遺物が細片で図示できないため時期は限定できないが，遺構の形態と出土土器から，古墳時代と推定される。

第319号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第28図23	球状土錘	2.7	3.1	0.5	15.7	土製	外面ナデ。	PL250

第322号住居跡（第29～31図）

位置　調査区域の南東部，Ｈ７i0区。

規模と平面形　長軸5.40m，短軸5.22mの方形である。

主軸方向　Ｎ－９°－Ｗ

壁　壁高は30～36cmで，ほぼ直立する。

壁溝　壁下を全周している。上幅７～12cm，下幅４～８cm，深さ14cmで，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。４か所の主柱穴の内側は，炉の周辺を除いて地山を床としているが，その外周部は貼床である。貼床は，壁に沿って幅65～145cm，確認面から深さ38～49cmほど溝状に掘り込んだ部分と炉の周辺を長径279cm，短径98cmの不整形，確認面からの深さ42cmに掘り込んだ部分からなり，ロームブロックを含む褐色土を堪土して構築されている。

炉　Ｐ１とＰ４を結んだ線より，やや南側に寄った位置に設けられている。規模は，長径61cm，短径45cmの楕円形で，床面を４cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状を呈し，火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物微量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は径32～40cmの円形，深さ47～56cmで，それぞれ各コーナー部付近に位置する。規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は長径50cm，短径26cmの楕円形，深さ５cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　褐暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

貯蔵穴　２か所。貯蔵穴１は南東コーナー部に設けられており，径60cmの円形，深さ45cmで断面はＵ字形をしている。貯蔵穴２は南西コーナー部に設けられており，径75cmの不整形，深さ43cmで断面はＵ字形をしている。

貯蔵穴１・２土層解説

1　暗褐色　炭化粒子多量，炭化物中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
2　暗褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子炭化物少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化材微量
6　褐暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
7　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物少量，ローム小ブロック・炭化材微量

覆土　9層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　褐暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量

2　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

3　褐暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

4　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量

5　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量

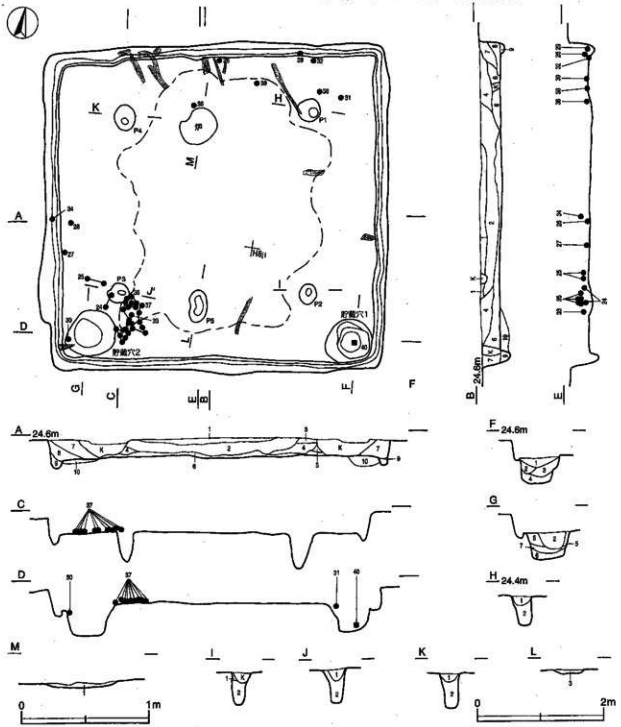
6　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化材微量

7　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子微量

8　褐　　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子微量

9　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量

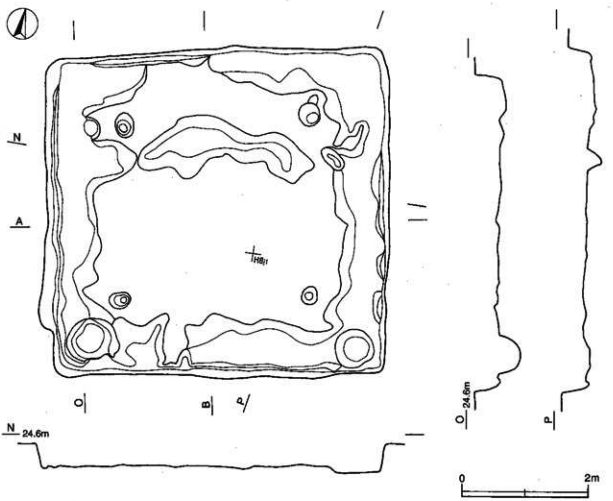
10　褐　　色　ローム中ブロック中量（貼床）



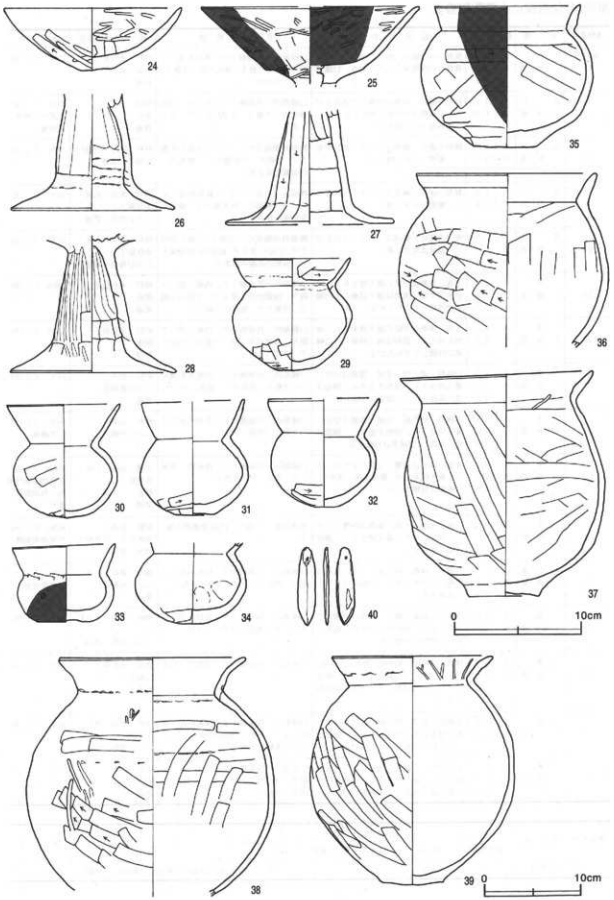
第29図　第322号住居跡実測図（1）

遺物　土師器片271点，不明土製品１点，石製模造品１点が出土している。これらのほかに，混入したとみられる縄文土器片，撹乱により混入したとみられる須恵器片35点，灰釉陶器片１点が出土している。出土土器は覆土下層に集中している。第31図24の土師器坏は南西コーナー部の覆土下層から出土している。25～28は土師器高坏である。25は南西コーナー部の覆土下層から，26は北壁際の覆土下層から，27と28は西壁付近の覆土下層からそれぞれ出土している。29～34は土師器坩である。29は北壁際の覆土下層から横位で，30は南西コーナー部の覆土下層から横位で，31は北東コーナー部の覆土下層から正位で，32は北壁際の覆土下層から横位で，33は南西コーナー部の覆土下層から，34は西壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。35～39は土師器甕である。35は南西コーナー部の覆土中層から，36は中央部北寄りの覆土下層から，37は南西コーナー部の覆土下層から，38は北東コーナー部付近の覆土下層から斜位で，39は北壁付近の覆土下層から横位でそれぞれ出土している。40の剣形模造品は南東コーナー部の貯蔵穴１の覆土下層から出土している。なお，壁際の床面から多量の炭化材が出土している。

所見　壁際の床面から炭化材が出土していることから，本跡は焼失住居と思われる。本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，５世紀前葉と推定される。



第30図　第322号住居跡実測図（２）



第31図　第322号住居跡出土遺物実測図

第322号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 24	坏 土師器	A 14.1 B 4.9 C 2.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き，一部ヘラナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい褐色 普通	75%　P L.189
25	高坏 土師器	A [17.4] B (6.0)	坏部の破片。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面横位のヘラ磨き。体部外面下位一部ヘラ削り。	砂粒 橙色 普通	40%　P L.189 坏部内・外部 煤付着
26	高坏 土師器	B (9.2) D 13.0	脚部の破片。脚部はエンタシス状を呈し，裾部は大きく開く。	脚部外面縦位のヘラナデ，内面上位指ナデ。裾部内・外面横ナデ。脚部内・外面輪積み痕あり。	砂粒・長石・赤色粒子 赤褐色，普通	40%　P L.189
27	高坏 土師器	B (9.0) D [13.2]	脚部の破片。脚部はエンタシス状を呈し，裾部は大きく開く。	脚部内・外面ヘラナデ。脚部内面上位指ナデ。裾部内・外面横ナデ。脚部外面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい褐色，普通	40%　P L.189
28	高坏 土師器	B (10.9) D 13.2 E 9.8	脚部の破片。脚部はエンタシス状を呈し，裾部は大きく開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面上位指ナデ，下位ヘラナデ。裾部内・外面横ナデ。脚部内面輪み痕あり。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい褐色，普通	40%　P L.189
29	坩 土師器	A 9.2 B 8.8 C 2.7	平底。体部は中位に最大径をもち，球形を呈する。頸部は強く屈曲し，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ，内面一部ヘラ削り。体部外面上位ナデ，下位ヘラ削り，内面ナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	100%　P L.190
30	坩 土師器	A 8.9 B 8.9	丸底。体部は中位に最大径をもち，球形を呈する。頸部は強く屈曲し，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ，内面一部ヘラ削り。体部外面下位ヘラ削り，内面ナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	100%　P L.189
31	坩 土師器	A [8.2] B 9.1 C 3.3	口縁部一部欠損。平底。体部は中位に最大径をもち，球形を呈する。頸部は強く屈曲して，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ナデ。底部ヘラナデ。	砂粒・石英 にぶい黄褐色 普通	85%　P L.189
32	坩 土師器	A [8.8] B 8.6 C 1.8	口縁部一部欠損。平底。体部は中位に最大径をもち，球形を呈する。頸部は強く屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・石英 にぶい赤褐色	80%　P L.190 二次焼成
33	坩 土師器	A 8.1 B 6.2 C 4.0	平底。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部は強く屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ，外面一部ヘラ削り。	小礫・砂粒・石英・赤色粒子 橙色 普通	100%　P L.190 体部外面煤付着 内・外面器面荒れ
34	坩 土師器	B (6.5)	口縁部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部は強く屈曲する。	体部外面ヘラ削り，内面指頭押圧後，ナデ。	砂粒・石英・赤色粒子・白色粒子 橙色，普通	80%　P L.189 外面器面剥離
35	小形甕 土師器	A 11.5 B 11.3 C 4.9	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 にぶい赤褐色 普通	70%　P L.190 外面煤付着
36	甕 土師器	A 14.3 B (13.8)	底部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・石英・赤色粒子 にぶい褐色，普通	70%　P L.190
37	甕 土師器	A 15.3 B 17.8 C 5.6	体部・口縁部一部欠損。突出した平底。体部はやや下方に最大径をもつ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・赤色粒子 灰褐色 普通	80%　P L.190
38	甕 土師器	A 19.8 B (25.3)	底部から体部一部欠損。体部は中位に最大径をもち，球形を呈する。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。内・外面輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色，普通	90%　P L.189
39	甕 土師器	A 16.9 B 24.1 C 6.6	やや突出した平底。体部は中位に最大径をもち，球形を呈する。頸部はくの字状に強く屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ，内面一部ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・石英 褐色 普通	100%　P L.189

遺物番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	備考
40	剣形模造品	6.1	1.4	0.4	4.5	滑石	刀身。表裏面あり。裏面凹平。側面あり。片側穿孔。	P L.252

第341号住居跡（第32・33図）

位置　調査区域の南東部南端，I 8 e1区。

重複関係　第318号住居，第1600号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸7.00m，短軸6.74mの方形である。

主軸方向　N－16°－W

壁　壁高は10～36cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第318号住居に掘り込まれている南壁の西半部を除いて，壁下を巡っている。上幅7～17cm，下幅5～9cm，深さ9cmで，断面は緩やかなU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで床面としている。

炉　中央部やや北西寄りに設けられている。炉の南半部は，撹乱を受け遺存しない。確認された径42cmの不整形で，床面を13cm掘りくぼめた地床炉である。床面は皿状を呈すると推定される。中心部は火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量	3	にぶい赤褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
2	暗赤褐色	焼土中ブロック多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量			

ピット　3か所（P 1～P 3）。P 1・P 2はそれぞれ径55cm・43cmの円形，深さ23cm・12cmで，中央部北東寄りと中央部南東寄りに位置する。規模と配置から主柱穴と思われる。P 3は径37cm，深さ10cmで，性格は不明である。

ピット土層解説

1	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量	2	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量

貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は北東コーナー部に設けられており，径65cmの円形，深さ49cmで，断面はU字形である。貯蔵穴2は南東コーナー部に設けられており，長径60cm，短径41cmの楕円形，深さ48cmで，断面はU字形である。

貯蔵穴1・2土層解説

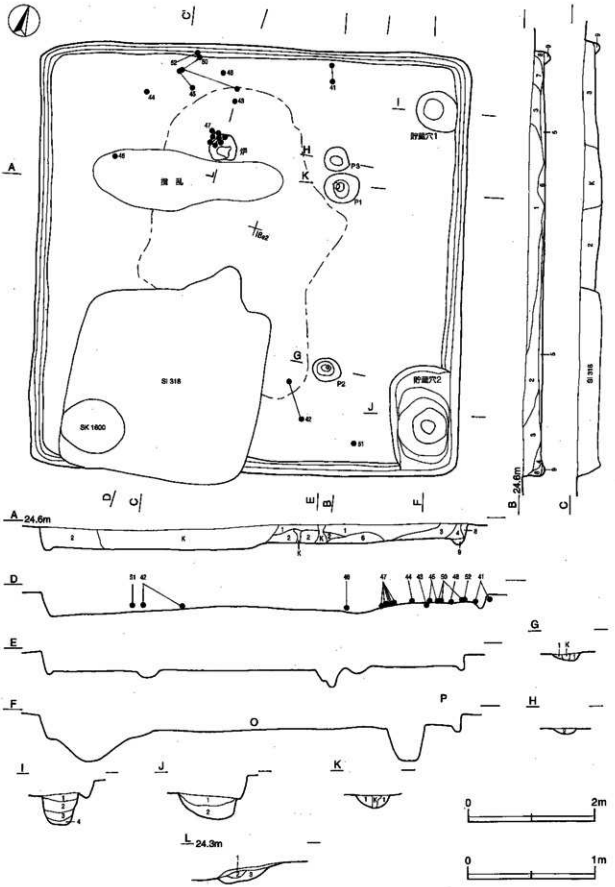
1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	3	暗褐色	焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

覆土　9層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	7	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
3	褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量	8	褐　色	ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量	9	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
5	褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量			

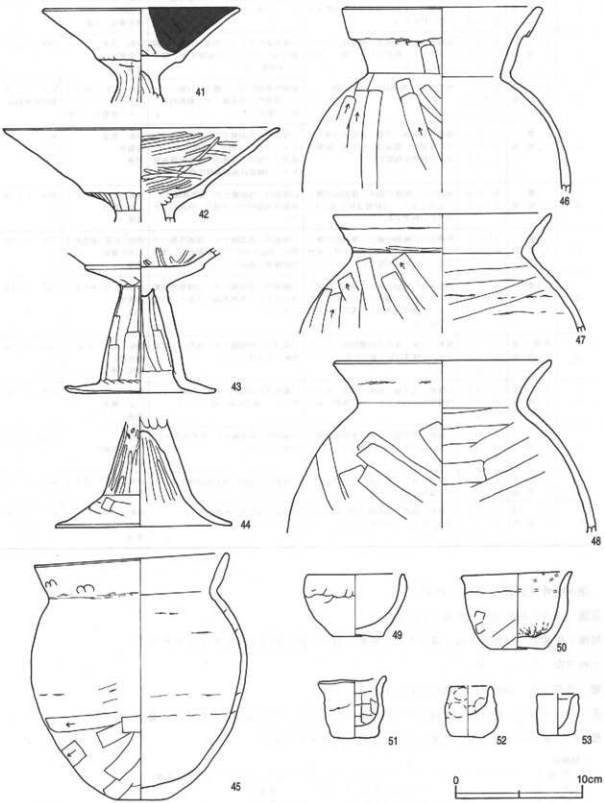
遺物　土師器片423点が出土している。このほかに，混入したとみられる縄文土器片44点，撹乱により混入したとみられる須恵器片8点が出土している。遺物は，炉付近から北壁下にかけての床面から多く出土している。第33図41～44は土師器高坏である。41は北壁際の床面から，42は南壁付近の覆土下層から，43は炉付近の床面から，44は北壁付近の床面からそれぞれ出土している。45～48は土師器甕である。45は北壁付近の床面から，46は西壁付近の覆土下層から，47は炉付近の床面から，48は北壁付近の覆土下層からそれぞれ出土している。



第32図　第341号住居跡実測図

50の土師器手捏土器は北壁際の覆土下層から，51の土師器ミニチュア土器は南壁際の覆土下層から，52の土師器ミニチュア土器は北壁付近の床面からそれぞれ出土している。49の土師器手捏土器と53の土師器ミニチュア土器は，それぞれ覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，重複関係と出土土器から，５世紀前葉と推定される。



第33図　第341号住居跡出土遺物実測図

第341号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第33図 41	高坏 土師器	A 15.4 B (7.4) E (2.4)	脚部から坏部の破片。坏部は外反気味に立ち上がり，口縁部にいたる。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ナデ，内面ヘラナデ。脚部外面ヘラナデ，内面ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 明赤褐色 普通	40% P L190 坏部内面漆付着
42	高坏 土師器	A 22.0 B (7.4) E (6.9)	脚部欠損。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラナデ，内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 明赤褐色，普通	35% P L190
43	高坏 土師器	A (11.5) D 12.0 E 8.5	脚部から坏部の破片。脚部はエンタシス状を呈し，裾部は大きく開く。坏部下位に稜をもつ。	坏部外面ヘラナデ，内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラナデ，内面指ナデ。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・石英 明赤褐色 普通	65% P L190
44	高坏 土師器	B (8.7) D 13.9	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。裾部内・外面横ナデ。裾部外面一部ヘラ削り。	砂粒・石英・白色粒子 赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	45% P L190 脚部外面煤痕
45	甕 土師器	A 15.2 B 19.5 C 3.8	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，下位ヘラ削り。体部内面ナデ。底部ヘラ削り。体部内・外面輪積み痕あり。口縁部外面指頭押圧痕。	砂粒・雲母 明褐色 普通	80% P L191
46	甕 土師器	A 15.9 B (14.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は折り返されわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ナデ。体部外面縦位のヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	30% P L190
47	甕 土師器	A 17.4 B (9.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。口縁部外面，体部内面輪積み痕あり。	砂粒・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	15% P L191
48	甕 土師器	A 17.2 B (13.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾し，端部でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面輪積み痕あり。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・石英・赤色粒子 黒褐色 普通	20% P L191
49	手捏土器 土師器	A 7.6 B 4.9 C 4.2	鉢形。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面指頭による粗いナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色，普通	100% P L189
50	手捏土器 土師器	A 8.8 B 6.2 C 4.0	口縁部一部欠損。鉢形。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面，指頭による粗いナデ。体部外面一部ヘラナデ。	砂粒・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	90% P L189
51	ミニチュア土器 土師器	A 5.2 B 4.9 C 3.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	95% P L189
52	ミニチュア土器 土師器	A [3.1] B 4.0	口縁部，体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて直立して立ちがる。	口縁部，体部内・外面指頭押圧後，ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色，普通	80% P L189
53	ミニチュア土器 土師器	A [3.2] B 3.3 C 2.7	口縁部，体部一部欠損。平底。体部はわずかに外傾して口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ナデ。	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	80% P L189

第344号住居跡（第34・35図）

位置　調査区域の南東部南端，I 8 f3区。

規模と平面形　長軸2.88m，確認された短軸1.94mの長方形または方形と思われる。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は4～18cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，特に踏み固められた部分はみられない。南半部は撹乱を受けて遺存しない。

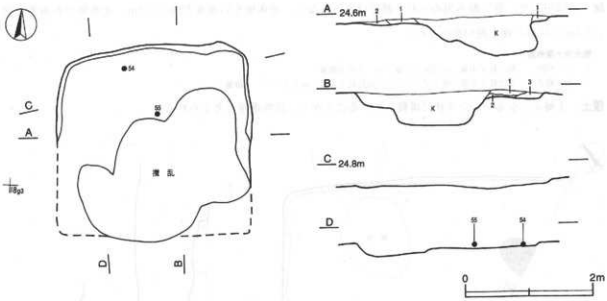
覆土　3層からなる。覆土が薄いため，堆積状況は不明である。

土層解説

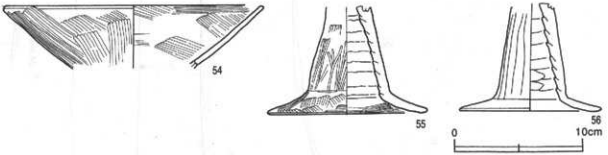
1　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量

遺物　土師器片85点が出土している。このほかに，混入したとみられる縄文土器片４点，撹乱により混入したとみられる須恵器片４点が出土している。第35図54の土師器高坏は北縁付近の覆土下層から，55の土師器高坏は中央部やや北寄りの覆土上層から，56の土師器高坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡は南半部に撹乱を受けているため，全容をとらえられなかった。時期は，遺構の形態と出土土器から，５世紀前葉と推定される。



第34図　第344号住居跡実測図



第35図　第344号住居跡出土遺物実測図

第344号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第35図 54	高　坏 土 師 器	A　20.2 B（4.9）	坏部の破片。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ハケ目調整。	砂粒・赤色粒子に赤い褐色 普通	30%　ＰＬ190
55	高　坏 土 師 器	B（8.6） D　12.6	脚部の破片。脚部はエンタシス状を呈し，裾部は大きく開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き，一部ハケ目調整，内面ナデ。裾部内・外面ハケ目調整。脚部内面輪積み痕あり。	砂粒・石英・赤色粒子に赤い褐色 普通	40%
56	高　坏 土 師 器	B（8.5） D　11.3	脚部の破片。脚部はエンタシス状を呈し，裾部は大きく開く。	脚部外面ヘラナデ，内面輪積み痕を残すナデ。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・石英に赤い褐色 普通	40%

第347号住居跡（第36図）

位置　調査区域の南東部南端，Ⅰ8h4区。

規模と平面形　中央部から南西側が調査区域外のため，平面形は確認できなかった。確認されたのは，南北長5.35m，東西長4.57mである。

主軸方向　N－58°－W

壁　壁高は10～17cmで，外傾して立ち上がる。

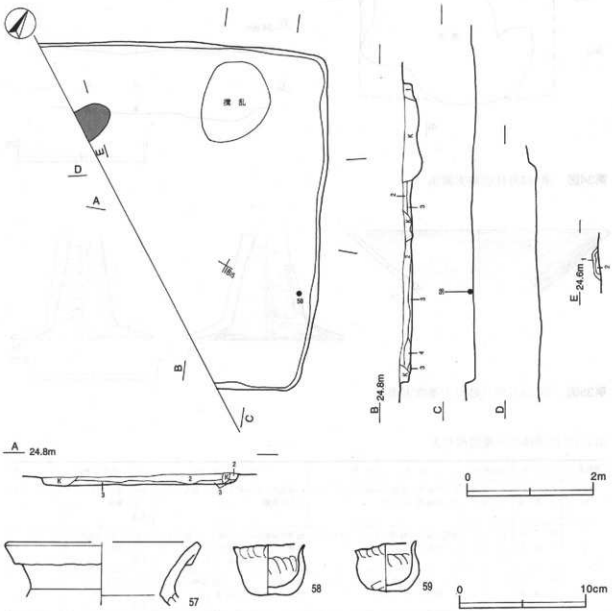
床　ほぼ平坦で，特に踏み固められた部分はみられない。北西壁から南東方向に1.2m，北東壁から南西方向に3.8mの位置に焼土塊が検出された。

焼土塊土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量

2　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土大ブロック微量

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。



第36図　第347号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量	
2 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
4 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量	

遺物　土師器片142点が出土している。このほかに，混入したとみられる縄文土器片６点，撹乱により混入したとみられる須恵器片２点が出土している。第36図58の土師器ミニチュア土器は南東壁際の覆土下層から，57の土師器甕と59の土師器ミニチュア土器は，覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，５世紀前葉と推定される。

第347号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 57	甕 土師器	A [15.6] B 5.0	口縁部の破片。口縁部は外反し，折り返されている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	5% PL191
58	ミニチュア土器 土師器	A 5.6 B 4.0 C 3.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面指頭押圧後，ナデ。	砂粒 橙色 普通	95% PL190
59	ミニチュア土器 土師器	A 4.9 B 3.9 C 2.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。口縁部外面指頭押圧。	砂粒・石英 にぶい褐色 普通	80% PL190

第355号住居跡（第37～39図）

位置　調査区域の南東部南端，Ｉ９e3区。

重複関係　第1680号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.74ｍ，短軸3.68ｍの方形である。

主軸方向　Ｎ－18°－Ｗ

壁　壁高は12～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁中央部の撹乱を受けている部分を除いて，壁下を巡っている。上幅６～13cm，下幅３～７cm，深さ５cmで，断面は緩やかなＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，北壁付近から中央部にかけて踏み固められている。中央部から東壁際の一部にかけては地山を床としているが，その外周部は貼床である。貼床は，壁際を幅64～158cm，確認面からの深さ35cmほど溝状に掘り込み，ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土・暗褐色土を埋土して構築されている。

炉　北壁の中央部から南側80cmに位置する。規模は，長径88cm，短径53cmの楕円形で，床面を16cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は，皿状を呈しており，火熱を受けて赤変硬化している。土層断面図中，第１層がこの土層である。

炉土層解説

1 暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
2 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子微量

ピット　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。Ｐ１は径34cmの円形で，深さ15cm，Ｐ２は長径30cm，短径21cmの楕円形で，深さ18cmである。いずれも性格は不明である。

ピット土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

貯蔵穴　１か所。南西コーナー部に設けられている。長径42cm，短径31cmの楕円形，深さ28cmで断面は箱薬研

状をしている。

貯蔵穴土層解説

1	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
2	暗 褐 色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
3	暗 褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗 褐 色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック微量

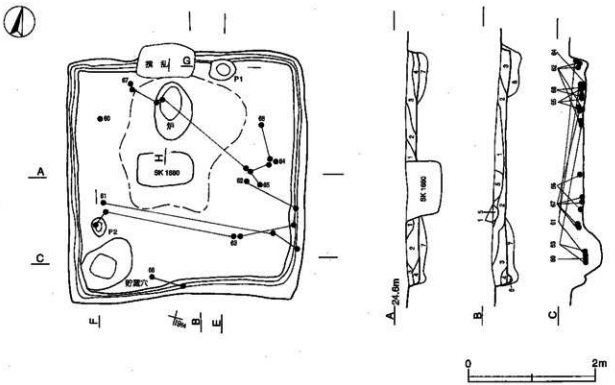
覆土　6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

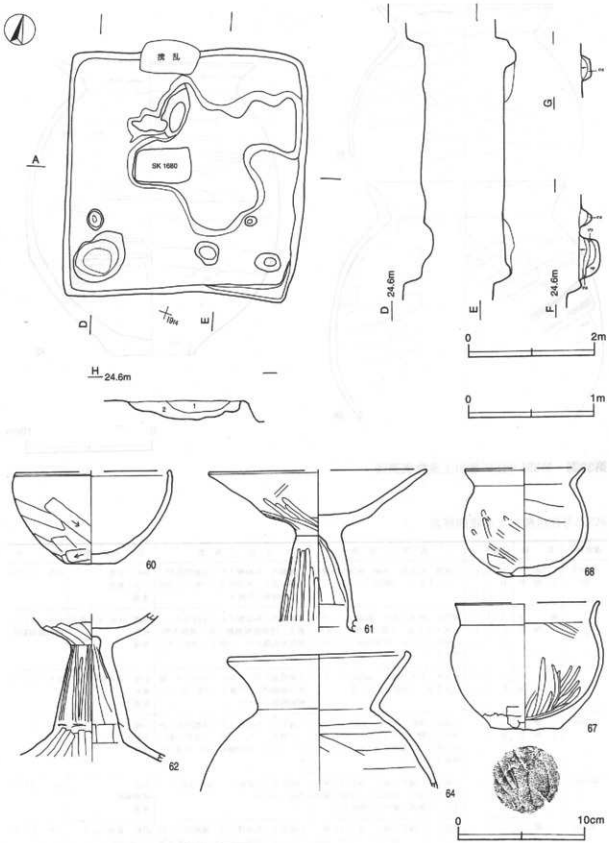
1	黒　色	ローム粒子・焼土粒子少量
2	黒 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
3	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
5	暗赤褐色	焼土粒子中量
6	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7	褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量（貼床）
8	暗 褐 色	ローム中ブロック少量（貼床）

遺物　土師器片360点が出土している。このほかに，混入したとみられる縄文土器片２点，攪乱により混入したと思われる須恵器片81点が出土している。第38図60の土師器鉢は西壁付近の覆土下層から，64・65・68の土師器甕は東壁付近の覆土下層から，66の土師器甕は南壁付近の覆土下層からそれぞれ出土している。61の土師器高坏は，東壁付近の覆土中層とＰ２付近の覆土中層から出土した破片が接合したものである。62の土師器高坏は，中央部東寄りの覆土下層から出土した破片と東壁際の覆土中層から出土した破片が接合したものである。63の土師器甕は，Ｐ２付近と中央部南寄りのそれぞれ覆土下層から出土した破片が接合したものである。67の土師器甕は，北壁付近，炉付近，中央部東寄りのそれぞれ覆土下層から出土した破片が接合したものである。

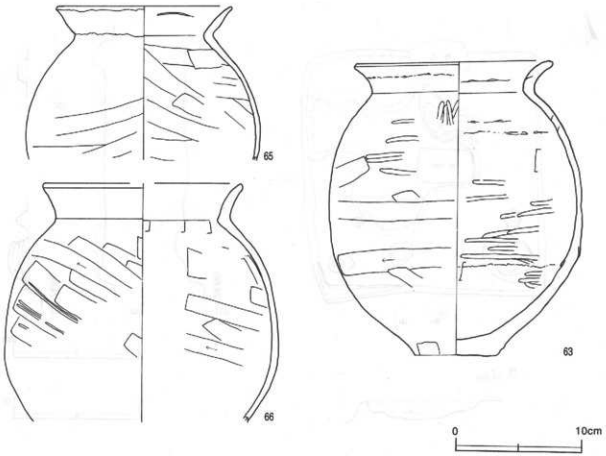
所見　本跡の時期は，重複関係と出土土器から，５世紀前葉と推定される。



第37図　第355号住居跡実測図



第38図　第355号住居跡・出土遺物実測図



第39図　第355号住居跡出土遺物実測図

第355号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 60	鉢 土師器	A 12.2 B 7.4 C 3.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面に沈線が巡る。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・石英 にぶい褐色 普通	95%　PL190
61	高坏 土師器	A [17.0] B (12.8) E (7.6)	脚部から坏部の破片。脚部はエンタシス状を呈する。坏部は外傾して開き，口縁部にいたる。坏部外面下位に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ磨き，内面器面剥離により調整不明。脚部外面縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。	小礫・石英・赤色粒子 橙色 普通	45%　PL191 内面器面剥離
62	高坏 土師器	B (11.7) E (9.3)	脚部から坏部の破片。脚部はエンタシス状を呈し，裾部は大きく開く。	坏部外面下位ヘラ削り，内面ナデ。脚部外面縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。裾部外面ヘラナデ。	石英・赤色粒子 褐色 普通	30%　PL191
第39図 63	甕 土師器	A 15.3 B 23.4 C 6.6	口縁部・体部一部欠損。突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部は強く屈曲する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラ磨き，下位ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。内・外面輪積み痕。底部ヘラ削り。	小礫・砂粒・雲母 赤褐色 普通	60%　PL191
第38図 64	甕 土師器	A 14.1 B (11.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	20%　PL191
第39図 65	甕 土師器	A 13.7 B (12.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部はヘラ状工具により面取りされている。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	30%　PL191
66	甕 土師器	A 15.6 B (18.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。体部内面上位ヘラナデ。下位ヘラ削り。	砂粒・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	30%

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第38図 67	甕 土師器	A [11.4] B 10.1 C 5.5	底部から口縁部の破片。やや突出した平底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ヘラ磨き。底部ヘラナデ。	砂粒・石英 明赤褐色 普通	45% ＰＬ191
68	甕 土師器	A 9.5 B 8.6 C 3.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラ磨き，下位ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	砂粒 明赤褐色 普通	50% ＰＬ191

第386号住居跡（第40・41図）

位置　調査区域の南東部，Ｇ６e6区。

重複関係　第385号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸5.57m，確認された短軸4.12mの方形または長方形である。南側は斜面部で，南東壁付近，南コーナー部は削平されている。

主軸方向　Ｎ－42°－Ｗ

壁　壁高は14cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，竈の前方部と中央部は踏み固められている。掘り方は，地山を平坦に掘り込んで床面としている。

竈　北西壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ142cm，袖部最大幅133cmである。煙道は，下半部では60度の傾きで，上半部では20度の傾きでそれぞれ立ち上がる。火床部は，地山を確認面から22cmまでの深さに掘り込んでつくっている。

竈土層解説

1　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土大ブロック・焼土中ブロック少量
4　極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック少量，焼土大ブロック・炭化粒子微量
5　極暗褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，焼土大ブロック少量，炭化物・炭化粒子・ローム粒子・砂粒微量
7　極暗褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
8　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。Ｐ１は径88cmの不整形，深さ34cm，Ｐ２は径88cmの円形，深さ25cmである。いずれも性格は不明である。

ピット土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
2　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，ローム小ブロック少量
3　暗褐色　粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量

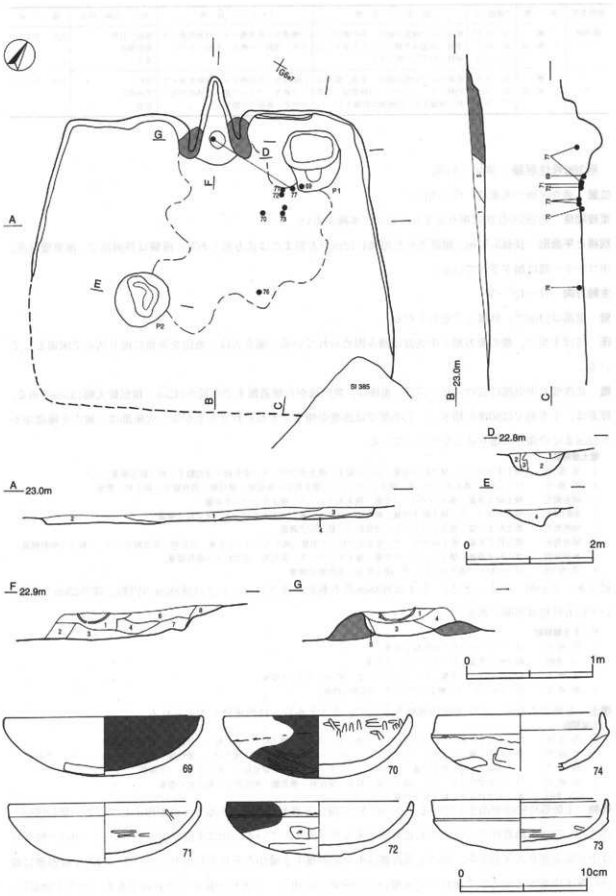
覆土　５層からなる。レンズ状の堆積を示していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

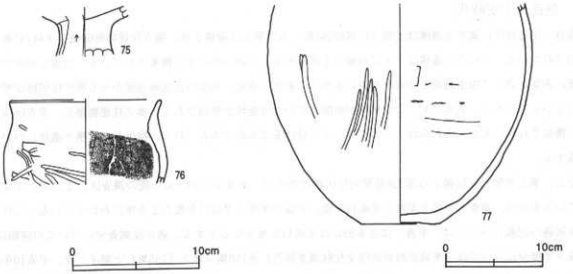
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
2　黒褐色　粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
5　にぶい黄褐色　粘土小ブロック・粘土粒子少量

遺物　土師器片95点が出土している。このほかに，混入と思われる縄文土器片１点が出土している。第40図69・71・72・73は土師器坏で，いずれも北東側の床面から出土している。69は正位で出土している。70の土師器坏は中央部北寄りの床面から，76の土師器甕は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。77の土師器甕は竈内の覆土中層から出土した破片と北東壁付近の床面から出土した破片が接合したものである。74の土師器坏，75の土師器高坏は，覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，重複関係と出土土器から，６世紀後葉と推定される。



第40図　第386号住居跡・出土遺物実測図



第41図　第386号住居跡出土遺物実測図

第386号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第40図 69	坏 土師器	A 15.5 B (4.7)	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	100% ＰＬ191 体部内面漆付着
70	坏 土師器	A 14.7 B 5.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き，外面下位ヘラ削り。体部外面輪積み痕。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	100% ＰＬ191 体部外面煤付着
71	坏 土師器	A 15.0 B 4.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ，内面ヘラ磨き。	砂粒・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	100% ＰＬ191
72	坏 土師器	A 14.8 B 4.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面輪積み痕。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	100% 体部外面煤付着
73	坏 土師器	A 14.0 B 4.0	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラ磨き。	砂粒・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	95%　ＰＬ191
74	坏 土師器	A [13.2] B (4.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面輪積み痕を残すヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	30%
75	高　坏 土師器	B (3.9)	脚部の破片。	脚部外面ヘラ削り。	石英 にぶい橙色 普通	5% 脚部外面漆付着
76	甕 土師器	A [11.9] B 6.6	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい褐色 普通	10% 体部内面木葉痕
77	甕 土師器	B (23.0) C 8.2	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き，内面輪積み痕を残すヘラナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	40%

4　奈良・平安時代

奈良・平安時代に属する遺構は，竪穴住居跡281軒，方形竪穴状遺構７基，掘立柱建物跡69棟，土坑741基が検出されている。これらの遺構は，主に台地の平坦部を中心に縁辺部にまで構築されている。台地平坦部では遺構の密度が高く，南東端部では密度が低いものの，南部・東部・西部の台地縁辺部からも竪穴住居跡が検出されていることから，低地にも，この集落が展開していた可能性が推測される。掘立柱建物跡も，調査区域全体に構築されているが，これらは７つのブロックに分けることができる。以下，検出した遺構と遺物について記載する。

なお，第１号竪穴住居跡から第228号竪穴住居跡のなかで，平成９・10・11年度の調査区にまたがって位置しているものは，調査も平成９年度と平成11年度，平成10年度と平成11年度の２か年にわたっている。これらの住居跡の記載については，本書では基本的には平成11年度を中心とする。過年度調査分についての詳細は，平成９年度分については『茨城県教育財団文化財調査報告』第155集（以下『155集』と略す）を，平成10年度分については『同』第159集（以下『159集』と略す）を参照されたい。

（１）竪穴住居跡

第１号住居跡（第42図）

位置　調査区域の北西部，Ｃ４d7区。平成９年度調査区と平成11年度調査区にまたがって位置していたため，調査も竈を含む東側半分を平成９年度に，西側半分を平成11年度にと，調査も両年度にわたって実施した。

重複関係　第472号住居跡の上に構築されており，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸2.86m，短軸2.57mの長方形である。

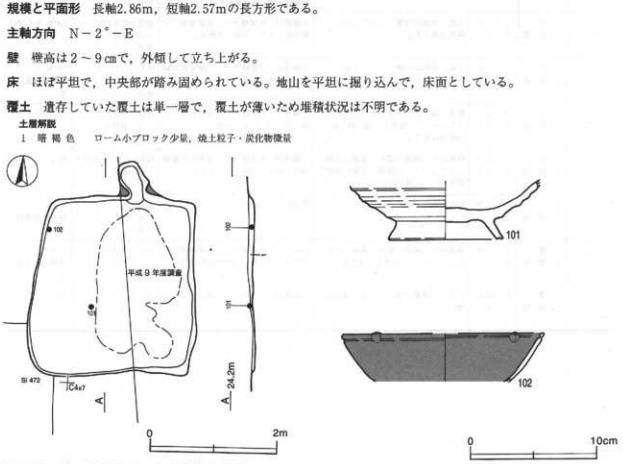
主軸方向　Ｎ－２°－Ｅ

壁　残高は２～９cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

覆土　遺存していた覆土は単一層で，覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量



第42図　第１号住居跡・出土遺物実測図

遺物　土師器片19点，須恵器片３点，緑釉陶器片１点が出土している。第42図101の土師器高台付坏は中央部の床面から，102の緑釉陶器輪花椀は北西部壁際からそれぞれ出土している。

所見　本跡の竈を含む東半分は平成９年度に調査が終了しており，その部分については，『第155集』を参照されたい。本跡の時期については，『第155集』では９世紀中葉としているが，平成11年度の調査で床面から出土した土師器高台付坏や緑釉陶器と『第155集』報告の土師器を考えあわせ，９世紀後葉に変更する。

第１号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 101	高台付坏 土師器	B（4.6） C 9.1 E 1.4	高台部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面のロクロ目は強い。底部回転ヘラ削りの後，高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・長石・小石によい橙色 普通	50%　ＰＬ192 二次焼成
102	輪花椀 緑釉陶器	A［16.0］ B（3.8）	体部から口縁部にかけての破片。口縁部には輪花が施されている。口縁端部は短くつまみ出されている。	内面丁寧な横位のヘラ磨き後，施釉。	緻密，胎土　灰色 灰オリーブ釉 良好	20%　ＰＬ268

第７号住居跡（第43図）

位置　調査区域の北西部，Ｃ５f2区。平成９年度と平成11年度の調査区にまたがって位置していたため，調査も竈を含む大半を平成９年度に，南西部分を平成11年度にと，両年度にわたって実施した。

規模と平面形　長軸4.96m，短軸3.18mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－８°－Ｗ

壁　壁高は47～53cmで，直立する。

壁溝　平成９年度の調査では北東，北西，南東の各コーナー部で検出している。平成11年度の調査部分では南西コーナーの壁下を巡っているのを検出した。上幅６～10cm，下幅３～８cm，深さ14cmで，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦である。

ピット　Ｐ１は径34cmの円形，深さ20cmで，南壁寄りの中央に位置することから，出入口施設に伴うピットと考えられる。土層断面図中，第９層がこれにあたる。

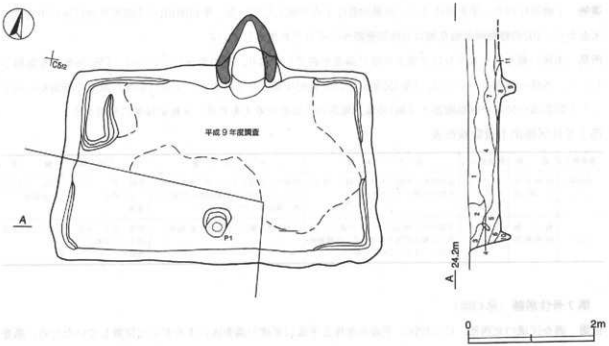
覆土　11層からなる。ロームブロック，焼土及び炭化物の含有状況や遺物の投棄状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黄褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・炭化物・焼土粒子微量
8　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
9　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
10　褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
11　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片11点，須恵器片11点が出土している。細片のため，図示できる遺物はなかった。（平成９年度調査分の遺物については『155集』参照）

所見　本跡は，長辺が短辺の1.5倍よりも長い横長の住居跡である。さらに，竈の壁外への掘り込みが80cm以上もあることから，本跡は，竈の東西両側にいわゆる「棚状施設」を有していた可能性が考えられる。平成９年度調査分では，良好な資料が得られているので，本跡の時期は『155集』に従い９世紀前葉とする。



第43図　第７号住居跡実測図

第26号住居跡（第44図）

位置　調査区域の北部，Ｃ６c7区。平成９年度と平成11年度の調査区域にまたがって位置していたため，調査も西部を平成９年度に，東部を平成11年度にと，両年度にわたって実施した。

重複関係　第27号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸3.05m，短軸3.00mの方形である。

主軸方向　Ｎ－５°－Ｅ

壁　壁高は４～18cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁下を巡っている。上幅15～27cm，下幅５～９cm，深さ４cmで，断面は緩やかなＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。貼床は，ロームブロック・焼土ブロックを含む褐色土及び暗褐色土を踏み締めて，第27号住居跡の上部に構築されている。

竈　北壁の中央部やや西寄りに設けられている。西袖部は撹乱を受け，遺存しない。規模は，焚口部から煙道部までの長さ78cm，推定される袖部幅81cmである。天井部は崩落し，土層断面図中，第２層が崩落土と考えられる。袖部は少量の粘土に多量の砂粒を混ぜたにぶい褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は，北壁を幅71cm，奥行き61cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は25度の傾きで立ち上がる。火床部は，地山を径65cm，確認面から19cmまでの深さに掘り込んでつくっている。火床面は長径30cm，短径21cmの不整楕円形で，赤変硬化している。火床面は，北壁ライン上に位置する。

竈土層解説

1	暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量	5	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
2	赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック中量	6	褐色	ローム小ブロック中量
3	褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量	7	にぶい褐色	砂粒多量，粘土粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量			

ピット　１か所。Ｐ１は長径43cm，短径25cmの楕円形，深さ37cmで，北東コーナー部に位置している。性格は不明であるが，規模と位置から主柱穴の可能性がある。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。

ピット土層解説

1 暗 褐 色　ローム中ブロック微量
2 暗 褐 色　ローム小ブロック少量
3 暗 褐 色　ローム粒子微量
4 褐　色　ローム小ブロック少量

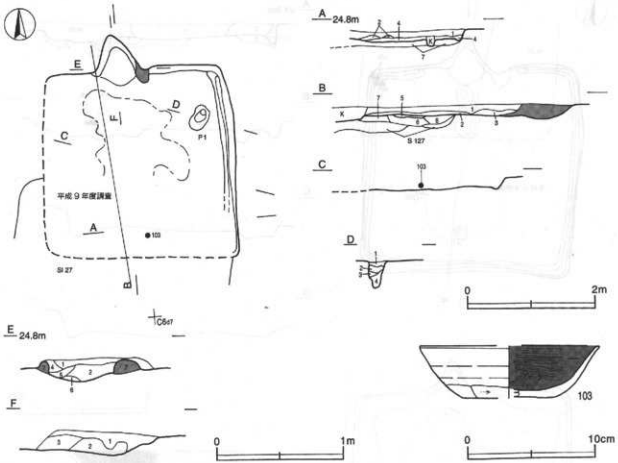
覆土　4層からなる。堆積状況はレンズ状を呈することから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2 暗 褐 色　ローム粒子・粘土粒子少量
3 褐　色　ローム中ブロック少量
4 褐　色　ローム小ブロック少量
5 褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子少量（貼床）
6 暗 褐 色　焼土中ブロック・焼土小ブロック少量（貼床）
7 褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量（貼床）
8 褐　色　ローム大ブロック多量，焼土小ブロック・焼土粒子微量（貼床）

遺物　土師器片23点，須恵器片5点，鉄滓1点が出土している。第44図103の土師器坏は，南壁際の覆土下層から出土している。

所見　重複関係と平成9年度調査分の出土土器から，9世紀後葉と推定される。



第44図　第26号住居跡・出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備　考
第44図 103	坏 土 師 器	A〔14.2〕 B 4.1 C〔7.2〕	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 明褐色 普通	45%　PL192

第27号住居跡（第45図）

位置　調査区域の北部，Ｃ６c6区。平成９年度と平成11年度の調査区域にまたがって位置していたため，調査も西部を平成９年度に，東部を平成11年度にと，両年度にわたって実施した。

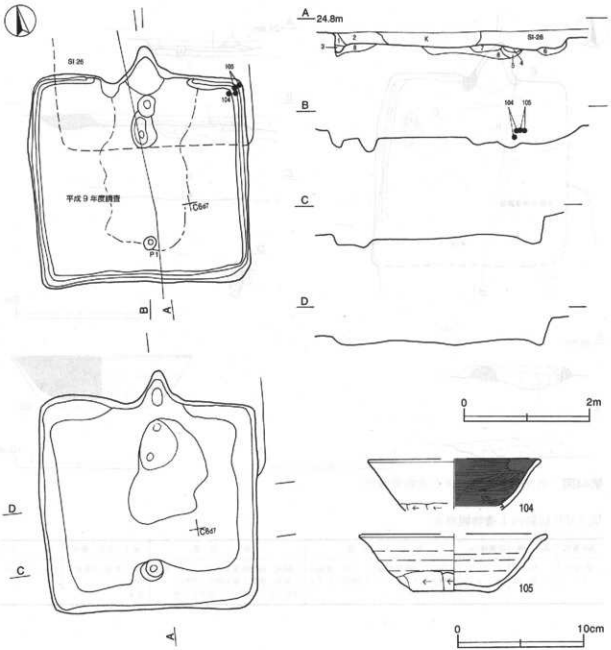
重複関係　第26号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.47m，短軸3.40mの方形である。

主軸方向　Ｎ－10°－Ｅ

壁　壁高は16～17cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅９～26cm，下幅３～９cm，深さ10cmで，断面はU字形である。



第45図　第27号住居跡・出土遺物実測図

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。壁の周辺及び中央部は貼床である。壁周辺の貼床は，壁に沿って幅20～65cm，確認面から深さ17～42cmほど溝状に掘り込み，粘土粒子・砂粒を含む褐色土を埋土して構築されている。中央部の貼床は，長径167cm，短径111cmの不整形，確認面から深さ43cmほど掘り込み，ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子を含む褐色土及び暗褐色土を埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。第26号住居に掘り込まれており，焚口部・火床部・煙道部のそれぞれ一部だけが遺存している。焚口部から煙道部までの確認される長さは，79cmである。

覆土　3層からなる。堆積状況はレンズ状を呈することから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム中ブロック中量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量
4　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子少量（貼床）
5　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量(貼床)
6　暗褐色　焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量(貼床)
7　褐　色　ローム中ブロック中量，砂質粘土粒子少量(貼床)
8　褐　色　砂質粘土粒子少量(貼床)

遺物　土師器片40点，須恵器片13点が出土している。第45図104の土師器坏，105の須恵器坏は北東コーナー部から出土している。105は覆土上層から出土し，104は覆土上層と覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見　本跡の時期は，重複関係と出土土器から，9世紀中葉と推定される。

第27号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 104	坏 土師器	A [13.6] B (4.0)	体部から口縁部の破片。体部は内弯して立ち上がり，L縁部は外反する。	L縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	25%
105	坏 須恵器	A [15.2] B 4.5 C [6.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内弯気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい褐色	45%　P L192 二次焼成

第53号住居跡（第46・47図）

位置　調査区域の中央部，D 6 i5区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置していたため，調査も竈及び棚状施設を平成9年度に，床面の調査を平成11年度にと，両年度にわたって実施した。

重複関係　第54号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　竈の両脇に棚状施設が設けられており，それを含めて平面形は長軸4.32m，短軸4.12mの方形である。棚状施設については『155集』を参照されたい。

主軸方向　N-10°－E

壁　壁高は46～52cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁を除いて，壁下を巡っている。上幅13～20cm，下幅7～15cm，深さ10cm，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，四隅を除いて踏み固められている。

ピット　4か所（P 1～P 4）。P 2は長径35cm，短径30cmの楕円形，深さ32cmで，中央部南壁寄りに位置する。P 3は長径85cm，短径75cmの楕円形，深さ24cmで，北東コーナー部に位置する。P 4は径72cmの円形，深さ13cmで，北西コーナー部に位置する。いずれも性格は不明である。なおP 1については，『155集』を参照されたい。

ピット土層解説

1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

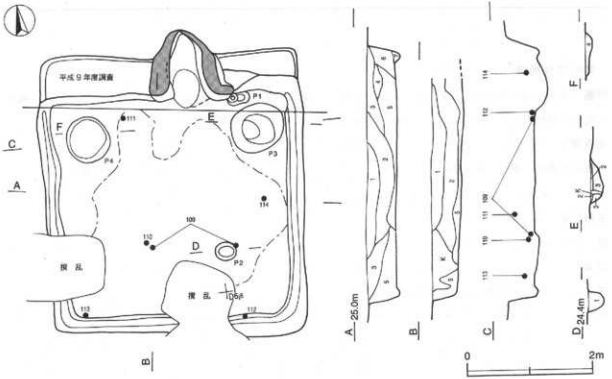
覆土　7層からなる。焼土の含有状況や遺物の出土状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

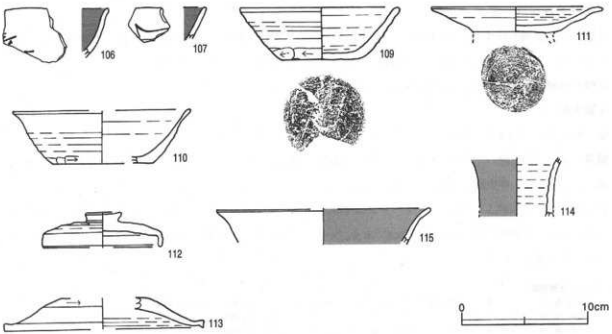
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　焼土小ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片381点，須恵器235点，灰釉陶器片5点，石器1点（砥石），混入したとみられる縄文土器片1点，撹乱により混入したとみられる陶器片7点が出土している。第47図106・107の土師器坏は，覆土上層から出土し，体部外面に墨書が認められる。109の須恵器坏は，中央部の東壁寄りと中央部の西壁寄りの，いずれも覆土下層から出土したものが接合したものである。110の須恵器坏は，中央部の西壁寄りの覆土下層から出土している。111の須恵器高台付皿は，北東部の覆土上層と竈西側の覆土上層から出土したものが接合したものである。112・113は須恵器蓋で，112は南東コーナー付近の覆土下層から，113は南西コーナー際の覆土中層から出土している。114の灰釉陶器長頸瓶は覆土中層から，115の灰釉陶器椀は覆土上層から出土している。なお，墨痕が認められるが細片のため図示できなかった土師器片が1点出土している。

所見　本跡の時期については，『155集』では9世紀前葉と報告されているが，平成11年度の調査で出土した土器を考え合わせ，9世紀中葉に変更する。



第46図　第53号住居跡実測図



第47図　第53号住居跡出土遺物実測図

第53号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第47図 106	坏 土師器	B（3.9）	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部・体部外面ロクロナデ，内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色，普通	5％ 体部外面墨書 「□」
107	坏 土師器	B（2.5）	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部・体部外面ロクロナデ，内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母 橙色，普通	5％ 体部外面墨書 「□」
109	坏 須恵器	A　12.4 B　4.2 C　6.2	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す，多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	70％　P L 192
110	坏 須恵器	A［14.2］ B　4.2 C［8.0］	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	15％　P L 192
111	高台付皿 須恵器	A　13.6 B（2.2）	高台部欠損。体部は外方に大きく開き，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色，普通	60％　P L 192
112	蓋 須恵器	A［9.4］ B　2.9 F　2.8 G　0.8	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は頂部が平坦で，なだらかに下降し，口縁部は屈曲する。つまみはボタン状。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け後，ナデ。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	30％　P L 192
113	蓋 須恵器	A［15.8］ B（2.5）	天井部から口縁部の破片。天井部は頂部が平坦で，なだらかに下降し，口縁部は反く屈曲する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	10％
114	長頸瓶 灰釉陶器	B（4.4）	頸部の破片。頸部はやや外反して立ち上がる。	内・外面ロクロナデ。外面釉薬の刷毛塗り。	胎土　灰白色 灰オリーブ釉 普通	10％
115	椀 灰釉陶器	B（2.7）	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部内面に釉薬の薄く刷毛塗り。	微密，胎土　灰白色 灰オリーブ釉 普通	5％

第56号住居跡（第48・49図）

位置　調査区域の中央部，Ｄ６h8区。平成９年度と平成11年度の調査区にまたがって位置していたため，調査も南壁の一部を除き平成９年度に，南壁際を平成11年度の，両年度にわたって実施した。

規模と平面形　長軸7.08m，短軸6.95mの方形である。

主軸方向　Ｎ－２°－Ｅ

壁　壁高は41～51cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅12～23cm，下幅７～15cm，深さ７cm，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　11か所（Ｐ１～Ｐ11）。Ｐ１～Ｐ８は平成９年度に調査済みである。Ｐ９～Ｐ11は長径40～70cm，短径28～65cmの不整楕円形，深さ38～52cmである。いずれも南壁寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
5	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
7	褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量
8	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
9	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
10	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
11	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
12	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中・ローム小ブロック微量
13	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

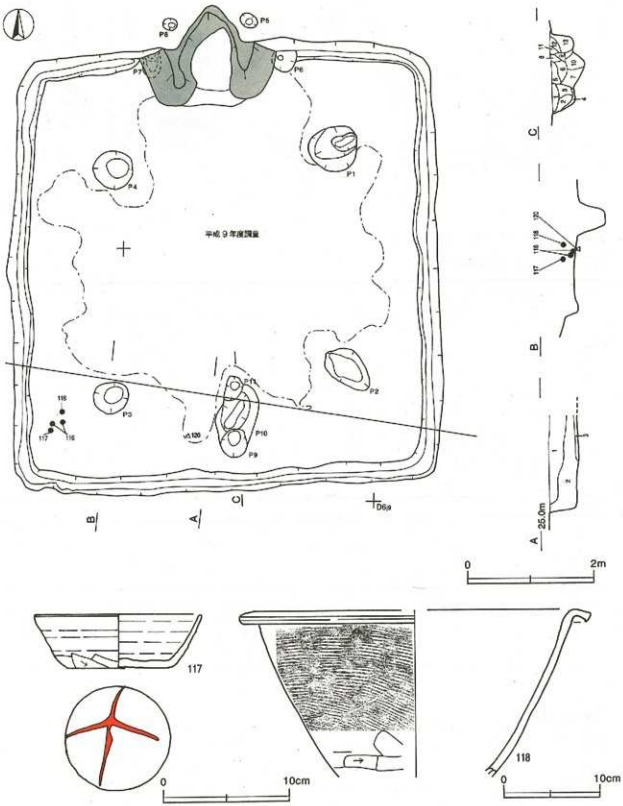
覆土　３層からなる。土層観察面が狭く，堆積状況は判断できなかった。『第155集』では人為堆積と報告されている。

土層解説

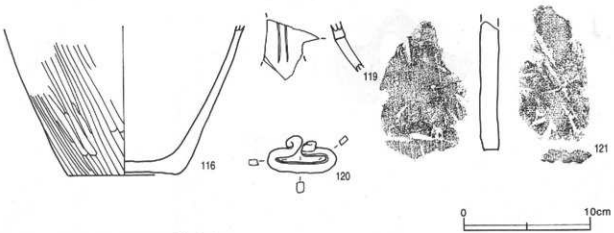
1	黒褐色	ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック少量，炭化物微量
3	暗褐色	ローム中・小ブロック中量，ローム粒子微量

遺物　土師器片302点，須恵器片228点，灰釉陶器片２点，瓦１点，土製品３点（支脚・土錘・紡錘車），金属製品１点（火打金），混入したとみられる縄文土器片２点，撹乱により混入したとみられる陶器片５点が出土している。第49図116の土師器甕，117の須恵器坏，118の須恵器鉢は南西コーナー部の覆土下層から出土している。117の底部外面には，「十」を記号化したような朱書が認められる。119の円面硯は南東部の覆土中層から，120の火打金は中央部の南壁寄りの貼床中から，121の瓦は覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀後葉と推定される。



第48図　第56号住居跡・出土遺物実測図



第49図　第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 116	甕 土師器	B (12.5) C 9.0	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下位横位のヘラ磨き，内面横位のナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	30%
第48図 117	坏 須恵器	A 13.1 B 4.3 C 8.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	75% PL192 底部外面朱書「十」
118	鉢 須恵器	A (37.0) B (7.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で屈曲する。口縁端部は下方に突出させている。口縁部外面に1条の沈線が巡る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面上位横位の平行叩き，下位横位のヘラ削り。内面輪積み痕を残す，ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	10% PL193
第49図 119	円面硯 須恵器	B (3.8)	脚台部の破片。側面に十字透かし孔。透かし孔と透かし孔の間には縦に2条の沈線。	内・外面ロクロナデ。透かし孔ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	5%

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
120	火打金	5.4	3.0	0.5	17.5	鉄	凸字状に曲げてつくり，両端が頂点で合わされ，外に2字状に屈曲する。	PL257

遺物番号	器種	計測値					出土地点	備考
		上幅(cm)	下幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
121	丸瓦	(3.8)	―	(10.8)	1.5	(124.7)	凸面ヘラ削り。凹面布目痕。	

第65号住居跡（第50図）

位置　調査区域の中央部，D6i0区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置していたため，調査も竈を含む北側3分の2を平成9年度に，南側3分の1を平成11年度の，両年度にわたって実施した。

重複関係　第128・131・132号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.45m，短軸3.25mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は37cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈の部分及び北東コーナー部を除き，壁下を巡っている。上幅9～20cm，下幅5～12cm，深さ5cm，断面はU字形である。

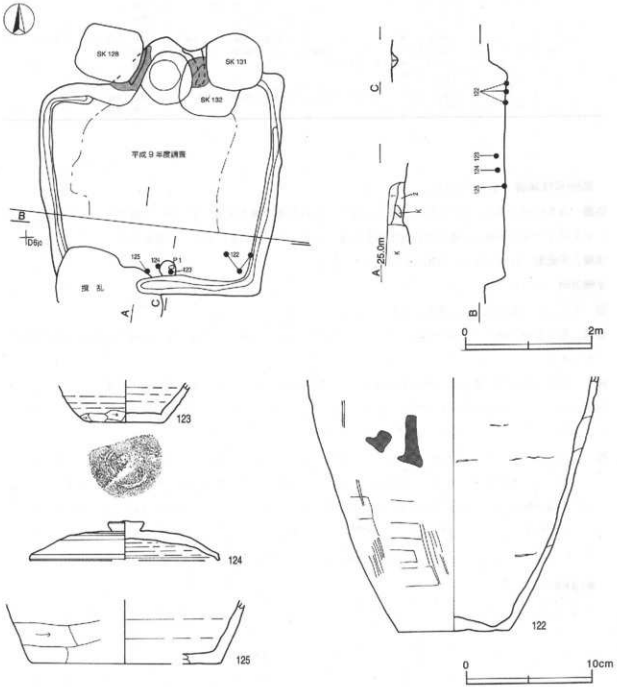
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　Ｐ１は径20cm，深さ13cmの円形で，南壁寄りに位置し，出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説
1　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　２層からなる。土層観察面が狭く，堆積状況は判断できなかった。『155集』では，自然堆積と報告されている。

土層解説
1　暗 褐 色　　焼土中ブロック少量，焼土小ブロック・粒子微量
2　暗 褐 色　　ローム小ブロック少量，焼土中ブロック・粒子微量



第50図　第65号住居跡・出土遺物実測図

遺物　土師器片98点，須恵器片86点，灰釉陶器片１点，鉄滓１点，混入したとみられる黒曜石１点（剥片）が出土している。第50図122の土師器甕は，南東コーナー部の床面から出土している。123の須恵器坏，124の須恵器壷は南壁際の覆土中層から，125の須恵器甕は南壁際の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から９世紀前葉と推定される。

第65号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 122	甕 土師器	B (20.1) C 9.0	底部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ドヘラ削り後，縦位のヘラ磨き。内・外面輪積み痕。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石に赤い橙色 普通	20% PL193 外面煤付着
123	坏 須恵器	B (2.9) C 6.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，１方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	25% PL192
124	壷 須恵器	A [15.0] B 3.1 F 2.6 G 0.8	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は丸みをもち，なだらかに口縁部にいたる。口縁部は短く屈曲する。つまみはボタン状。	天井部回転ヘラ削り。つまみ貼り付け後，ナデ。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	40% PL193
125	甕 須恵器	B 4.6 C [15.1]	底部から体部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下半横位のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色，普通	5%

第80号住居跡（第51・52図）

位置　調査区域の北部，Ｃ６f9区。平成９年度と平成11年度の調査区域にまたがって位置していたため，調査も東半部を平成９年度に，竈を含む西半部を平成11年度にと，両年度にわたって実施した。

規模と平面形　長軸3.68m，短軸3.40mの方形である。

主軸方向　Ｎ－９°－Ｗ

壁　壁高は24～32cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅14～38cm，下幅４～12cm，深さ６cmで，断面は緩やかなＵ字形である。

床　全体的に平坦で，竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。中央部は地山を床としているが，西壁下を中心とした外周部は貼床である。貼床は，壁に沿って幅25～140cm，確認面から深さ35～50cmほど溝状に掘り込み，ロームブロックを含む褐色土を堅土して構築されている。

竈　北壁のほぼ中央部に設けられている。焚口部・火床部・煙道部・東袖部にかけて攪乱を受け，焚口部・火床部・煙道部・西袖部のそれぞれ一部が遺存している。規模は，焚口部から煙道部の確認された長さ73cm，推定される袖部幅110cmである。袖部は地山を山形に掘り残して芯とし，ローム粒子を多量に含む黄褐色の粘土を貼り付けて構築されている。煙道部は，北壁を幅101cm，奥行き27cmにわたり不整形に掘り込んでいる。煙道は，40度の傾きで立ち上がる。火床部は，地山を確認面から40cmまでの深さに掘り込んでつくっている。

竈土層解説

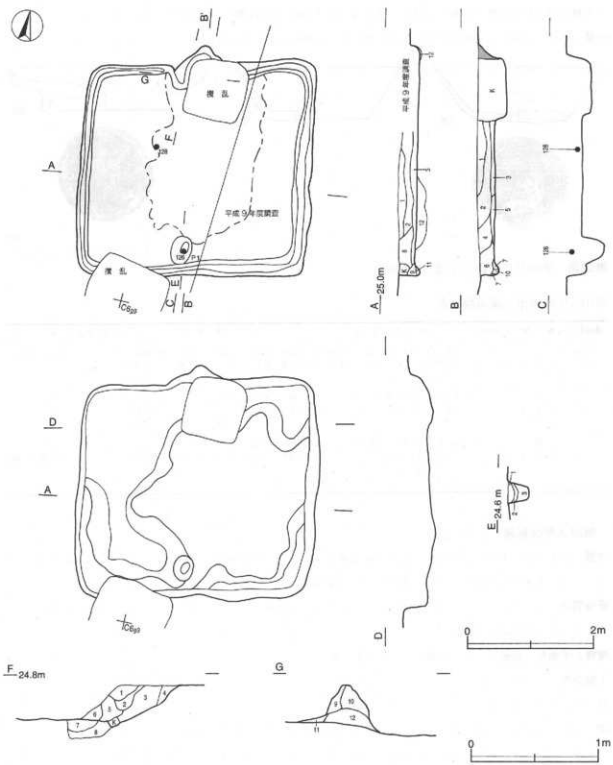
1　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
2　明赤褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
3　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土中ブロック微量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
5　褐　色　焼土小ブロック・粘土粒子少量
6　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
7　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量(掘り方)
8　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量(掘り方)
9　黄褐色　ローム粒子・粘土粒子多量
10　灰褐色　ローム小ブロック少量
11　黄褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック微量
12　にぶい黄色　粘土中ブロック多量

ピット　1か所。P1は長径44cm，短径32cmの楕円形，深さ32cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
2　褐　色　ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
3　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量

覆土　11層からなる。不規則な堆積状況を呈していることから，人為堆積と考えられる。



第51図　第80号住居跡実測図

土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量	7	褐色	ローム中ブロック中量
2	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量	8	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量
3	暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量	9	褐色	ローム大ブロック少量
4	暗褐色	ローム大ブロック・焼土小ブロック中量	10	暗褐色	ローム粒子少量
5	褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量	11	褐色	ローム大ブロック中量
6	褐色	炭化粒子中量，ローム粒子少量	12	褐色	ローム中ブロック多量，粘土中ブロック少量(染床)

遺物　土師器片22点，須恵器片37点が出土している。第52図126の須恵器坏は南壁際の覆土上層から，128の須恵器盤は中央部北西寄りの覆土下層から逆位で，127の須恵器坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，８世紀中葉と推定される。

第52図　第80号住居跡出土遺物実測図

第80号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第52図 126	坏 須恵器	A 13.6 B 4.6 C 7.6	底部から口縁部一部欠損。丸底気味。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒 燃成色 普通	65%　PL192
127	坏 須恵器	A [13.2] B 4.1 C [8.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色 普通	40%　PL192
128	盤 須恵器	A 16.0 B 3.3 D [10.4] E 1.6	高台部・口縁部一部欠損。体部は大きく外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部は外傾する。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	70%　PL192 体部外面灰釉

第84Ａ号住居跡（第53図）

位置　調査区域の北西部Ｄ４g7区。平成９年度調査区と平成11年度調査区にまたがって位置していたため，竈半分を含む南半分を平成９年度に，残り半分を平成11年度と，調査も両年度にわたった。

重複関係　第84Ｂ号住居跡の上に構築され，第14号掘立柱建物に掘り込まれており，第14号掘立柱建物より古く，第84Ｂ号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長軸3.30m，短軸3.20mの方形である。

主軸方向　Ｎ－93°－Ｅ

壁　壁高は28～30cmで，外傾して立ち上がる。

床　わずかな起伏がある。轍に踏みしめられた面は認められない。住居が重複している部分は，ロームブロックと焼土ブロック，炭化物を含む暗褐色土が10～15cmの厚さで貼床され，その他の部分は地山のロームを床面としている。

竈　東壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ107cmで，袖部は壊されており確認できなかった。

竈土層解説

1　暗 褐 色　　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・黄褐色粘土ブロック微量
2　暗赤褐色　　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土中ブロック・黄褐色粘土ブロック微量
3　暗赤褐色　　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　　焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子微量
5　暗赤褐色　　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量

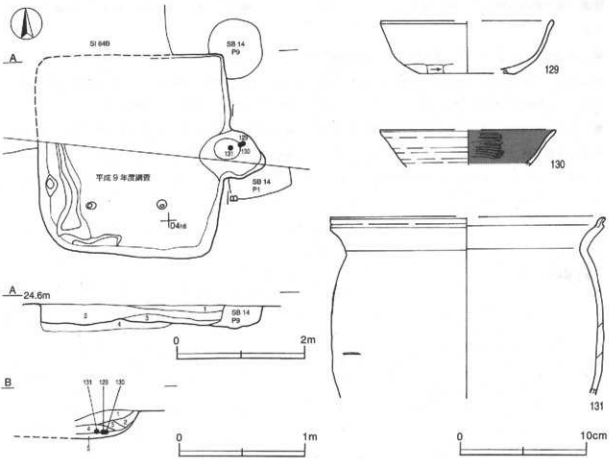
覆土　4層からなる。土層断面図中，第3層は竈が壊れて部材が流れ込んだものであり，第4層は貼床で，第1～3層は自然堆積である。

土層解説

1　暗 褐 色　　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・黄褐色粘土粒子少量
4　暗 褐 色　　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量（貼床）

遺物　土師器片33点，須恵器片14点，灰釉陶器片1点が出土している。第53図129・130の土師器坏，131の土師器甕は，わずかに残っていた竈燃焼面の痕跡部分から出土したものである。いずれも火熱を受けている。このほかに，灰釉陶器片が出土しているが，細片のため図示できなかった。器種は瓶類の肩の部分と思われる。

所見　遺物の出土傾向をみると，平成9年度調査では，土師器片87点に対し須恵器片1点，平成11年度調査分では，土師器片33点に対し須恵器片14点というように，土師器の割合が多い。須恵器出土量を土師器が凌駕していること，129～131の土師器杯・甕等の遺物などから，本跡の時期を『155集』の通り9世紀前葉とする。なお，後出する本跡より古い第84B号住居跡出土の遺物を考え合わせ，9世紀前葉でも新しい段階とする。



第53図　第84A号住居跡・出土遺物実測図

第84A号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第53図 129	坏 土師器	A [13.8] B 4.2 C [7.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ヘラ削り。底部1方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	20%　PL.192
130	坏 土師器	A [14.0] B (2.0)	体部からL口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面横位のヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色	20%　PL.192
131	甕 土師器	A [21.8] B (14.2)	器壁は薄く，体部は緩やかに立ち上がり，頸部はくの字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられ直下の内・外面に1条の沈線をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。輪積み痕あり。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通	20%

第84B号住居跡（第54～56図）

位置　調査区域の北西部，D4g7区。平成9年度には南壁部分のみの調査が行われ，平成11年度に大部分の調査が行われた。

重複関係　本跡の南東部に第84A号住居が構築され，さらに，第14号掘立柱建物が本跡を掘り込んでおり，本跡が最も古い。

規模と平面形　長軸4.97m，短軸3.95mの長方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は，45～47cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅12～23cm，下幅5～11cm，深さ6～8cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，各コーナー部を除いて，踏み固められている。全面が貼床である。貼床は，各コーナー部に確認面からの深さが54～68cmの不整形の土坑状に掘り込まれ，特に北東・北西コーナー部は長径140～150cm，短径75～110cmの不整形に掘りまれ，ロームブロックを主体とする褐色土を埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ120cm，袖部最大幅は135cmである。袖部は黄褐色粘土が主体でわずかにローム粒子を混ぜて構築されている。袖部の内側は被熱し，4～8cmほど赤変硬化している。煙道部は北壁を幅106cm，奥行き58cmにわたり逆U字形に掘り込んでいる。煙道は50度の傾きで立ち上がる。焚き口部から火床部は，確認面から55～64cmの楕円形に掘り込んで，ロームブロックを含んだ褐色土でつくっている。火床部は北壁ラインのわずかに内側にあり，須恵器高盤を転用した支脚が据えられている。

竈土層解説

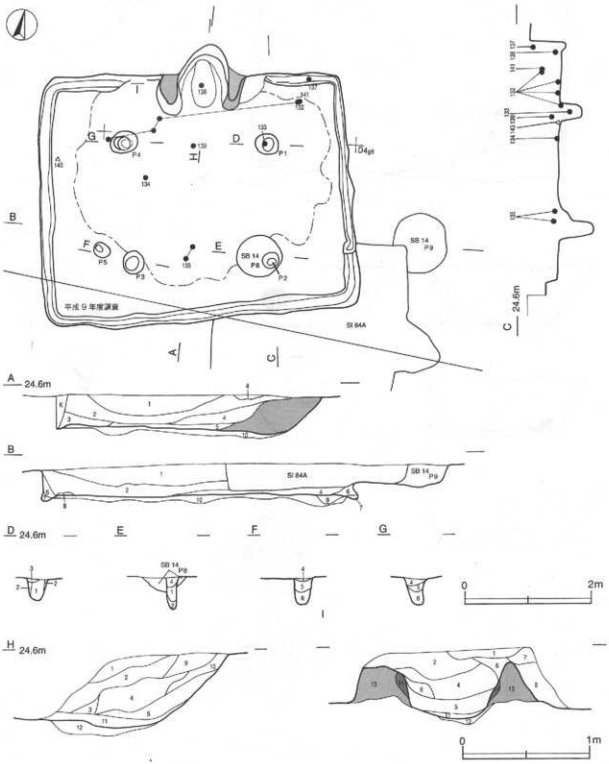
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・砂粒微量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
4　暗褐色　黄褐色粘土小ブロック少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化物・砂粒微量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・砂粒微量
6　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
7　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　にぶい黄褐色　黄褐色粘土ブロック多量，焼土粒子微量
9　にぶい黄褐色　黄褐色粘土ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化物微量
10　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
11　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック少量，炭化物・炭化粒子・砂粒微量
12　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
13　にぶい黄褐色　黄褐色粘土ブロック多量，ローム粒子微量
14　暗赤褐色　焼土大ブロック少量，焼土中ブロック微量

ピット　5か所（P1～P5）。P1・P4は長径35～42cm，短径30～32cmの楕円形，深さ36～42cmである。

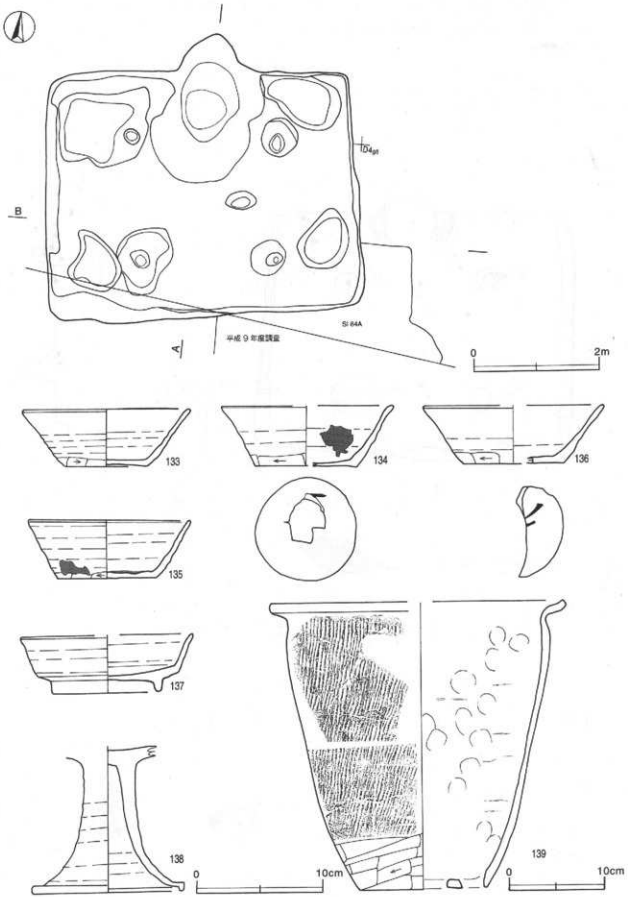
P２・P３は径24㎝の円形，深さ46～54㎝である。P１からP４は，規模や配置から主柱穴と考えられる。P５は径20㎝の円形，深さ20㎝で，性格は不明である。

ピット土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	4	黒褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量	5	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム粒子微量
3	褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量	6	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量



第54図　第84Ｂ号住居跡実測図



第55図　第84Ｂ号住居跡・出土遺物実測図

第56図　第84Ｂ号住居跡出土遺物実測図

覆土　８層からなる。ロームブロック・焼土ブロックなどが含まれていること，本跡の上面に貼床で84Ａ号住居跡が構築されていること，新旧２軒の住居の時期差が大きくないこと等から，人為堆積の可能性が考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3	暗褐色	ローム中ブロック・粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子少量，ローム大・中・小ブロック微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック，焼土中ブロック・砂粒微量	9	褐色	ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）
5	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・粒子多量，焼土粒子微量（貼床）

遺物　土師器片188点，須恵器片224点，鉄器１点（門），陶器片１点が出土している。第56図132の土師器小形甕は左袖前面の床面から横位で，押し潰された状態で出土している。当遺跡では，土師器小形甕を支脚に転用している例が多く，この132の甕も火熱を強く受けて脆弱な状態であることから，煮炊きで使用していたというよりは，支脚に転用していたものではないかと思われる。133～136は須恵器坏である。133はＰ１の覆土から出土しており，火襷が認められる。134は中央部床面のものと覆土中のものが接合しており，底部外面には墨書が認めら，体部内面には油煙が付着している。135は中央部覆土下層から出土したもので，口縁部に油煙が付着している。136は竈内から出土し火熱を受けており，底部外面には墨書が認められる。137は須恵器高台付坏で，北東コーナー壁際から出土している。138は竈内から正位の状態で出土した須恵器高盤で，火熱を強く受けており，支脚に転用していたものである。136は138の高盤の周りから出土しているが，当遺跡では高さ調節のために支脚の上に坏をのせている場合が多いことから，このように使用されていたものと考える。139は須恵器甑で，焚き口と竈覆土から出土したものが接合している。140・141は須恵器甕で，前者は縦方向の並行叩き，後者は擬格子日叩きである。143の鬥は西壁際床面から出土している。

所見　本跡の遺物は覆土中から出土したものと床面から出土したものが接合関係にあることから，短期のうちに埋められたことが予想される。本跡の時期は，重複関係と出土土器から，９世紀前葉でも古い段階と推定される。

第84B号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図 132	小形壺 上師器	A 15.2 B 16.6 C 5.4	体部は緩やかに立ちたがり最大径を体部中位にもち，頸部はくの字状に屈曲し，口縁端部はつまみ上げられ，底下に内・外に1条の沈線をもつ。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部下端横位の手持ちヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部外周雑なヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	80% PL192 二次焼成
第55図 133	坏 須恵器	A 13.1 B 4.7 C 6.2	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。器壁は厚く，口縁端部で肥厚する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向の手持ちヘラ削り。	粗い，雲母・角閃 灰色 普通	80% PL192 火恒あり
134	坏 須恵器	A [13.7] B 5.0 C [7.9]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は軽く外反し，肥厚する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	60% PL192 底部外面墨書 [□] 体部内面 微糸付着
135	坏 須恵器	A 12.9 B 4.7 C 7.8	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	70% PL192 体部外面，底部内面微糸付着
136	坏 須恵器	A [14.4] B 4.6 C [8.0]	底部から口縁にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で，わずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰褐色	30% 底部外面墨書 [□] 二次焼成
137	高台付坏 須恵器	A [13.8] B 4.7 D [8.6] E 1.1	底部中央の器壁は厚い。底部と体部の境は稜をなして折れ，体部は直線的に立ち上がる。高台は貼り断面は台形を呈する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ロクロナデ。	粗い，雲母・角閃 褐灰色 普通	40% PL192
138	高台付坏 須恵器	B (11.6) D 12.0 E 10.1	脚部から体部にかけての破片。脚部はハの字状に開く。裾部は屈曲し，垂下する。	脚部内・外面ロクロナデ。	雲母・白色粒子 橙色	50% PL192 支脚転用 二次焼成
139	甑 須恵器	A [30.9] B 29.9 C 13.3	底部から口縁部にかけての破片。平底。5孔式。体部は外傾して立ち上り，口縁端で外方に屈曲する。口縁端部はつまみ上げられる。	口縁部ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き。体部内面指頭押圧後，ヘラナデ。体部下端横位の手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	60% PL192
第56図 140	甑 須恵器	B (5.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，頸部で外方に屈曲する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き。体部内面指頭押圧後，ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 不良	10%
141	甕 須恵器	A [27.0] B (6.3)	体部片。体部は外傾して立ち上がり頸部で外方に屈曲する。口縁端部は水平な面をもつ。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面格子目叩き。体部内面指頭押圧後，ナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 良好	10%

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
143	釘	(8.4)	(4.2)	0.3	(13.4)	鉄	断面長方形の棒状のものをコの字に折り曲げる。	PL258

第85号住居跡（第57図）

位置　調査区域の北西部D 4 j9区。平成9年度調査区と平成11年度調査区にまたがって位置していたため，竈を含む北東部を平成9年度に，残り南東部の4分の1を平成11年度と，調査も両年度にわたった。なお，南西部4分の1は調査区域外のため未調査である。

規模と平面形　長軸3.94m，短軸3.45mの長方形である。

主軸方向　N－25°－W

壁　壁高は13～19cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南東コーナー部から南壁にかけての壁下を巡っている。上幅11～20cm，下幅6～11cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

ピット　3か所（P１～P３）。P３は径45cmの円形，深さ25cmで，南壁際の竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。なお，P１・P２については『155集』に記載されている。

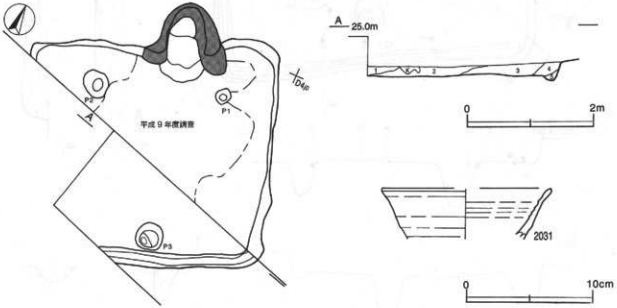
覆土　5層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片25点，須恵器片14点が出土している。第57図2031の須恵器坏は覆土中から出土している。

所見　平成11年度調査分の遺物が少量であるため，本跡の時期の決定は困難である。平成９年度調査分では良好な資料が多量に得られているので，本跡の時期は『155集』を参考に，８世紀中葉としたい。



第57図　第85号住居跡・出土遺物実測図

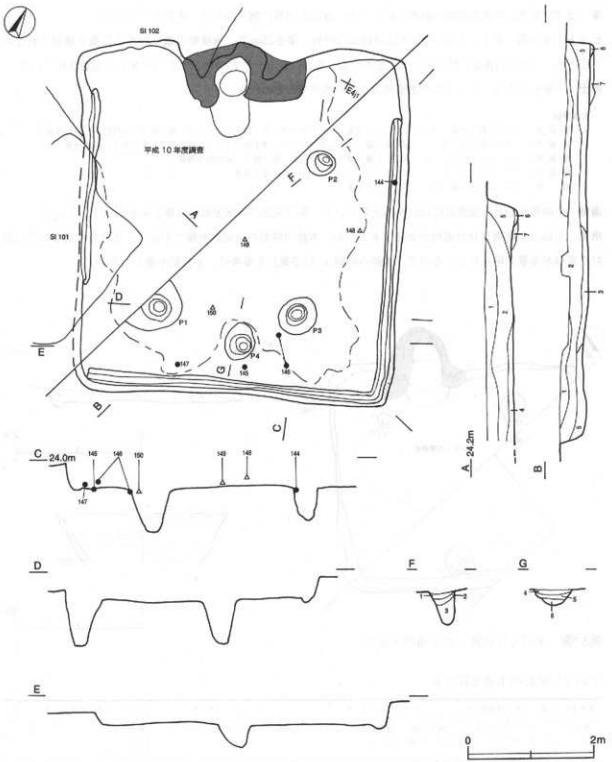
第85号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第57図 2031	坏 須恵器	A [13.6] B (4.0)	口縁部の破片。体部は外反して立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	10%

第103号住居跡（第58・59図）

位置　調査区域の南西部，Ｅ４ｊ1区。平成10年度と平成11年度の調査区にまたがって位置していたため，調査も北東部分を平成10年度に，南東部分を平成11年度にと，両年度にわたって実施した。

重複関係　第102号住居跡を掘り込んでおり，第101号住居に掘り込まれているので，第102号住居跡より新しく，第101号住居より古い。



第58図　第103号住居跡実測図

規模と平面形　長軸5.42m，短軸5.22mの方形である。

主軸方向　N-23°－W

壁　壁高は20～42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁下と西壁下の一部を除いて，壁下を巡っている。上幅11～17cm，下幅4～10cm，深さ5cm，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　4か所（P１～P４）。P２は径40cmの円形で，深さ55cm，P３は長径65cm，短径55cmの楕円形，深さ73cmである。位置と規模から主柱穴と考えられる。P４は長径59cm，短径47cmの楕円形，深さ39cmである。南壁寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。なおP１については，『159集』を参照されたい。

ピット土層解説

1　暗 褐 色　焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量

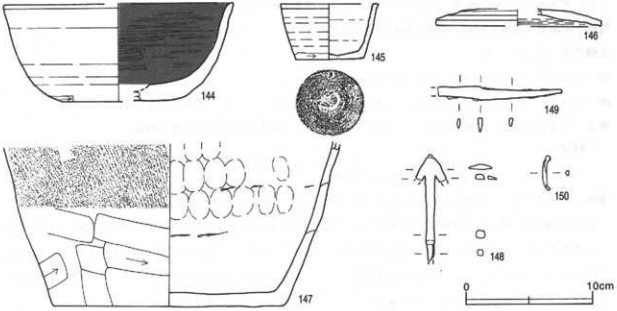
覆土　6層からなる。土層断面図中，第４・５層がブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化物微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック微量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック少量
7　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量（貼床）

遺物　土師器片171点，須恵器片206点，石器２点（砥石），鉄器・鉄製品３点（鉄鏃・刀子・鉸具），撹乱により混入したとみられる陶器片２点が出土している。第59図144の土師器椀は東壁際の覆土下層から，145の須恵器コップ形土器は南壁寄りの床面から正位の状態で出土している。146の須恵器蓋は，中央部の南壁寄りの覆土下層と床面から出土したものが接合したものである。147の須恵器鉢は南壁寄りの覆土下層から，148の鉄鏃は東壁寄りの覆土中層から出土している。149の刀子，150の鉸具は中央部の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀後葉と推定される



第59図　第103号住居跡出土遺物実測図

第103号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第59図 144	椀 土師器	A [18.0] B 7.7 C [9.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部摩滅のため調整不明。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母・長石 赤色粒子 橙色 普通	30%　P L193
145	コップ状土器 須恵器	A 7.6 B 4.4 C 5.3	平底。体部から口縁部にかけ，直線的に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	100%　P L193
146	壺 須恵器	A [13.0] B (1.3)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は平坦で，なだらかに口縁部にいたる。口縁部は短く屈曲する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	40%　P L193
147	鉢 須恵器	B (12.8) C 18.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面中位以上緩位の平行叩き，下位横位のヘラ削り。内面輪積み痕を残す，指頭押圧痕。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 灰黄褐色，普通	20%　P L193

遺物番号	器種	計測値								材質	特徴	備考
		全長(cm)	最身長(cm)	最身幅(cm)	茎最長(cm)	茎最幅(cm)	茎長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
148	鎌	(8.2)	(2.0)	(2.4)	4.7	0.7	1.5	0.7	(13.1)	鉄	鎌身部三角形。	P L255

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
149	刀子	(9.9)	(3.6)	1.1	0.3	(6.3)	(7.8)	鉄	背側。	P L254

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
150	鉸具	(2.8)	(0.7)	0.4	(0.4)	銅	弓金具部。	P L257

第163号住居跡（第60図）

位置　調査区の中央部，G 8 d3区。平成10年度調査区と平成11年度調査区にまたがって位置していたため，竈を含む東側半分を平成10年度，西半分を平成11年度と調査も両年度にわたった。

規模と平面形　長軸4.86m，短軸4.30mの長方形である。

主軸方向　N－13°－E

壁　壁高は15～22cmで，外傾して立ち上がる。

床　西側半分の床はロームを掘り残して８cmほどの高まりがあり，ベッド状を呈している。

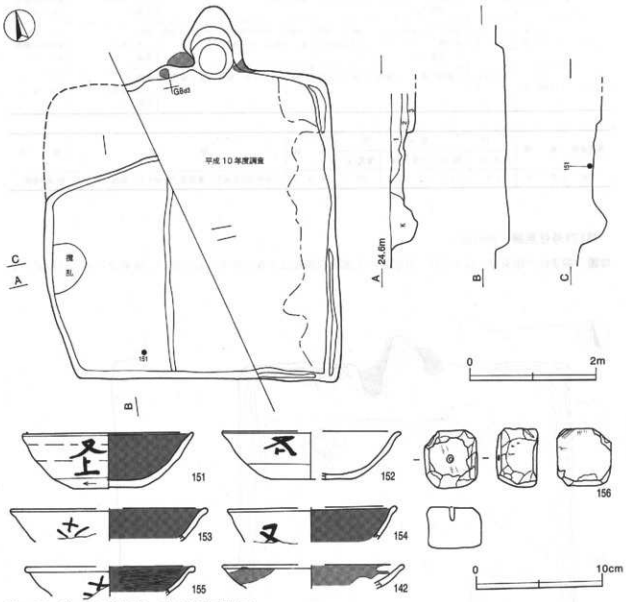
覆土　３層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈することから自然堆積であると思われる。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック少量
2　褐　色　ローム小ブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片78点，須恵器片14点，鉄器１点（釘），砥石１点，灰釉陶器片１点が出土している。第60図151～155は土師器坏で，151は南壁寄りの床面から，152～155は覆土中から出土したものである。151～155は，全てに墨書がされている。151・152・154は体部外面に正位で「又上」の文字が，153・155は体部外面に逆位で，「本」の文字が墨書されている。142の灰釉陶器皿は，口縁部内外面に刷毛塗りがされており，釉薬の発色はあまり良くない。156の砥石は覆土中から出土している。

所見　本跡からは，平成10年度の調査でも「又上」の墨書，刻書土器が出土している。今回新たに，「又上」が３点，「本」が２点出土し，合計８点になる。10年度の調査では黒笹90号窯式の灰釉陶器椀の底部内面に焼

成前に「又上」が刻書されたものが出土している。生産地で刻書されたものと在地の土師器に墨書されている文字が同一のものであるということは興味深いことである。このことは，遺跡の性格や本遺跡の消費形態を考える上でも重要な意味をもつものである。本跡は遺構形態的にも床面にベット状の高まりをもつという特徴がある。この形態の住居は，平成10年度調査北東部の第210・212・213・217号住居跡と同様である。本跡の時期は，出土遺物から９世紀後葉と推定される。



第60図　第163号住居跡・出土遺物実測図

第163号住居跡出土遺物観察表

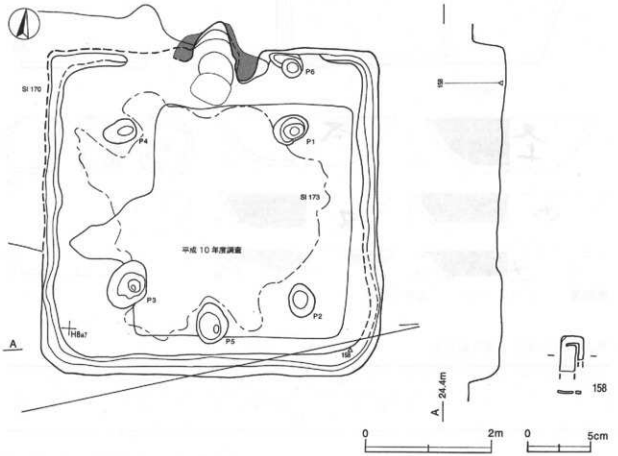
遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 151	坏 土師器	A 13.7 B 4.3 C 5.2	口縁部の一部欠損。平底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	95%　PL193 体部外面墨書 正位「又上」

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 152	坏 土師器	A [14.2] B 3.8 C [6.4]	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は開く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	25% PL193 体部外面墨書 正位「又上」
153	坏 土師器	A [15.6] B (2.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し，肥厚する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石 灰色 普通	10% PL247 体部外面墨書 倒位「本」
154	坏 土師器	A [13.6] B (2.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し，肥厚する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄褐色 普通	10% PL245 体部外面墨書 正位「又上」s
155	坏 土師器	A [13.6] B (2.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し，肥厚する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	10% PL247 体部外面墨書 倒位「本」s
142	皿 灰釉陶器	A [14.6] B (1.9)	口縁部の破片。口縁部は玉縁状を呈する。	口縁部内・外面に釉薬の細な刷毛塗り。	緻密 にぶい黄橙色 不良	10% 三河・遠江系s

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
156	砥石	4.6	4.4	3.2	107.0	緑灰岩	上面中央に孔あり。裏面まで貫通せず。砥面6面。	使用痕を確認s。

第171号住居跡（第61図）

位置　調査区の南東部，G 8 j7区。住居跡の大部分の調査は平成10年度におこない，南東コーナーのわずかな



第61図　第171号住居跡・出土遺物実測図

部分を平成11年度の調査となった。

重複関係　第170・173号住居に掘り込まれており，本跡がいずれよりも古い。

規模と平面形　長軸5.15m，短軸5.10mの方形である。

主軸方向　N－1°－E

壁　壁高は50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。平成11年度の調査では，南東コーナー部分を検出した。上幅30～35cm，下幅10～15cm，深さ10～14cmで，断面はU字形である。

遺物　第61図158の不明鉄製品のみである。南東コーナー壁際覆土下層から出土している。

所見　平成11年度の調査分の遺物が非常に少量であるため，本跡の時期の決定は困難である。平成10年度調査分では良好な資料が多量に得られているので，本跡の時期は『159集』を参考に，8世紀中葉としたい。

第171号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第61図158	不明	(3.8)	1.9	(0.16)	(2.3)	鉄	平面長方形。コの字形と思われる造かし有り。	PL258

第172号住居跡（第62図）

位置　調査区の南東部，G8j9区。平成10年度調査区と平成11年度調査区にまたっがて位置していたため，竈を含む北側の大部分を平成10年度に，南側半分を平成11年度と調査も両年度にわたった。

重複関係　第573号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸6.09m，短軸5.93mの方形である。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は40～42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅15～30cm，下幅10～12cm，深さ10～13cmで，断面はU字形である。

床　中央部がわずかに高くなっている。

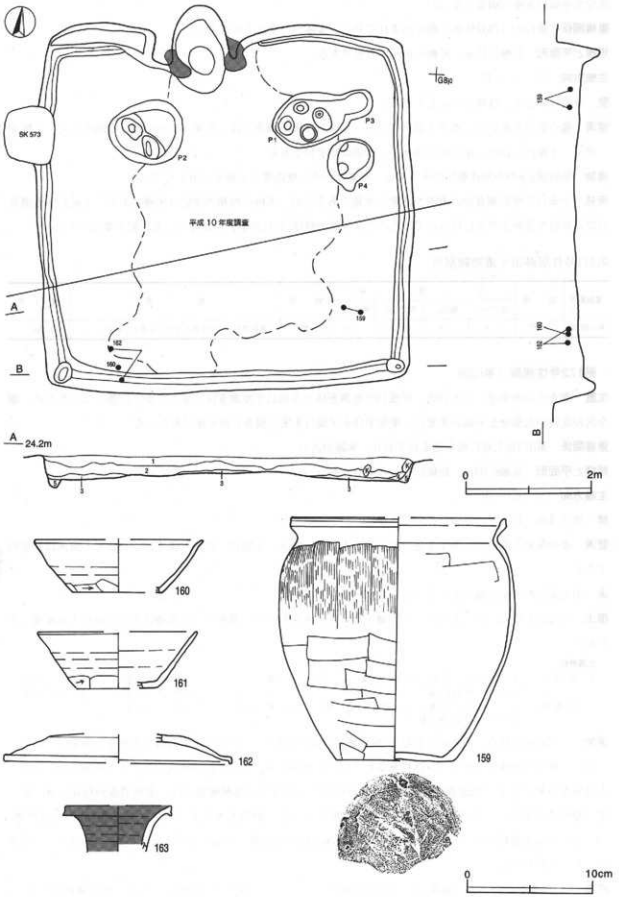
覆土　5層からなる。ロームブロック・焼土ブロックを含むこと，遺物の一括投棄状況などから人為堆積と思われる。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化材少量	3	褐色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
2	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量	4	褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
			5	褐色	ローム小ブロック中量

遺物　土師器片349点，須恵器片324点，灰釉陶器片1点が出土している。遺物は覆土中層から集中的に出土しており，覆土の堆積状況からも一括投棄されたものと思われる。出土土器の構成をみると土師器の場合，甕が大部分を占めている。須恵器では坏と甕の割合は2：1になる。器種構成では，須恵器高台付坏・鉢・甑・蓋・盤がみられる。この比率や器種構成は当該期における一般的なあり方である。第62図159の土師器甕，160・161の須恵器坏，162の須恵器蓋，163の灰釉陶器長頸瓶は覆土中層から出土している。163は折戸10号窯式のものと思われる。

所見　『159集』では本跡の時期は，8世紀前葉としているが，遺物の器種構成，割合，出土遺物などから，8世紀後葉と変更したい。



第62図　第172号住居跡・出土遺物実測図

第172号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 159	甕 土師器	A [17.0] B 19.3 C [8.2]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し，口縁部はくの字状に屈曲する。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	40% PL193
160	坏 須恵器	A [13.4] B 4.3 C [7.0]	底部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はわずかに肥厚する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 普通	40% PL193
161	坏 須恵器	A [12.6] B 4.5 C [6.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向の手持ちヘラ削り。	粗い，角礫多量 灰色 普通	40% PL193
162	壺 須恵器	A [18.0] B (2.3)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は平坦で低い。口縁部は外反し，端部で短く垂下する。	天井部回転ヘラ削り。内面，口縁部外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	40% PL193
163	長頸瓶 灰釉陶器	A [8.4] B (3.6)	頸部から口縁部の破片。頸部はラッパ状に開く。口縁部は外反し，端部で上下に突出させている。	内・外面ロクロナデ。内・外面施釉。	緻密，外面暗赤褐色 内面灰オリーブ色 良好	5% 折戸10号窯式。

第176号住居跡（第63・64図）

位置　調査区の東部，G 8 d8区。平成10年度調査区と平成11年度調査区にまたがって位置していたため，南半分を平成10年度に，竈を含む北半分を平成11年度と，調査も両年度にわたった。

重複関係　南西コーナーを第166号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.10m，短軸2.90mの方形である。

主軸方向　N－37°－E

壁　壁高は20～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈と南西コーナー部分を除いた壁下を巡っている。上幅10～28cm，下幅6～10cm，深さ10～12cmで，断面はU字状である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。全面が貼床である。貼床は中央部が確認面から50～60cmの深さで径200cmの不整形に掘り込まれ，ロームブロックを主体とする褐色土・黒褐色土を埋土して構築されている。

竈　北東コーナー部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ125cm，袖部最大幅は101cmである。袖部は右袖は褐色粘土で構築しているのが確認された。左袖については，粘土を張ったり，地山を掘り残すというような構築法をとらずに，コーナー壁を利用して袖としている。いわゆる「片袖型」といわれる型式である。煙道部は北東コーナーを幅100cm，奥行き55cmの鉤の手状に掘り込んでおり，煙道は20度の傾きで緩やかに立ち上がる。焚き口から火床部は，確認面から62cmの深さで，長軸150cm，短軸100cmの不整形に掘り込み，長軸150cm，短軸100cmの不整形に掘り込んで，ロームブッロックを含んだ褐色土を埋土してつくっている。

竈土層解説

1　褐　色　焼土小ブロック・粘土粒子少量，ローム小ブロック・粒子微量
2　赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化材微量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化物微量
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）

覆土　6層からなる。各層にロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示していることから，人為堆積と思われる。

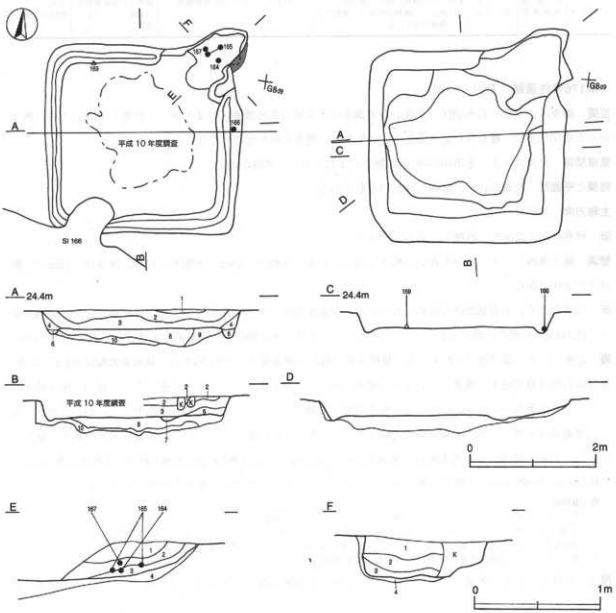
土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

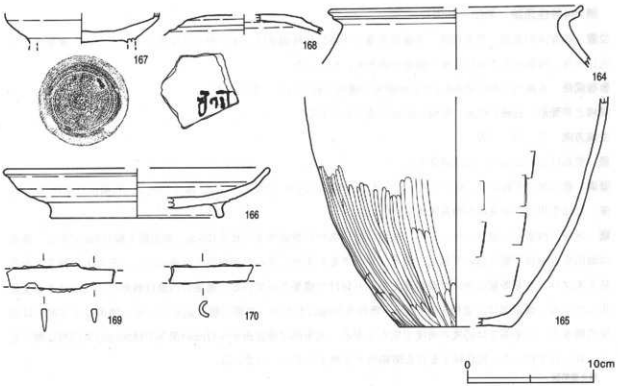
5　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
6　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土中ブロック微量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量（貼床）
8　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）
9　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量（貼床）
10　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量（貼床）

遺物　土師器片48点，須恵器片30点，鉄器１点（刀子），鉄製品１点（不明）が出土している。第64図164・165の土師器甕，167の須恵器高台付坏は竈内から，166の須恵器盤は東側壁溝から，169の刀子は北壁際床面からそれぞれ出土している。168の須恵器蓋は覆土中から出土したもので，天井部内面に墨書が認められる。

所見　本跡はコーナー部に竈を付設するという特徴をもっている。平成10年度調査の第181号住居跡でも本跡と同様な構造がみられた。本跡の時期は，重複関係と出土土器から，８世紀中葉と推定される。



第63図　第176号住居跡実測図



第64図　第176号住居跡出土遺物実測図

第176号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第64図 164	甕 土師器	A [20.0] B (4.9)	口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部はつまみ上げられ底下の内・外面に1条の沈線をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	10%　P L 193
165	甕 土師器	B (18.2) C [9.0]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	20%
166	壺 須恵器	A [20.8] B 3.9 D [13.6] E 1.4	底部から口縁部にかけての破片。高台はわずかに外方に開き、断面台形。底部は丸みをもち、体部と口縁部の境は不明瞭。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	20%　P L 193
167	高台付坏 須恵器	B (2.4) C [8.3]	底部から体部にかけての破片。底部と体部の境は稜をなして折れ、体部は直線的に立ち上がる。	体部内面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	40%　P L 193
168	蓋 須恵器	B (1.6)	天井部の破片。天井部は低く扁平。	天井部回転ヘラ削り。内面、口縁部外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	10%　P L 193 天井部内面墨書「富」

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
169	刀子	(8.6)	(5.9)	1.9	0.4	(2.7)	(16.5)	鉄	両関	P L 254

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
170	不明	(6.7)	1.35	0.35	18.9	鉄	形状は半截竹管状を呈する。	

第194号住居跡（第65・66図）

位置　調査区の東部，Ｆ８f0区。平成10年度と平成11年度調査区にまたがって位置していたため，東端部を平成10年度，西部分を平成11年度と調査も両年度にわたった。

重複関係　本跡の上部に第366号住居が貼床で構築されており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.67m，短軸4.05mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－13°－Ｗ

壁　壁高は25～29cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅12～24cm，下幅８～12cm，深さ10cmで，断面はＵ字状である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁の西寄りに設けられている。規模は焚口部から煙道部まで長さ128cm，袖部最大幅114cmである。袖部は地山を５cmほど掘り込んだ後に，粘土ブロックをわずかに含んだ黄褐色土を盛り土し，その上に袖芯となる粘土大ブロックを多量に含んだ黄褐色土を貼り付けて構築されている。袖部の内側は被熱し，５cmほど赤変硬化している。煙道部は，北壁を幅115cm，奥行き50cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は下半部では20度の傾きで，上半部では45度の角度で立ち上がる。火床部は確認面から47cmの深さで径90cmの半円形に掘り込み，ロームブロック・炭化粒子を含む暗褐色土を埋土してつくっている。

竈土層解説

1	褐　色	焼土小ブロック・焼土粒子・山砂混じり粘土小ブロック少量	5	暗赤褐色	ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック少量
2	灰褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・山砂混じり粘土中ブロック少量，焼土中ブロック微量	6	赤褐色	焼土粒子多量（火を受けた内壁）
			7	黄褐色	山砂混じり粘土大ブロック少量
3	赤褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック少量，山砂混じり粘土大ブロック・山砂混じり粘土小ブロック少量	8	黄褐色	山砂混じり粘土大ブロック多量
			9	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量（掘り方）
4	黄褐色	粘土粒子多量			

ピット　８か所（Ｐ1～Ｐ８）。Ｐ1～Ｐ4は，長径40～52cm，短径40～45cm，深さ25～32cmで，規模や配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は長径30cm，短径20cmの楕円形，深さ30cmで，南壁際の竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６はＰ１の西側に，Ｐ７はＰ２の西側に，Ｐ８はＰ３の北側に位置し，いずれもＰ１～Ｐ３の方が新しく，Ｐ６からＰ１へ，Ｐ７からＰ２へ，Ｐ８からＰ３へとつくり替えられたものである。

ピット土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量	4	黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，粘土中ブロック微量
2	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量	5	黒褐色	ローム粒子少量
3	褐　色	砂質粘土粒子多量，ローム大ブロック微量			

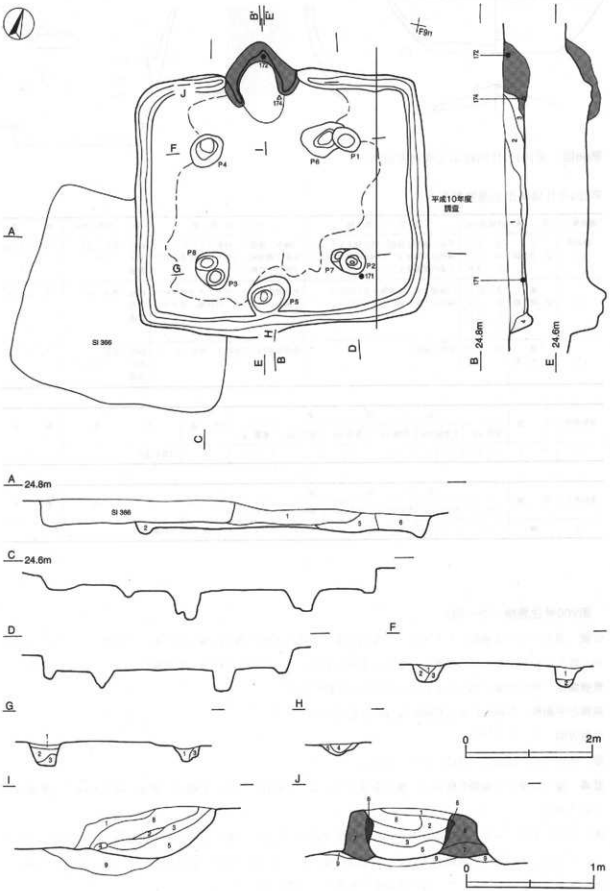
覆土　６層からなる。土層断面図中，第２・３層は竈が壊れて堆積したものである。第１・３～６層にはロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子を含み，不規則な堆積状況を示していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

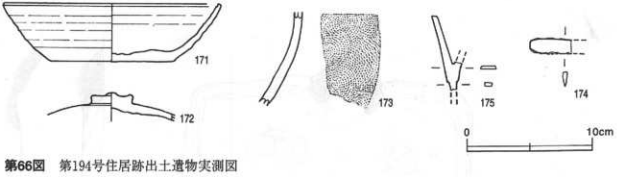
1	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
			5	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子微量
2	褐　色	ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，焼土中ブロック微量			
3	黄褐色	粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック少量	6	褐　色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片89点，須恵器片70点，鉄器２点（刀子・鎌）が出土している。第66図171の須恵器坏はＰ２周辺，172の須恵器蓋，174の刀子は竈内から，173の須恵器甕片，175の鉄鎌は覆土中から出土している。173は外面に同心円状の叩きを施した須恵器甕である。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，８世紀前葉と推定される。



第65図　第194号住居跡実測図



第66図　第194号住居跡出土遺物実測図

第194号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 171	坏 須恵器	A 17.2 B 4.6 C 9.8	平底。底部と体部の境に稜をもち，体部は外傾する。口縁部直下の内面に1条の沈線をもつ。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部多方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰オリーブ色 普通	70%　PL193
172	蓋 須恵器	A [10.0] B (2.3) F 3.2 G 0.7	口縁部欠損。天井部はなだらかで，扁平なボタン状のつまみがつく。	天井部内面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。つまみ貼り付け後，ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	50%　PL193
173	甕 須恵器	B (5.3)	体部の破片。	体部外面同心円状叩き，内面ナデ。	砂粒・雲母 暗オリーブ灰色 普通	5%　PL144

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
174	刀子	(3.28)	(3.28)	1.1	0.3	-	3.0	鉄	刀身部破片。	

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	短軸長(cm)	短軸幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	重量(g)			
175	鏃	(5.9)	(5.3)	0.7	(0.6)	0.5	4.6	鉄	堀鏃。	

第200号住居跡（第67図）

位置　調査区域の北東部，E 8 c6区。平成10年度と平成11年度の調査区域にまたがって位置していたため，調査も竈を含む西部を平成10年度に，東部を平成11年度にと，両年度にわたって実施した。

重複関係　第25号溝に掘り込まれているため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.42m，短軸3.32mの方形である。

主軸方向　N－3°－W

壁　壁高は10～32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈と北壁下の東側を除いて，壁下を巡っている。上幅13～31cm，下幅2～9cm，深さ6cmで，断面はU字形である。

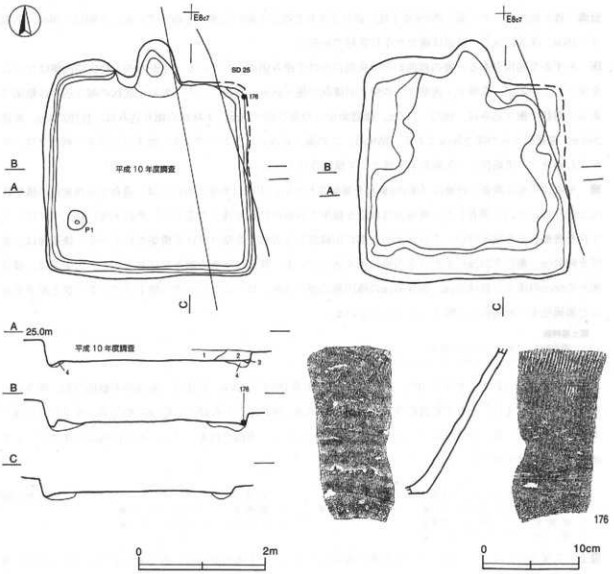
床　全面が平坦である。特に踏み固められた部分は認められない。竈の前面から中央部にかけては地山を床としているが，その外周部は貼床である。貼床は，壁に沿って幅28～85cm，確認面から深さ18～45cmほど溝状に掘り込み，ローム小ブロックを含む暗褐色土を埋土して構築されている。

覆土　3層からなり，堆積状況はレンズ状を呈していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム小ブロック少量（貼床）

遺物　土師器片８点，須恵器片10点が出土している。第67図176の須恵器鉢体部片は，北東コーナー部の壁溝内から出土している。

所見　平成10年度調査分では良好な資料が得られているため，『第159集』に従い，本跡の時期は９世紀後葉としたい。



第67図　第200号住居跡・出土遺物実測図

第200号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第67図 176	鉢 須恵器	B（15.0）	体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面上位縦位の平行叩き，中位から下位ヘラ削り。体部内面同心円状の当て具痕，ヘラナデ。	砂粒・雲母 暗灰黄色 普通	5％

第202号住居跡（第68～70図）

位置　調査区域の中央部，Ｅ７e0区。平成10年度と平成11年度の調査区域にまたがって位置していたため，調査も竈を含む北部を平成10年度に，南部を平成11年度にと，両年度にわたって実施した。

重複関係　第306号住居跡を掘り込んでおり，第203号住居，第64号掘立柱建物，第47・49号溝，第606・1951・1952号土坑に掘り込まれ，本跡は第306号住居跡よりも新しく，第203号住居，第64号掘立柱建物，第606・1951・1952号土坑よりも古い。

規模と平面形　長軸5.57m，短軸5.28mの方形である。

主軸方向　Ｎ－８°－Ｗ

壁　壁高は28～40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈と南西コーナー部と第606号土坑に掘り込まれた部分を除いた壁下を巡っている。上幅12～36cm，下幅３～16cm，深さ12cmで，断面は緩やかなＵ字形である。

床　わずかな起伏がある。竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。４か所の主柱穴の内側はロームを床としているが，東壁下・南壁下・西壁下の溝状の掘り込み，北西コーナー部の土坑状の掘り込みは貼床である。溝状の掘り込みは，幅33～112cm，確認面からの深さ36～58cm，土坑状の掘り込みは，長径250cm，短径200cm，確認面からの深さ56cmである。貼床は，この掘り込みにロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックを含む褐色土・黒褐色土・灰褐色土を埋土して構築されている。

竈　平成10年度に調査。詳細は『第159集』を参照されたい。平成11年度においては，遺存する西袖部の構築状況と掘り方について調査した。西袖部は地山を扁平な台形状に掘り残して芯とし，その上部に粘土中ブロックを含む黄褐色土を貼り付け，さらにその上部に山砂混じりの粘土を貼り付けて構築されている。煙道部は，北壁を幅61cm，奥行き24cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は30度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から66cmの深さで長径86cm，短径67cmの楕円形に掘り込み，ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子を含んだ黒褐色土・灰褐色土で埋土してつくっている。

竈土層解説

1	明黄褐色	粘土大ブロック多量
2	黄褐色	ローム中ブロック・粘土中ブロック中量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ２・Ｐ５はそれぞれ長径83～113cm，短径61～86cmの不整楕円形，深さ47～72cm，Ｐ３・Ｐ４は，それぞれ確認された長径69～76cm，確認された短径45～62cmの楕円形，深さ39～45cmである。各コーナー部に位置することから主柱穴と考えられる。床面を精査したが，出入口施設に伴うピットを確認することはできなかった。

ピット土層解説

1	暗褐色	粘土大ブロック中量，焼土小ブロック少量	5	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
2	暗褐色	ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量	6	暗褐色	ローム中ブロック少量
3	暗褐色	ローム大ブロック多量	7	暗褐色	ローム大ブロック少量
4	褐　色	ローム大ブロック中量			

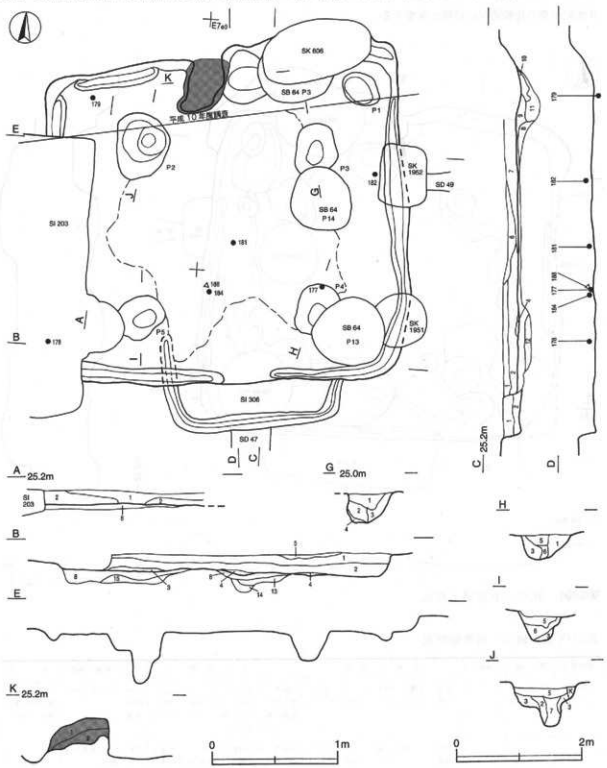
覆土　７層からなる。ロームブロックを多く含んでいること，土層断面図中，第２層のようなブロック状の堆積がみられることから，人為堆積と考えられる。なお，第10・11層は竈の掘り方内の土層，第９層と第12～15層は埋土の土層である。

土層解説

1	褐　色	ローム中ブロック・焼土中ブロック少量	6	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2	褐　色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量	7	極暗褐色	ローム小ブロック中量，粘土中ブロック・焼土小ブロック少量
3	褐　色	ローム小ブロック中量	8	黒褐色	焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量，焼土中ブロック微量（貼床）
4	褐　色	ローム中ブロック中量			
5	褐　色	灰中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック少量	9	褐　色	ローム大ブロック多量（貼床）

10	赤 褐 色	焼土小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量（覆掘り方）	13	灰 褐 色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量（貼床）
11	灰 褐 色	焼土小ブロック・粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・粘土中ブロック少量，焼土中ブロック微量（覆掘り方）	14	黒 褐 色	ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・粘土大ブロック微量（貼床）
12	黒 褐 色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）	15	褐 色	ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック微量（貼床）

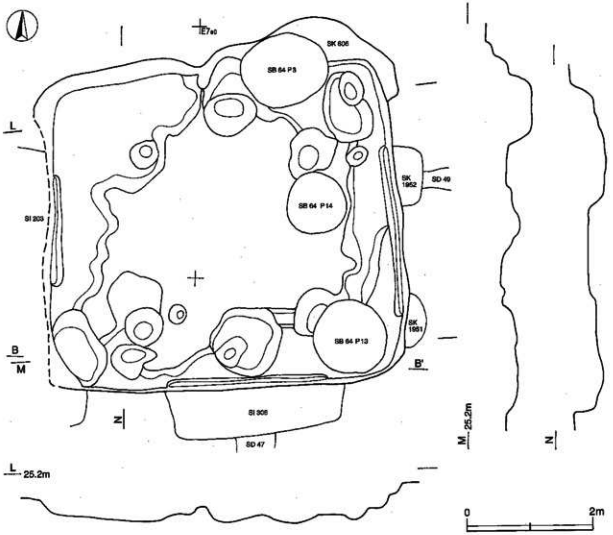
遺物　土師器片233点，須恵器片128点，灰釉陶器片４点，石器・石製品２点（砥石・紡錘車），鉄器１点（刀



第68図　第202・306号住居跡実測図

子)，銅製品1点（鈴具），鉄滓2点が出土している。第70図177の土師器坏は中央部南東寄りの床面から，178の土師器坏は南東コーナー部の覆土下層から，179の土師器甕は北西コーナー部の床下7cmの貼床から，181の須恵器坏は中央部の覆土下層から，182の須恵器坏は東壁際の覆土下層から，184の須恵器鉢，188の刀子は中央部の覆土下層から，それぞれ出土している。177は，体部外面に逆位で墨書された「万坏」の文字が認められる。183の須恵器蓋，185の須恵器甕，186の石製紡錘車，187の砥石，189の鈴具は覆土中からそれぞれ出土している。

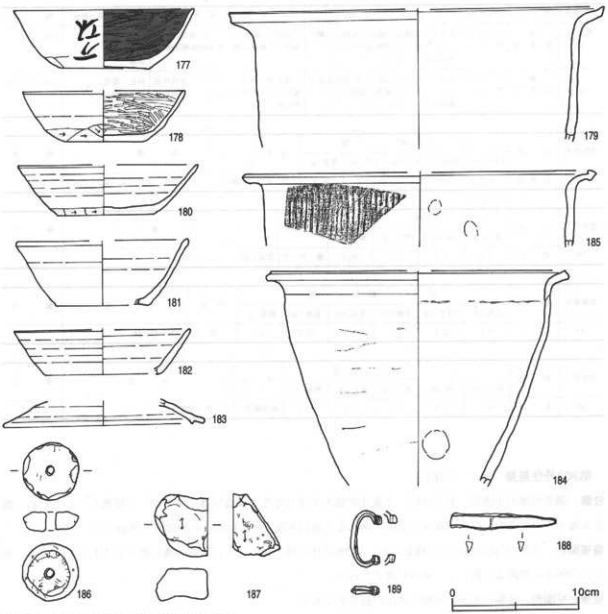
所見　『第159集』では，本跡の時期を8世紀中葉としているが，遺物の器種構成，割合，出土遺物などから，9世紀中葉の比較的早い段階と変更する。



第69図　第202号住居跡実測図

第202号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70図 177	坏 土師器	A 14.4 B 4.2 C 6.9	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	80%　P L 194 体部外面墨書 倒位「万坏」
178	坏 土師器	A [12.8] B 4.0 C 6.2	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。口縁部・体部・底部内面ヘラ磨き。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色	50%　P L 194 二次焼成



第70図　第202号住居跡出土遺物実測図

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70図 179	甕 土師器	A [30.0] B [10.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部で強く外反する。端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	10%　P L194
180	坏 須恵器	A [14.4] B 4.0 C 7.4	底部から口縁部の破片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，2方向のヘラ削り。	雲母・赤色粒子 にぶい褐色	60%　P L194 二次焼成
181	坏 須恵器	A [13.6] B 5.2 C [7.5]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色	30% 二次焼成
182	坏 須恵器	A [14.0] B 3.5 C [9.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	20%
183	蓋 須恵器	A [16.0] B (2.0)	天井部から口縁部の破片。天井部はなだらかで，口縁部内側に短いかえりを有する。	天井部，口縁部内・外面ロクロナデ	砂粒・雲母 灰白色 普通	10%

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70図 184	鉢 須恵器	A [23.4] B (17.1)	体部から口縁部の破片。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は短くつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内・外面ナデ，輪積み痕。内面指頭押圧痕。	砂粒・雲母 灰色 普通	10%
185	甕 須恵器	A [27.4] B (6.0)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は屈曲する。端部は短くつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き，内面ナデ。内面指頭押圧痕。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	5% PL194

遺物番号	器種	計測値					石材	特徴	備考
		上面径(cm)	下面径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
186	紡錘車	4.4	3.2	1.5	0.8	36.3	滑石	両面に2か所の穿孔。(径0.1cm，深さ0.2cm)	PL252

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
187	砥石	5.0	4.2	3.7	66.2	凝灰岩	砥面2面。	

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	刀身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
188	刀子	(4.4)	(3.2)	1.0	0.5	(5.3)	(11.1)	鉄	刃部一部欠損。	

遺物番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
189	鈴具	4.5	2.4	0.6	0.2	5.7	鉄地銅張り	部分的に脱取り。	PL257

第203号住居跡（第71～73図）

位置　調査区域の中央部，E７e9区。平成10年度と平成11年度の調査区域にまたがって位置していたため，調査も竈を含む北部の一部を平成10年度に，南部を平成11年度にと，両年度にわたって実施した。

重複関係　第202号住居跡の上に構築され，第396号住居跡を掘り込み，第49号溝に掘り込まれているため，第202・396号住居跡より新しく，第49号溝より古い。

規模と平面形　長軸4.92m，短軸3.96mの長方形である。

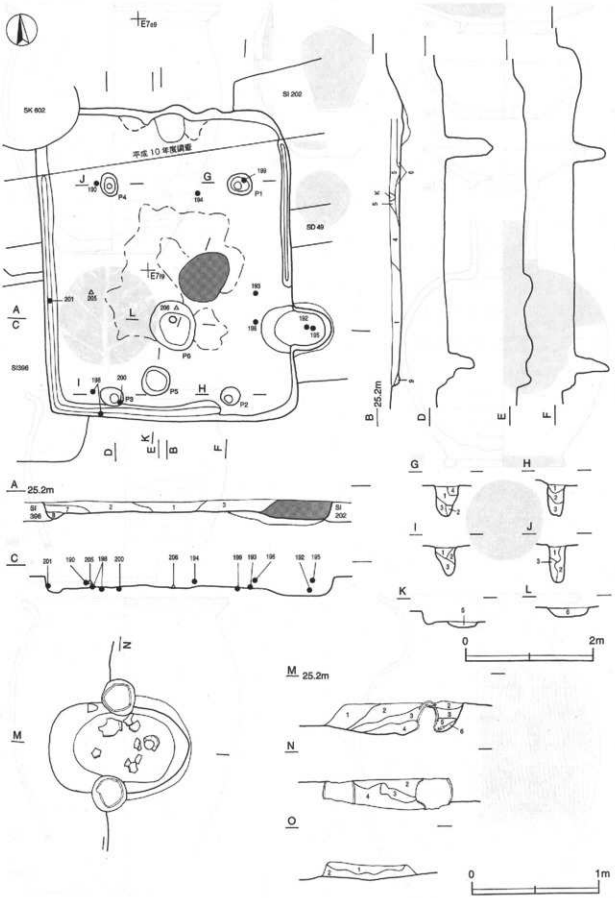
主軸方向　N－0°

壁　壁高は17～20cmで，外傾して立ち上がる。

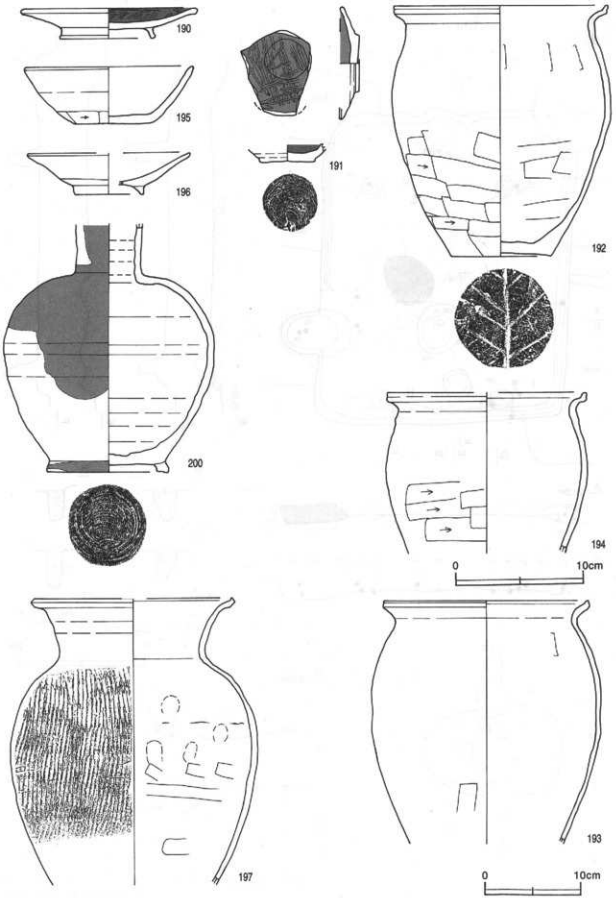
壁溝　北壁下と南東コーナー部の壁下を除いて巡っている。上幅12～29cm，下幅２～13cm，深さ８cmで，断面は緩やかなU字形である。

床　中央部から北壁下にかけてやや傾斜している。中央部は踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　平成10年度調査において北壁の中央部に設けられている竈を調査した。詳細は『第159集』を参照されたい。平成11年度の調査で新たに東壁中央部の南東コーナー部寄りに設けられている竈を検出した。規模は，焚口部から煙道部までの長さ112cm，袖部最大幅102cmである。北袖部と南袖部からそれぞれ須恵器甕が逆位で出土しており，補強材として使用されたと思われる。二つの甕の内部には炭化物と粘土塊が入っており，袖の芯材と考えられる。甕の体部外面には被熱痕がみられる。煙道部は，東壁を幅85cm，奥行き62cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は下半部では30度の傾きで，上半部では60度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面からの深さ39cmの深さで長径78cm，短径54cmの楕円形に掘り込み，ローム大ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック



第71図　第203号住居跡実測図

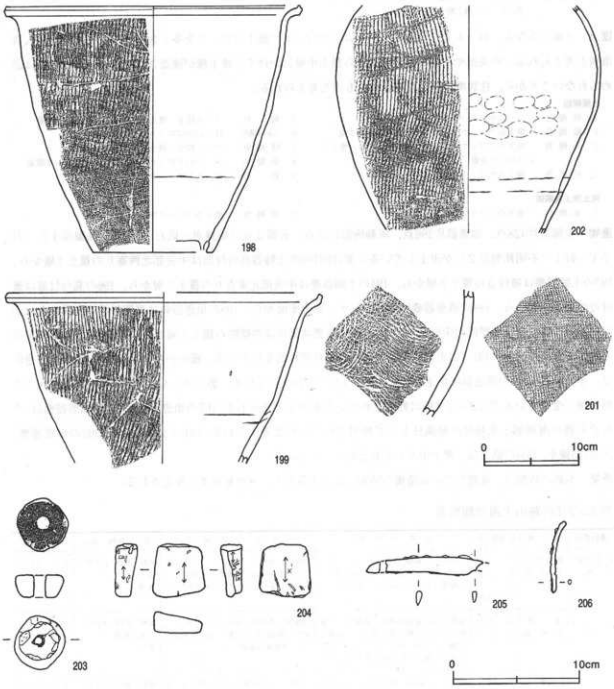


第72図　第203号住居跡出土遺物実測図（1）

を含んだ黒褐色土で埋土してつくっている。火床面は床面から7cmほど下がっている。煙道の立ち上がり部には，土師器甕と須恵器坏がいずれも逆位の状態で重なって検出されている。火熱を強く受けていることと出土状況から，支脚として使用されたと考えられる。

竈土層解説

1 褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
2 暗褐色　焼土小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化物少量
3 にぶい褐色　炭化物中量，焼土小ブロック少量
4 黄灰色　炭化物多量，焼土中ブロック少量
5 暗赤褐色　焼土中ブロック中量，焼土小ブロック少量
6 褐　色　焼土粒子少量



第73図　第203号住居跡出土遺物実測図（2）

ピット　6か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ２は径28cmの円形，深さ47cmである。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４はそれぞれ長径36～38cm，短径27～33cmの楕円形，深さ44～57cmで，各コーナー寄りに位置する。Ｐ１～Ｐ４は規模と配置から，主柱穴と考えられる。Ｐ５・Ｐ６はそれぞれ径44cm・77cmの円形，深さ７cm・14cmである。Ｐ５は南壁下やや北寄りに位置することから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は中央部やや南寄りに位置し，Ｐ１～Ｐ５のピットとの関連性が認められないことから性格は不明である。

ピット土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
4　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子微量
6　暗褐色　ローム中ブロック多量

覆土　９層からなる。ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土ブロックを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。中央部やや東寄りの床面から覆土中層にかけて，焼土塊が確認された。床面に被熱痕は認められないことから，住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム中ブロック中量
2　暗褐色　焼土小ブロック中量，ローム中ブロック少量
3　暗褐色　粘土中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
4　暗褐色　焼土大ブロック多量
5　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量
6　にぶい褐色　ローム中ブロック・粘土粒子中量
7　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
8　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
9　褐　色　ローム小ブロック少量

焼土塊土層解説

1　赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量
2　暗褐色　焼土小ブロック中量

遺物　土師器片428点，須恵器片396点，灰釉陶器片２点，石器２点（紡錘車・砥石），鉄器・鉄製品４点（刀子１・釘１・不明鉄製品２）が出土している。第72図190の土師器高台付皿は中央部北西寄りの覆土下層から，193の土師器甕は竈付近の覆土下層から，194の土師器甕は中央部北東寄りの覆土下層から，196の高台付皿は竈付近の覆土中層から，198の須恵器甑は南西コーナー部の床面から，199の須恵器鉢は東壁付近の床面から，200の灰釉陶器長頸壺は南壁際の床面から，201の須恵器甕体部片は西壁際の覆土下層から，205の刀子は西壁付近の覆土下層から，206の釘は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。竈内からは，192の土師器甕が逆位で，その上部に195の須恵器坏が逆位で重なるようにして出土している。甕・坏ともに出土位置や出土状況，火熱を強く受けていることから，支脚に転用されていたものと考えられる。197の須恵器甕と198の須恵器甑は，それぞれ竈の南袖部と北袖部の補強材として使用されていたと考えられる。191の土師器耳皿，202の須恵器甕，203の紡錘車，204の砥石は，覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，重複している遺構の時期と出土土器から，９世紀後葉と推定される。

第203号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 190	高台付皿 土師器	A [14.0] B 2.4 D 7.5 E 0.9	体部から口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は外傾気味に開き，口縁部はわずかに外反し，肥厚する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	60%　ＰＬ194
191	耳皿 土師器	A [8.8] B 1.5 C 4.4	底部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に開き，２側面で内側に丸く折り曲げられている。底部は体部下端よりわずかに突出する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部・体部内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	30%
192	甕 土師器	A 16.9 B 19.9 C 8.0	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は強く外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ，下半部横位のヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・赤色粒子 赤色 普通	95%　ＰＬ194

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 193	甕 土師器	A 21.2 B (25.4)	体部から口縁部の破片。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は強く外反する。端部はつまみ上げられている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 褐色 普通	50%　P L 194
194	甕 土師器	A [15.8] B (12.8)	体部から口縁部の破片。体部は内弯して立ち上がり，口縁部はくの字状に屈曲する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ，下半部ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	30%　P L 194 二次焼成
195	坏 須恵器	A 13.3 B 4.5 C 6.3	体部から口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内弯して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部2方向のヘラ割り後，ナデ。	雲母 褐色 普通	95%　P L 194 体部内面火襷
196	高台付皿 須恵器	A [13.0] B 3.3 D [5.4] E 0.7	高台部から口縁部の破片。高台は短くハの字状に開く。体部は内弯気味に開き，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端，底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	40%　P L 194
197	甕 須恵器	A [21.0] B (30.2)	体部から口縁部の破片。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は外反する。端部はつまみ上げられ，面取りされている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き，内面ヘラナデ。体部内面指頭押圧痕，輪積み痕。	砂粒・雲母・赤色粒子 褐色，普通	40%　P L 194
第73図 198	瓶 須恵器	A 31.2 B 21.1 C [12.8]	体部から口縁部の破片。体部はわずかに内弯して立ち上がり，口縁部は強く外反する。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位から上位にかけて縦位の平行叩き，下位ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	40%　P L 194
199	鉢 須恵器	A [33.0] B 18.0	体部から口縁部の破片。体部は内弯気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面上位から中位にかけて縦位の平行叩き。内面ナデ，輪積み痕。	雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	40%　P L 194
201	甕 須恵器	B (13.5)	体部の破片。体部は緩やかに内弯して立ち上がる。	体部外面格子目叩き，内面同心円状の当て具痕。	砂粒 黄灰色，普通	5%
第72図 200	長頸瓶 灰釉陶器	B (31.2) D 9.5 E 0.7	体部から口縁部にかけて一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内弯して立ち上がる。頸部は外傾して立ち上がる。	頸部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。高台貼り付け後，ロクロナデ。体部外面施釉，刷毛塗り。	緻密，淡土黄灰色 灰オリーブ釉 良好	80%　P L
202	甕 須恵器	B (24.0)	体部の破片。体部は内弯して立ち上がる。	体部外面上位から中位にかけて縦の平行叩き，体部下端ヘラ削り。体部内面指頭押圧後，ナデ。体部内面輪積み痕。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	60%　P L 192

遺物番号	器種	計測値 上面径(cm)	下面径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石材	特徴	備考
第73図203	紡錘車	4.0	2.6	1.8	0.9	53.7	滑石	上面に放射状の線刻。	P L 252

遺物番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	特徴	備考
204	砥石	4.2	4.1	1.7	37.8	凝灰岩	砥面4面。	

遺物番号	器種	計測値 全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考
205	刀子	(9.2)	(8.5)	1.5	0.4	(0.7)	(12.4)	鉄	刃部・茎部一部欠損。両関。	

遺物番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考
206	釘	(5.7)	0.4	0.3	(2.1)	鉄	茎部破片。断面は方形。	

第211号住居跡（第74～76図）

位置　調査区域の北東部，Ｄ８j6区。平成10年度と平成11年度の調査区域にまたがって位置していたため，調査も竈を含む西半部を平成10年度に，東半部を平成11年度にと，両年度にわたって実施した。

重複関係　第25号溝に掘り込まれているため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸6.74m，短軸6.18mの方形である。

主軸方向　Ｎ－14°－Ｗ

壁　壁高は35～54cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅17～37cm，下幅２～19cm，深さ６cmで，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部やや南寄りが踏み固められている。４か所の主柱穴の内側は地山を床としているが，各コーナー部は貼床である。貼床は，北東コーナー部が径230cmの不整形，確認面からの深さ60cmに，南東コーナー部が径108cmの不整形，確認面からの深さ52cmに，南西コーナー部が径155cm，確認面からの深さ90cmに，北西コーナー部が径255cm，確認面からの深さ68cmにそれぞれ土坑状に掘り込み，ロームブロックを含む褐色土を埋土して構築されている。

竈　西袖部と覆土については『第159集』を参照されたい。平成11年度には，袖部と掘り方の調査が行われた。規模は，焚口部から煙道部までの長さ134cm，袖部最大幅206cmである。袖部は粘土ブロック主体の黄褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は，北壁を幅115cm，奥行き25cmにわたり半円形に掘り込んでいる。火床部は，確認面から70cmの深さで長径160cm，短径82cmの楕円形に掘り込んでつくられている。焼土ブロック・粘土ブロックを含んだ黄褐色土で埋土してつくっている。内壁は厚さ４～10cmほどの部分が赤変硬化（竈土層断面図中，第１層）しており，長期にわたって使用されていたと思われる。

竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土大ブロック多量	3	にぶい黄褐色	粘土大ブロック多量
2	黄褐色	粘土大ブロック多量，焼土中ブロック中量	4	黒褐色	粘土小ブロック微量

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。平成11年度調査により新たに２か所の柱穴が確認されたため，それぞれＰ５・Ｐ６とした。Ｐ５・Ｐ６は，それぞれ長径68cm・69cm，短径60cm・61cmの楕円形，深さ68cmである。Ｐ５は北東コーナー部寄りに，Ｐ６は南東コーナー部寄りに位置する。規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ３は長径80cm，短径72cmの楕円形，深さ20cmである。南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量	5	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック微量	6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・炭化物微量
3	褐色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量			
4	褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量			

覆土　５層からなる。ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を含み，不規則な堆積状況を示していることから，人為堆積と考えられる。

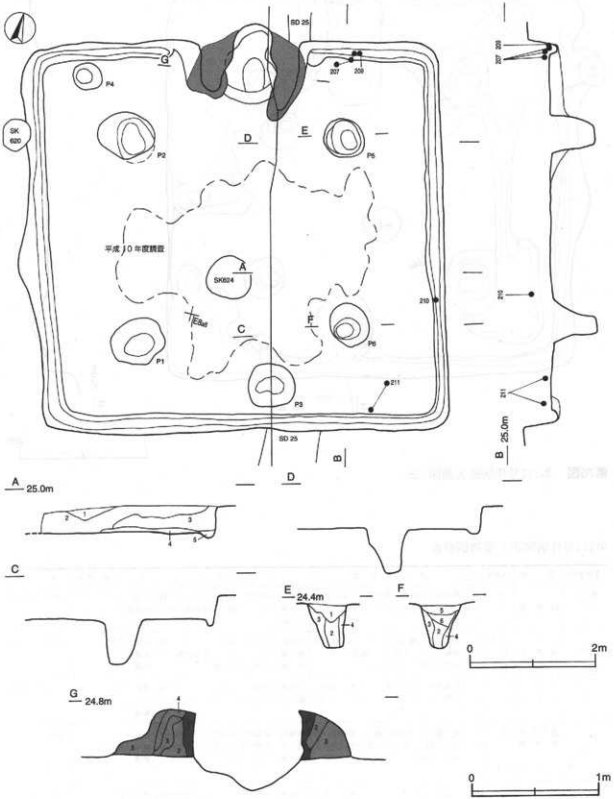
土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量	4	褐色	ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック微量			

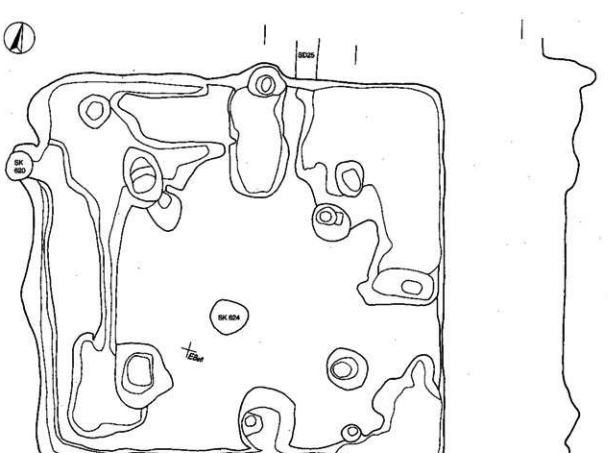
遺物　土師器片152点，須恵器片118点，土製品２点（管状土錘・不明土製品）が出土している。第76図207・209の須恵器坏は北壁際の覆土下層から，210の須恵器高台付坏は東壁際の覆土中層から，211の須恵器瓶は南壁際

の覆土中層からそれぞれ出土している。208の須恵器坏，212の管状土錘は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，８世紀後葉と推定される。



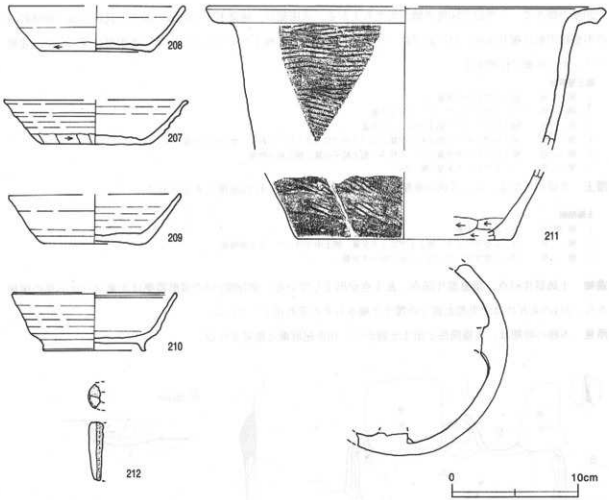
第74図　第211号住居跡実測図（１）



第75図　第211号住居跡実測図（2）

第211号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 207	坏 須恵器	A 14.5 B 3.5 C 8.8	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	体部，口縁部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	雲母 灰黄色 普通	80%　PL194
208	坏 須恵器	A [14.0] B 3.6 C [8.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。端部はわずかに肥厚する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	60%　PL194
209	坏 須恵器	A [13.7] B 4.0 C 8.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色 普通	50%　PL194
210	高台付坏 須恵器	A [13.0] B 4.6 D [8.0] E 0.9	高台部から口縁部の破片。高台はハの字状に開く。体部は外反気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端，底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ロクロナデ。	雲母 にぶい黄橙色 普通	30%
211	甕 須恵器	A [31.4] B (17.3) C [17.0]	底部から口縁部にかけての破片。多孔式。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は屈曲する。端部は面取りされている。底部多孔式。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，内面ナデ。体部下端ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	10%



第76図　第211号住居跡出土遺物実測図

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
212	管状土錘	(4.6)	[2.2]	[0.8]	(7.6)	土製	外面ナデ。	

第226号住居跡（第77・78図）

位置　調査区域の北東部，D8f3区。平成10年度と平成11年度の調査区域にまたがって位置していたため，調査も南部を平成10年度に，竈を含む北部を平成11年度にと，両年度にわたって実施した。

重複関係　第25号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.46m，短軸3.19mの方形である。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は8～29cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁下，第25号溝に掘り込まれた東壁下と西壁下の中央部を除いて，壁下を巡っている。上幅12～33cm，下幅4～12cm，深さ17cmで，断面はU字形である。

床　全体的に平坦で，各コーナー部を除いて踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ69cmである。袖部が遺存しないため，幅は不明である。煙道部は，北壁を幅73cm，奥行き62cmにわたり台形状に掘り込んでいる。煙道は下半部

で20度の傾きで，上半部で80度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から34cmの深さで長径77cm，短径47cmの不整楕円形に掘り込み，ロームブロックを含んだ褐色土で埋土してつくっている。火床面は径30cmで，北壁ラインから外側に位置する。

竈土層解説

1 褐　色　粘土大ブロック多量
2 褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 褐　色　焼土小ブロック・粘土中ブロック中量
4 褐　色　粘土小ブロック・粘土粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
5 褐灰色　粘土小ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
6 褐　色　ロームブロック少量(掘り方)

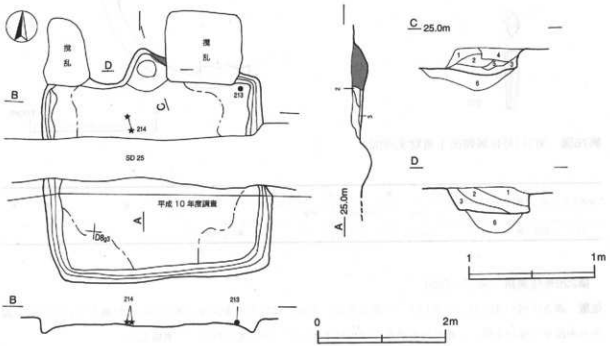
覆土　3層からなる。レンズ状の堆積を示していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色　ローム粒子少量
2 褐　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化物微量
3 褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

遺物　土師器片81点，須恵器片56点，瓦1点が出土している。第78図213の須恵器甕は北東コーナー部の床面から，214の丸瓦片は中央部北寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，重複関係と出土土器から，10世紀前葉と推定される。

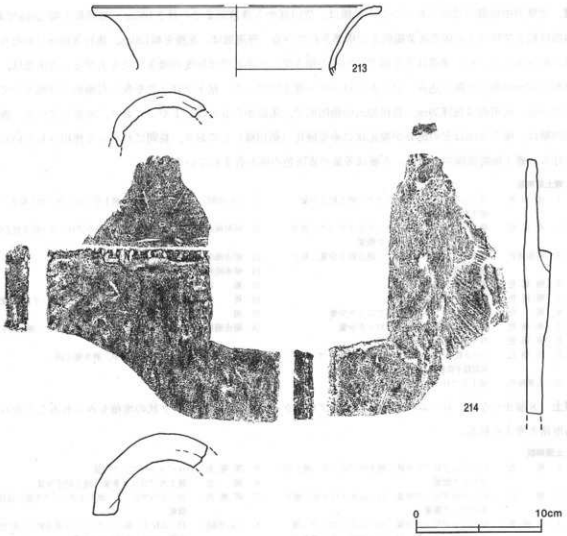


第77図　第226号住居跡実測図

第226号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78図 213	甕 須恵器	A〔23.0〕 B（5.5）	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子普通	10%

遺物番号	器種	計測値						特徴	備考
		玉縁部幅(cm)	玉縁部長(cm)	筒部上幅(cm)	筒部長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
214	丸瓦	(7.4)	7.3	11.8	(14.7)	2.1	(516.0)	凸面ヘラ削り後，ナデ。凹面ナデ。	



第78図　第226号住居跡出土遺物実測図

第227号住居跡（第79・80図）

位置　調査区域の北東部，Ｄ８f2区。平成10年度と平成11年度の調査区域にまたがって位置していたため，調査も南部を平成10年度に，竈を含む北部を平成11年度にと，両年度にわたって実施した。

重複関係　第25号溝に掘り込まれ，第413号住居跡を掘り込んでおり，本跡は第25号溝より古く，第413号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸3.76m，短軸3.42mの方形である。

主軸方向　N－11°－W

壁　壁高は35～44cmで，外傾して立ち上がる。北壁西側に長さ60cm，厚さ６cmの粘土が貼られている。

壁溝　北壁下と撹乱によって壊された北西コーナー部を除いて，壁下を巡っている。上幅13～37cm，下幅５～12cm，深さ５cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。中央部はロームを床としているが，外周部には貼床がみられる。貼床は，北東コーナー部から東壁下にかけては幅25～83cm，確認面からの深さ48cmほどの溝状に，南壁下と西壁下には幅10cm，確認面からの深さ52～75cmほどの溝状にそれぞれ掘り込み，ローム中ブロック・ローム小ブロックを含む褐色土を埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ106cm，袖部最大幅116cmである。袖部は粘土ブロック主体の灰黄褐色土で構築されている。煙道部は，北壁を幅120cm，奥行き89cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は下半部では20度の傾きで，上半部では50度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から53cmの深さで掘り込み，ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックを含んだ褐色土で埋土してつくっている。火床面は長径39cm，短径32cmの楕円形で，床面から5cmほど下がっており，赤変している。西袖部の内壁は，厚さ3cmほどの部分が煉瓦状に赤変硬化（第13層）しており，長期にわたって使用されていたと思われる。竈土層断面図中，第3・5層は多量の青灰色の灰が含まれている。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，粘土粒子微量
2	赤褐色	焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック微量
3	暗赤褐色	灰多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，粘土粒子微量
4	暗褐色	焼土小ブロック少量
5	暗褐色	灰多量，焼土粒子少量
6	褐　色	焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
7	赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
8	黒褐色	ローム小ブロック少量
9	暗褐色	ローム粒子・焼土中ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
10	灰黄褐色	粘土大ブロック多量
11	にぶい赤褐色	粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量
12	灰黄褐色	粘土中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量
13	暗赤褐色	粘土大ブロック多量
14	暗赤褐色	粘土大ブロック多量，灰少量
15	褐　色	焼土粒子少量
16	褐　色	焼土小ブロック少量，粘土中ブロック少量（掘り方）
17	褐　色	ローム小ブロック中量（掘り方）
18	暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量（掘り方）
19	褐　色	覆土上層断面図中，第9層と同一

覆土　8層からなる。ロームブロック・焼土ブロックを多く含み，ブロック状の堆積もみられることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

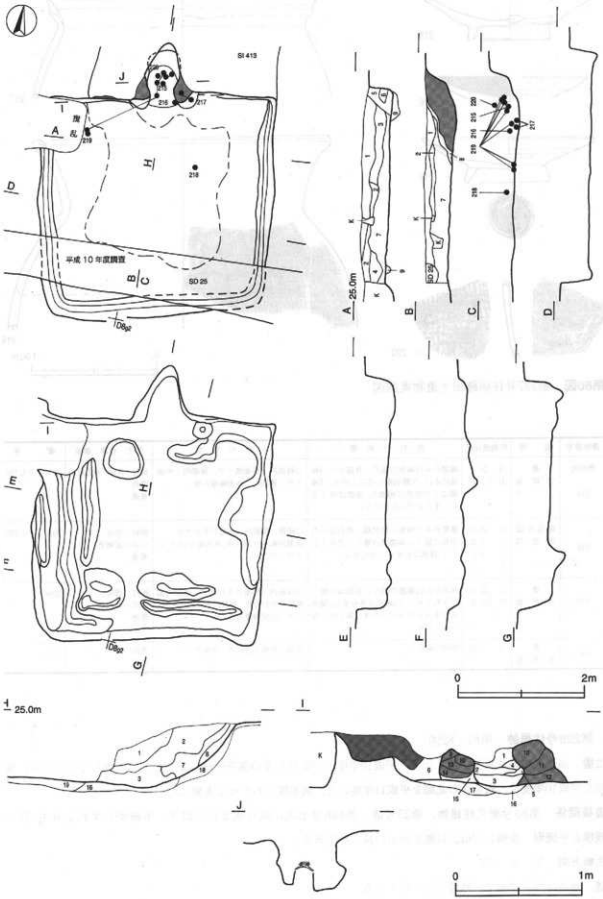
1	褐　色	ローム小ブロック少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック微量
2	褐　色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
3	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
4	黒褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
5	黒褐色	ローム小ブロック少量
6	褐　色	焼土大ブロック多量，焼土粒子少量
7	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物微量
8	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，ローム中ブロック微量
9	褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量（貼床）

遺物　土師器片278点，須恵器片123点が出土している。第80図215・216の土師器高台付皿は竈内の覆土中層からそれぞれ出土している。215は逆位で出土している。217の土師器甕は竈内の覆土下層から，218の須恵器高台付皿は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。219の須恵器甕は，北西コーナー部の床面から出土した破片と竈内の覆土中層から出土した破片が接合したものである。220の須恵器甕体部片は竈内の覆土上層から出土し，体部外面に格子目叩きが施されている。

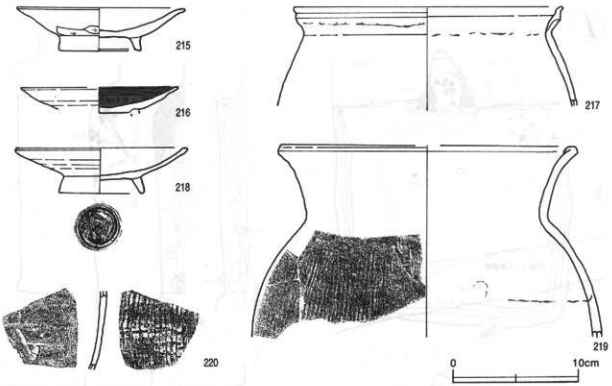
所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，9世紀後葉と推定される

第227号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 215	高台付皿 土師器	A 13.4 B 3.4 D 6.6 E 1.2	高台はハの字状に開く。体部から口縁部にかけて内彎気味に開き，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け。	砂粒 橙色 普通	100%　P L.195
216	高台付皿 土師器	A [12.7] B 2.0 D [4.8]	底部から口縁部の破片。体部は内彎気味に開き，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台部貼付。内面黒色処理。	雲母 橙色 普通	30%　P L.195



第79図　第227号住居跡実測図



第80図　第227号住居跡出土遺物実測図

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 217	甕 土師器	A 21.2 B (7.8)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。口縁部はくの字状に屈曲し，端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。頸部内・外面輪積み痕。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	20%　ＰＬ195
218	高台付皿 須恵器	A 13.5 B 3.2 D 6.6 E 1.3	体部から口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	70%　ＰＬ195
219	甕 須恵器	A [23.4] B (15.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部はつまみ上げられ，内側に強く折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き。体部内面指頭押圧後，ナデ。内面輪積み痕。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	20%
220	甕 須恵器	B (6.3)	体部の破片。	体部外面格子目叩き，内面ナデ。	雲母 褐色	5%

第228号住居跡（第81・82図）

位置　調査区域の北東部，Ｄ７f0区。平成10年度と平成11年度の調査区域にまたがって位置していたため，南部を平成10年度に，竈を含む北部を平成11年度にと，両年度にわたって実施した。

重複関係　第80号掘立柱建物，第25号溝，第680号土坑に掘り込まれており，本跡がいずれよりも古い。

規模と平面形　長軸4.72m，短軸3.90mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－８°－Ｗ

壁　壁高は35～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東コーナー部壁下，東壁下，北壁下と西壁下の一部を巡っている。上幅20～27cm，下幅５～10cm，深

さ8cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで床面としている。

竈　北壁の中央部やや東寄りに設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ114cm，袖部最大幅133cmである。袖部は地山にロームブロック・ローム粒子を少量含んだ褐色土を貼り付け，さらにその上に粘土ブロック・粘土粒子・砂粒を主体とした黄褐色土及び暗褐色土を貼り付けて構築している。煙道部は，北壁を幅110cm，奥行き60cmにわたり丸みを帯びた三角形に掘り込んでいる。煙道は30度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から72cmの深さで径115cmの円形に掘り込み，粘土ブロック・焼土ブロックを含んだ暗褐色土で埋土してつくっている。火床面は径35cmの円形で，床面から5cmほど下がっており，赤変している。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。

竈土層解説

1	暗褐色	焼土小ブロック・粘土中ブロック少量
2	褐　色	粘土中ブロック中量，焼土小ブロック少量
3	暗褐色	焼土小ブロック中量
4	褐　色	焼土小ブロック中量
5	暗褐色	焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・ローム小ブロック少量
6	にぶい黄褐色	粘土粒子多量，粘土小ブロック中量，粘土中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗褐色	粘土粒子中量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8	褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
9	褐　色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
10	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
11	暗褐色	焼土小ブロック・粘土小ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
12	暗褐色	粘土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
13	黒褐色	粘土ブロック少量
14	暗褐色	焼土中ブロック・粘土中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土大ブロック・炭化物・粘土大ブロック微量（掘り方）

ピット　5か所（P1～P5）。平成11年度調査により新たに2か所の柱穴が確認されたため，それぞれP4・P5とした。P4は径20cmの円形，深さ22cmであり，北西コーナー部寄りに位置する。規模と位置から主柱穴と考えられる。P5は長径36cm，短径30cmの楕円形，深さ11cmであり，性格は不明である。

ピット土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック微量
2	暗褐色	ローム小ブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子微量
4	褐　色	ローム小ブロック少量

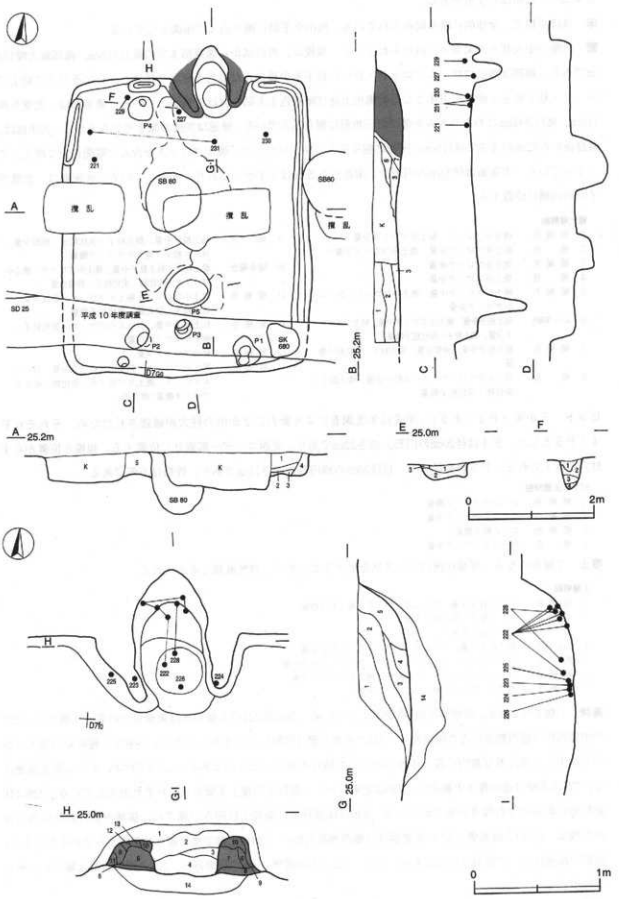
覆土　7層からなる。堆積状況はレンズ状を呈することから，自然堆積と考えられる。

土層解説

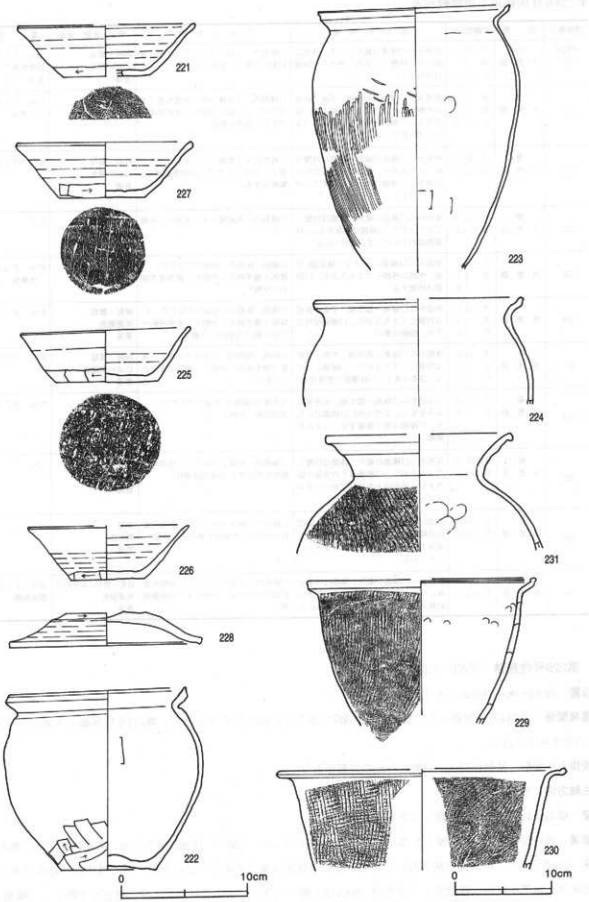
1	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
3	褐　色	ローム粒子中量
4	にぶい褐色	粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
5	褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
6	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
7	暗褐色	焼土小ブロック・粘土小ブロック少量

遺物　土師器片240点，須恵器片241点が出土している。第82図221の土師器坏は東壁付近の覆土下層から，227の須恵器坏は竈西袖部付近の床面から，231の須恵器甕は西壁付近の床面から出土した破片と竈前面の覆土下層から出土した破片及び竈内の覆土中から出土した破片が接合したものである。229と230はいずれも須恵器甕片で，229は北壁付近の覆土中層から，230は北東コーナー部付近の覆土下層からそれぞれ出土している。229は体部外面に縦位の平行叩きが施されている。230は体部外面に擬格子目叩きが施され，体部内面に斜位の当て具痕が残る。223の土師器甕と225の須恵器坏は竈西袖部内から，224の土師器甕は竈東袖部内からそれぞれ出土し，袖部の補強材として使用されたと考えられる。222の土師器甕，226の須恵器坏，228の須恵器蓋は竈内からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，重複関係と出土土器から，9世紀中葉と推定される。



第81図　第228号住居跡実測図



第82図　第228号住居跡出土遺物実測図

第228号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第82図 221	坏 土師器	A [14.0] B 5.1 C [7.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は緩やかに内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	30%　P L.195 底部外面ヘラ記号「一」
222	甕 土師器	A 14.1 B 14.4 C 7.4	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ，下半部ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母 明赤褐色	70%　P L.195 二次焼成
223	甕 土師器	A 20.5 B (27.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はくの字状に屈曲する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。内面指頭押圧。輪積み痕あり。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	40%　P L.195
224	甕 土師器	A [21.8] B (11.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	10%
225	坏 須恵器	A 13.4 B 4.3 C 7.8	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄褐色	80%　P L.195 二次焼成
226	坏 須恵器	A [12.6] B 4.3 C 5.5	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。器壁は薄い。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	80%　P L.195
227	坏 須恵器	A 13.8 B 4.4 C 6.6	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。器壁は薄く，口縁端部で肥厚する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	80%　P L.195
228	蓋 須恵器	A [15.0] B (2.6)	天井部から口縁部一部欠損。天井部は丸みをもち，なだらかに口縁部にいたる。口縁部は短く屈曲する。つまみ部剥離。	天井部，口縁部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	70%　P L.195
229	鉢 須恵器	A [24.4] B (15.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はくの字状に屈曲する。端部は上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面被位の平行叩き，内面指頭押圧。	砂粒 灰色 普通	15%
230	鉢 須恵器	A [30.4] B (10.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は強く屈曲する。端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面格子目叩き，内面平行線の当て具痕。	砂粒 褐灰色 普通	10%
231	甕 須恵器	A [19.6] B (12.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はくの字状に屈曲する。端部はつまみ上げられる。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面斜位の平行叩き，内面ナデ。内面指頭押圧。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰黄褐色 普通	20%　P L.195 器面剥離

第229号住居跡（第83～85図）

位置　調査区域の中央部，Ｅ5d5区。

重複関係　第244号住居跡の上に構築され，第775号土坑に掘り込まれており，第244号住居跡より新しく，第775号土坑より古い。

規模と平面形　長軸4.73m，短軸4.38mの方形である。

主軸方向　N-71°－E

壁　壁高は41～52cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅10～24cm，下幅7～17cm，深さ7cm，断面はU字状である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。中央部は地山を床としているが，その外周部は貼床である。貼床は，壁際を溝状に確認面から深さ50～60cmほど掘り込み，ロームブロック主体の褐色土を廻土して構築されている。

竈　2か所（竈１，竈２）。遺存状況から，北壁に竈１が構築，撤去された後に，新たに東壁に竈２が構築され，住居廃絶時まで使用されたと思われる。竈１は北壁の中央部に設けられていた。残存部が少なく詳細は不明であるが，煙道部は，壁を幅77cm，奥行き48cmにわたり半円形に掘り込んでいる。覆土土層断面図中，第12～15，17～21層がこれにあたる。竈２は，東壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ123cm，袖部最大幅121cmである。天井部は崩落している。袖部は，灰褐色粘土ブロックを用いて構築されている。煙道部は，壁を幅141cm，奥行き68cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は下半部では27度，上半部では50度の傾きで立ち上がる。火床部は，径65cm円形に確認面から65cmほどの深さで掘り込み，焼土粒子・炭化粒子・ローム ブロックを含む極暗褐色土を埋土してつくっている。火床面は，東壁ライン上に位置する。

竈２土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2	極暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム　小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・砂粒微量
3	極暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化材・炭化物微量
4	極暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
5	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
6	褐　色	焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
7	にぶい黄褐色	焼土粒子・粘土中ブロック・砂粒多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土大ブロック・炭化材微量
8	黒 褐 色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・灰中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量，ローム小ブロック微量
9	暗褐褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
10	褐　色	砂粒多量，焼土小ブロック中量，ローム小ブロック少量
11	明赤褐色	焼土中ブロック多量
12	褐　色	焼土小ブロック中量
13	暗 褐 色	粘土小ブロック多量，砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
14	極暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化粒子微量
15	極暗褐色	粘土小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中　ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
16	黒 褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　10か所（Ｐ１～Ｐ10）。Ｐ１～Ｐ４は長径37～43cm，短径30～39cmの楕円形，深さ48～66cmで，規模と配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径34cm，短径31cmの楕円形，深さ17cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。掘り方調査で，ピットを５か所確認した。Ｐ８・Ｐ９は，それぞれ長径50cm，63cm，短径33cm，35cmの楕円形，深さ37cm，51cmで，規模と配置から古い段階の主柱穴と思われる。Ｐ６・Ｐ７・Ｐ10は，長径25～37cm，短径12～20cmの楕円形，深さ21～46cmで，いずれも壁際に位置し，古い段階の建物の構造に関連するピットと思われる。

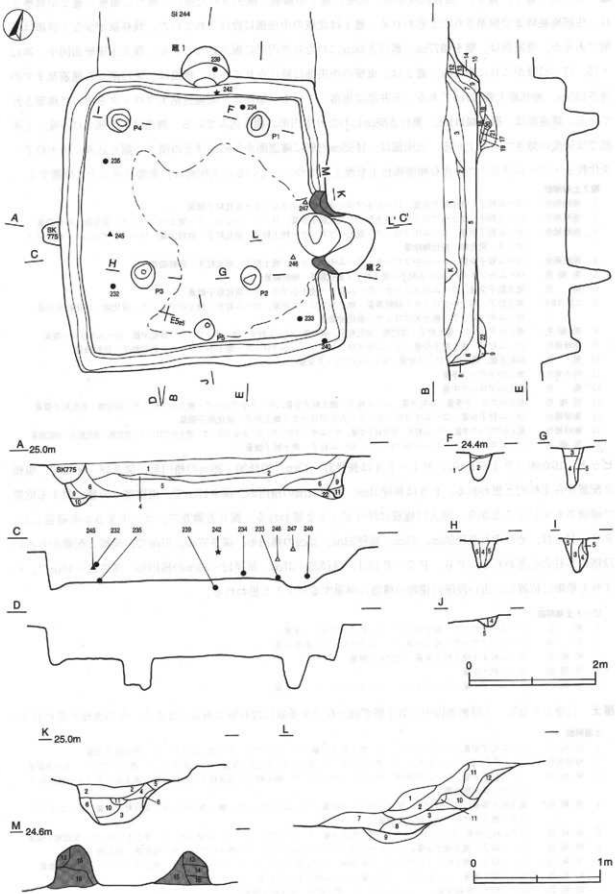
ピット土層解説

1	褐　色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土中ブロック少量
2	褐　色	ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・砂粒少量
3	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4	暗 褐 色	ローム粒子少量
5	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

覆土　11層からなる。土層断面図中，第４層が焼土粒子を多量に含む層であることから，人為堆積と思われる。

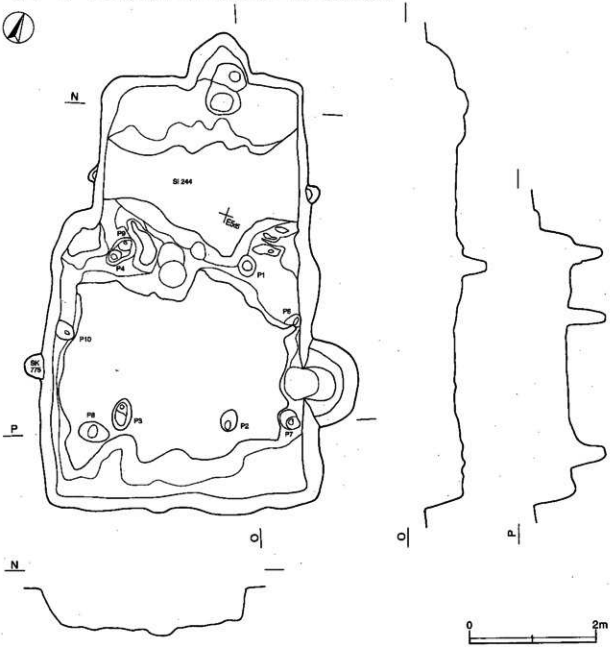
土層解説

1	黒 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2	極暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
3	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
4	黒 褐 色	焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土大ブロック・炭化物微量
5	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
6	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
7	黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
8	暗 褐 色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
9	暗 褐 色	ローム粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量

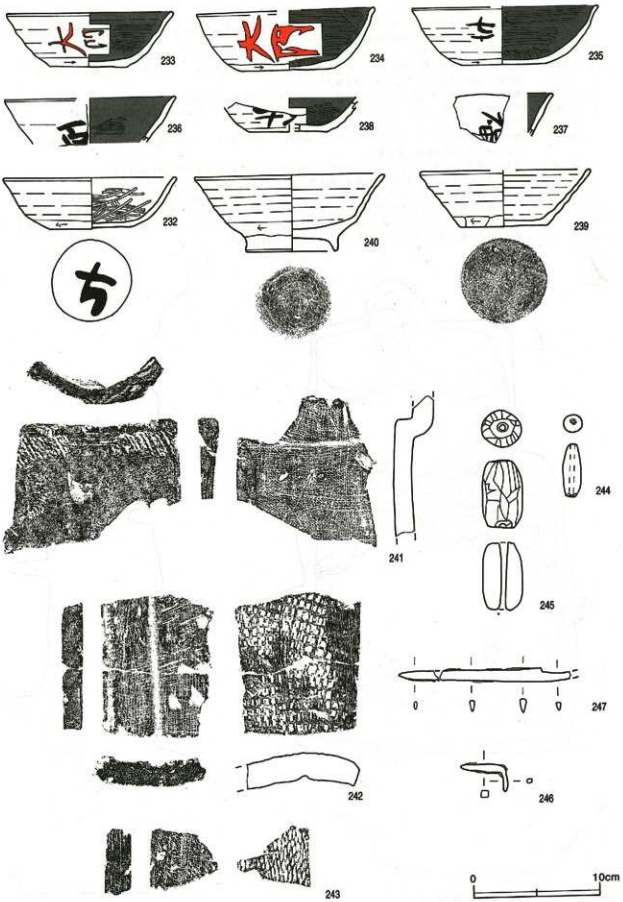


第83図　第229号住居跡実測図(1)

11　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
12　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂粒中量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子・粘土ブロック少量，ローム小ブロック・炭化物微量（竈１覆土）
13　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・　焼土小ブロック・炭化粒子微量（竈１覆土）
14　極暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化物・砂粒・黒色土ブロック微量（竈１覆土）
15　暗赤褐色　焼土粒子・炭化物多量，焼土中ブロック中量，ローム小ブロック少量（竈１覆土）
16　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム大ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量(貼床)
17　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物少量，ローム小ブロック・炭化材微量（竈１覆土）
18　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化物・砂粒微量（竈１覆土）
19　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・砂粒微量（竈１覆土）
20　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（竈１覆土）
21　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物微量（竈１覆土）
22　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量(貼床)



第84図　第229号住居跡実測図（２）



第85図　第229号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片1385点，須恵器片337点，灰釉陶器片３点，瓦３点，土製品５点（紡錘車２・土錘２・支脚１），鉄器２点（鎌・刀子），鉄滓１点，撹乱により混入したみられる陶器片３点が出土している。第85図232～238は土師器坏である。232は覆土上層から中層にかけて出土した土器片が接合したもので，底部外面には「古」と墨書されている。233は南東部の覆土上層から下層にかけて出土した土器片が接合したもので，体部外面には「大門」と朱書されている。234は北壁寄りの覆土下層から出土し，体部外面には「大門」と朱書されている。235は西壁寄りの床面直上から出土し，体部外面には「七十」と墨書されている。236～238は覆土上層から出土し，体部外面に墨書が見られる。236・238は墨痕は明瞭であるが，遺存部分だけでは判読不能である。237の墨書は「福」と思われる。239の須恵器坏は竈１の燃焼部の埋土中から正位の状態で，240の須恵器高台付坏は南東コーナー部の覆土下層から正位で出土している。241の丸瓦，242・243の平瓦は覆土上層から出土している。なお242は，第242号住居跡の覆土上層から出土した破片と接合関係にある。244・245は土錘である。244は覆土上層から，245は西壁寄りの覆土中層から出土している。246の鎌，247の刀子は竈２の前の覆土上層から出土している。

所見　掘り方調査で確認されたピットの配置から，本跡は，上屋の建て替えが行われた可能性が考えられる。建て替え後の本跡の時期は，出土土器から９世紀後葉と推定される。

第229号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 232	坏 土師器	A 13.6 B 4.2 C 6.4	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。内面ヘラ磨き。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	90% ＰＬ196 底部外面墨書 「古」
233	坏 土師器	A 13.2 B 5.5 C 6.2	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・長石 橙色 良好	80% ＰＬ196 体部外面朱書 横位「大門」
234	坏 土師器	A [14.2] B 4.8 C 7.4	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母・長石 黒褐色 普通	60% ＰＬ195 体部外面朱書 横位「大門」
235	坏 土師器	A 14.8 B 4.6 C 6.9	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。内面ヘラ磨き，黒色処理	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	65% ＰＬ195・247 体部外面墨書 正位「七十」
236	坏 土師器	A [13.3] B (3.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	20% ＰＬ248 体部外面墨書 正位「古」
237	坏 土師器	B (3.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 良好	5% ＰＬ248 体部外面墨書 横位「福」か
238	坏 土師器	B (2.0) C [6.2]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	20% 体部外面墨書 倒位「懲」か
239	坏 須恵器	A [13.7] B 4.7 C 7.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外横して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	70% ＰＬ195
240	高台付坏 須恵器	A 15.1 B 6.1 D 7.1 E 1.3	底部と体部の境に稜をもつ。体部は外横して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台はほぼ垂下する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色	95% ＰＬ195 二次焼成

遺物番号	器種	計測値						特徴	備考
		玉縁幅稜(cm)	玉縁部長(cm)	背部上幅(cm)	筒部長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
241	丸瓦	(5.2)	(1.5)	(10.5)	(10.3)	1.6	(324.0)	凸面縄目叩き。凹面布目痕。	ＰＬ261

遺物番号	器種	計測値					特徴	備考
		幅(cm)		長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
		上幅(cm)	下幅(cm)					
第85図242	平瓦	−	(9.7)	(11.7)	2.5	(338.0)	凸面格子目叩き。凹面糸切り痕，布目痕，指頭痕。	
243	平瓦	(6.2)		(5.4)	2.4	(80.3)	凸面縄目叩き。凹面糸切り痕，布目痕。	

遺物番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
244	管状土錘	4.2	1.5	0.6	0.3	6.3	土製	表面ナデ。	
245	管状土錘	5.4	3.1	1.8	0.5	59.0	土製	表面ヘラ削り。	

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
246	鎹	(4.0)	(2.4)	0.5	(4.3)	鉄	断面正方形。	

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
247	刀子	[13.8]	[11.6]	1.1	0.5	(2.2)	(13.8)	鉄	片関。	

第232号住居跡（第86・87図）

位置　調査区域の中央部，E 6 d1区。

重複関係　第255号住居跡を掘り込み，第26号溝に掘り込まれているので，第255号住居跡より新しく，第26号溝より古い。

規模と平面形　長軸3.17m，短軸3.14mの方形である。

主軸方向　N−11°−W

壁　壁高は30～45cmで，ほぼ直立する。

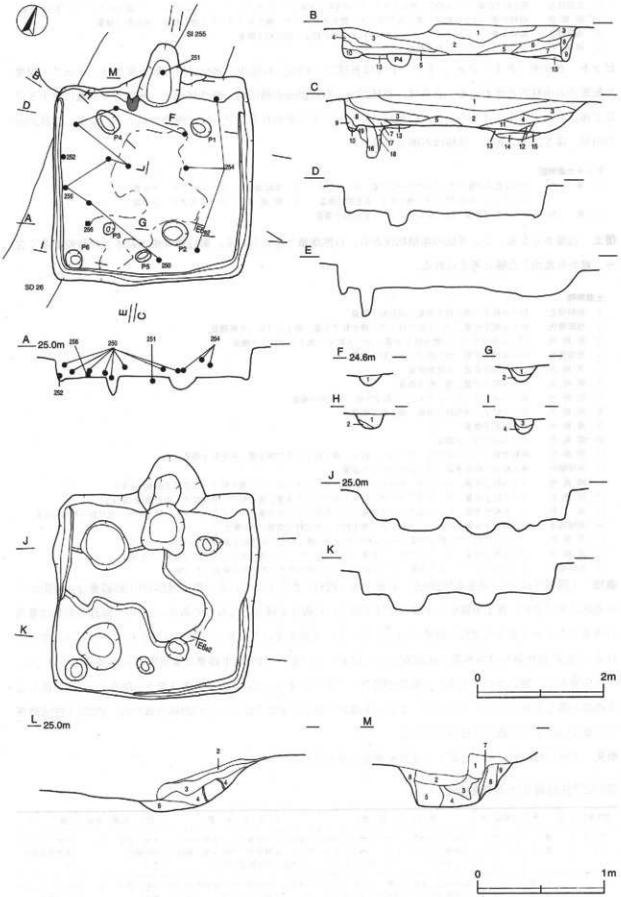
壁溝　北壁を除き，壁下を巡っている。上幅9～18cm，下幅5～9cm，深さ11cm，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。4か所の主柱穴の内側は地山のロームを床としているが，その外周部は貼床である。貼床は，中央部を掘り残すように，確認面から60cmほど掘り込み，焼土粒子及び炭化粒子をわずかに含むローム主体の暗褐色土を埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部まで101cm，袖部最大幅は，東袖が残存しないが，93cmと推定される。天井部は崩落している。煙道部は壁を幅105cm，奥行き62cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道部は50度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から63cmの深さで，長径80cm，短径67cmの不整楕円形に掘り込み，ローム主体の暗褐色土を埋土し，焚口部の手前までは貼床とし，奥を火床面としている。火床面は北壁ライン上に位置し，火熱を受け硬化している。煙道の立ち上がり部には，土師器小形甕が支脚に転用され，逆位で据えられている。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
2　黒褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
5　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒微量



第86図　第232号住居跡実測図

6　極暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
7　暗 褐 色　砂粒中量，ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　極暗褐色　砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子微量

ピット　6か所（P１～P６）。P１～P４は長径22～45cm，短径20～38cmの楕円形，深さ18～30cmで，規模や配置から主柱穴と思われる。P５は，長径25cm，短径20cmの楕円形，深さ46cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P６は，南西コーナーに位置し，径30cmの円形，深さ29cmである。性格は不明である。

ピット土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム大ブロック中量
4　暗 褐 色　ローム大ブロック中量

覆土　12層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。第12層は焼土粒子及び砂粒を多く含み，竈から流出した層と考えられる。

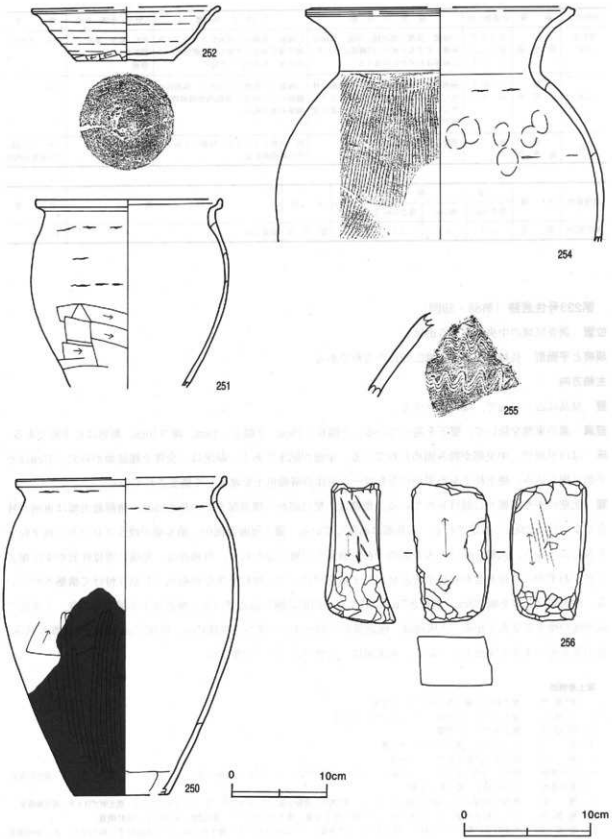
土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック極微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒 褐 色　ローム粒子中量，炭化物微量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　暗 褐 色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
9　暗 褐 色　ローム粒子微量
10　暗 褐 色　ローム小ブロック微量
11　暗 褐 色　砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量，炭化粒子微量
12　極暗褐色　焼土粒子・砂粒多量，ローム小ブロック少量
13　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）
14　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量（貼床）
15　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）
16　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（P５覆土）
17　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（P５覆土）
18　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（P５覆土）
19　極暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（P５覆土）

遺物　土師器片273点，須恵器片280点，石器１点（砥石）が出土している。第87図250の土師器甕は西壁際から中央部にかけての，覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。251の土師器小形甕は竈内の煙道立ち上がり部から逆位の状態で出土している。火熱を受けており，支脚に転用されていたものと考えられる。252の須恵器坏は西壁際の床面直上から出土している。254の須恵器甕は東壁際から中央部にかけての，覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。255の須恵器甕は覆土上層から，256の砥石は南西部の覆土下層から出土している。なお，南西部の覆土上層から出土した円面硯の破片は，第234号住居跡覆土下層から出土した破片と接合している。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀後葉と推定される。

第232号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備　考
第87図 250	甕 土 師 器	A [22.0] B 33.4 C [10.0]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，下位横位のヘラ削り後，縦位のヘラ磨き。内面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通	30%　ＰＬ196 体部外面煤付着
251	小 形 甕 土 師 器	A 14.6 B (15.0)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，下位横位のヘラ削り。内面ヘラナデ。外面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	60%　ＰＬ196 二次焼成



第87図　第232号住居跡出土遺物実測図

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 252	坏 須恵器	A [14.7] B 4.2 C 7.7	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 橘灰色 普通	60% PL195
254	甕 須恵器	A [20.4] B (18.5)	頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外反して開く。口縁端部はつまみ上げられている。口縁部内・外面に1条の沈線が巡る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き。体部内面指頭押圧，輪積み痕を残す。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	15%
255	甕 須恵器	B (7.4)	頸部の破片。頸部は外反する。	内・外面ロクロナデ。外面に3条1単位の櫛描波状文。	砂粒・長石 灰色，良好	5% PL244 内・外面自然釉

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第87図256	砥石	(11.0)	6.3	5.1	(490)	凝灰岩	砥面3面。	PL283

第233号住居跡（第88・89図）

位置　調査区域の中央部，E5d9区。

規模と平面形　長軸3.13m，短軸2.92mの方形である。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は22～33cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の東側を除いて，壁下を巡っている。上幅6～15cm，下幅5～10cm，深さ10cm，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。全面が貼床である。貼床は，全体を確認面から32～37cmほど平坦に掘り込み，焼土粒子をわずかに含むローム主体の暗褐色土を埋土して構築されている。

竈　北壁のやや東寄りに設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ95cm，袖部最大幅は東袖が残存しないため120cmと推定される。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第6層が焼土ブロック・焼土粒子を含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。西袖部は，先端に雲母片岩が4片据えられ，わずかに砂粒を含む褐色土を芯材にして粘土ブロック・砂粒を含む暗褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は，壁を幅123cm，奥行き74cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は下半部では20度，上半部では50度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から30cmほどの深さで長径45cm，短径37cmの楕円形に掘り込み，地山面をそのまま火床面としている。火床面は，北壁ライン上に位置する。

竈土層解説

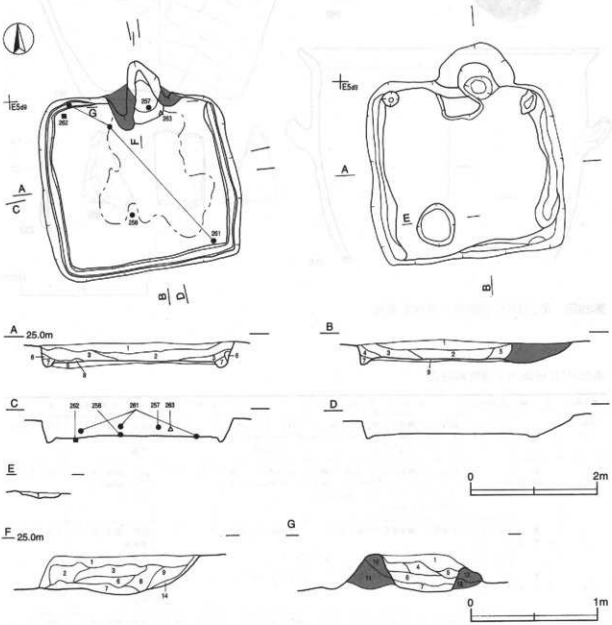
1　暗褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
2　黄褐色　焼土小ブロック中量，ローム小ブロック少量
3　明褐色　焼土小ブロック中量
4　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック中量
5　褐　色　砂粒混じり粘土小ブロック中量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化物微量
7　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
8　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
9　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
10　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
11　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
12　褐　色　砂粒混じり粘土中ブロック中量
13　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量
14　褐　色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量

覆土　8層からなる。各層にロームブロックが含まれることや，遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗 褐 色	ローム粒子小量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2	褐　色	ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐　色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
4	褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
5	褐　色	砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物・粘土中ブロック微量
6	にぶい褐色	ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
7	褐　色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
8	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
9	褐　色	ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量（貼床）

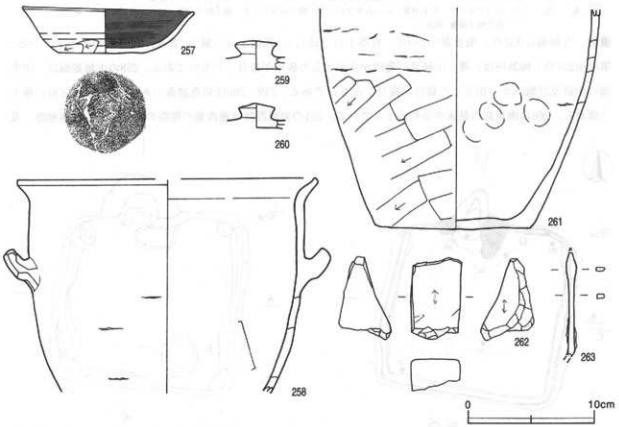
遺物　土師器片357点，須恵器片150点，石器１点（砥石），鉄器１点（鎌），雲母片岩６点が出土している。第89図257の土師器坏は，覆土中層及び竈内から出土した破片が接合したものである。258の土師器甑は，中央部の床面及び竈内から出土した破片が接合したものである。259・260は須恵器蓋である。259は竈付近の覆土上層から，260は南東部の貼床中から出土している。261の須恵器鉢は竈西側の壁際の床面直上，竈西袖際，及



第88図　第233号住居跡実測図

び南東コーナー際の床面から出土した破片が接合したものである。竈西袖際から出土した底部片は内面が二次焼成を受けている。262の砥石は，北西コーナー際の床面から，263の鉄鏃は，竈焚口部付近の覆土下層から出土している。雲母片岩は，4点が竈西袖の先端部に貼り付けられた状態で出土している。竈の補強材として使用されていたものと思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から9世紀中葉と推定される。



第89図　第233号住居跡出土遺物実測図

第233号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図 257	坏 土師器	A 13.6 B 3.8 C 6.5	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	70%　PL195
258	甕 土師器	A [23.7] B [16.9]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。頸部下端にL字状の把手が付く。	口縁部僅ナデ。体部内面ヘラナデ。内・外面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	20%　PL196
259	蓋 須恵器	B (2.3) F 3.4 G 1.1	天井部片。擬宝珠形のつまみが付く。	つまみ貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	5%
260	蓋 須恵器	B (2.0) F 2.9 G 1.1	天井部片。擬宝珠形のつまみが付く。	つまみ貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	5%
261	鉢 須恵器	B (17.6) C 12.5	底部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面下位斜位のヘラ削り。体部内面指頭押圧後，ナデ。輪積み痕あり。	砂粒・雲母・長石 黄橙色 普通	20%　PL196 二次焼成

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第89図262	砥石	(5.5)	4.0	4.2	(90.6)	凝灰岩	砥面2面。	PL252

遺物番号	器種	計測値								材質	特徴	備考
		全長(cm)	脚身長(cm)	脚身幅(cm)	笠状長(cm)	笠状幅(cm)	茎長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第89図263	鏃	(8.2)	(2.2)	0.8	5.0	0.4	(1.0)	0.4	(9.4)	鉄	脚身部三角形。	PL256

第234号住居跡（第90・91図）

位置　調査区域の中央部，Ｅ５e9区。

規模と平面形　竈の両脇に柳状施設が付設されている。それを含めて，長軸3.53m，短軸3.26mの方形である。東側は手前の幅92cm，奥行き24cmの台形，西側は手前の幅140cm，奥行き47cmの台形で，それぞれの床面からの高さは32cmである。覆土は，土層断面図中第１層と同一のものである。

主軸方向　Ｎ－10°－Ｗ

壁　壁高は50～60cmで，ほぼ直立する。

壁溝　北壁を除いて，壁下を巡っている。上幅８～18cm，下幅４～20cm，深さ８cm，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。全面が貼床である。貼床は，確認面から97cmほどの深さでほぼ平坦に掘り込み，焼土粒子及び炭化粒子をわずかに含むローム主体の褐色土を埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ97cm，袖部最大幅は，東袖が残存しないが115cmと推定される。天井部は崩落している。袖部は灰褐色粘土ブロックを多量に含む暗褐色土を芯材にして，砂粒を含む暗褐色土を貼り付けて構築されている。西袖部の内側は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，壁を幅135cm，奥行き52cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は，65度の傾きで立ち上がる。煙道の立ち上がり手前には，土製支脚が埋め込まれている。火床部は，確認面70cmの深さで径65cmほどの円形に掘り込み，ローム粒子を含んだ褐色土を埋土してつくっている。火床面は北壁ラインの外側に位置し，火熱を受け硬化している。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　褐　色　焼土小ブロック・砂粒混じり粘土中ブロック中量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
5　暗褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・砂粒少量，炭化材微量
6　褐　色　焼土中ブロック・砂粒混じり粘土大ブロック中量
7　にぶい赤褐色　焼土小ブロック中量
8　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
9　明赤褐色　焼土粒子多量
10　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物少量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化材微量
11　暗褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
12　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
13　暗褐色　粘土ブロック多量，砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
14　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量（掘り方）

覆土　10層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

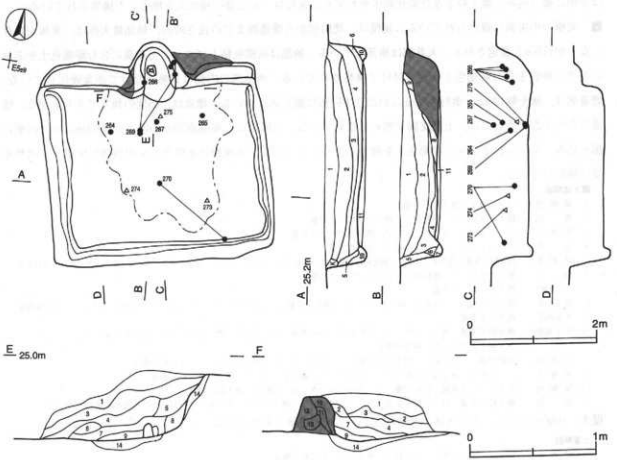
土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

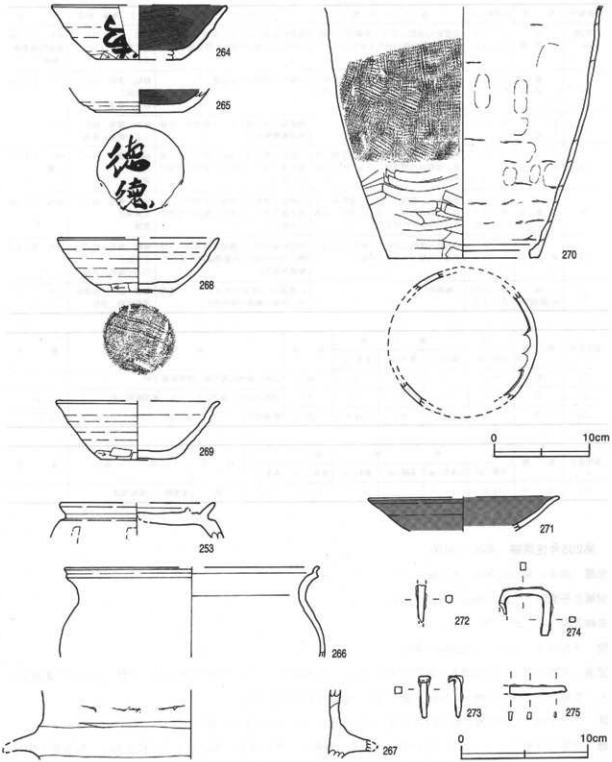
6　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・砂粒微量
9　暗 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
10　褐　　色　ローム小ブロック多量
11　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）

遺物　土師器片694点，須恵器片488点，灰釉陶器片３点，鉄器・鉄製品４点（釘２・刀子１・閂１），雲母片岩１点，混入したと見られる縄文土器片１点が出土している。第91図の264・265の土師器坏は，覆土中層から出土している。264は体部外面に倒位で「徳」と，265は底部外面に「徳徳」と墨書されている。266の土師器甕は竈内と竈前の覆土下層から出土した破片が接合している。267の土師器羽釜は中央部の覆土上層から出土している。268・269は須恵器坏である。268は覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合したもので，体部外面には火襷が認められる。269は中央部の覆土下層から出土している。270の須恵器甑は南壁際と中央部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。271の灰釉陶器皿は覆土中層から，272・273の釘は覆土上層から，274の閂は中央部の覆土中層から，275の刀子は中央部の覆土中層から出土している。253の円面硯は覆土下層から出土し，第232号住居跡の覆土上層から出土した破片と接合関係にある。なお，墨痕が認められるが細片のため図示できなかった土師器片が，３点出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から９世紀後葉と推定される。



第90図　第234号住居跡実測図



第91図　第234号住居跡出土遺物実測図

第234号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第91図 253	円面硯 須恵器	A [12.0] B (2.8)	脚台部から硯面部にかけての破片。透かし孔は長方形か。	硯面部に内耳貼り付け。透かし孔ヘラ切り。	砂粒・長石・石英 灰色，普通	40%　PL196
264	坏 土師器	A [13.8] B　4.3 C [6.7]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 良好	20%　PL248 体部外面墨書 例位「徳」

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第91図 265	坏 土師器	B (1.9) C 6.9	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。底部1方向のヘラ削り。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色 良好	30% PL248 底部外面墨書「他部」
266	甕 土師器	A [20.2] B (7.1)	頸部から口縁部の破片。口縁部は外反し，口縁端部はつまみ上げられ，内・外面に1条の沈線が巡る。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 赤色粒子 橙色，普通	10% PL196
267	羽釜 土師器	B (5.5)	環状の鍔部片。	鍔部貼り付け後，上・下面ナデ。体部外面輪積痕あり。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色，普通	5%
268	坏 須恵器	A [12.6] B 4.2 C 5.4	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	60% PL196 火襷
269	坏 須恵器	A [12.9] B 4.5 C 5.9	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外側して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	60% PL196
270	甑 須恵器	B (26.5) C 15.8	底部から体部にかけての破片。5孔式。体部は外側して立ち上がる。	体部外面中位以上縦格子目叩き，下位横位のヘラ削り。内面指頭押圧後ナデ。輪積み痕あり。	砂粒・雲母・長石 赤色粒子 にぶい橙色，普通	20% PL196
271	皿 灰釉陶器	A [15.0] B (3.2)	口縁部片。	口縁部内・外面ロクロナデ。口縁部内・外面に釉薬の刷毛塗り。	緻密，胎土 灰黄色 浅黄色釉，良好	5%

遺物番号	器種	計測値 全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考
272	釘	(3.1)	—	0.5	(3.6)	鉄	頭部・脚部先端欠損。脚部断面方形。	
273	釘	3.4	1.0	0.5	4.3	鉄	頭部が直角に曲げられている。脚部断面方形。	PL256
274	鋲	(3.9)	4.2	0.4	(13.3)	鉄	断面長方形。	PL257

遺物番号	器種	計測値 全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考
275	刀子	(4.6)	—	—	—	(4.6)	(2.6)	鉄	茎部破片，茎尻欠損。	

第235号住居跡（第92～94図）

位置　調査区域の中央部，E 5 h0区。

規模と平面形　一辺2.65mの方形である。

主軸方向　N－20°－W

壁　壁高は56～58cmで，ほぼ直立する。

壁溝　南西コーナー部が調査区域外であるため，この部分については不明であるが，全周していたと推測される。上幅11～17cm，下幅5～10cm，深さ12cm，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山のロームを平坦に掘り込んで，床面としている。

電　北壁の北東コーナー寄りに設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ90cm，袖部最大幅114cmである。天井部は崩落している。袖部は，粘土粒子を多量に含むオリーブ褐色土を芯材にして，粘土ブロックを含む暗褐色土を貼り付けて構築されている。袖部の内側は火熱を受け赤変している。煙道部は，壁を幅100cm，奥行き70cmにわたり角の丸い三角形に掘り込み，奥壁に黒褐色土及び褐色土を貼り付け構築されている。煙道は50度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から60cmほどの深さに掘り込み，地山面を火床面としている。火床面は，北壁ライン上に位置する。煙道部の立ち上がり部には，須恵器甕の体部片が据えられ，その上に土師器甕の体部片が重ねられている。これらは火熱を受け赤変していることから，支脚として転用されていたと思われる。

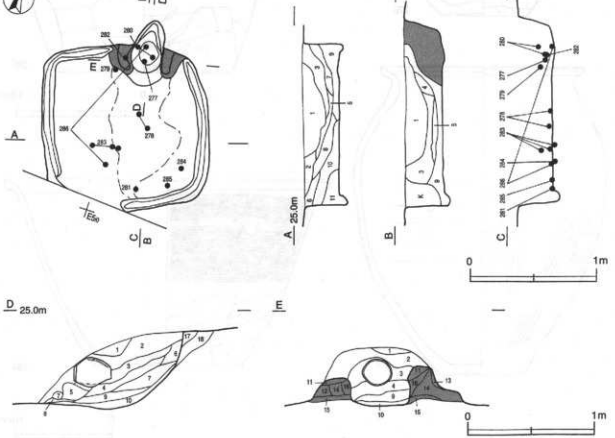
覆土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
3　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土中ブロック・砂粒中量，焼土小ブロック少量，焼土粒子微量
5　極暗褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量
7　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック中量
8　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
9　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子中量
10　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
11　黒　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土ブロック少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
12　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
13　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
14　オリーブ褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
15　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
16　にぶい赤褐色　焼土中ブロック中量，焼土小ブロック少量，焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
17　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量（掘り方）
18　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量（掘り方）

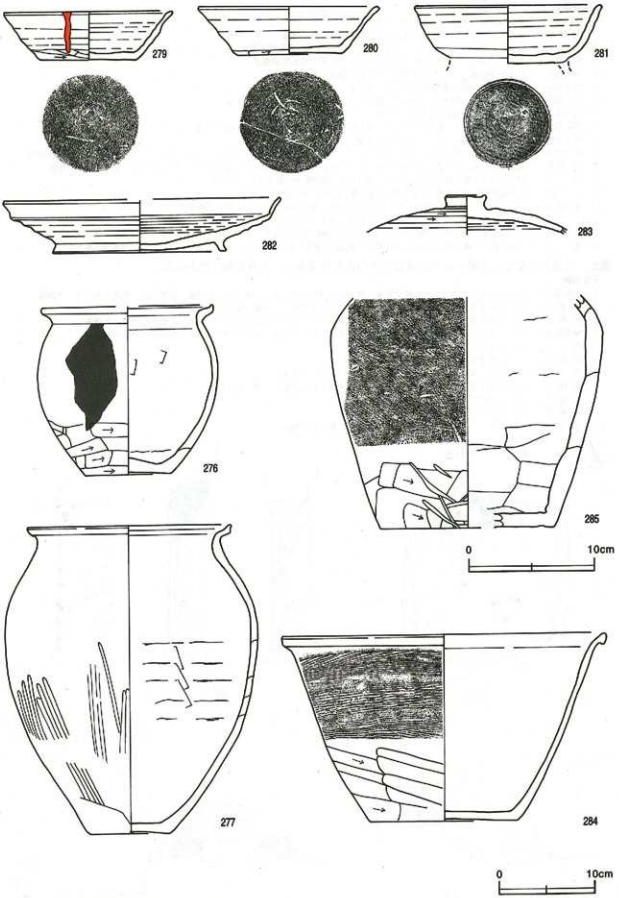
覆土　11層からなる。各層のロームブロックの含有状況から，人為堆積と思われる。

土層解説

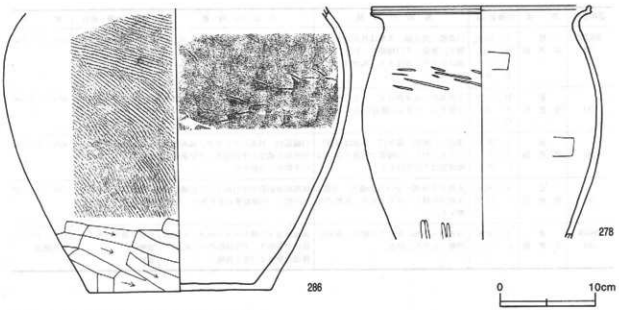
1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量，炭化粒子・黒色土小ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，黒色土小ブロック微量
4　極暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・黒色土小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
5　黒　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量
7　黒　褐　色　ローム粒子多量，黒色土粒子中量，ローム小ブロック少量
8　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，黒色土粒子少量，　焼土粒子微量
9　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
11　褐　色　ローム小ブロック・黒色土小ブロック少量，焼土粒子微量



第92図　第235号住居跡実測図



第93図　第235号住居跡出土遺物実測図(1)



第94図　第235号住居跡出土遺物実測図（2）

遺物　土師器片245点，須恵器片82点，撹乱により混入したとみられる陶器片１点が出土している。276の土師器小形甕は，北東コーナー部の覆土下層から出土している。第93・94図277・278は，土師器甕である。277は竈内から横位で，278は中央部の床面直上から破片の状態で出土している。279・280は，須恵器坏である。279は竈西袖前の覆土下層から，280は竈内から出土している。281の須恵器高台付坏は中央部南壁寄りの床面直上から正位で，282の須恵器蓋は竈西袖上から斜位で，283の須恵器蓋は中央部の覆土下層から床面にかけて破片の状態で，284の須恵器鉢は南東コーナー寄りの床面から正位で，285の須恵器壺は南東コーナーの床面直上から出土している。286の須恵器甕は，底部が中央部南寄りの床面から正位で出土し，支脚に転用されていた体部片と接合関係にあることから，破損した後，底部が何らかの形で使用されていた可能性が考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀後葉と推定される。

第235号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第93図 276	小形甕 土師器	A〔13.6〕 B 13.4 C 7.0	口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位横位のヘラ削り，内面ヘラナデ，輪積み痕あり。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	70%　ＰＬ196 体部外面煤付着
277	甕 土師器	A 21.1 B 32.4 C 8.4	体部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位横位のヘラ削り，内面ヘラナデ，輪積み痕あり。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通	95%　ＰＬ197
第94図 278	甕 土師器	A 23.0 B〔24.6〕	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	25%　ＰＬ198
第93図 279	坏 須恵器	A 13.4 B 4.0 C 7.7	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 暗灰黄色 普通	100%　ＰＬ196 体部外面糸墨痕
280	坏 須恵器	A 14.2 B 3.9 C 8.3	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	90%　ＰＬ196
281	高台付坏 須恵器	A 14.7 B〔4.6〕	高台部欠損。体部は下位に接を有し外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	90%　ＰＬ196

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第93図 282	鉢 須恵器	A [21.9] B 4.2 D 13.6 E 0.8	口縁部一部欠損。体部は外方に大きく開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ割り後，高台貼り付け，ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	90% PL196
283	壺 須恵器	B (3.2) F 3.4 G 0.9	天井部片。天井部は丸く，なだらかに下降する。つまみは腰高のボタン状。	天井部回転ヘラ割り。口縁部内・外面ロクロナデ。	粗い，砂粒・雲母・長石・小礫 暗灰黄色，普通	60% PL196
284	鉢 須恵器	A 34.3 B 19.7 C 15.8	体部・口縁部一部欠損。体部は外横して立ち上がり，口縁部で屈曲する。口縁端部は下に突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上横位の平行叩き，下位斜位のヘラ割り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	80% PL198
285	壺 須恵器	B (18.4) C [13.7]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外横して立ち上がり，肩部で内彎する。	体部外面斜位の平行叩き，下位横位のヘラ割り。内面輪積み痕を残す。ナデ。	砂粒・長石 暗灰色 良好	40% PL197
第94図 286	甕 須恵器	B (29.8) C 19.2	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面上位横位の平行叩き。中位斜位の平行叩き，下位斜位のヘラ割り。体部内面無文の当て具痕。	砂粒・雲母・長石 黄褐色 良好	40% PL197 二次焼成

第236号住居跡（第95図）

位置　調査区の中央部，E5e8区。

重複関係　第738号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸2.77m，短軸2.68mの方形である。

主軸方向　N－20°－W

壁　壁高は25～35cmで，ほぼ直立する。

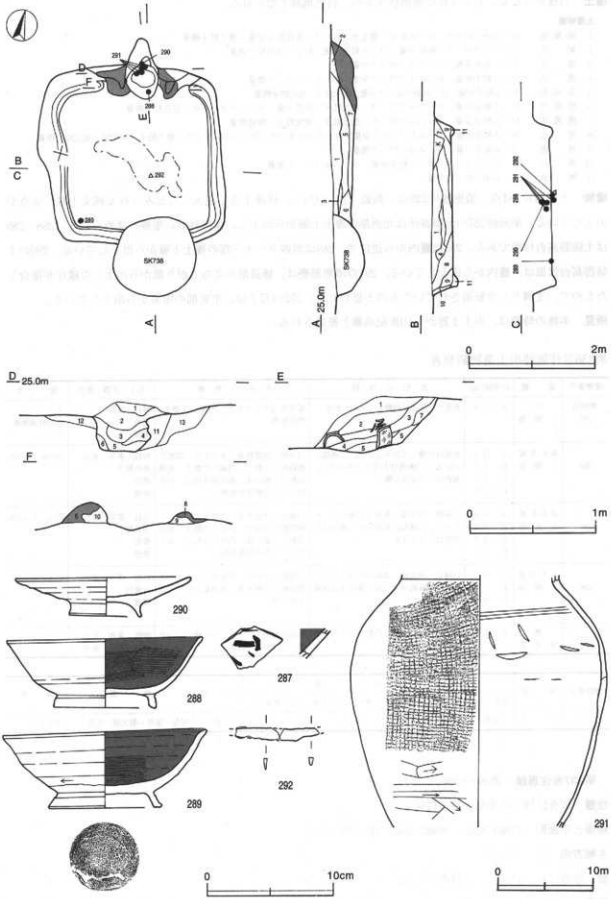
壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅9～15cm，下幅5～10cm，深さ5cm，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山のロームを平坦に掘り込み，床面としている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ98cm，袖部最大幅132cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第3層が焼土ブロック・粘土ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は，粘土ブロック・砂粒を含む黒褐色土で構築されている。煙道部は，壁を幅120cm，奥行き45cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は，50度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から45cmほどの深さで，長径54cm，短径48cmの楕円形に掘り込み，地山面を火床面としている。火床面は北壁ラインの内側に位置し，火熱を受けて硬化している。煙道部の立ち上がり部には，須恵器甕の体部片が据えられ，その上に土師器甕の体部片が重ねられている。これらは火熱を受け赤変していることから，支脚として転用されていたと思われる。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
3　褐　色　焼土小ブロック・粘土中ブロック中量，焼土中ブロック少量
4　褐　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
5　極暗褐色　焼土粒子中量
6　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
7　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　暗褐色　粘土中ブロック・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子小量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
10　黒褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
11　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック・砂粒微量（掘り方）
12　暗褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量（掘り方）
13　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量（掘り方）



第95図　第236号住居跡・出土遺物実測図

覆土　11層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
8　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
10　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
11　褐　色　ローム中ブロック少量

遺物　土師器片284点，須恵器片239点，鉄器１点（刀子），鉄滓１点，混入したとみられる縄文土器片２点が出土している。第95図287の土師器坏は北西部の覆土上層から出土し，体部外面に墨書が認められる。288・289は土師器高台付椀である。288は竈内から逆位で，289は南西コーナー部の覆土下層から出土している。290の土師器高台付皿は，竈内から出土している。291の須恵器甕は，煙道部の立ち上がり部から出土した破片が接合したもので，支脚として転用されていたものと思われる。292の刀子は，中央部の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から10世紀前葉と推定される。

第236号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第95図 287	坏 土師器	B（2.4）	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。黒色処理。	砂粒・雲母 橙色 普通	5％ 体部外面墨書 ［□］
288	高台付椀 土師器	A 15.4 B 5.7 D 8.0 E 1.1	体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 赤色粒子 橙色 普通	100％　ＰＬ196
289	高台付椀 土師器	A 15.4 B 6.2 D 9.0 E 1.3	口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。高台はハの字状にふんばる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 赤色粒子 橙色 普通	85％　ＰＬ196
290	高台付皿 土師器	A 13.7 B 3.3 D 5.6 E 1.0	口縁部一部欠損。体部は外方に大きく開き，口縁部にいたる。高台はほぼ垂下する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	60％　ＰＬ196
291	甕 須恵器	B（25.7）	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面格子目叩き，下位横位のヘラ削り，内面当て具痕。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色，普通	20％

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
292	刀子	(6.6)	(4.6)	0.9	0.3	(2.0)	(5.2)	鉄	切先・茎部一部欠損。片関。	ＰＬ254

第237号住居跡（第96・97図）

位置　調査区域の中央部，Ｅ５f7区。

規模と平面形　長軸3.85m，短軸3.26mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－20°－Ｗ

壁　壁高は40～47cmで，ほぼ直立する。

壁溝　南壁と西壁の壁下を巡っている。上幅８～14cm，下幅５～10cm，深さ８cm，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。中央部はロームを床としているが，その外周部は貼床である。貼床は，壁に沿って，幅55～115cm，確認面から深さ50～65cmほどに溝状に掘り込み，焼土粒子及び炭化粒子をわずかに含むローム主体の褐色土で埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ122cm，袖部最大幅110cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第2層が粘土粒子・砂粒を多量に含むことから，天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は，砂粒を含む黄褐色粘土を芯材にして構築されている。煙道部は，壁を幅75cm，奥行き45cmにわたり角の丸い三角形に掘り込んでいる。煙道は，50度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から50cmほどの深さで掘り込んでおり，地山面を火床面としている。火床面は北壁ラインの上に位置し，火熱を受け硬化しているが，焼土化するまでには至っていない。煙道部の立ち上がり部には石製支脚が埋め込まれ，火熱を受けもろくなっており，実測は不能で石材は不明である。また，石製支脚の上には土師器甕の底部が逆位で載せられている。二次焼成を受けていることから，石製支脚と一体で利用されていたと思われる。

竈土層解説

1　暗 褐 色　ローム小ブロック少量
2　褐　　色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・炭化物多量
5　にぶい黄褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
6　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
7　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子多量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化物少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化材・砂粒微量
8　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　褐　　色　ローム小ブロック・焼土粒子少量
10　褐　　色　粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量
11　黄 褐 色　砂粒多量，粘土粒子中量
12　黄 褐 色　粘土粒子多量，砂粒中量
13　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
14　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量（掘り方）

ピット　1か所。P1は長径35cm，短径28cmの楕円形，深さ23cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量

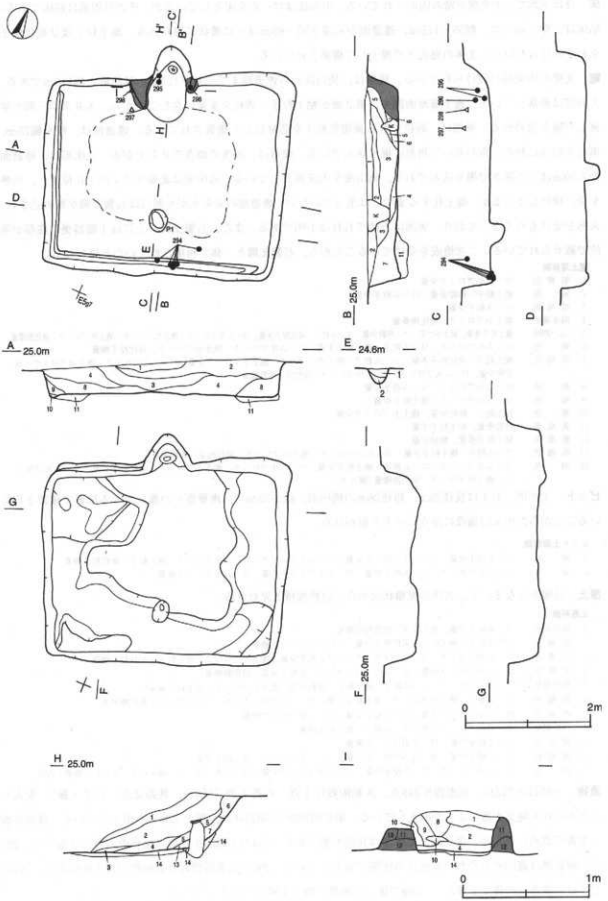
覆土　10層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる。

土層解説

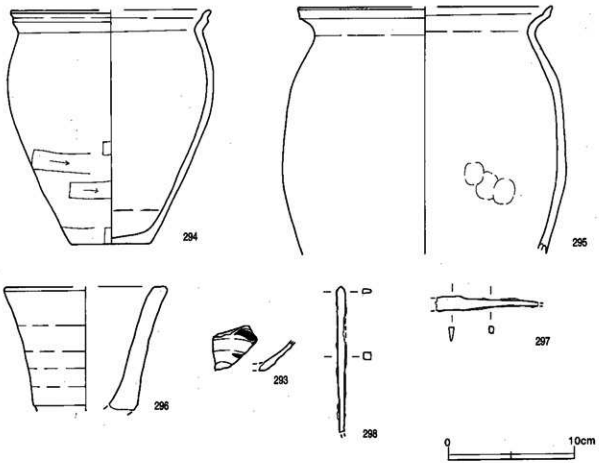
1　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
3　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
5　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
6　暗 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
8　極暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
9　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
10　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
11　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）

遺物　土師器片312点，須恵器片249点，灰釉陶器片1点，石器1点（砥石），鉄器2点（刀子・鎌），混入したとみられる縄文土器片3点が出土している。第97図293の土師器坏は，覆土1層から出土している。体部外面に墨書が認められるが，遺存部分だけでは判読不能である。294の土師器小形甕は南壁際の覆土下層から，295の土師器甕は竈内からそれぞれ破片の状態で出土している。296の須恵器捏鉢は北壁際の覆土中層から，297の刀子は北壁寄りの覆土上層から，298の鎌は北壁際の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から9世紀中葉と推定される。



第96図　第237号住居跡実測図



第97図　第237号住居跡出土遺物実測図

第237号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第97図 293	坏 土師器	B（2.2）	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい赤褐色 普通	5％ 体部外面墨書 「口」
294	小形壺 土師器	A［15.9］ B 18.6 C 6.4	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，下位横位のヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕あり。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	40％　ＰＬ197
295	甕 土師器	A［20.1］ B（19.5）	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位横ナデ。内面指頭押圧。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	20％　ＰＬ197
296	埦 須恵器	A［12.6］ B（9.8）	体部から口縁部の破片。体部は外反して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色，普通	30％　ＰＬ197

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
297	刀子	(8.2)	(1.8)	(1.1)	0.4	(6.5)	(7.3)	鉄	背関。切先・茎尻欠損。	ＰＬ254

遺物番号	器種	計測値								材質	特徴	備考
		全長(cm)	鎺身長(cm)	鎺身幅(cm)	鎺鞍長(cm)	鎺鞍幅(cm)	茎長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
298	鎺	(11.7)	(1.0)	0.7	7.8	0.5	(2.9)	0.5	(16.6)	鉄	長櫛特殊鎺。	

第238号住居跡（第98・99図）

位置　調査区域の中央部，Ｅ５g8区。

規模と平面形　竈の両脇に棚状施設が付設されている。それを含めて，長軸4.12m，短軸3.62mの長方形である。東側は手前の幅143cm，奥行き45cmの台形，西側は手前の幅162cm，奥行き40cmの台形で，床面から棚状施設の上面までの高さは38～40cmである。

棚状施設土層解説

1　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　　ローム粒子少量

主軸方向　N－20°－W

壁　壁高は40～50cmで，ほぼ直立する。

壁溝　北壁を除いて，壁下を巡っている。上幅９～17cm，下幅６～14cm，深さ７cm，断面はU字形である。

土層断面図中，第８層が覆土である。

床　掘り方調査の結果から，床面は２面確認された。第１次の床面は，中央部から旧段階の竈の焚口手前で確認された。確認された範囲では，地山のロームを平坦に掘り込んで，床面としている。第２次の床面は，全面が貼床で，中央部がわずかに高く，踏み固められている。貼床は，第１次の床面上に焼土・炭化物を含むローム主体の褐色土（土層断面図中，第９層）を埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。土層断面の観察結果及び袖部の基部に焼土がみられることから，ほぼ同じ位置でつくり替えが行われていると考えられる。第１次の竈は，火床部及び煙道部と考えられる掘り方が確認された。規模は，長軸100cm，短軸70cmの涙滴形，確認面から80cmほどの深さに掘り込み，ロームブロックを含んだ極暗褐色土を埋土し，火床としている。火床面は床面から10cmほど下がっていたと考えられる。第２次の竈は，焚口部から煙道部までの長さ115cm，袖部最大幅120cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第８層が焼土ブロック・粘土ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は砂粒を含む灰褐色粘土で構築されている。煙道部は，壁を幅60cm，奥行き33cmにわたり三角形に掘り込み，奥壁に暗褐色土を貼り付けて構築されている。煙道は55度の傾きで立ち上がる。火床部は，第１次の火床を10cmほど掘り込み，ロームブロックを含んだ暗褐色土を埋土してつくっている。火床面は北壁ライン上に位置し，火熱を受け硬化しているが，焼土化するまでには至っていない。煙道部の立ち上がり部には，土師器小形甕が逆位で据えられ，その上に須恵器坏などの破片が粘土をはさんで重ねられている。これらは火熱を受け赤変していることから，支脚として利用されていたと考えられる。

竈土層解説

1　褐　　色　　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗 褐 色　　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　　粘土中ブロック少量
4　暗 褐 色　　焼土粒子少量
5　褐　　色　　ローム中ブロック多量
6　暗 褐 色　　ローム小ブロック多量
7　褐　　色　　ローム中ブロック中量，焼土小ブロック少量
8　暗赤褐色　　焼土小ブロック中量，粘土中ブロック少量
9　暗 褐 色　　ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量
10　暗 褐 色　　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量（掘り方）
11　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量（掘り方）
12　暗 褐 色　　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
13　黒 褐 色　　粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
14　黒 褐 色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

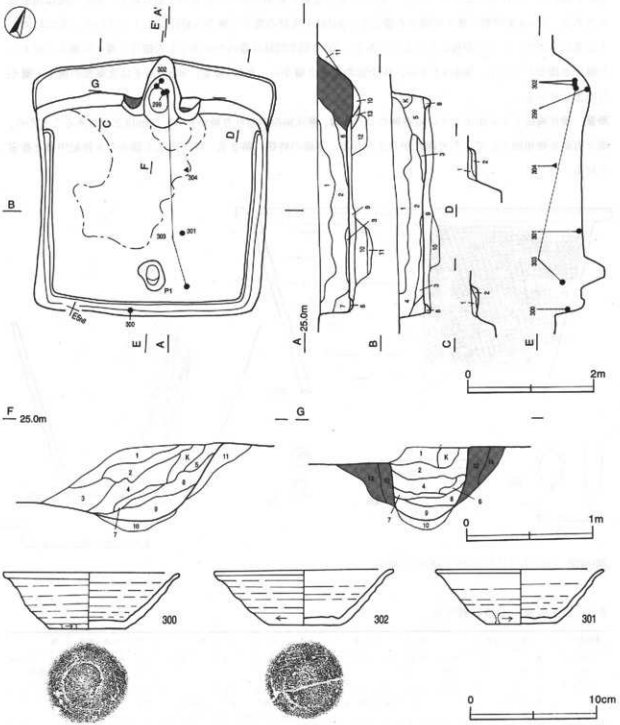
ピット　１か所。Ｐ１は，第２次の床面で確認されている。長径40cm，短径35cmの楕円形，深さ37cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土は，ロームブロックを含む褐色土である。掘り方調査の結果，北東・南東・南西の各コーナー部付近で，長径40～61cm，短

径19～50cmの楕円形，深さ14～18cmのピットが確認された。第１次の主柱穴の可能性が考えられる。

覆土　８層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2	暗褐色	ローム小ブロック少量
3	暗褐色	ローム小ブロック微量
4	褐色	ローム中ブロック中量
5	褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量
6	黒褐色	ローム中ブロック中量
7	褐色	焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子中量

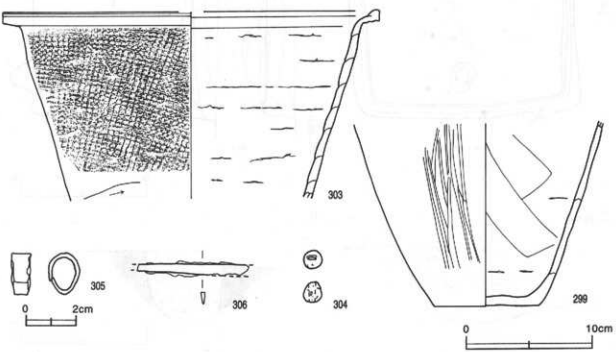


第98図　第238号住居跡・出土遺物実測図

8　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
9　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量（貼床）
10　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量（貼床）
11　暗褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）
12　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）
13　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量（竈1覆土）

遺物　土師器片389点，須恵器片289点，土製品1点（土玉），鉄器2点（刀子・釘），銅製品1点（縁金），混入したとみられる縄文土器片1点が出土している。第99図299の土師器甕は，竈内の煙道部の立ち上がり部から逆位で据えられた状態で出土している。302とともに支脚に転用されていたものと思われる。300～302は須恵器坏である。300は南壁際の覆土中層から横位で，301は中央部の覆土下層から斜位で出土している。302は299の上に重ねられていたものが接合したものである。303の須恵器鉢は竈内から出土した破片と覆土中層から出土した破片が接合している。304の土玉は，中央部の覆土上層から，305の縁金，306の刀子は北東部の覆土下層から出土している。

所見　棚状施設上から出土している遺物のレベルは，棚状施設の掘り方面から5～10cmほど上であることから，掘り方面を使用面としていた可能性が考えられる。本跡の時期（第2次）は，出土土器から9世紀中葉と推定される。



第99図　第238号住居跡出土遺物実測図

第238号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第99図 299	甕 土師器	B (14.6) C 8.1	底部から体部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き，内面斜位のヘラナデ。	砂粒・長石・石英によい黄橙色	40% PL198 二次焼成
第98図 300	坏 須恵器	A 13.9 B 4.4 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 橙色 不良	80% PL197

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第98図 301	坏 須恵器	A 13.4 B 4.3 C 5.5	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	90%　P L 197
302	坏 須恵器	A 14.3 B 4.5 C 5.7	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 赤色粒子 灰白色	75%　P L 197 二次焼成
第99図 303	鉢 須恵器	A [30.0] B (14.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反して開く。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面格子目叩き。内面輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	10%

遺物番号	器　種	計測値					材　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
304	土　玉	1.6	1.4	0.9	0.6	3.0	土　製	外面指頭痕。	P L 250

遺物番号	器　種	計測値					材　質	特　徴	備　考
		長径(cm)	短径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
305	錘　金	1.6	1.2	0.7	0.2	1.5	銅	完存。倒卵形。	P L 258

遺物番号	器　種	計測値						材　質	特　徴	備　考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
306	刀　子	(8.8)	(8.8)	0.9	0.4	—	(8.0)	鉄	刀身部一部残存。	P L 254

第239号住居跡（第100・101図）

位置　調査区域の中央部，E 5 g7区。

規模と平面形　長軸3.37m，短軸2.96mの長方形である。

主軸方向　N－18°－W

壁　壁高は20～32cmで，ほぼ直立する。

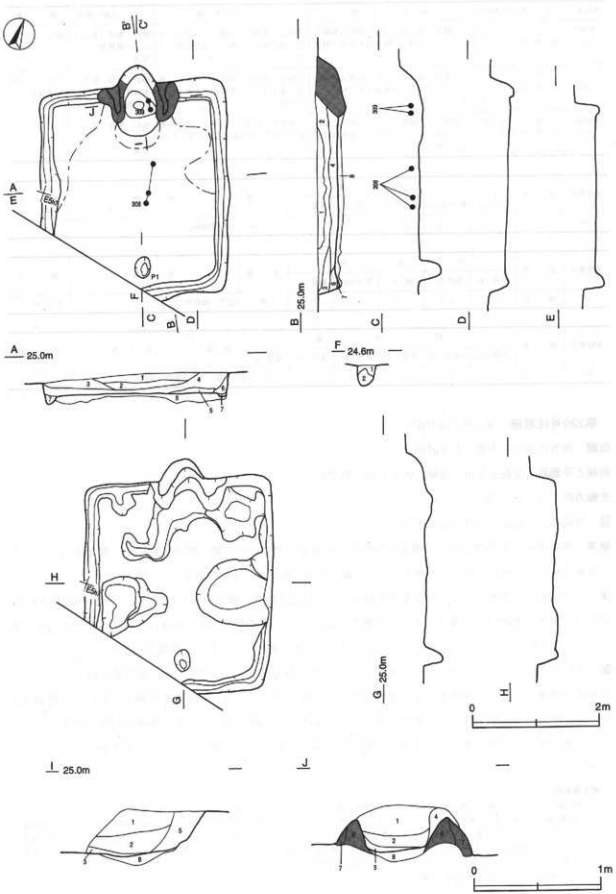
壁溝　南壁中央から西壁にかけて調査区域外のため確認できないが，竈の部分を除いて，壁下を巡っていたと推測される。上幅10～18cm，下幅4～11cm，深さ15cm，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，北東コーナー付近及び北西コーナー付近を除き，踏み固められている。全面が貼床である。貼床は，東西の壁際及び北東コーナーから竈前にかけてを，確認面から深さ50cmほどに不定形の土坑状に掘り込み，焼土粒子及び炭化粒子をわずかに含むローム主体の褐色土を埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ160cm，袖部最大幅108cmである。天井部は崩落している。両袖部とも，基部はロームを掘り残し，その上に砂粒を多量に含む粘土で構築されている。煙道部は，壁を幅70cm，奥行き35cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は43度の傾きで立ち上がり，その後すぐに角度を増す。火床部の掘り方は住居の掘り方と一体化しており，火床面は，ロームブロックを含む褐色土を埋土してつくられている。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
3　黒褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化物微量
4　暗褐色　砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
5　極暗褐色　焼土粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
6　にぶい黄色　粘土ブロック・砂粒多量
7　褐　色　砂粒少量
8　褐　色　ローム中ブロック少量（掘り方）



第100図　第239号住居跡実測図

ピット　1か所。P 1は長径33cm，短径22cmの楕円形，深さ33cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

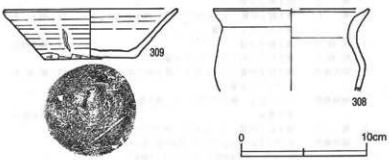
1　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

覆土　7層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる

土層解説

1　暗 褐 色　　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　　ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
5　暗 褐 色　　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
7　褐　　色　　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
8　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）

遺物　土師器片53点，須恵器片18点，混入したとみられる縄文土器片2点が出土している。第101図308の土師器小形甕は，中央部の覆土下層から破片の状態で出土している。309の須恵器坏は，竈内と竈前の覆土中から出土した破片が接合したものである。



第101図　第239号住居跡出土遺物実測図

所見　本跡の時期は，出土土器から9世紀前葉と推定される。

第239号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第101図 308	小形甕 土師器	A [12.3] B (6.6)	体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英にぶい赤褐色 普通	20%
309	坏 須恵器	A 13.8 B 3.9 C 7.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す，多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰オリーブ色 普通	60%　P L197 体部外面ヘラ記号

第240号住居跡（第102・103図）

位置　調査区域の中央部，D 5 j9区。

重複関係　第246号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸4.93m，短軸4.34mの長方形である。

主軸方向　N－90°

壁　壁高は30～40cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分及び南西コーナー部を除いて，壁下を巡っている。上幅8～18cm，下幅5～8cm，深さ11cm，断面はU字形である。

床　中央部がやや高いほかは，ほぼ平坦で踏み固められている。全面が貼床である。貼床は，壁に沿って幅40～90cm，確認面から深さ40～50cmほど溝状に掘り込み，焼土粒子をわずかに含むローム主体の褐色土を埋土して構築されている。P 7の周りの床面には，白色粘土が1～2cmの厚さで貼り付いている。

竈　東壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ121cm，袖部最大幅158cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第６層が焼土ブロック・焼土粒子を含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と考えられる。両袖部はロームを山形に掘り残して基部とし，その周りに粘土ブロック・砂粒を含む暗褐色土を貼り付けて袖部が構築されている。袖部の内側は火熱を受け赤変している。煙道部は，壁を幅85cm，奥行き45cmにわたり角の丸い三角形に掘り込んでいる。煙道は60度の傾きで立ち上がる。火床部は，特に深く掘り込まずに確認面から43cmほどの深さに掘り込み，地山面を火床面としている。火床面は，東壁ラインの内側に位置し，火熱を受け５cmほどの厚さで硬化している。煙道部の立ち上がり部の手前には，南側には雲母片岩が，北側には瓦片が支脚として据えられ，これらの上には土師器坏類が逆位で重ねられた状態で出土している。支脚が２か所確認されていることから，この竈には掛け口が２か所あったものと推測される。

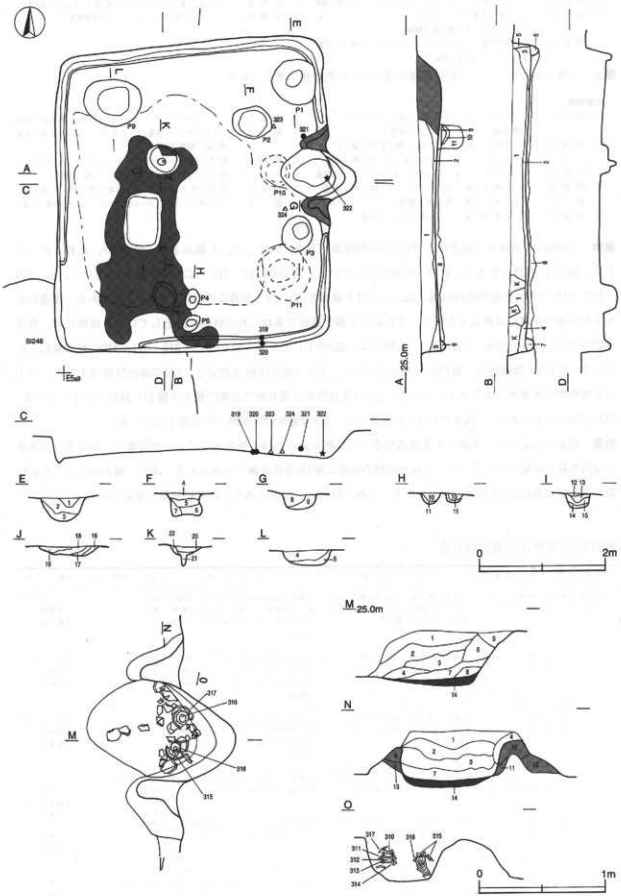
竈土層解説

1　褐　色　焼土小ブロック少量
2　褐　色　焼土粒子少量
3　褐　色　焼土粒子中量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
4　暗褐色　焼土粒子少量
5　暗褐色　焼土粒子・粘土中ブロック少量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
7　極暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量，焼土中ブロック少量，焼土大ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量
10　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
11　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
12　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
13　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量
14　暗赤褐色　ロームが赤変硬化した層

ピット　11か所（Ｐ１～Ｐ11）。Ｐ１は長径77cm，短径71cmの楕円形，深さ58cmで，北東コーナー部に位置する。規模や位置から貯蔵穴の可能性が考えられる。Ｐ２は長径66cm，短径56cmの円形，深さ35cm，Ｐ３は長径56cm，短径49cmの楕円形，深さ29cmで，北東部と竈東袖の南側に位置する。性格は不明である。Ｐ４・Ｐ５は南壁際に位置し，長径31cm，短径22cmの楕円形，深さ15～19cmで，規模と配置から，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６はＰ４のすぐ西側に位置し，長径46cm，短径40cmの楕円形，深さ28cmである。出入口施設に関連するピットと考えられる。Ｐ７・Ｐ８は中央部の西壁寄りに位置する。Ｐ７は長軸95cm，短軸60cmの長方形，深さ14cmである。Ｐ８は長径55cm，短径47cmの楕円形，深さ12cmで，中央に径10cm，床面からの深さ27cmの落ち込みをもつ。Ｐ８は底面に粘土がみられることや形状から，ロクロピットの可能性が考えられ，Ｐ７はそれに関連するものと推測される。Ｐ９は長径92cm，短径75cmの楕円形，深さ28cmで，北西コーナー部に位置する。Ｐ10・Ｐ11は掘り方調査で確認された。Ｐ10は径45cmほどの円形，深さ37cmで，竈の前に位置することから，竈に関連するピットと考えられるが，性格は不明である。Ｐ11は長径85cm，短径80cmの楕円形，深さ64cmで，南東コーナー付近に位置する。性格は不明である。

ピット土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
3　暗褐色　ローム中ブロック微量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
5　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
6　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土中ブロック微量
7　褐　色　ローム中ブロック・焼土中ブロック中量，焼土小ブロック少量
8　褐　色　ローム中ブロック・焼土小ブロック中量，炭化物少量
9　褐　色　ローム中ブロック中量
10　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
12　暗褐色　粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
13　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
14　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
15　褐　色　ローム粒子少量
16　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
17　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第102図　第240号住居跡実測図

18 暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
19 暗褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
20 暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
21 暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
22 暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・砂粒微量

覆土　7層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

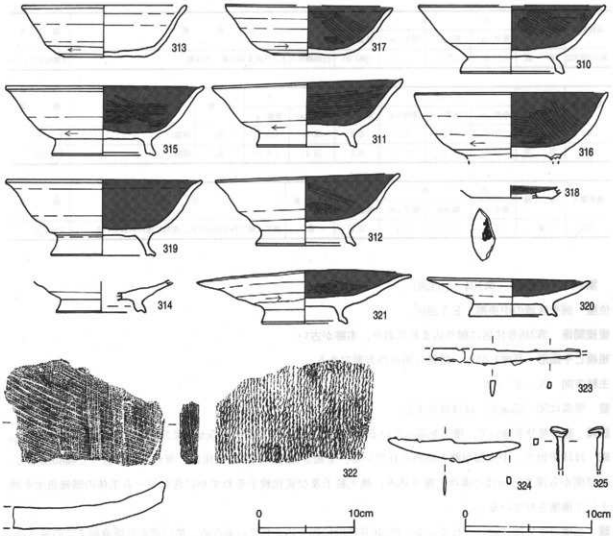
1 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量，ローム小ブロック微量
2 暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
5 褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
6 暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
7 暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
8 褐色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量(貼床)
9 暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック少量(P10覆土)
10 暗褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック少量(P3覆土)
11 褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量(P13覆土)

遺物　土師器片1,086点，須恵器片347点，灰釉陶器片3点，瓦片2点，土製品1点（紡錘車），鉄器3点（刀子2・釘1），雲母片岩5点，鉄滓1点が出土している。第103図310～317，322は竈内から出土している。310～312，315・316は土師器高台付椀，313・317は土師器坏，314は土師器高台付坏，322は瓦片である。煙道の立ち上がり部の手前には南北2か所で，これらの土器が逆位で重ねられた状態で出土している。南側には，雲母片岩の上に，下から316，315の順で，北側には，322の上に，下から314・313・312・311・310の順で重ねられている。318の土師器坏は，竈内から出土している。319の高台付椀は逆位で，320の高台付皿は正位で，いずれも南壁際の床面直上から出土している。321の高台付皿は竈北袖の北側の覆土下層から斜位で出土している。323・324は刀子である。323はP2付近の床面から，324は竈前の床面直上から出土している。

所見　前述したように，本跡の中央部西壁寄りには掘り込みの浅い長方形のピットが位置し，その周りの床面には白色粘土が貼り付いている。これと同様の形態は第340号住居跡でもみられる。また，竈の前にピットが位置する形態は第425号住居跡でもみられる。本跡の時期は，出土土器から10世紀前葉と推定される。

第240号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第103図 310	高台付椀 土師器	A [14.8] B 5.4 D 8.2 E 1.3	口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。高台貼り付け後，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒 橙色	60%　P L197 二次焼成 支脚転用
311	高台付椀 土師器	A 15.0 B 5.4 D 7.9 E 1.0	口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。高台貼り付け後，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒 橙色	90%　P L197 二次焼成 支脚転用
312	高台付椀 土師器	A 14.7 B 5.8 D 7.8 E 1.2	口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。高台貼り付け後，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色	60%　P L197 二次焼成 支脚転用
313	坏 土師器	A 13.2 B 4.2 C 6.3	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・赤色粒子 橙色	70%　P L197 二次焼成 支脚転用
314	高台付坏 土師器	B (2.6) D 7.1 E 1.0	高台から体部にかけての破片。高台はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。	砂粒 橙色	10% 二次焼成 支脚転用
315	高台付椀 土師器	A [15.6] B 5.5 D 8.0 E 1.3	体部・口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色	50%　P L197 二次焼成 支脚転用



第103図　第240号住居跡出土遺物実測図

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第103図 316	高台付椀 土師器	A 15.3 B (5.2)	高台・口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい赤褐色	80%　PL197 二次焼成 支脚転用
317	坏 土師器	A [13.2] B 3.7 C 5.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・長石 にぶい黄橙色	50%　PL197 二次焼成 支脚転用
318	坏 土師器	B (1.0) C [6.4]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	5% 底部外面墨書 [口]
319	高台付椀 土師器	A 15.7 B 6.0 D 8.3 E 1.3	体部・口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。高台はハの字状にみんばる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	50%
320	高台付皿 土師器	A 13.0 B 3.0 D 7.0 E 1.0	体部は外方に大きく開き，口縁部にいたる。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	100%　P198
321	高台付皿 土師器	A 16.9 B 4.2 D 6.7 E 1.2	体部から口縁部にかけて一部欠損。体部は外方に大きく開き，口縁部は外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	70%　PL197

遺物番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第103図322	平瓦	(11.8)	(17.1)	2.4	(667.0)	凸面縄目叩き。凹面糸切り痕，布目痕。	支脚転用PL260

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
323	刀子	(12.0)	(5.2)	1.2	0.4	(6.8)	(10.7)	鉄	両関。	PL255
324	刀子	(10.6)	5.2	1.5	0.2	(5.4)	(6.1)	鉄	両関。	PL254

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
325	釘	(3.5)	1.5	0.4	(3.4)	鉄	頭部は薄く叩き伸ばされ，直角に曲げられている。	PL256

第241号住居跡（第104・105図）

位置　調査区域の中央部，E5a9区。

重複関係　第246号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.65m，短軸4.36mの方形である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は50～55cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅13～24cm，下幅5～15cm，深さ9cm，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。全面が貼床である。貼床は，東西の壁に沿って幅80cmほど，確認面から深さ75cmほど溝状に掘り込み，焼土粒子及び炭化粒子をわずかに含むローム主体の暗褐色土を埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。第246号住居に掘り込まれているため，焚口部から煙道部までの長さは，残存値で144cmである。煙道部は，壁を幅83cm，奥行き44cmにわたり半円形に掘り込んでいる。火床部は，確認面から40cmほどの深さで，長径107cm，短径100cmの楕円形に掘り込み，ロームブロックを含んだ褐色土を埋土してつくっている。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　褐　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量

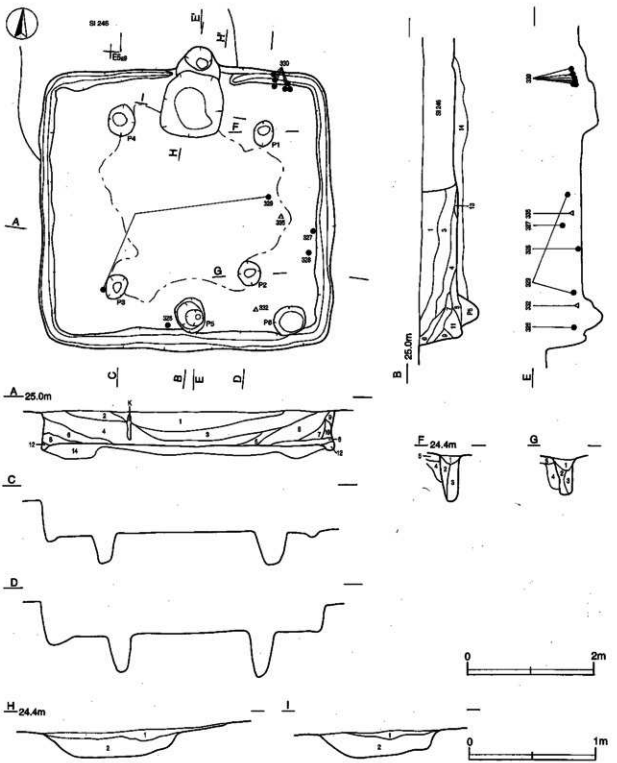
ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は長径40～50cm，短径31～35cmの楕円形，深さ48～75cmで，規模や配置から主柱穴と思われる。P1・P2は，つくり替えが認められ，ピット土層断面図中第1～3層が新しいもので，4・5層が古いものである。P5は長径55cm，短径48cmの楕円形，深さ25cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P6は南東コーナー際に位置し，長径52cm，短径45cmの楕円形，深さ29cmで，性格は不明である。

ピット土層解説
1　褐暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量
2　褐暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

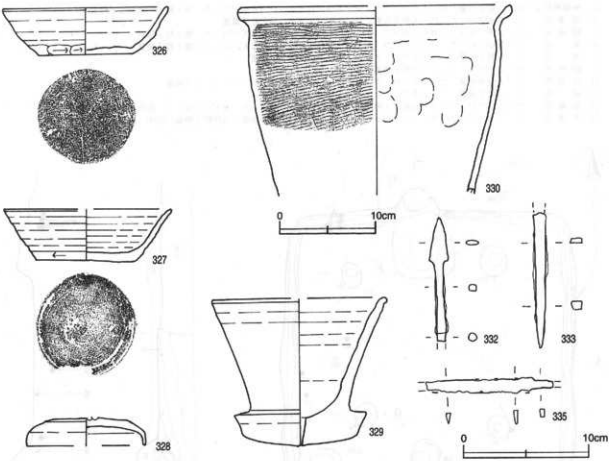
覆土　13層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

5　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量
8　褐　　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
10　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
12　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
13　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量（貼床）



第104図　第241号住居跡実測図



第105図　第241号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片628点，須恵器片661点，鉄器・鉄製品６点（刀子・鎌・不明鉄製品４），撹乱により混入したとみられる陶器片１点が出土している。第105図326・327は須恵器坏である。326は南壁際の覆土下層から正位で，327は東壁際の覆土中層から，328の須恵器蓋は東壁際の覆土下層から出土している。329の須恵器捏鉢は東壁寄りの覆土中層から出土した破片と南西コーナー付近の覆土中層から出土した破片が接合したものである。330の須恵器鉢は北東コーナー付近の覆土下層から破片の状態で出土している。332の鉄鎌は南東コーナー付近の覆土下層から，335の刀子は東壁寄りの覆土下層から出土している。333の不明鉄製品は覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀中葉と推定される。

第241号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第105図 326	坏 須恵器	A　13.2 B　3.7 C　7.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 黄灰色 良好	100%　ＰＬ198
327	坏 須恵器	A〔13.1〕 B　4.1 C　7.9	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	70%　ＰＬ198
328	蓋 須恵器	A〔9.4〕 B（2.3）	天井部から口縁部にかけての破片。天井は平坦で，口縁部は屈曲して垂下する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	70%

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
329	鉢 体部 須恵器	A [13.8] B 11.7 C [9.0]	体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁端部はわずかに外反する。底部，焼成前穿孔。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	粗い，砂粒・雲母・長石・小礫 灰色，普通	30% PL198
330	鉢 須恵器	A [28.5] B (20.0)	体部は内彎気味に立ち上がり，頸部は外方に屈曲し，口縁部にいたる。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，内面擦弧押圧。輪積み痕あり。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	10% PL198

遺物番号	器種	計測値 全長(cm)	鎬身長(cm)	鎬身幅(cm)	茎長長(cm)	茎最幅(cm)	茎長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考
332	鏃	(8.0)	3.7	1.6	5.5	0.6	(0.7)	0.6	(15.1)	鉄	鎬身三角形	PL255

遺物番号	器種	計測値 全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考
333	不明	(10.7)	0.9	0.7	(24.7)	鉄	断面長方形。	PL258

遺物番号	器種	計測値 全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考
335	刀子	(10.2)	(8.4)	1.1	0.3	(1.8)	(11.9)	鉄	関関。	PL254

第242号住居跡（第106・107図）

位置　調査区域の中央部，E5a5区。

重複関係　第254住居跡を掘り込み，第243号住居に掘り込まれているので，第254号住居跡より新しく，第243号住居より古い。

規模と平面形　長軸5.02m，短軸3.35mの長方形である。

主軸方向　N－11°－E

壁　壁高は28～37cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁の一部と西壁の一部の壁下を巡っている。上幅12～21cm，下幅7～15cm，深さ7cm，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。第254号住居跡と重複する部分は，ローム主体の褐色土の貼床とし，その他の部分は，地山のロームを平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ110cm，袖部最大幅は両袖部が遺存しないため不明である。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第12層は焼土ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。煙道は，壁を幅140cm，奥行き80cmにわたり角の丸い三角形に掘り込んでいる。煙道は，35度の傾きで立ち上がる。火床部は，礎認面から45cmほどの深さに掘り込み，地山面を火床面としている。火床面は北壁ラインの内側に位置する。焚口部付近には，後述するP2が位置する。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
2　暗褐色　粘土中ブロック・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　極暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック・砂粒微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
5　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量，焼土中ブロック少量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量
7　暗褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
9　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
11　暗褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

12	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化材・炭化物・砂粒微量
13	暗 褐 色	灰多量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量
14	黒 褐 色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量
15	極暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化材微量（P２覆土）
16	黒 褐 色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量（P２覆土）

ピット　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。Ｐ１は径70cmの円形，深さ55cmで，北西コーナー部付近に位置する。覆土には，焼土を含む暗赤褐色の土層がみられる。性格は不明である。Ｐ２は長径58cm，短径45cmの楕円形，深さ22cmで，焚口部の手前に位置する。覆土はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む極暗褐色土及び黒褐色土で，しまりはない。土層断面の観察から，住居の埋没後に掘り込まれたものではなく，竈に関係するピットと思われるが，詳細は不明である。

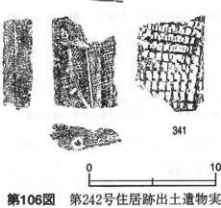
ピット土層解説

1	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
2	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
3	暗赤褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・炭化物・粘土小ブロック・砂粒少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化材・灰微量

覆土　14層からなる。土層断面図中，第３層と第９層の層序が場所によって逆転していること，及び第８層がブロック状に堆積していることから，人為堆積と思われる。

土層解説

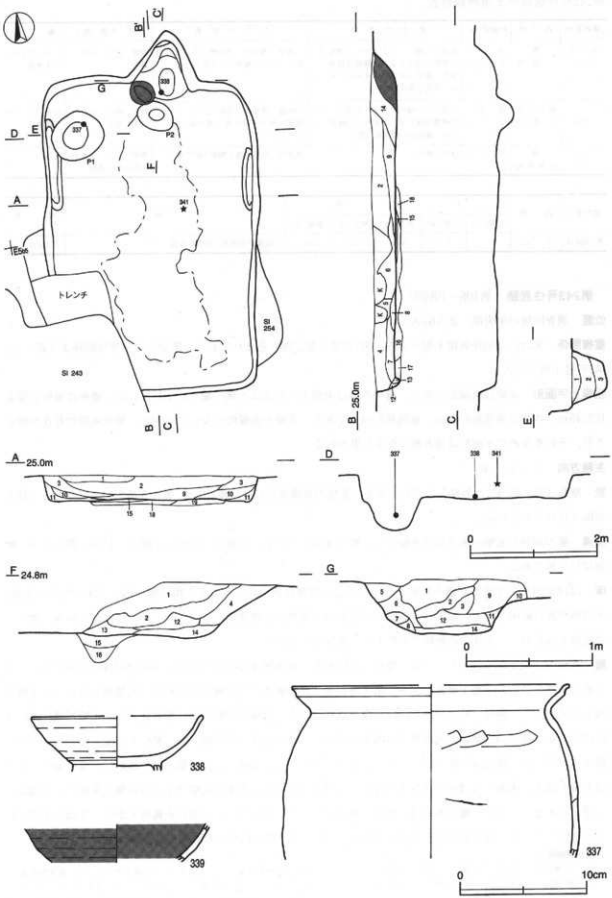
1	黒 褐 色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
3	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒 褐 色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化材・炭化物微量
7	黒 褐 色	焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物少量，ローム小ブロック・炭化材微量
8	黒 褐 色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化材微量
9	暗 褐 色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
10	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
11	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12	暗 褐 色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
13	極暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
14	暗 褐 色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・炭化材・炭化物・砂粒・粘土ブロック微量
15	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子微量(貼床)
16	暗 褐 色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）
17	暗 褐 色	ローム小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量・ローム中ブロック微量(貼床)
18	黒 褐 色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量(貼床)
19	褐　色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量(貼床)



第106図　第242号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片980点，須恵器片342点，灰釉陶器片１点，瓦片２点，土製品１点（管状土錘），石器１点（砥石），雲母片岩１点，混入したとみられる縄文土器片１点，撹乱により混入したとみられる陶器片１点が出土している。第107図337の土師器甕はＰ１内から，338の土師器高台付坏は火床面上から，339の灰釉陶器椀は北東部の覆土上層から，341の平瓦は中央部の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器及び重複関係から９世紀後葉と推定される。



第107図　第242号住居跡・出土遺物実測図

第242号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第107図 337	甕 土師器	A [22.0] B (14.0)	体部は内彎して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反して開き，端部は外方につまみ出されている。屑部の張りが弱い。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，輪積み痕を残す。	砂粒・長石・石英 橙色	10% P L 198 二次焼成
338	高台付坏 土師器	A [13.7] B (4.5)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色	40% P L 198 二次焼成
339	椀 灰釉陶器	B (3.0)	体部の破片。	体部内・外面に施す釉薬の刷毛塗り。	緻密，胎土 灰黄色 灰白色釉，良好	5%

遺物番号	器種	計測値					特徴	備考
		上幅(cm)	下幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第106図341	平瓦	—	(5.9)	(8.0)	(2.4)	(150.5)	凸面格子目叩き。凹面布目痕。	P L 259

第243号住居跡（第108・109図）

位置　調査区域の中央部，E 5 b4区。

重複関係　第242・254住居跡を掘り込み，第757号土坑に掘り込まれており，第242・254号住居跡より新しく，第757号土坑より古い。

規模と平面形　北壁は直線的でなく，竈の西側は東側より55cmほど奥へ掘り込まれている。規模は東側で南北長3.45m，西側で南北長4.00m，東西長3.94mである。北壁が直線的でないことから，棚状施設の存在が想定され，それを含めて平面形は長方形になると思われる。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は35～46cmで，外傾して立ち上がる。北壁の東側部分には，幅110cm，奥行き最大40cmにわたって粘土が貼り付けられている。

壁溝　竈の部分と北壁の東半部分を除いて，壁下を巡っている。上幅12～21cm，下幅7～15cm，深さ7cm，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。中央部は地山のロームを平坦に掘り込んで床としているが，その外周部は貼床である。貼床は，四隅を不定形の土坑状に，確認面から深さ60～70cmほど掘り込み，焼土・炭化物を含むローム主体の暗褐色土を埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ136cm，袖部最大幅150cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第7層が天井部が崩落した土層と思われる。両袖部ともロームを掘り残して基部とし，砂粒・粘土を貼り付けて構築されている。西袖の内側には，補強材として土師器甕片を貼り付けている。袖部の内側は，火熱を受け赤変している。煙道部は，壁を幅88cm，奥行き53cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は50度の傾きで立ち上がる。火床部は，長軸90cm，短軸76cmの扇形に，確認面から45cmほど掘り込み，床面とほぼ同じ高さまで埋土してつくっている。火床は北壁ラインの外側に位置し，7cmほどの厚さで赤変している。竈の前には，焼土・粘土ブロック・灰を含む，にぶい赤褐色土が5～7cmの厚さで広がり硬化している。火床部の焼土や灰を掻き出したものが，踏み固められたものと思われる。

竈土層解説

1　黒褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量

2　暗褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量

3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化物微量
4　暗　褐　色　砂粒多量，焼土粒子・粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
7　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土中ブロック・砂粒少量，焼土大ブロック・炭化物・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子中量，焼土大ブロック微量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒・灰中量，焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック少量，ローム粒子微量
10　にぶい黄色　砂粒・粘土中ブロック中量，ローム粒子微量
11　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量，焼土中ブロック・粘土中ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
12　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック微量
13　暗　褐　色　砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量

ピット　3か所（P１～P３）。P１・P２はそれぞれ長径47cm・55cm，短径42cm・50cmの楕円形，深さ18cm・26cmで，規模や配置から主柱穴と思われる。P３は径34cmの円形，深さ28cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土小ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・砂粒微量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

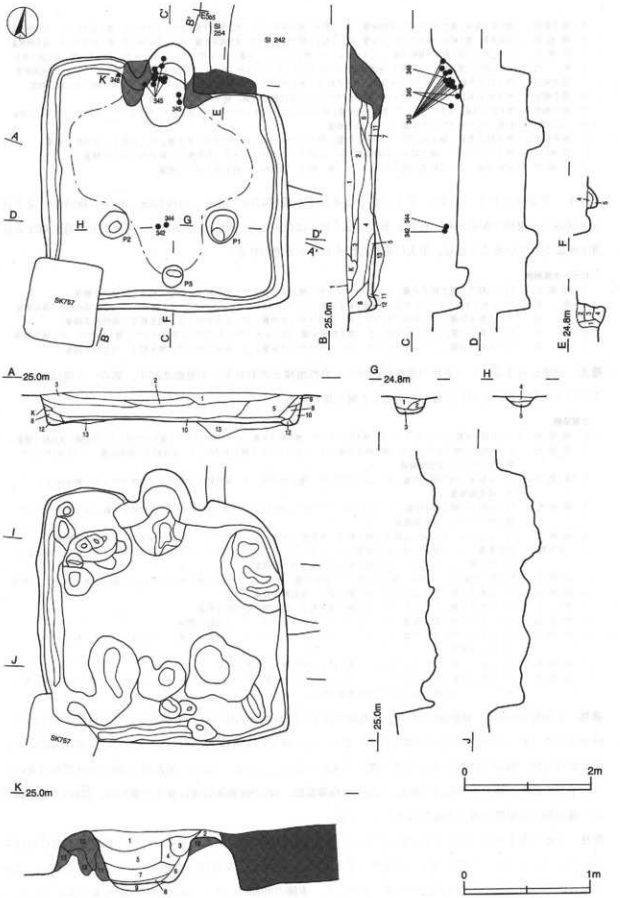
覆土　12層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる。土層断面図中，第６・７層は砂粒，粘土ブロックを含むことから，竈材が流出した層と思われる。

土層解説

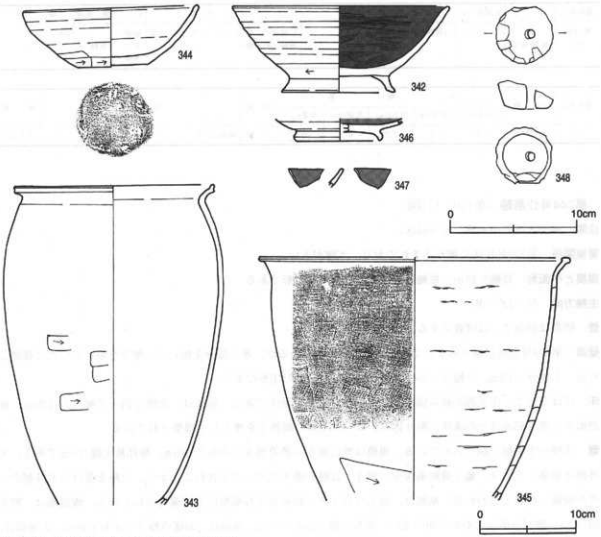
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・焼土大ブロック・炭化物微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
6　にぶい黄褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
7　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
12　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量（貼床）

遺物　土師器片900点，須恵器片449点，灰釉陶器片１点，緑釉陶器片１点，土製品６点（紡錘車１，土錘５），鉄製品１点（釘），雲母片岩１点，撹乱により混入したとみられる陶器片１点が出土している。第109図342の土師器高台付椀，344の須恵器坏は中央部の覆土中層から出土している。343の土師器甕，345の須恵器甑は竈内から出土した破片が接合したものである。346の灰釉陶器皿，347の緑釉陶器椀は覆土上層から，348の土製紡錘車は，竈西側の北壁際の覆土中層から出土している。

所見　北壁の東半部分に粘土が貼り付けられていることについては，本跡の北東コーナー部が第242号住居跡を掘り込んでいることから壁の補強の可能性も考えられる。しかし，東壁側には粘土がみられないこと及び北壁が直線的でないことから竈状施設の一部と判断した。本跡の時期は，出土土器から10世紀前葉と推定される。



第108図　第243号住居跡実測図



第109図　第243号住居跡出土遺物実測図

第243号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第109図 342	高台付椀 土師器	A [17.3] B 6.9 D 9.0 E 1.3	体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・長石・石英 明黄褐色 普通	50%　ＰＬ198
343	甕 土師器	A [21.0] B (33.7)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は外反気味に開き，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ。下位横方向のヘラ削り。内面横位のナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	60%　ＰＬ198
344	坏 須恵器	A [14.0] B 4.6 C 5.8	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部１方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰オリーブ色	30%　ＰＬ198 二次焼成
345	瓶 須恵器	A [32.4] B (25.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，肩部で屈曲し，外方へ開く。口縁端部は上下につまみ出されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面上位櫛状子目叩き，下位横位のヘラ削り。内面ナデ，輪積み痕を残す。	砂粒・雲母・長石 灰オリーブ色	10%　ＰＬ198
346	皿 灰釉陶器	B (1.8) D [6.8] E 1.0	底部の破片。高台は三日月高台で，内側に屈曲する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。高台貼り付け後，ロクロナデ。内面施釉，細毛掛り。	緻密，胎土　灰黄褐色 灰オリーブ釉 良好	10% 黒笹90号窯式

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第109図 347	椀 緑釉陶器	B（1.5）	口縁部の破片。	口縁部内・外面ロクロナデ。内・外面施釉，刷毛塗り。	緻密，オリーブ灰釉 普通	5%

遺物番号	器　種	計　測　値					材　質	特　徴	備　考
		上面径(cm)	下面径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
348	紡錘車	(4.6)	3.5	(2.2)	0.7	(39.3)	土　製	断面逆台形。	PL.250

第244号住居跡（第110・111図）

位置　調査区域の中央部，E5c4区。

重複関係　第229号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.45m，短軸は推定で3.05mの長方形である。

主軸方向　N－12°－W

壁　壁高は45cmで，ほぼ直立する。

壁溝　第299号住居に掘り込まれている南壁下は不明であるが，竈の部分を除いて，壁下を巡っていたと推測される。上幅9～13cm，下幅5～9cm，深さ5cm，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。全面が貼床である。貼床は，北壁に沿って幅110～120cm，確認面から深さ65cmほどの溝状に掘り込み，ローム主体の褐色土を埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ101cm，袖部最大幅117cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第4・12層が焼土ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は，粘土ブロック・砂粒を含む暗褐色土で構築されている。煙道部は，壁を幅110cm，奥行き67cmにわたり角の丸い三角形に掘り込んでいる。煙道は，54度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面からの深さ50～56cmほど，長径82cm，短径56cmの不整楕円形に掘り込み，ロームブロック・粒子を含んだ暗褐色土及び黒褐色土を埋土してつくっている。火床面は北壁ライン上に位置する。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック中量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子多量，砂粒中量
7　赤灰色　焼土粒子・灰多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，焼土大ブロック微量
8　黒褐色　灰多量，ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
9　赤黒色　灰多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
10　褐　色　焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
11　黒褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・灰中量，ローム粒子・焼土中ブロック少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
12　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
13　暗褐色　粘土粒子多量，砂粒中量
14　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒微量
15　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，砂粒微量
16　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量（掘り方）
17　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量（掘り方）

ピット　1か所。P1は長径31cm，短径26cmの楕円形，深さ43cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

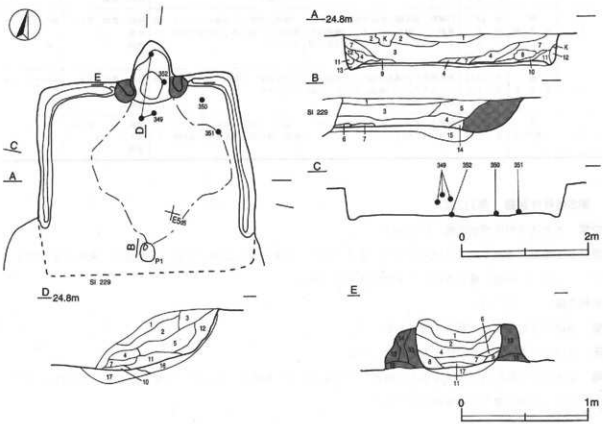
覆土　14層からなる。土層断面図中，第４・７層がブロック状に堆積すること，第８層がロームブロックの土層であること，及び各層のロームの含有状況から，人為堆積と思われる。

土層解説

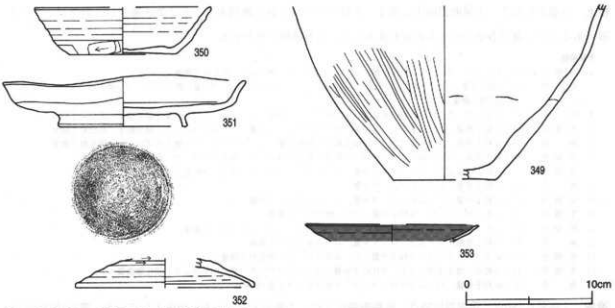
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
7　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
9　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
10　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
11　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
12　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
13　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
14　黒 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
15　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量(貼床)

遺物　土師器片180点，須恵器片58点，灰釉陶器片１点，土製品１点（土玉）が出土している。第111図349の土師器甕は竈内から出土した破片と，竈前の覆土中層から出土した破片が接合したものである。350の須恵器坏は北東コーナー付近の覆土下層から，351の須恵器盤は北東コーナー付近の床面直上から，352の須恵器蓋は竈内から出土している。覆土中から出土している353の灰釉陶器皿は，混入したものと思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀中葉と推定される。



第110図　第244号住居跡実測図



第111図　第244号住居跡出土遺物実測図

第244号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第111図 349	甕 土師器	B (13.8) C [8.2]	底部から体部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下位縦位のヘラ磨き。体部内面ナデ，輪積み痕あり。	砂粒・長石・石英 褐色，普通	20%
350	坏 須恵器	A [14.0] B 3.7 C 8.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	粗い，砂粒・雲母・長石・角礫 灰色，普通	40%　P L.198
351	盤 須恵器	A 19.1 B 4.1 D 10.0 E 1.0	口縁部一部欠損。体部は外傾して開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	90%　P L.198
352	壺 須恵器	A [14.0] B (2.3)	天井部から口縁部の破片。天井部は丸く，なだらかに口縁部にいたる。口縁部は短く屈曲する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	30%　P L.198
353	皿 灰釉陶器	A [13.8] B (1.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部上位に稜を持つ。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。口縁部，体部内・外面施釉，刷毛塗り。	緻密，胎土　黄灰色 灰オリーブ釉 普通	5%

第245号住居跡（第112図）

位置　調査区域の南西部南端，G 5 e6区。

規模と平面形　南部が調査区域外のため，確認できたのは南北長1.55mである。東西長は，東西の壁が削平されているが，5.05mと推定される。平面形は不明である。

主軸方向　N－16°－E

壁　確認できた壁高は，最大4cmである。

床　ほぼ平坦で，竈の前が踏み固められている。

竈　北壁の中央部において火床部のみ確認した。確認できた規模は，焚口部から煙道部までの長さ95cmである。火床部は，2cmの厚さで赤変硬化している。

竈土層解説

1　赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
2　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量

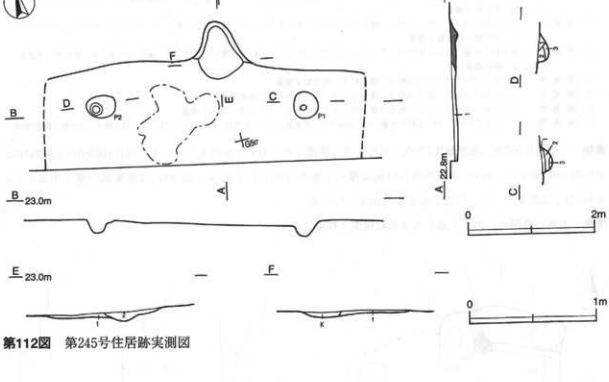
ピット　2か所（P１・P２）。P１・P２はそれぞれ長径45cm・47cm・短径40cm・35cmの楕円形，深さ18cm・22cmで，竈をはさんで北壁付近に位置することから，柱穴の可能性が考えられる。

ピット土層解説
1　暗 褐 色　　焼土粒子微量
2　黒 褐 色　　ローム粒子微量
3　にぶい黄褐色　　粘土粒子微量

覆土　ローム粒子・焼土粒子を含む単一層である。覆土が薄いため，堆積状況は不明である。

遺物　土師器片８点，須恵器片８点が出土している。細片のため図示できる遺物はない。

所見　本跡の時期は，出土土器が少ないことから判断が難しいが，８世紀代と推定される。



第112図　第245号住居跡実測図

第246号住居跡（第113・114図）

位置　調査区域の中央部，Ｅ５a9区。

重複関係　第241住居跡の上に構築され，第240号住居に掘り込まれているので，第241号住居跡より新しく，第240号住居より古い。

規模と平面形　長軸は推定で3.90m，短軸3.40mの長方形である。竈の西側に棚状施設が付設されている。規模は手前の幅80cm，奥行き40cmの不整長方形で，床面から棚状施設の上面までの高さは40cmほどである。

棚状施設土層解説
1　黒 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　　ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒微量
4　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量

主軸方向　Ｎ－８°－Ｗ

壁　壁高は48cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西壁下を巡っている。上幅15～20cm，下幅９～11cm，深さ７cm，断面はU字形である。

床　ゆるやかな起伏がみられ，全体的に踏み固められている。第241号住居跡と重複する部分には，ローム主体の暗褐色を埋土し，貼床としている。重複しない部分は，地山のロームを平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　北壁の中央部に設けられている。第240号住居によって掘り込まれているため，遺存するのは西袖の一部及び火床部のみである。袖部は粘土・砂粒を含む黄褐色土で構築されている。火床面は，北壁ライン上に位置し，長径45cm，短径36cmの不整楕円形の範囲が，赤変硬化している。

ピット　2か所（P１・P２）。P１は北東コーナー部に位置し，長径50cm，短径40cmの楕円形，深さ20cmである。P２は棚状施設の西縁際に位置し，径55cmの円形，深さ37cmである。P１・P２ともに，性格は不明である。

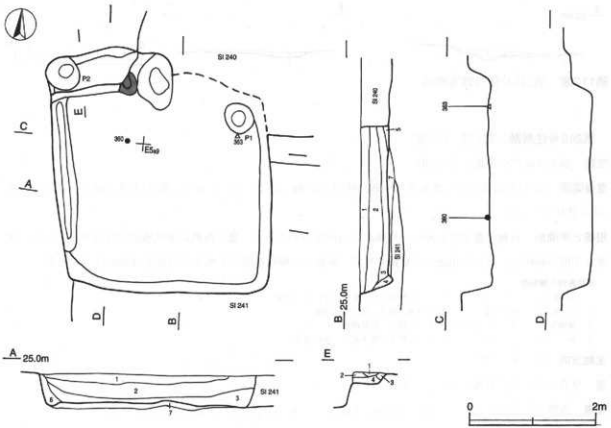
覆土　6層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

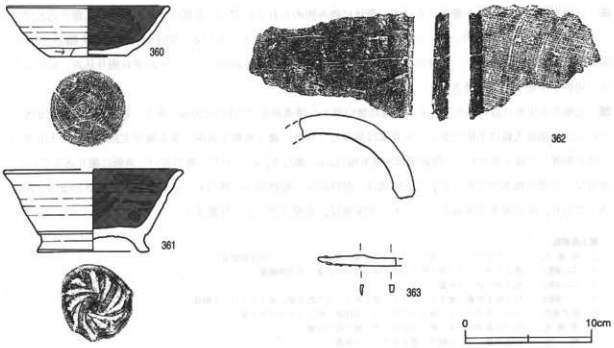
1　黒褐色　焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
3　黒褐色　焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）

遺物　土師器片567点，須恵器片470点，瓦片１点，鉄器１点（刀子）が出土している。第114図360の土師器坏は中央部の床面から，361の土師器高台付椀は覆土上層から出土している。362の瓦は南東部の覆土中層から，363の刀子は北東コーナー付近の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から９世紀後葉と推定される。



第113図　第246号住居跡実測図



第114図　第246号住居跡出土遺物実測図

第246号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第114図 360	坏 土師器	A 13.0 B 3.9 C 6.1	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・長石・石英にぶい橙色 普通	60%　PL198
361	高台付椀 土師器	A [14.2] B 6.5 D 9.0 E 1.8	体部・口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部ヘラ状工具先端による放射状のナデ。高台貼り付け後，高台部内・外面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石にぶい橙色 普通	50%　PL199

遺物番号	器種	計測値				特徴	備考
		幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
362	丸瓦	(9.1)	(8.5)	1.7	(226.0)	凸面ヘラ削り。凹面布目痕。	PL261

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
363	刀子	(6.2)	3.8	0.8	0.2	(2.4)	(4.1)	鉄	片関。	PL254

第247号住居跡（第115・116図）

位置　調査区域の北東部東端，E 8 b0区。

重複関係　第1868号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.98m，短軸4.77mの方形である。

主軸方向　N－11°－W

壁　壁高は3～35cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分及び北壁の一部を除いて，壁下を巡っている。上幅10～17cm，下幅4～9cm，深さ7cm，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，Ｐ３から竈前にかけて，帯状に踏み固められている。中央部は，地山を平坦に掘り込んで床としているが，東西の壁沿いは，中央部より深く掘り込み，貼床としている。貼床は，東壁側を幅55～98cm，確認面から深さ20cmほどに，西壁側を幅45～67cm，確認面から深さ40cmほどに，それぞれ掘り込み，ローム主体の褐色土を堅土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ120cmである。袖部の遺存状況が悪いために，袖部最大幅は不明である。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第５層が火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。煙道部は，壁を幅112cm，奥行き75cmにわたり角の丸い三角形に掘り込んでいる。煙道は，30度の傾きで立ち上がる。火床部は，長径83cm，短径50cmの楕円形に確認面からの深さ30cmほど掘り込んでおり，地山面を火床面としている。火床面は，北壁ライン上に位置する。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化物微量
2	にぶい黄褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック少量，炭化物微量
3	にぶい黄褐色	粘土中ブロック中量
4	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量，粘土中ブロック微量
5	暗赤褐色	ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量
6	黒褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
7	褐　色	砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
8	暗赤褐色	焼土小ブロック中量，粘土中ブロック少量
9	にぶい赤褐色	焼土大ブロック多量
10	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
11	暗褐色	ローム粒子・焼土中ブロック・粘土中ブロック少量

ピット　３か所（Ｐ１～Ｐ３）。Ｐ１・Ｐ２は径25cmの円形，深さそれぞれ52cm・64cmで，中央部の南東コーナー寄りと南西コーナー寄りに位置する。位置や規模から主柱穴と思われる。Ｐ３は径25cmの円形，深さ23cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

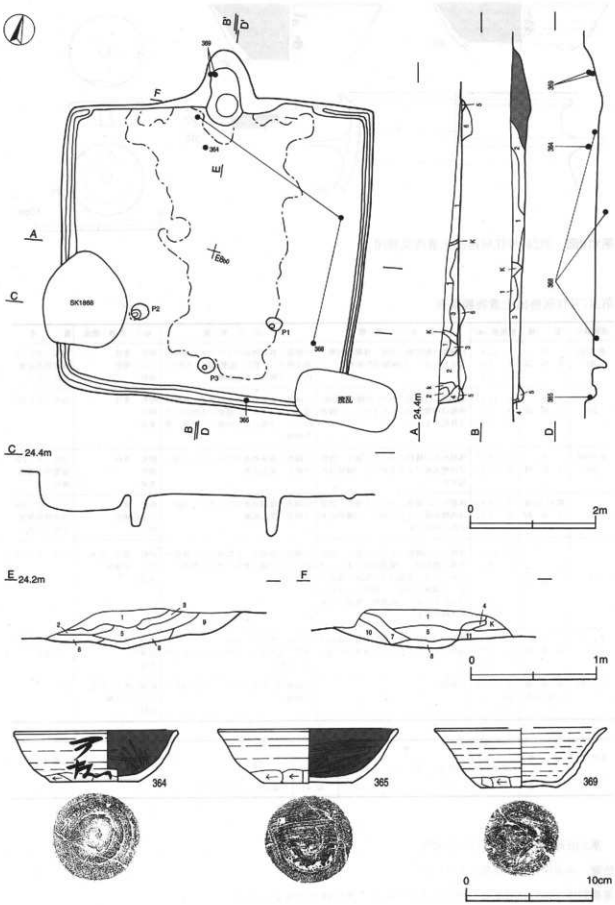
覆土　５層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と思われる。

土層解説

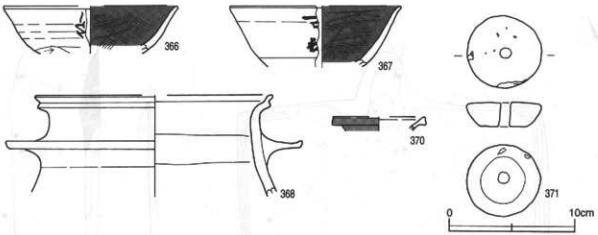
1	黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3	褐　色	ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子中量
5	褐　色	ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
6	褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量（貼床）

遺物　土師器片294点，須恵器片108点，灰釉陶器片１点，石製品１点（紡錘車），混入したとみられる縄文土器片５点，撹乱により混入したとみられる陶器片１点が出土している。第115・116図364～367は土師器坏で，367は土師器高台付椀である。364は竈前の覆土中層から斜位で出土しており，体部外面に「万坏」と墨書されている。365は南壁際の覆土下層から出土している。366は北東部の覆土上層から出土しており，体部外面に「坏」の墨書が認められる。367は南西部の覆土下層から出土している。体部外面に「万坏」と墨書されている。368の羽釜は，竈前の覆土中層及び竈内から出土した破片と東壁寄りの貼床中から出土した破片が接合したものである。覆土中層及び竈内から出土した破片は二次焼成を受けていることから，竈の構築材として使用された可能性が考えられる。369の須恵器坏は竈内から出土し，体部外面に焼土が付着していることから，支脚に転用されていた可能性が考えられる。370の灰釉陶器長頸瓶は南東部の覆土上層から，371の石製紡錘車は覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から９世紀後葉と推定される。



第115図　第247号住居跡・出土遺物実測図



第116図　第247号住居跡出土遺物実測図

第247号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 364	坏 土師器	A 12.8 B 4.0 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 良好	95%　PL199 体部外面墨書 正位「万坏」
365	坏 土師器	A 14.4 B 4.2 C 7.1	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り，ヘラ切り痕。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母 橙色 普通	50%　PL199
第116図 366	坏 土師器	A [14.0] B (3.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母 橙色 普通	10%　PL246 体部外面墨書 横位「坏」
367	高台付椀 土師器	A [13.6] B (4.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 良好	5%　PL246 体部外面墨書 正位「万坏」
368	羽釜 土師器	A [19.0] B (8.0)	体部から口縁部にかけての破片。頸部下端に鍔が付く。鍔端部はつまみ上げられている。頸部はコの字状に屈曲する。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。口縁部内・外面に1条の沈線が巡る。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ後，鍔貼り付け。鍔部上・下面ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい赤褐色 普通	10%　PL199
第115図 369	坏 須恵器	A [13.4] B 4.7 C 6.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外反して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 不良	70%　PL199 二次焼成
第116図 370	長頸瓶 灰釉陶器	A [7.1] B (1.1)	口縁部片。	口縁部内・外面ロクロナデ。口縁部外面施釉。	緻密，胎土 灰色 オリーブ灰釉 良好	5%

遺物番号	器種	計測値					石材	特徴	備考
		上面径(cm)	下面径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
371	紡錘車	6.0	3.6	1.9	0.8	82.4	凝灰岩	断面逆台形。	PL252

第248号住居跡（第117・118図）

位置　調査区域の中央部，E5h6区。

重複関係　第1248号土坑に掘り込まれており，第1248号土坑より古い。

規模と平面形　長軸3.46m，短軸3.37mの方形である。

主軸方向　N－21°－W

壁　壁高は10～18cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分及び竈西側の北壁を除いて，壁下を巡っている。上幅８～14cm，下幅４～10cm，深さ11cm，断面はU字形である。土層断面図中，第６層が覆土である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山のロームを平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ86cm，袖部最大幅は西袖が遺存しないため，110cmと推定される。袖部は砂粒・粘土ブロック混じりの黄褐色土で構築されている。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第５層は火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。煙道部は，壁を幅110cm，奥行き52cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は43度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から25cmほどの深さで掘り込んでおり，地山面を火床面としている。火床面は北壁ライン上に位置し，火熱を受けているが，焼土化するには至っていない。

竈土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗赤褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
7　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
9　にぶい黄褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１・Ｐ２はそれぞれ径45cm・40cmの円形，深さ15cm・20cmで，北東コーナー部と北西コーナー部に位置する。掘り込みは浅いが，位置から主柱穴と思われる。Ｐ３は，長径26cm，短径20cmの楕円形，深さ15cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。Ｐ４は西壁側に位置し，長径66cm，短径39cmの楕円形，深さ35cmで，対応する位置にピットは確認できなかったが，柱穴の可能性が考えられる。

ピット土層解説

1　黒 褐 色　炭化粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
2　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

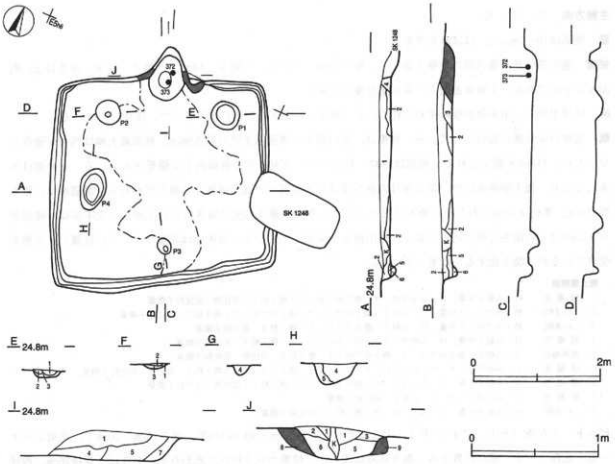
覆土　６層からなる。ブロック状に堆積する土層がみられることから，人為堆積と思われる。土層断面図中，第３層は粘土粒子を含むことから，竈材の一部と思われる。

土層解説

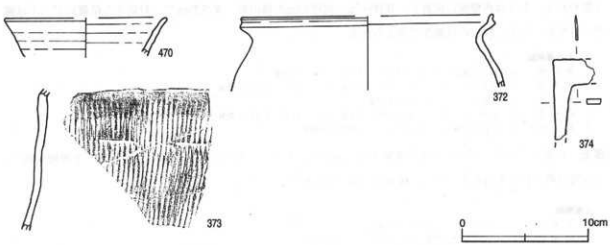
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　粘土粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
4　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物　土師器片63点，須恵器片64点，鉄製品１点（不明），鉄滓２点，攪乱により混入したとみられる陶器片６点が出土している。第118図372の土師器甕，373の須恵器鉢は竈内から出土している。470の須恵器坏は南東部の覆土中から，374の不明鉄製品は覆土上層から出土している。

所見　本跡からは鉄滓が出土しているが，鍛冶関連施設は確認されていない。本跡の時期は，出土土器から９世紀中葉以前と推定される。



第117図　第248号住居跡実測図



第118図　第248号住居跡出土遺物実測図

第248号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第118図 372	甕 土師器	A [20.0] B (5.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくの字状に屈曲する。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	5%　PL199
373	鉢 須恵器	B (11.3)	体部の破片。体部はほぼ直立する。	体部外面縦位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・雲母 灰色，普通	5%　PL244

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第118図 470	坏 須恵器	A [12.6] B (3.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	5%

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
374	不明	(6.4)	(3.3)	(0.2)	(12.6)	鉄	板状で，L字状の平面形を呈する。	PL258

第249号住居跡（第119・120図）

位置　調査区域の北西部，E5d1区。

重複関係　第28号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　東部が第28号溝に掘り込まれ，北部が床面直上まで削平されているが，長軸4.65m，短軸4.20mの長方形と推定される。

主軸方向　N－79°－E

壁　北部が床面直上まで削平されているため，壁高は最大20cmである。

壁溝　南東コーナー部と西壁の一部の，壁下を巡っている。上幅8～15cm，下幅4～11cm，深さ4cm，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北半部分は，南半部分に比べて4～10cmほど高く，ベッド状を呈している。北半部分，南半部分ともに，地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　東壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さが推定102cmで，両袖部が残存しないため袖部最大幅は不明である。天井部は崩落している。南袖の内面には，須恵器甕の体部片が構築材として据えられている。煙道部は，壁を90cm，奥行き80cmにわたり逆U字形に掘り込んでいる。煙道は47度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面からの深さ30cmほどに掘り込んでおり，地山面を火床面としている。火床面は，東壁ライン上に位置する。

竈土層解説

1　極暗褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物微量
2　暗褐色　焼土粒子・砂粒少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック微量
3　にぶい赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，焼土粒子少量
4　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，焼土中ブロック微量
6　赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック中量
7　暗褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量
8　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化物微量

ピット　2か所（P1・P2）。P1は長径42cm，短径37cmの楕円形，深さ19cmで，西壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P2は長径40cm，短径28cmの楕円形，深さ38cmで，中央部に位置する。性格は不明である。

ピット土層解説

1　暗褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土中ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
2　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量

覆土　5層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる。

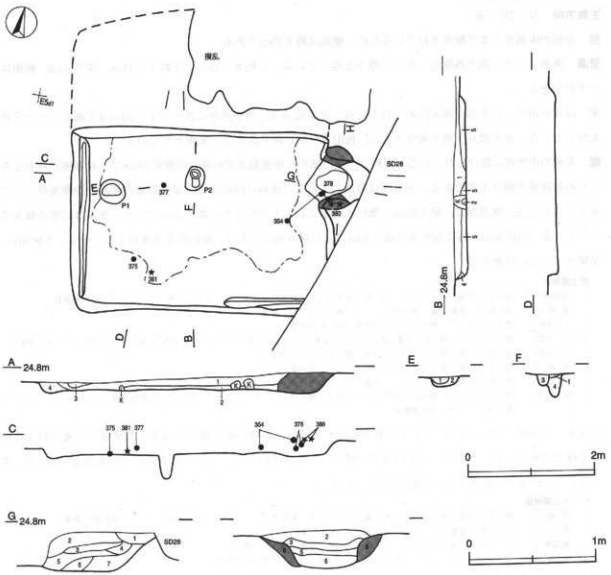
土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量

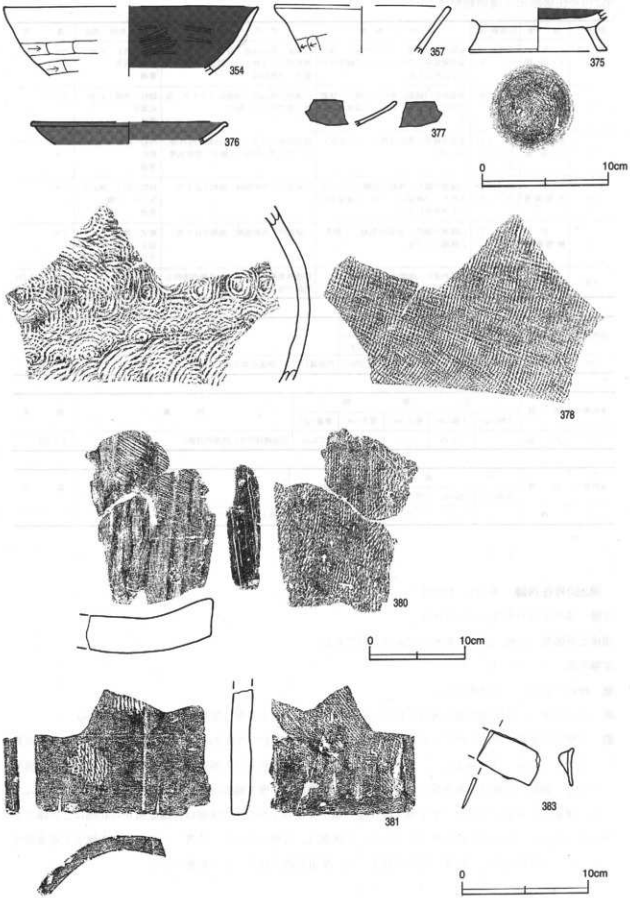
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子中量
5　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土中ブロック・砂粒少量

遺物　土師器片315点，須恵器片82点，灰釉陶器片１点，緑釉陶器片１点，瓦片２点，鉄器・鉄製品２点（鎌・不明鉄製品），撹乱により混入したとみられる陶器片４点が出土している。第120図354の土師器坏は，竈前の覆土下層と竈覆土中から出土した破片が接合したものである。375の土師器高台付坏は南西コーナー寄りの覆土下層から，357の須恵器坏，376の灰釉陶器皿は竈の覆土中から，377の緑釉陶器皿は中央部の覆土中層から出土している。378は須恵器甕で，竈の覆土中から出土した破片と袖部から出土した破片が接合したものである。378は袖部の構築材として転用されていたものである。380の平瓦は竈の南袖上から，381の丸瓦は南西コーナー寄りの覆土中層から，383の鎌は覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から10世紀前葉と推定される。



第119図　第249号住居跡実測図



第120図　第249号住居跡出土遺物実測図

第249号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第120図 354	坏 土師器	A [20.2] B (5.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部外面上位ロクロナデ。体部外面下半手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	20%
357	坏 須恵器	A [13.8] B 3.7	体部から口縁部にかけての破片。体部は外反して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	5%
375	高台付坏 土師器	B (3.3) D 11.0 E 1.8	底部の破片。高台は高く，ハの字状にふんばる。	底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ロクロナデ。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・石英・赤色粒子 橙色 普通	20% PL199
376	壷 灰釉陶器	A [15.2] B (1.8)	口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁端部はつまみ出されている。	口縁部内・外面施釉。施釉方法不明。	砂粒，胎土 灰白色 灰オリーブ釉 普通	5%
377	皿 緑釉陶器	B (2.2)	口縁部の破片。体部は外傾して開き，口縁部にいたる。	口縁部内・外面施釉。施釉方法不明。	砂質・雲母 胎土 灰色 オリーブ灰釉，普通	5%
378	甕 須恵器	B (18.4)	体部の破片。体部は内彎する。	体部外面縦格子目叩き。体部内面同心円状の当て具痕。	砂粒・長石 灰色，良好	5% PL244 体部外面自然釉

遺物番号	器種	計測値				特徴	備考
		最大幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
380	平瓦	(13.0)	(19.6)	4.1	(1,270)	凸面縄目叩き。凹面糸切り痕。布目痕。	PL260

遺物番号	器種	計測値					特徴	備考
		上幅(cm)	下幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
381	丸瓦	—	(10.2)	(10.1)	1.6	(274.0)	凸面縄目叩き。凹面布目痕。	PL261

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
383	釘	(4.8)	2.6	0.3	(12.1)	鉄	端部上端折り返し。重刃か。	

第250号住居跡（第121・122図）

位置　調査区域の中央部，D5h0区。

規模と平面形　長軸3.14m，短軸2.92mの方形である。

主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は40cmで，ほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山のロームを平坦に掘り込み，床面としている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ87cm，袖部最大幅115cmである。両袖部ともロームを掘り残し基部とし，その上に粘土ブロック・砂粒を含む暗褐色土及び褐色土を貼り付けて構築している。袖部の内側は火熱を受け赤変している。煙道部は，壁を幅95cm，奥行き35cmの半円形に掘り込んでいる。煙道は下半部では37度，上半部では70度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から40cmほどの深さで掘り込んでおり，地山面を火床面としている。火床部は，北壁ライン上に位置し，5cmほどの厚さで赤変硬化している。燃焼部内壁と火床部の被熱の様子から，使用期間が長かったと推測される。

竈土層解説

1	褐　色	ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2	暗 褐 色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土中ブロック微量
3	暗 褐 色	焼土小ブロック・粘土中ブロック少量
4	赤 褐 色	灰中量，焼土粒子少量
5	にぶい赤褐色	焼土粒子中量
6	赤 褐 色	焼土中ブロック・粘土小ブロック中量，ローム小ブロック少量
7	暗赤褐色	焼土大ブロック中量，ローム小ブロック少量
8	暗 褐 色	焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
9	褐　色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
10	暗 褐 色	粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック少量
11	黒 褐 色	砂粒少量
12	赤 褐 色	ロームが赤変硬化した層

ピット　1か所。P1は南西コーナー付近に位置し，長径58cm，短径51cmの楕円形，深さ38cmである。性格は不明である。

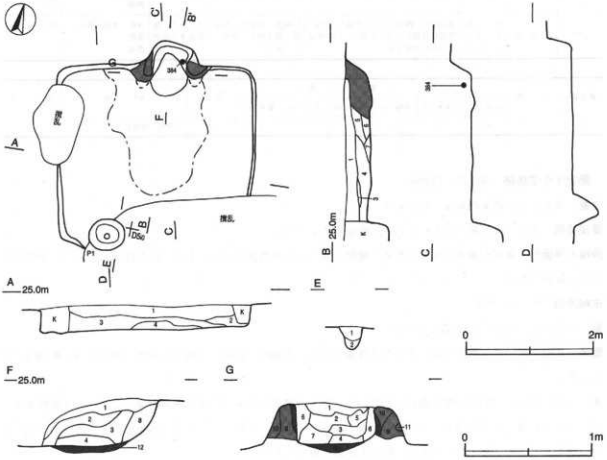
ピット土層解説

1	暗 褐 色	ローム中ブロック中量
2	褐　色	ローム大ブロック多量

覆土　7層からなる。堆積状況は，土層断面図中，第4・7層がブロック状に堆積すること，ロームブロックを含む層が大部分であることから，人為堆積と思われる。

土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
2	極暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
3	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
4	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
5	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
6	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
7	黒 褐 色	ローム小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子少量



第121図　第250号住居跡実測図

第122図　第250号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片166点，須恵器片151点，鉄器１点（刀子），攪乱により混入したとみられる陶磁器片５点が出土している。第122図384・385は土師器坏である。384は竈内から出土している。385は竈前の覆土上層から出土し，底部外面に墨書が認められる。386の須恵器坏，387の刀子は南東部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から９世紀中葉と推定される。

第250号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第122図 384	坏 土師器	A［13.2］ B　5.0 C［6.3］	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面剥離のため調整不明。	砂粒・雲母・石英 赤色粒子 橙色，普通	25%　ＰＬ199
385	坏 土師器	B（2.0） C［8.4］	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ，下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ書き，黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	10% 底部外面墨書 「□」
386	坏 須恵器	A［12.8］ B　4.1 C［5.3］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	40%

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
387	刀子	(5.9)	(5.9)	(1.6)	(0.6)	－	(14.2)	鉄	刀身部一部残存。	

第251号住居跡（第123・124図）

位置　調査区域の北東部東端，Ｄ９h1区。

重複関係　第48号溝に掘り込まれており，第48号溝より古い。

規模と平面形　東部が調査区域外のため，確認できたのは東西長3.10mである。南北長は3.80mで，平面形は方形と推測される。

主軸方向　Ｎ－18°－Ｗ

壁　壁高は32～55cmで，ほぼ直立する。

壁溝　北壁を除いて，壁下を巡っていたと推測される。上幅10～19cm，下幅５～10cm，深さ12cm，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。掘り方調査の結果，２次の床面が確認された。土層断面図では２次床面が薄かった為図示できなかったが，第１次の床面上に焼土粒子を含む暗褐色土を入れ，第２次の床面を構築している。第１次の床面は，地山を平坦に掘り込んでつくられている。

竈　北壁の中央部に設けられている。袖部の遺存状況は悪く，西袖部の基部がわずかに残存するだけである。

規模は，焚口部から煙道部までの長さ140cmである。煙道部は，壁を幅102cm，奥行き95cmにわたり角の丸い三角形に掘り込んでいる。煙道は，下半部では27度，上半部では60度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から51cmほどの深さで掘り込んでおり，地山面を火床面としている。火床面は，北壁ライン上に位置する。

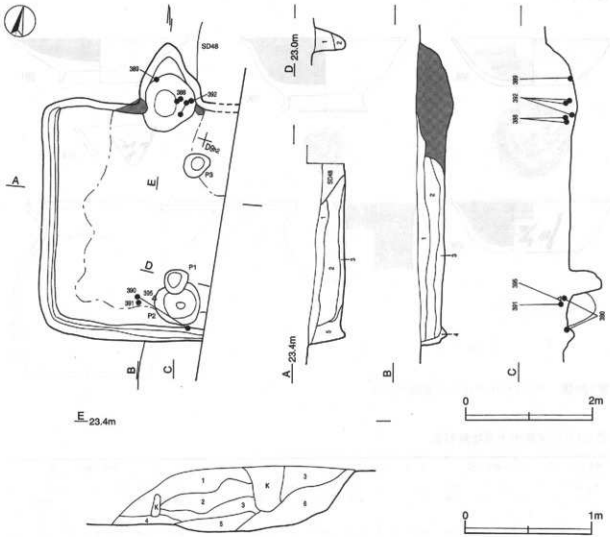
竈土層解説

1　暗 褐 色　焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒混じり粘土大ブロック微量
3　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，粘土中ブロック微量
4　黒 褐 色　ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子少量
5　暗 褐 色　焼土粒子中量，焼土中ブロック少量
6　極暗褐色　焼土中ブロック・炭化物中量

ピット　3か所（Ｐ１～Ｐ３）。Ｐ１は，第２次の床面で確認した。径40cmの円形，深さ50cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，第２次の出入口施設に伴うピットと思われる。Ｐ２・Ｐ３は掘り方調査で確認した。Ｐ２は径65cmの円形，深さ37cmでＰ１の南側に接している。第１次の出入口施設に伴うピットの可能性が考えられる。Ｐ３は長径45cm，短径35cmの楕円形，深さ35cmで中央部北寄りに位置する。性格は不明である。

ピット土層解説

1　黒 褐 色　焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　焼土粒子少量



第123図　第251号住居跡実測図

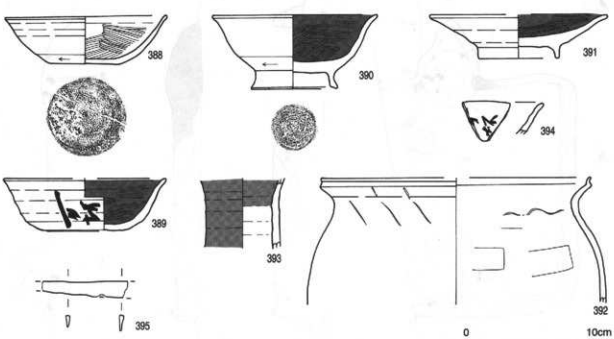
覆土　5層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子少量
5　黒褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量

遺物　土師器片382点，須恵器片96点，灰釉陶器片3点，鉄器1点（刀子），壁材と思われる粘土塊3点，混入したとみられる縄文土器片1点が出土している。第124図388・389の土師器坏，392の土師器甕は竈内から出土している。388は二次焼成を受け，焼土が付着していることから，支脚の一部として使用された可能性が考えられる。389は体部外面に「万坏」の墨書が認められる。390の土師器高台付椀は南壁際の床面から，391の高台付皿，395の刀子は南壁寄りの覆土下層から出土している。394の須恵器坏は南西部の覆土上層から出土しており，体部内面に「万坏」の墨書が認められる。393の灰釉陶器長頸瓶は北西部の覆土中層から出土している。

所見　本跡は，煙道部が大きく壁外へ掘り込まれていること，及び北壁の壁下に壁溝が確認できない（当遺跡では，棚状施設を有する住居は，棚状施設が付設される壁下には壁溝が巡らない場合が多い。）ことから，竈の両脇に棚状施設を有していた可能性が考えられる。本跡（第2次）の時期は，出土土器から9世紀後葉と推定される。



第124図　第251号住居跡出土遺物実測図

第251号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 388	坏 土師器	A 13.2 B 4.0 C 5.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は弱く外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石 明褐色 普通	60%　PL199 二次焼成
389	坏 土師器	A [12.5] B 4.2 C 5.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	60%　PL199 体部外面墨書 横位「万坏」

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第124図 390	高台付椀 土師器	A [13.2] B 5.8 D 7.0 E 1.3	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ割り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色 普通	40%　PL199
391	高台付皿 土師器	A [14.0] B 3.5 D 6.4 E 1.0	体部から口縁部にかけて一部欠損。体部は外方に大きく開き，口縁部は弱く外反する。高台は踏下する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	60%　PL199
392	甕 土師器	A [21.4] B (9.9)	体部は内彎して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲する。口縁部内・外面に1条の沈線が巡る。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ，輪積み痕あり。	砂粒・雲母・長石 赤色粒子 橙色 普通	20% 二次焼成
393	長頸瓶 灰釉陶器	B (5.3)	頸部片。頸部は直立し，上位で開く。	頸部内・外面ロクロナデ。外面，内面上半釉薬の刷毛塗り。	緻密，胎土　灰白色 灰白色釉 良好	5%
394	坏 須恵器	B (2.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	5%　PL245 体部外面墨書 横位「万坏」か

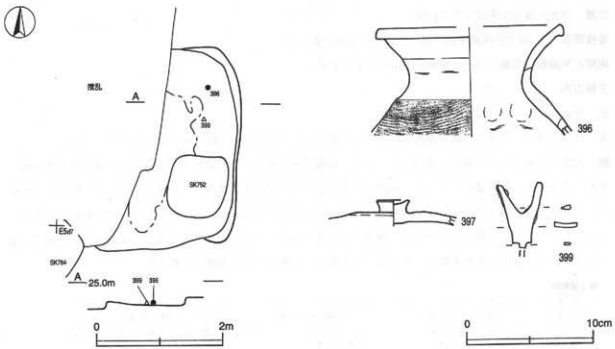
遺物番号	器　種	計測値						材　質	特　徴	備　考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	直ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
395	刀　子	(6.8)	(5.8)	1.3	0.4	－	(7.8)	鉄	刀身部一部残存。	PL254

第252号住居跡（第125図）

位置　調査区域の中央部，E 5 c7区。

重複関係　第752号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　南西部から北部にかけて撹乱を受けているため，確認できたのは東西長2.20m，南北長は3.13mで，平面形は方形と推測される。



第125図　第252号住居跡・出土遺物実測図

主軸方向　N－7°－W

壁　壁高は2～10cmである。

床　中央部がやや高く，踏み固められている。地山のロームを平坦に掘り込んで，床面としている。

覆土　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含む，黒褐色土の単一層である。覆土が薄く，堆積状況は不明である。

遺物　土師器片115点，須恵器片59点，灰釉陶器片1点，土製品1点（管状土錘），鉄器1点（鏃），鉄滓1点が出土している。第125図396の須恵器甕は北東コーナー付近から，397の須恵器蓋は北東部から，399の鉄鏃は中央部東壁寄りの床面から出土している。

所見　本跡は攪乱を受けているために確実なことは言えないが，竈が確認できなかったこと，北竈を想定した場合，対応する位置に出入口施設に伴うピットが確認されていないこと，及び壁溝が確認されていないことから，竪穴状遺構の可能性も考えられる。本跡の時期は，出土土器から9世紀前葉以前と推定される。

第252号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第125図 396	甕 須恵器	A〔15.0〕 B（8.5）	体部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反し，口縁端部は下方につまみ出される。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き。内面指頭押圧，輪積み痕あり。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	15%
397	蓋 須恵器	B（2.5） F　2.6 G　1.0	天井部の破片。天井部は平坦で，なだらかに下降する。つまみはボタン状。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け，ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 不良	40%

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	鏃身長(cm)	鏃身幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	重量(g)			
399	鏃	(5.3)	(4.9)	3.7	(0.4)	0.4	(7.8)	鉄	鏃身部脱。	PL255

第253号住居跡（第126図）

位置　調査区域の中央部，E 7 g1区。

重複関係　第264号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸3.15m，短軸2.95mの方形である。

主軸方向　N－3°－W

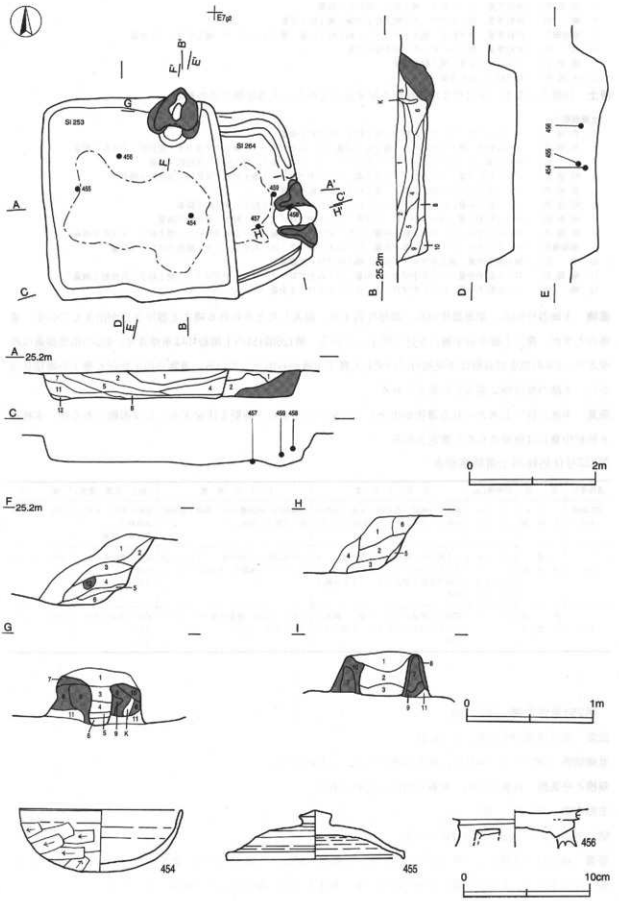
壁　壁高は40cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山のロームを平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　北壁の北東コーナー寄りに設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ92cm，袖部最大幅80cmである。天井部の一部が遺存している。袖部は，両袖部とも暗褐色土を基部とし，粘土ブロック・砂粒を含む褐色土を積み上げて構築されている。両袖の内壁は，火熱を受け赤変している。煙道部は，壁を幅45cm，奥行き20cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は，62度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から55cmほど掘り込んでおり，地山面を火床面としている。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化物・粘土中ブロック微量
4　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量



第126図　第253・264号住居跡，第253号住居跡出土遺物実測図

7　暗 褐 色　砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　　色　砂粒多量，粘土小ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子少量
9　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
10　褐　　色　砂粒多量，粘土小ブロック・粘土粒子中量
11　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
12　灰 黄 色　粘土粒子・砂粒多量

覆土　12層からなる。不自然な堆積状況を呈することから，人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
3　褐　　色　砂粒少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
5　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・黒色土ブロック微量
10　褐　　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，焼土中ブロック微量
11　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

遺物　土師器片92点，須恵器片78点，雲母片岩１点，混入したとみられる縄文土器片５点が出土している。遺物の大半が，覆土上層から中層にかけて出土している。第126図454の土師器坏は東壁寄り，455の須恵器壷は西壁寄り，456の須恵器高盤は中央部の，いずれも覆土中層から出土している。遺物の出土状況と覆土の堆積状況から，本跡の埋没時に混入した考えられる。

所見　本跡に伴うと考えられる遺物が出土していないことから，時期を決定することは困難であるが，本跡は８世紀中葉には廃絶されたと推定される

第253号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第126図 454	坏 土師器	A 12.9 B 5.1	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 赤灰色，普通	75%　ＰＬ199
455	壷 須恵器	A [14.0] B 3.9 F 2.5 G 1.2	天井部から口縁部にかけての破片。天井は丸く，なだらかに口縁部にいたる。口縁部は短く屈曲する。つまみは擬宝珠状。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け，ナデ。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 灰色 良好	30%　ＰＬ199
456	高　盤 須恵器	B（2.3）	脚部から坏部にかけての破片。脚部は３か所の透かし孔をもつ。坏部はほぼ平坦。	坏部内・外面，脚部外面ロクロナデ。透かし孔はヘラ切り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	10%

第254号住居跡（第127図）

位置　調査区域の中央部，Ｅ５b5区。

重複関係　第242・243号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.55m，短軸3.34mの方形である。

主軸方向　Ｎ－13°－Ｗ

壁　壁高は30～45cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅８～30cm，下幅４～10cm，深さ10cm，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　北壁の中央部に設けられている。第242号住居によって掘り込まれているため，残存するのは火床部だけで

ある。規模と平面形は，長軸86cm，短軸59cmの卵形である。火床面は北壁ライン上に位置し，床面から10cmほどくぼんでいる。

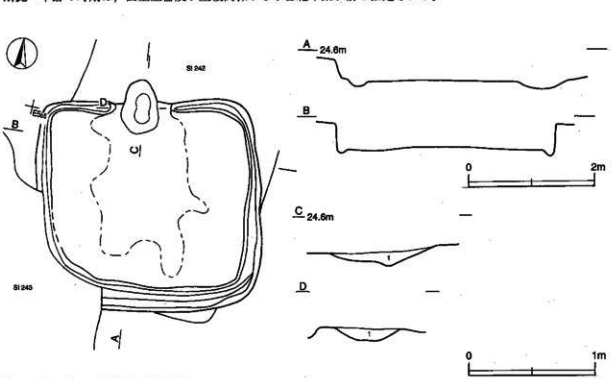
竈土層解説

1　極暗褐色　　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土大ブロック・

覆土　第242号住は焼失して床面近くまで削平されているため，堆積状況は不明である。

遺物　土師器片14点，須恵器片８点，灰釉陶器片１点が出土している。細片のため図示できる遺物はない。

所見　本跡の時期は，出土土器及び重複関係から９世紀中葉以前と推定される。



第127図　第254号住居跡実測図

第255号住居跡（第128図）

位置　調査区域の中央部，Ｅ６d1区。

重複関係　第232号住居，第26号溝，第749・750号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　南壁側を第232号住居に，西壁側を第749・750号土坑に掘り込まれているので，いずれも推定であるが，長軸3.10m，短軸2.85mの方形である。

主軸方向　Ｎ－94°－Ｅ

壁　壁高は７cmである。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山のロームを平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　東壁の中央部やや北寄りに設けられている。遺存するのは，火床部だけである。規模は，焚口部から煙道部までの長さ69cmである。火床部は，長軸95cm，短軸70cmの卵形に，確認面から10cmの深さに掘り込んでおり，地山面を火床面としている。火床面は，東壁ラインの内側に位置する。

竈土層解説

1　暗 褐 色　　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・砂粒微量
2　暗 褐 色　　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量，焼土中ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　　焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化物微量

ピット　2か所（P1・P2）。P1は中央部に位置し，長径34cm，短径25cmの楕円形，深さ35cmである。P2は西壁際に位置し，長径は第749号土坑に掘り込まれているため推定で55cm，短径45cmの楕円形，深さ30cmである。性格は，本跡に伴うものかも含めてともに不明である。

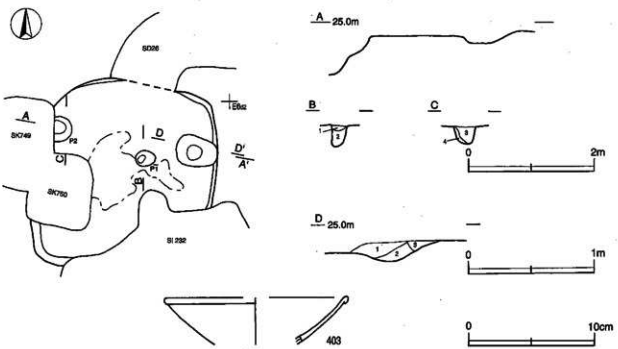
ピット土層解説

1	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

覆土　ローム小ブロックをわずかに含む，黒色土の単一層である。覆土が薄いため，堆積状況は不明である。

遺物　土師器片16点，須恵器片7点，白磁片1点が出土している。第128図403の白磁椀は中央部の床面から出土しているが，覆土が薄く，また本跡を掘り込んでいる溝の近くから出土しているため，本跡に伴わない可能性が考えられる。

所見　本跡の時期は，重複関係から9世紀前葉以前と推定される。



第128図　第255号住居跡・出土遺物実測図

第255号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図 403	椀 白磁	A [14.6] B (3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は玉縁状を呈する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	緻密，胎土 灰白色 乳白色釉 良好	10% P L.270

第257号住居跡（第129・130図）

位置　調査区域の中央部，F5a0区。

規模と平面形　長軸3.51m，短軸2.72mの長方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は36～45cmで，ほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。地山のロームを平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　北壁の東寄りに設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ111cm，袖部最大幅115cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第６層が焼土を多く含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と考えられる。袖部は粘土主体の暗褐色土で構築されている。袖部の内側は火熱を受け赤変している。煙道部は，壁を幅90cm，奥行き43cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は45度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から47cmほどの深さで掘り込んでおり，地山面を火床面としている。火床部には，厚さ５cmほどの暗赤褐色土が堆積しており，奥には瓦片がＴ字形に積み上げられ，支脚に転用されている。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。

竈土層解説

1	黒 褐 色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
3	暗 褐 色	粘土大ブロック多量，焼土小ブロック少量
4	褐　　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・砂粒・粘土中ブロック微量
5	極暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
6	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物微量
7	褐　　色	粘土中ブロック多量，焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量
8	黒 褐 色	焼土粒子・灰中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック・砂粒少量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物微量
9	暗赤褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
10	暗 褐 色	粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
11	にぶい黄褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子微量
12	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化粒子微量

ピット　16か所（Ｐ１～Ｐ16）。Ｐ１～Ｐ８は長径25～38cm，短径18～20cmの楕円形，確認面からの深さ30～80cmで，いずれも壁を半円形状に掘り込んでいることから，壁柱穴の可能性が考えられる。Ｐ９は，長径51cm，短径41cmの不整楕円形，深さ25cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。Ｐ10～Ｐ16は西部に位置し，長径20～35cm，短径15～23cm，深さ17～26cmである。性格は不明である。

ピット土層解説

1	黒 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
2	黒 褐 色	ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
3	暗 褐 色	ローム粒子・ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
4	暗 褐 色	ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
5	黒 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

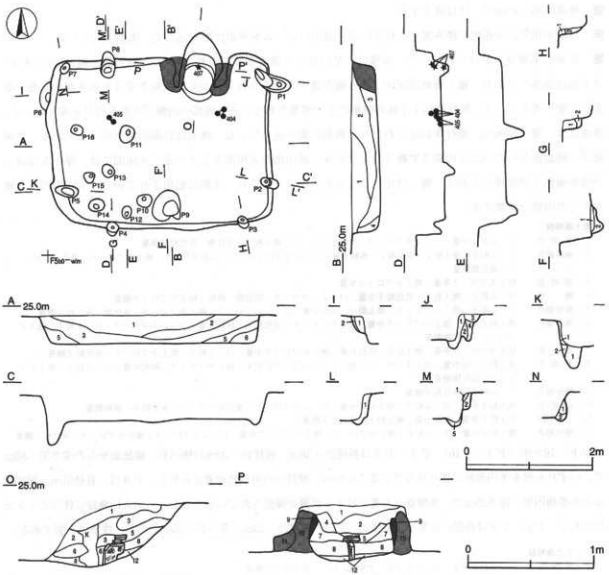
覆土　６層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・黒色土小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
4	褐　　色	ローム小ブロック少量
5	黒 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
6	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片158点，須恵器片25点，瓦片３点が出土している。第130図404・405は土師器甕である。404は竈東袖前の覆土下層から斜位で，405は中央部西寄りの床面から破片の状態で出土している。469の須恵器坏は南西部の覆土中層から，406の須恵器甕片は南西部の覆土上層から出土している。407の瓦は，竈内から出土しており，支脚に転用されていた破片が接合したものである。

所見　第449・452・459号住居跡においても，本跡と同様に壁柱穴が検出されている。本跡の時期は，出土土器から８世紀中葉と推定される。細片のため図示できなかった遺物中に，かえりが付く須恵器蓋があることから，８世紀中葉でも古い段階になる可能性が考えられる。

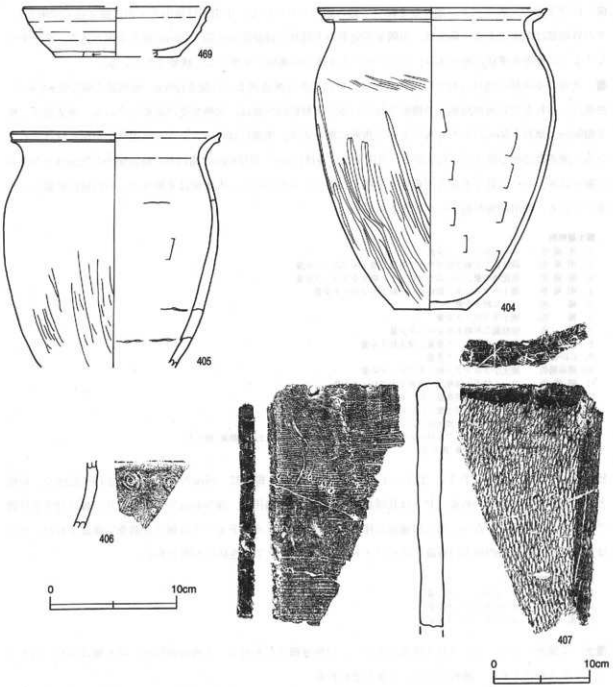


第129図　第257号住居跡実測図

第257号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第130図 404	甕 土師器	A 24.1 B 31.7 C [7.6]	体部は内弾して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラ状工具による当て具痕，下半縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	70%　PL199 外面煤付着
405	甕 土師器	A 16.4 B (18.6)	底部，体部一部欠損。体部は内弾して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半縦位のナデ，内面ヘラナデ，輪積み痕を残す。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	70%　PL199
406	甕 須恵器	B (5.4)	体部の破片。	体部外面同心円状叩き。	砂粒・雲母・長石 灰白色，普通	5%　PL244
469	坏 須恵器	A [14.8] B 4.0 C [9.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内弾気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰色 普通	10%　PL199

遺物番号	器種	計測値					特徴	備考
		上幅(cm)	下幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
407	平瓦	(14.8)	－	(26.1)	3.1	(1260)	凸面縄目叩き。凹面糸切り痕，布目痕。	PL260



第130図　第257号住居跡出土遺物実測図

第258号住居跡（第131・132図）

位置　調査区域の中央部，Ｆ６e2区。

重複関係　第85号掘立柱建物に掘り込まれており，第85号掘立柱建物より古い。

規模と平面形　長軸4.15m，短軸3.66mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－20°－Ｗ

壁　壁高は45～50cmで，ほぼ直立する。

壁溝　北東コーナー部付近を除いて，壁下を巡っている。上幅８～20cm，下幅６～15cm，深さ５cm，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，各コーナー部付近を除いて踏み固められている。中央部は地山を平坦に掘り込んで床とし，その外周部は貼床である。貼床は，四隅を不定形の土坑状に確認面から55～70cmの深さで掘り込み，それをつなぐように壁際を溝状に掘り込み，そこにローム主体の暗褐色土を埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ120cm，袖部最大幅130cmである。袖部は，砂粒を含む黄褐色粘土で構築されている。東袖部の内側は，火熱を受け赤変している。煙道部は，壁を幅90cm，奥行き50cmにわたり角の丸い三角形に掘り込み，奥壁にはロームを含む暗褐色土が貼り付けられている。煙道は55度の傾きで立ち上がる。火床部は，長径115cm，短径85cmの楕円形に確認面から70cmほどの深さに掘り込み，ローム粒子を含んだ褐色土を埋土してつくられている。火床面は北壁ラインの内側に位置し，赤変している。使用期間が長かったと考えられる。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック少量
2	明褐色	砂粒混じり粘土小ブロック多量，焼土中ブロック少量
3	暗褐色	炭化物中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
4	明褐色	焼土小ブロック・砂粒混じり粘土小ブロック少量
5	褐色	ローム粒子中量
6	褐色	焼土中ブロック少量
7	褐色	砂粒混じり粘土小ブロック少量
8	にぶい黄褐色	ローム中ブロック多量，焼土粒子少量
9	にぶい黄褐色	ローム中ブロック多量
10	暗赤褐色	焼土小ブロック・粘土中ブロック中量
11	暗褐色	ローム粒子・砂粒混じり粘土中ブロック少量
12	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子少量
13	褐色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
14	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土中ブロック少量（掘り方）
15	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量（掘り方）
16	褐色	ローム粒子少量（掘り方）

ピット　7か所（P１～P７）。P１～４は，長径40～62cm，短径37～46cmの楕円形，深さ40～52cmで，規模と配置から主柱穴と思われる。P５は長径40cm，短径37cmの楕円形，深さ40cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P６・７は掘り方調査で確認された。P６は，位置から旧段階の出入口施設に伴うピットと思われる。P７の性格は不明である。

ピット土層解説

9	暗褐色	ローム中ブロック少量
10	褐色	ローム中ブロック中量
11	褐色	ローム中ブロック多量

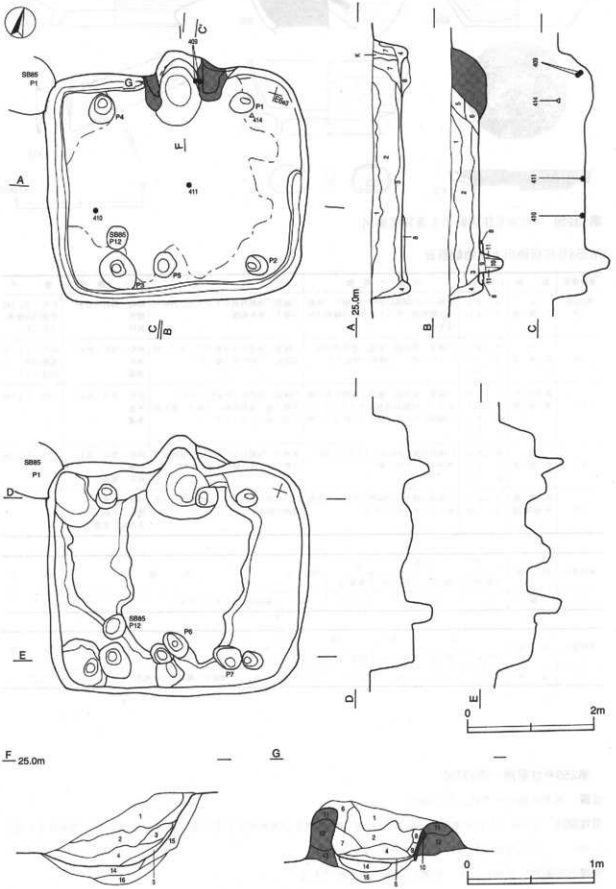
覆土　7層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる。土層断面図中，第６層は砂粒，粘土ブロックを含むことから，竈材が流出した層と思われる。

土層解説

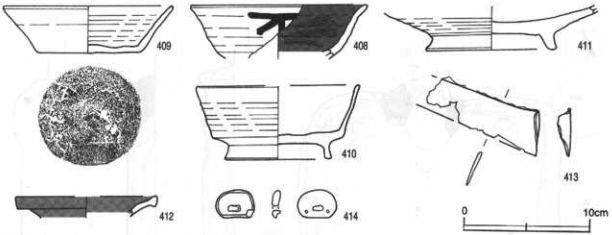
1	極暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	焼土小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
3	暗褐色	ローム中ブロック中量
4	褐色	ローム大ブロック少量
5	暗褐色	ローム中ブロック・焼土粒子少量
6	褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒混じり粘土中ブロック中量
7	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量
8	暗褐色	ローム中ブロック少量（貼床）

遺物　土師器片344点，須恵器片284点，灰釉陶器片２点，鉄器・鉄製品２点（鎌・腰帯具），攪乱により混入したとみられる陶器片２点が出土している。第132図408の土師器坏は北部の覆土上層から出土しており，体部外面に「万」の墨書が認められる。409の須恵器坏は竈内から出土している。410の須恵器高台付坏は中央部西壁寄りの床面から正位で，411の須恵器蓋は中央部の床面から逆位で出土している。412の灰釉陶器長頸瓶，414の丸鞆，413の鎌は北西部の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から９世紀前葉と推定される。



第131図　第258号住居跡実測図



第132図　第258号住居跡出土遺物実測図

第258号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第132図 408	坏 土師器	A 14.0 B (4.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・長石・石英 橙色 良好	15%　ＰＬ246 体部外面墨書 正位「万」
409	坏 須恵器	A 13.4 B 3.8 C 8.2	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，雑なナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	80%　ＰＬ199 底部外面ヘラ記号「＋」
410	高台付坏 須恵器	A [12.8] B 5.9 D 8.4 E 1.3	口縁部一部欠損。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	40%　ＰＬ199
411	鉢 須恵器	B (13.4) C 10.2 E 1.2	口縁部欠損。体部は大きく外方に開く。高台はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・小礫 灰色，普通	70%　ＰＬ200
412	長頸瓶 灰釉陶器	A [11.1] B (1.6)	口縁部の破片。口縁部は外反し，端部を上下つまみ出している。	内・外面ロクロナデ。口縁部内・外面釉薬の刷毛塗り。	砂粒・小礫 胎土　灰色 灰色釉，普通	5%

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
413	鎌	(9.8)	2.9	0.2	(19.4)	鉄	基部全面折り返し。直刃か。	ＰＬ256

遺物番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	重孔(g)			
414	丸鞆	2.3	3.1	0.5	9.2	0.4×0.9	鉄	脚鋲式。脚鋲２ヶ所残存。	ＰＬ257

第259号住居跡（第133図）

位置　調査区域の中央部，Ｆ５e0区。

重複関係　第896号土坑を掘り込み，第85号掘立柱建物及び第898号土坑に掘り込まれいるので，第896号土坑より新しく，第85号掘立柱建物及び第898号土坑より古い。

規模と平面形　長軸4.51m，短軸3.73mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－２°－Ｗ

壁　壁高は38～41cmで，ほぼ直立する。

壁溝　西壁の一部を除いて，壁下を巡っている。上幅11～16cm，下幅４～12cm，深さ９cm，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。主柱穴の内側は地山のロームを床としており，その外周部は貼床である。貼床は，南東コーナー部を除く各コーナー部を，確認面から深さ50～65cmほど不定形の土坑状に，またその間をつなぐように浅い溝状に掘り込み，焼土粒子・炭化粒子をわずかに含むローム主体の暗褐色土を埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。第898号土坑に掘り込まれているため，西袖の一部がわずかに遺存するだけである。

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１は第898号土坑に掘り込まれているが，長径80cm，短径60cmの楕円形と推定され，深さ47cmで，北東コーナー部に位置する。Ｐ２・Ｐ３は，第85号掘立柱建物に掘り込まれている。Ｐ２は長径60cm，短径50cmの楕円形と推定され，深さは37cmで，南東コーナー部に位置する。Ｐ３は長径28cm，短径22cmの楕円形，深さ53cmで，北西コーナー部に位置する。Ｐ４は長径38cm，短径30cmの楕円形，深さ14cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。Ｐ５・Ｐ６は，それぞれ長径60cm・55cm，短径45cm・43cmの楕円形，深さ14cm・11cmで，中央部の南東コーナー寄りと南西コーナー部寄りに位置する。性格は不明である。

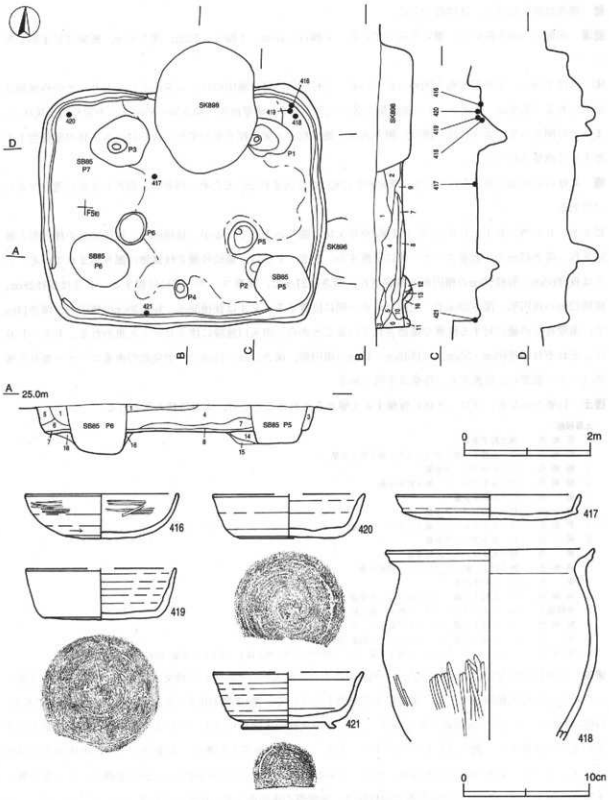
覆土　11層からなる。ブロック状に堆積する土層がみられることから，人為堆積と思われる。

土層解説

1	黒褐色	焼土粒子多量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子少量
3	暗褐色	ローム中ブロック少量
4	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量
5	褐　色	ローム粒子少量
6	褐　色	ローム中ブロック少量
7	黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
8	褐　色	ローム小ブロック少量
9	褐　色	粘土大ブロック・砂粒多量
10	暗褐色	焼土粒子・粘土大ブロック・砂粒中量
11	褐　色	ローム粒子中量
12	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量（Ｐ４覆土）
13	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量（Ｐ４覆土）
14	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量（貼床）
15	褐　色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量（貼床）
16	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）

遺物　土師器片282点，須恵器片96点，不明鉄製品１点，混入したとみられる縄文土器片３点，撹乱により混入したとみられる灰釉陶器片１点，陶器片１点が出土している。第133図416は土師器坏，417は土師器皿である。416は北東コーナー部の床面直上から斜位で，417は中央部の床面から出土している。ともに器形及び胎土が在地のものとは異なり，搬入されたものと考えられる。418の土師器小形甕は，北東コーナー部の床面から斜位で出土している。419・420は須恵器坏である。419は北東コーナー部の床面から，420は北西コーナー部の覆土下層から出土している。421の須恵器高台付坏は，南壁際の床面直上から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀前葉と推定される。



第133図　第259号住居跡・出土遺物実測図

第259号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第133図 416	坏 土師器	A 12.6 B 3.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	体部内・外面ていねいなヘラ磨き後ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 明赤褐色，普通	95%　ＰＬ200
417	皿 土師器	A 14.8 B 2.0	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底気味の丸底。底部と口縁部との境に明瞭な段を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。底部外面多方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英 橙色 普通	35%
418	小形壺 土師器	A 16.4 B (15.1)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反気味に開き，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ，下半縦位のヘラ磨き。内面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	60%　ＰＬ199
419	坏 須恵器	A [11.9] B 4.1 C 9.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁端部は細くすぼむ。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	70%　ＰＬ200 底部外面ヘラ記号「十」
420	坏 須恵器	A [12.0] B 3.5 C 8.4	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	50%　ＰＬ200
421	高台付坏 須恵器	A [12.0] B 4.5 D 8.0 E 0.6	底部から口縁部の破片。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。高台は短く外方にふんばる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付けロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	50%　ＰＬ200

第260号住居跡（第134～137図）

位置　調査区域の中央部，Ｆ５g0区。

重複関係　第85号掘立柱建物に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸5.00m，短軸4.74mの方形である。

主軸方向　Ｎ－90°－Ｅ

壁　壁高は35～40cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分及び南壁の一部を除いて，壁下を巡っている。上幅９～21cm，下幅５～13cm，深さ７cm，断面はＵ字形である。

床　床面は，南東コーナー部がやや高くなっている以外はほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。全面が貼床である。貼床は，四隅を確認面から深さ52～68cmの不定形の土坑状に掘り込み，その間をつなぐように溝状に掘り込んで，焼土・炭化物・砂粒をわずかに含むローム主体の褐色土を埋土して構築されている。

竈　２か所（竈１，竈２）。遺存状況から，竈１が構築，撤去された後に，新たに竈２が構築され，住居廃絶時まで使用されたと考えられる。竈１は，北壁の中央部に位置する。残存部が少なく詳細は不明であるが，煙道部の掘り方は第85号掘立柱建物に掘り込まれているため，壁外への掘り込みは幅85cm，奥行き55cmと推定される。火床部の掘り方は長軸73cm，短軸55cmの楕円形，確認面からの深さ56cmである。竈２は，東壁の南東コーナー寄りに位置し，天井部の一部及び袖部が残存する。竈土層断面図中，第４～７層は焼土大ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。規模は焚口部から煙道部までの長さ86cm，袖部最大幅140cmである。煙道部を壁外へ掘り込まずに，天井部及び袖部を砂粒・粘土を含む黄褐色土を用いて構築している。煙道は，ほぼ直立し，平面形は長径19cm，短径13cmの楕円形である。火床面は東壁ラインの内側に位置し，火熱を受けて硬化しているが，焼土化するまでには至っていない。

竈２土層解説

1　にぶい黄褐色　砂粒混じり粘土小ブロック多量，焼土粒子少量
2　にぶい褐色　砂粒混じり粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化物少量
3　にぶい褐色　粘土中ブロック多量，焼土粒子少量
4　赤褐色　焼土大ブロック中量

5　暗 褐 色　焼土中ブロック少量
6　にぶい橙色　焼土大ブロック多量
7　赤 褐 色　焼土大ブロック多量，焼土粒子少量
8　褐　　色　焼土粒子中量，炭化物少量
9　極暗赤褐色　焼土粒子中量
10　にぶい褐色　粘土中ブロック中量
11　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・砂粒微量
12　にぶい黄褐色　粘土小ブロック中量，暗褐色土少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13　灰黄褐色　粘土小ブロック多量，砂粒中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
14　暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
15　暗 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量
16　暗 褐 色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
17　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
18　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒微量
19　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
20　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

ピット　8か所（Ｐ１～Ｐ８）。Ｐ１～Ｐ４は長径46～70cm，短径35～65cmの円形または楕円形，深さ30～50cmで，規模や配置及び土層断面の観察から建て替え後の主柱穴と思われる。ピット土層断面図中，第５・６層が建て替え後の主柱穴の覆土である。Ｐ５は長径90cm，短径45cmの楕円形，深さ25cmである。南壁寄りの竈１に対応する位置で確認され，長径22～25cm，短径16cm，深さ22～32cmほどの小ピットを３か所内包していることから，出入口施設に伴うピットの掘り方と思われる。Ｐ５内の小ピットは切り合い関係が無いことから，新旧関係は不明である。Ｐ６～Ｐ８はＰ１・Ｐ２・Ｐ４に掘り込まれていることから，建て替え前の主柱穴と思われる。

ピット土層解説

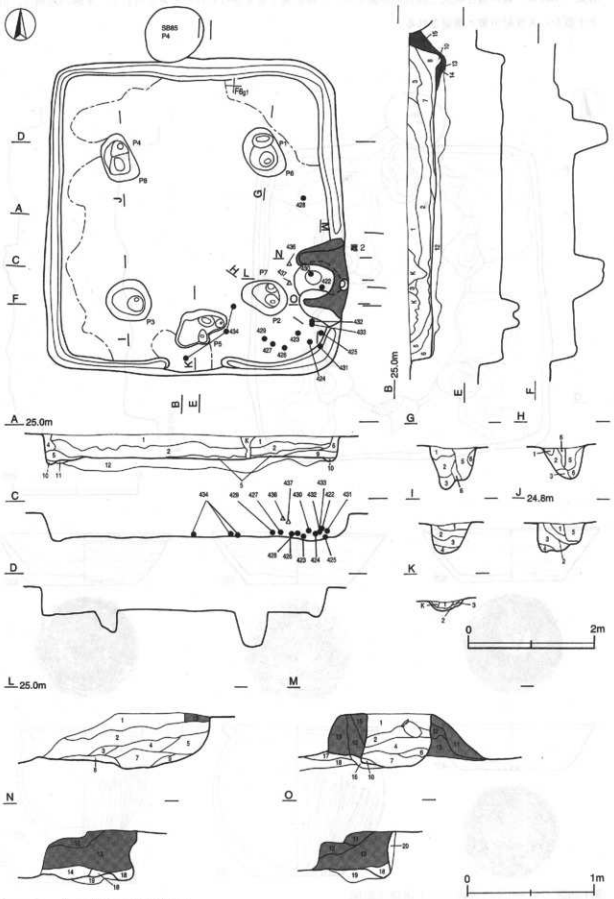
1　褐　　色　ローム中ブロック中量，焼土小ブロック少量
2　褐　　色　ローム中ブロック多量
3　褐　　色　ローム中ブロック中量
4　褐　　色　ローム大ブロック多量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック少量
6　明 褐 色　ローム粒子少量

覆土　10層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる。

土層解説

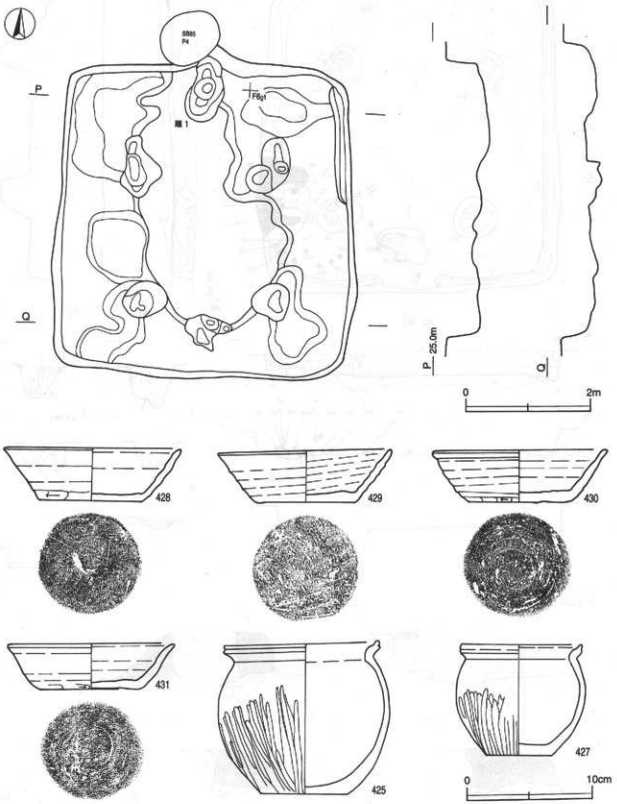
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
7　褐　　色　焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
8　暗 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
9　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
10　褐　　色　焼土粒子少量
11　褐　　色　焼土小ブロック微量(貼床)
12　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量(貼床)
13　暗 褐 色　焼土小ブロック・炭化物・灰中量(竈１堆土)
14　褐　　色　焼土中ブロック・灰少量(竈１堆土)
15　褐　　色　焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化物少量(竈１堆土)

遺物　土師器片485点，須恵器片182点，緑釉陶器片２点，鉄器・鉄製品２点（鎌・不明），混入したとみられる縄文土器片２点，撹乱により混入したとみられる陶器片１点が出土している。第135～137図422～427は土師器小形甕，428～431は須恵器坏，432・433は須恵器甕である。竈２内から422は斜位，430は逆位で出土している。南東コーナー部の床面直上から423・424は横位，425・426は正位，427・429は斜位，432は433の中に入れられた入籠状態で，431は同部の覆土下層から横位で出土している。432・433はともに割れ口が摩滅しており，下半部のみで使用されていたと思われる。428は東壁寄りの覆土下層から逆位で，434の須恵器甑は南壁寄りの覆土上層と下層から出土した破片が接合したものである。435の緑釉陶器皿は混入品と思われる。436の鎌，437の不明鉄製品は竈２前の覆土上層から出土している。

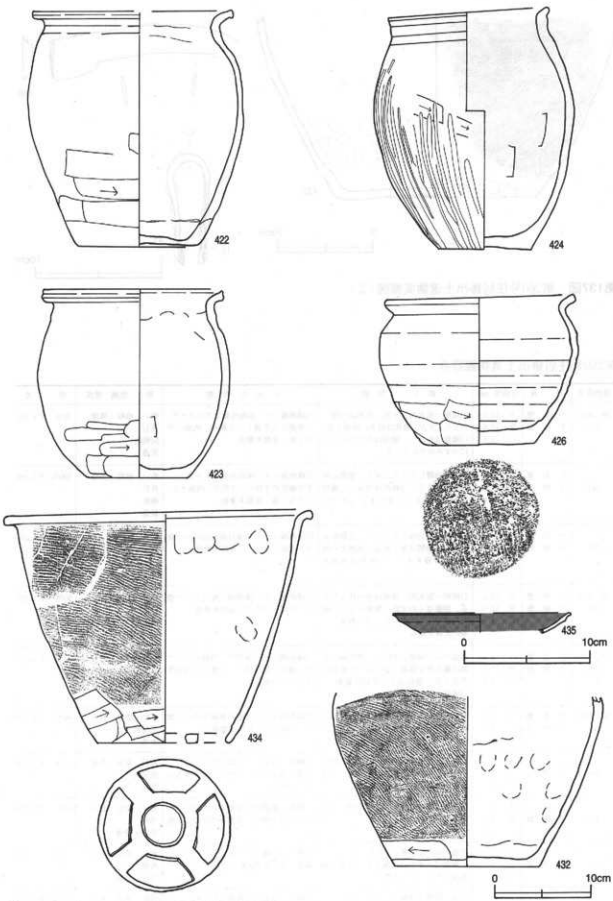


第134図　第260号住居跡実測図

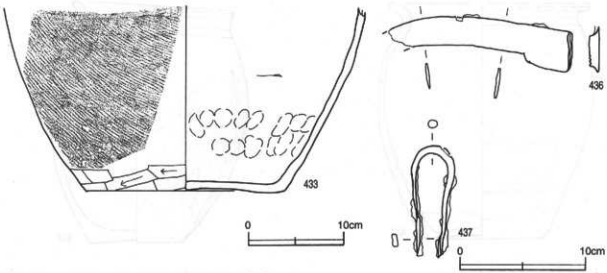
所見　本跡は，竈の遺存状況と柱穴の位置から，上屋の建て替えが行われたと考えられる。本跡の時期は，出土土器から８世紀中葉と推定される。



第135図　第260号住居跡・出土遺物実測図



第136図　第260号住居跡出土遺物実測図（1）



第137図　第260号住居跡出土遺物実測図（2）

第260号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 422	小形甕 土師器	A [15.5] B 18.6 C 9.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部は外方に屈曲する。口縁部は外反し，端部はわずかに上下につまみ出されている。	口縁部横ナデ。体部外面上半ヘラナデ，下半横位の手持ちヘラ削り，内面ヘラ当て痕。底部木葉痕。	粗い，砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	90%　P L.200
423	小形甕 土師器	A 14.3 B 14.8 C 8.0	体部は内彎して立ち上がり，頸部は外方に屈曲する。口縁部は外反し，端部はわずかに上につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面上半ナデ，下半横位の手持ちヘラ削り。内面ナデ，ヘラ当て痕。底部木葉痕。	粗い，砂粒・雲母・長石 褐色 普通	100%　P L.200
424	小形甕 土師器	A 12.8 B 19.2 C 7.3	体部は内彎気味立ち上がり，長胴形を呈する。頸部は短く直立し体部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。底部木葉痕。	粗い，砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通	100%　P L.200
第135図 425	小形甕 土師器	A 12.2 B 12.0 C 7.0	口縁部一部欠損。体部は球形状を呈する。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部はつまみ上げられ，内・外面に1条の沈線が巡る。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	90%　P L.200
第136図 426	小形甕 土師器	A 14.8 B 11.6 C 8.8	体部から口縁部にかけて一部欠損。体部は最大径を体部上位にもつ半球形状を呈する。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は短く直立する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	粗い，砂粒・長石・角礫 にぶい橙色 普通	90%　P L.200
第135図 427	小形甕 土師器	A 9.6 B 8.7 C 5.3	体部は球形状を呈する。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部はつまみ上げられ，内・外面に1条の沈線が巡る。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き，内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石 黒褐色 普通	90%　P L.200
428	坏 須恵器	A 14.2 B 4.3 C 8.1	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁端部は内側ボ状である。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・角礫 黒褐色 普通	90%　P L.200
429	坏 須恵器	A 14.0 B 4.2 C 8.1	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目が強い。底部多方向のヘラ削り。	粗い，砂粒・長石・角礫 灰色，普通	100%　P L.200
430	坏 須恵器	A 13.8 B 4.1 C 8.1	平底。底部は外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。体部下端摩滅のため，丸みを帯びる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	粗い，砂粒・長石・角礫 灰色，普通	100%　P L.200
431	坏 須恵器	A 13.0 B 3.6 C 7.8	平底。底部は外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。体部下端摩滅のため，丸みを帯びる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	100%　P L.200

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 432	甕 須恵器	B (18.2) C 15.3	口縁部欠損。体部は内弯して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き，内面指頭押圧後，ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 良好	50% PL200
第137図 433	甕 須恵器	B (19.3) C 21.0	口縁部欠損。体部は内弯して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き，内面指頭押圧後，ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部摩滅のため，調整不明。	砂粒・雲母・長石・小石 灰色，普通	50%
第136図 434	甑 須恵器	A 32.2 B 24.8 C 14.0	体部一部欠損。5孔式。体部は外傾しながら立ち上がる。頸部は外方に屈曲する。口縁部は大きく開き，平坦面をもつ。口縁部断面は，長方形である。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き，下端横位の手持ちヘラ削り，内面指頭押圧後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	80% PL200 体部外面ヘラ記号
435	瓦 緑釉陶器	A [13.9] B (1.6)	口縁部の破片。口縁部は外反し，端部はつまみ出され，水平である。	口縁部内・外面施釉。施釉方法不明。	軟質・精良 胎土褐色，黄緑色釉	10%

遺物番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		刀身長(cm)	背幅(cm)	刃部最大幅(cm)	刃部最小幅(cm)	重量(g)			
第137図436	鎌	(14.5)	0.3	3.1	2.0	(31.1)	鉄	着柄部は基部全体を折り曲げる。	PL256

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
437	不明	(9.0)	3.5	0.4	(20.4)	鉄	U字形を呈する。	PL258

第261号住居跡（第138・139図）

位置　調査区域の中央部，F6h4区。

規模と平面形　東部が調査区域外で，南部が攪乱を受けているため，確認できたのは東西長2.62m，南北長3.69mである。平面形は北西コーナー部がほぼ直角であるために，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－17°－E（南北軸）

壁　壁高は15～24cmで，ほぼ直立する。

壁溝　西壁と北壁の，壁下を巡っている。上幅10～26cm，下幅6～15cm，深さ10cm，断面はU字形，一部でU字状である。

床　北半部は，南半部に比べて10cmほど高く，壁際を除いて踏み固められている。南半部は，地山のロームを平坦に掘り込んで床面とし，北半部は，確認面から深さ20～30cmほど平坦に掘り込み，ローム主体の褐色土を埋め戻し，貼床としている。

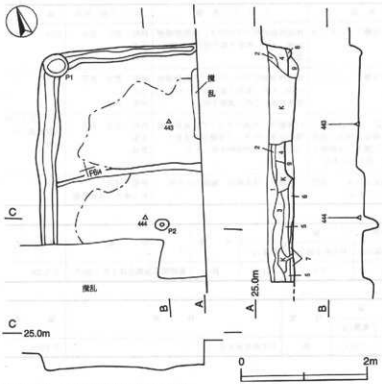
ピット　2か所（P1・P2）。P1は長径45cm，短径32cmの楕円形，深さ14cmで，北西コーナー部に位置する。P2は長径23cm，短径18cmの楕円形，深さ25cmで，中央部南側に位置する。ともに位置的に柱穴の可能性も考えられるが，詳細は不明である。

覆土　8層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物少量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化材微量
4　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化材・炭化物微量
6　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
9　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）

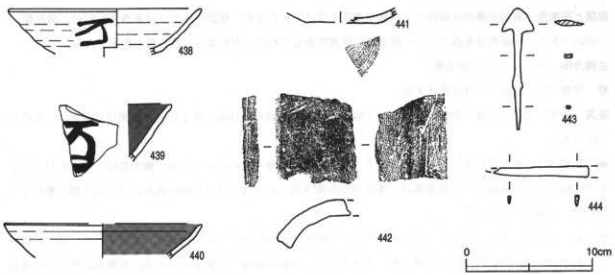
遺物　土師器片289点，須恵器片50点，灰釉陶器片2点，瓦片1点，鉄器2点（鎌・刀子），椀状滓1点が出土



第138図　第261号住居跡実測図

している。第139図438・439の土師器坏は覆土上層から出土し，ともに体部外面に「万」の墨書が認められる。440の灰釉陶器椀，441の須恵器坏，442の瓦は覆土上層から，443の鎌は中央部北寄りの床面から，444の刀子は中央部南寄りの覆土中層から出土している。

所見　本跡は，ベッド状の高まりを伴う住居跡である。同様の形態は第249号住居跡でもみられる。竈は，調査区域外の東壁に設けられていると推測される。また，椀状滓が出土しているが，調査範囲内では鍛冶関連施設は確認されていない。本跡の時期は，出土土器から9世紀後葉と推定される。



第139図　第261号住居跡出土遺物実測図

第261号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第139図 438	坏 土師器	A〔15.2〕 B（3.6）	口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子，橙色 普通	20%　PL201 体部外面墨書 正位「万」
439	坏 土師器	B（4.5）	口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き，黒色処理。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	5% 体部外面墨書 正位「万」

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第139図 440	椀 灰釉陶器	A (15.6) B (2.7)	体部は内弯して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。釉薬掛毛塗り。	緻密，胎土 灰白色 灰オリーブ釉 普通	5%
441	坏 瓶 底 部	B (1.1) C 6.0	底部の破片。平底。	底部内面ロクロナデ。回転糸切り。	砂粒・石英 灰黄色，普通	5% PL244

遺物番号	器種	計測値				特徴	備考
		幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
442	丸 瓦	(5.9)	(7.2)	1.4	(93.3)	凸面ヘラ削り。凹面布目痕。	PL261

遺物番号	器種	計測値								材質	特徴	備考
		全長(cm)	鏃身長(cm)	鏃身幅(cm)	茎被長(cm)	茎被幅(cm)	茎長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
443	鏃	9.8	2.0	2.6	4.8	0.5	3.0	0.4	5.8	鉄	鏃身三角形	PL255

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	重量(g)			
444	刀 子	(7.6)	(7.6)	0.9	0.3	(5.9)	鉄	切先，茎部欠損。	PL254

第262号住居跡（第140・141図）

位置 調査区域の南西部，F5h7区。

重複関係 第944・945号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.05m，短軸3.85mの方形である。

主軸方向 N－8°－E

壁 壁高は40～45cmで，ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅10～13cm，下幅6～8cm，深さ12cm，断面はU字形，一部でU字状である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山のロームを平坦に掘り込み，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ103cm，袖部最大幅124cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第4層が焼土を多く含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は粘土ブロック・砂粒を含む灰褐色土を芯材にして構築されている。煙道部は，壁を幅108cm，奥行き34cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は，53度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から55cmほどの深さで掘り込み，地山面を火床面としている。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。火床面及び内壁は火熱を受けて赤変硬化しており，長期間使用されていたと思われる。

竈土層解説

1 暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック微量
2 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒微量
3 にぶい黄褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒微量
4 暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
5 暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・粘土小ブロック・砂粒微量
6 暗オリーブ褐色　灰中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
7 灰褐色　粘土小ブロック・砂粒中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
8 暗褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
9 暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量，砂粒微量

ピット 7か所（P1～P7）。P1～P4は長径43～45cm，短径35～40cmの楕円形，深さ34～45cmで，規模と配置から主柱穴と思われる。P5は長径25cm，短径22cmの楕円形，深さ26cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P6はP1とP2の間に位置し，長径28cm，

短径25cmの楕円形，深さ25cmで，補助柱穴の可能性が考えられる。Ｐ７は南壁際に位置し，長径30cm，短径25cmの楕円形，深さ29cmで，性格は不明である。

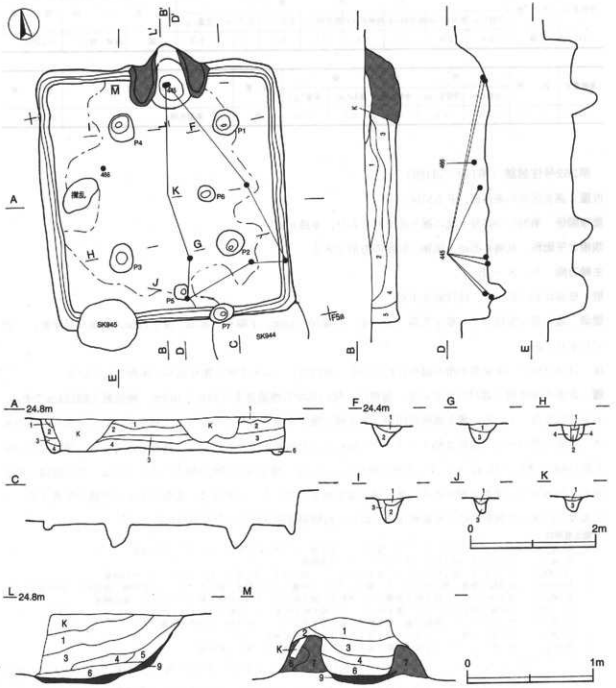
ピット土層解説

1　暗 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量

覆土　6層からなる。ロームブロックを含む層が帯状に堆積する状況から，人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量

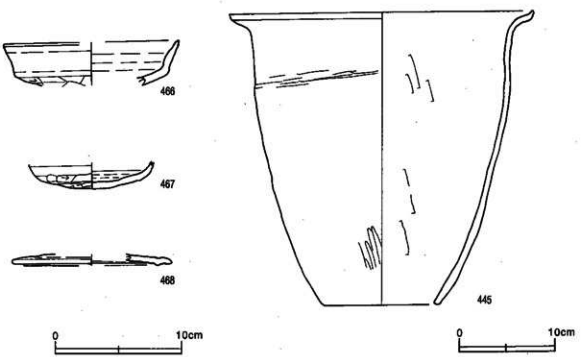


第140図　第262号住居跡実測図

3　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
6　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片141点，須恵器片36点，混入したとみられる縄文土器片２点，灰釉陶器片１点が出土している。第141図445の土師器甑は，南東コーナー部から中央部にかけての覆土下層及び床面から出土した破片と竈内から出土した破片が接合したものである。466の土師器坏，468の須恵器壷は北西部，467の須恵器坏は南東部の，いずれも覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀前葉と推定される。



第141図　第262号住居跡出土遺物実測図

第262号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第141図 445	甑 土師器	A [32.4] B 30.8 C [12.0]	無底式。体部は緩やかに立ち上がり頸部で外方に屈曲する。口縁部は短く直立し，端部はつまみ上げられ，内・外面に１条の沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラ当て痕を残すナデ。下半ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 によい橙色 普通	50%　ＰＬ201
466	坏 土師器	A [13.8] B (3.4)	底部から口縁部の破片。平底気味の丸底。体部との境に明瞭な稜をもつ。体部は短く外傾し，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	精良，細砂 橙色 普通	20%
467	坏 須恵器	B (2.1)	底部から体部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がる。器壁は厚い。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，雑な多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色 普通	30%　ＰＬ201
468	壷 須恵器	A [12.3] B 0.9	天井部は低く扁平で，口縁端部は外方にやや長くのびる。口縁部の内面に短いかえりが付く。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	10%

第263号住居跡（第142・143図）

位置　調査区域の南西部，Ｆ５j7区。

規模と平面形　長軸3.82m，短軸3.55mの方形である。

主軸方向　Ｎ－10°－Ｗ

壁　壁高は35～40cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅７～15cm，下幅４～９cm，深さ10cm，断面はＵ字状である。

床　竈前面がややくぼんでいる以外は，ほぼ平坦で，Ｐ１から竈にかけて踏み固められている。全面が貼床である。貼床は，竈の前と南東コーナー付近及び南西コーナー付近を，確認面から深さ55～75cmほど不定形の土坑状に，中央部を確認面から40～46cmほど比較的平坦に掘り込み，焼土粒子・炭化粒子をわずかに含むローム主体の褐色土を埋土して構築されている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ109cm，袖部最大幅129cmである。天井部は崩落している。袖部はロームを掘り残して基部とし，その上に砂粒混じりの黄褐色粘土を貼り付けて構築されている。両袖部の内側は，火熱を受け赤変している。煙道部は，壁を幅107cm，奥行き62cmにわたり角の丸い三角形に掘り込んでいる。煙道は，43度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から50cmほど掘り込んだ，地山面を火床面としている。火床面は北壁ライン上に位置する。

竈土層解説

1	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
3	暗赤褐色	焼土粒子・灰中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
4	暗褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
8	灰黄褐色	黄褐色粘土小ブロック多量，砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
9	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量

ピット　１か所。Ｐ１は長径40cm，短径30cmの楕円形，深さ16cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

覆土　10層からなる。ロームブロックを含む褐色土が主であることから，人為堆積と思われる。

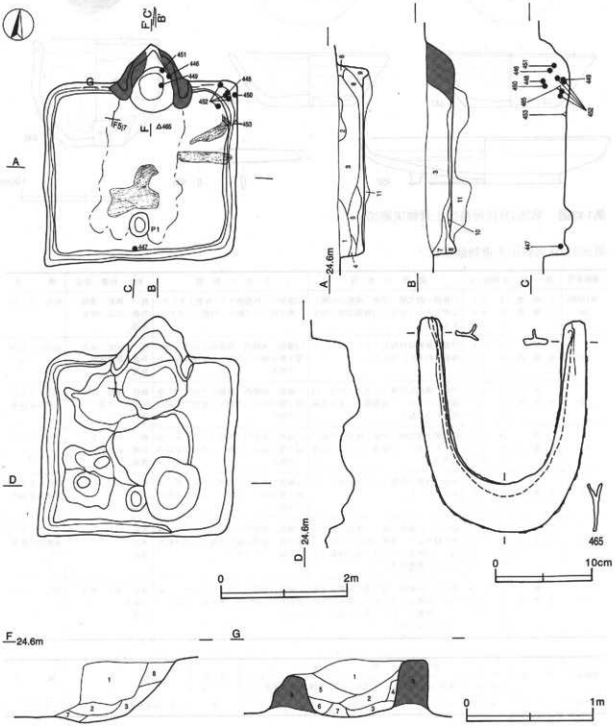
土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
3	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
4	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
5	褐　色	ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
6	暗褐色	炭化材中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
7	褐　色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8	褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量
9	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
10	暗褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
11	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）

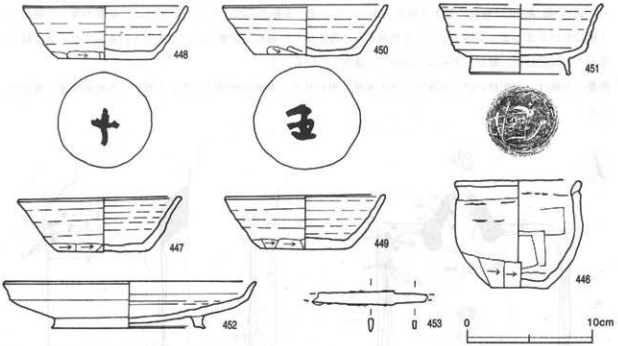
遺物　土師器片60点，須恵器片74点，鉄器２点（刀子・鋤(鍬)先）が出土している。第143図446の土師器小形甕は，竈内の上層から斜位で出土している。447～450は須恵器坏である。447は南壁際の覆土下層から斜位で，449は竈内から正位で出土している。448・450は北東コーナー際の覆土上層から斜位で出土している。いずれも底部外面に墨で文字が記されている。448は「十」，450は判読不能である。451の須恵器高台付坏は，竈内から逆位で出土している。底部外面に「九」の篦書が認められる。452の須恵器盤は，北東コーナー際の覆土中層から覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。453の刀子は東壁際の北東コーナー寄りの床面か

ら，465の鋤(銀)先は竈前の覆土下層から出土している。本跡から出土している土器は，壁際の覆土上層から下層にかけてまとまって出土している状況から，埋め戻しの過程で投棄されたと考えられる。また，垂木材と思われる炭化材が，壁から中央部に向かって遺存している。

所見　本跡は，炭化材の出土状況から焼失家屋と思われる。本跡の時期は，出土土器から9世紀前葉と推定される。



第142図　第262号住居跡・出土遺物実測図



第143図　第263号住居跡出土遺物実測図

第263号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第143図 446	小形甕 土師器	A 10.3 B 8.6 C 5.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部上半ナデ，下端手持ちヘラ削り。内面ヘラナデ。	粗い，砂粒・雲母・角礫，にぶい橙色 普通	90%　P L.201
447	坏 須恵器	A 13.4 B 4.4 C 7.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	粗い，砂粒・長石・角礫，暗青灰色 普通	100%　P L.201
448	坏 須恵器	A 13.0 B 4.3 C 7.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁端部に1条の沈線状のものが巡る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・小石 灰オリーブ色 普通	100%　P L.201 底部外面墨書 「十」
449	坏 須恵器	A 13.0 B 4.4 C 7.1	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。器壁は厚い。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	粗い，砂粒・長石・角礫，暗灰色 普通	90%　P L.201
450	坏 須恵器	A 13.1 B 4.1 C 8.2	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・小石灰オリーブ色 普通	100%　P L.201 底部外面墨書 「口」
451	高台付坏 須恵器	A [12.9] B 5.6 D 7.8 E 1.4	底部から口縁部の破片。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外反して立ち上がり，口縁部にいたる。高台は細く垂下する。器壁は薄い。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ロクロナデ。	砂粒・小石 灰色 良好	60%　P L.201 底部外面墨書 「九」
452	鉢 須恵器	A 20.2 B 3.8 D 12.0 E 1.0	体部から口縁部一部欠損。底部は丸底気味。体部は大きく外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。高台は短く，ハの字状にふんばる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付けロクロナデ。	砂粒・長石・雲母 灰黄色 普通	80%　P L.201

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	直ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第143図453	刀子	(9.3)	(5.7)	1.3	0.4	2.6	(6.8)	鉄	片関。切先欠損	P L.254

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第142図465	鏃(鍬)先	22.6	17.8	1.7	243.0	鉄	U字形の平面形。内側にV字形の溝を有する。	P L.256

第264号住居跡（第126・144図）

位置　調査区域の中央部，E 7g2区。

重複関係　第253号住居に掘り込まれており，第253号住居より古い。

規模と平面形　第253号住居に西側半分を掘り込まれているため，長軸が2.75m，短軸2.29mの長方形と推定される。

主軸方向　N－80°－E（短軸方向）

壁　壁高は43cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っていたと推測される。上幅10～21cm，下幅5～15cm，深さ5cm，断面はU字状である。

床　ほぼ平坦で，竈の前が踏み固められている。地山のロームを平坦に掘り込み，床面としている。

竈　東壁の南東コーナー寄りに設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ70cm，袖部最大幅95cmである。袖部は，粘土・砂粒を多量に含む褐色土を芯材に，砂粒混じりの暗褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は，壁を幅70cm，奥行き34cmにわたり逆U字状に掘り込んでいる。煙道は55度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から48cmほど掘り込んでおり，地山面を火床面としている。火床面は東壁ラインの内側に位置し，5cmの厚さで硬化している。

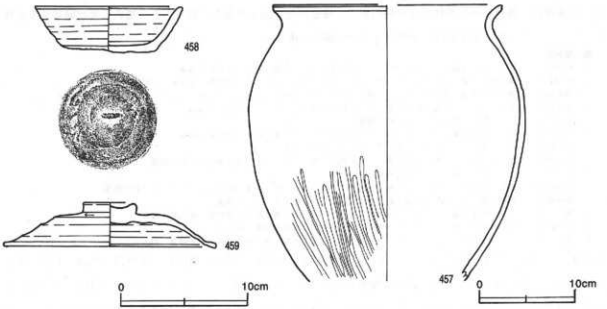
土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック中量
2　にぶい黄褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土中ブロック・砂粒中量
3　灰　色　灰多量，焼土中ブロック中量
4　褐　色　粘土大ブロック・砂粒多量
5　褐　色　粘土粒子・砂粒多量
6　暗褐色　粘土中ブロック・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
7　暗褐色　粘土多量，砂粒中量
8　褐　色　砂粒多量，粘土中量，ローム粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子中量，砂粒少量
10　暗褐色　粘土中ブロック・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11　褐　色　ローム粒子少量

覆土　2層からなる。不自然な堆積状況を呈することから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・黒色土小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック微量



第144図　第264号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片19点，須恵器片8点が出土している。第144図457の土師器甕は竈前の床面から，458の須恵器坏は竈内から斜位で出土している。459の須恵器壺は竈の北袖前の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀前葉と推定される。

第264号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第144図 457	甕 土師器	A [24.2] B (29.3)	体部から口縁部の破片。体部は内弯して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反して開き，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部下位縦位のヘラ磨き，内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子に赤い褐色 普通	20%　ＰＬ201
458	坏 須恵器	A 11.7 B 3.4 C 7.1	口縁部一部欠損。平底。体部は内弯気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，１方向のヘラ撫り。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	95%　ＰＬ201
459	壺 須恵器	A 16.6 B 3.5 F 4.2 G 0.8	口縁部一部欠損。天井部は平坦で，なだらかに口縁部にいたる。口縁端部の内面に短いかえりが付く。つまみは扁平なボタン状。	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け，ナデ。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 に赤い赤褐色 普通	70%　ＰＬ199

第265号住居跡（第145・146図）

位置　調査区域の中央部，Ｇ５b6区。

規模と平面形　長軸4.42m，短軸4.39mの方形である。

主軸方向　Ｎ－８°－Ｅ

壁　壁高は最大23cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山のロームを平坦に掘り込み，床面としている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ105cm，袖部最大幅133cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第３・８層が焼土ブロックを含むことから，天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は，粘土ブロック・砂粒を含む暗褐色土で構築され，東袖部の内側は火熱を受け赤変している。煙道部は，壁を幅55cm，奥行き24cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は64度の傾きで立ち上がる。火床部は，長径85cm，短径45cmの楕円形に，確認面から20cmの深さに掘り込み，褐色土及び暗褐色土を埋土してつくっている。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物微量
4　極暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
8　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
10　暗褐色　砂粒・白色粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
11　極暗褐色　砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色粘土小ブロック微量
12　褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
13　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量（撹り方）
14　褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量（撹り方）

ピット　７か所（Ｐ１～Ｐ７）。Ｐ１・Ｐ２は長径48cm，短径40・42cmの楕円形，深さ18・21cm，Ｐ３・Ｐ４は径26cmの円形，深さ30・47cmである。配置はやや歪んでおり，深さも一定ではないが，主柱穴と思われる。Ｐ５は長径45cm，短径35cmの卵形，深さ21cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６は径50cm，深さ28cmで，北壁際に位置する。Ｐ７は径25cm，深さ19cmで，竈前に位置する。ともに性格は不明である。

ピット土層解説

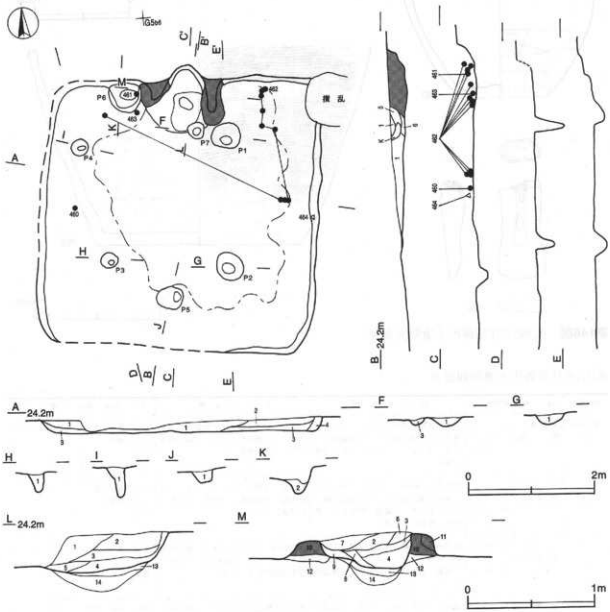
1　褐　色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量

覆土　6層からなる。覆土が薄く判断は難しいが，レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる。

土層解説

1　褐　色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　　ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　暗 褐 色　　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
6　極暗褐色　　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

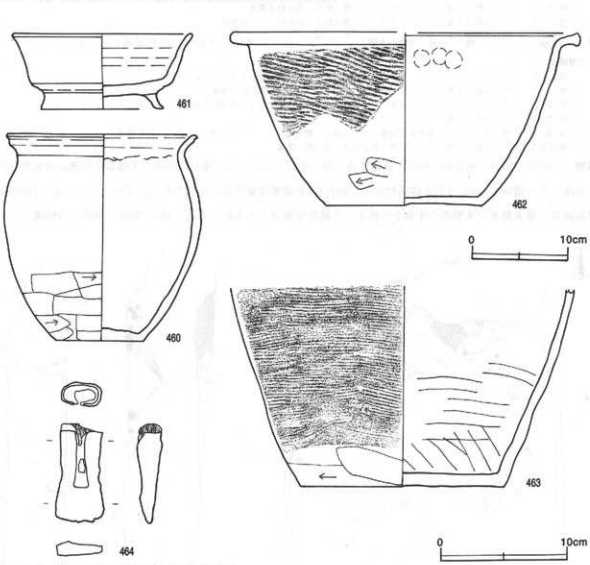
遺物　土師器片55点，須恵器片69点，鉄器1点（斧）が出土している。第146図460の土師器小形甕は西壁寄りの床面直上から横位で，461の須恵器高台付坏，463の須恵器甕は竈西側の床面から正位で出土している。462の須恵器鉢は，竈東側及び東壁際の床面から出土した破片が接合したものである。464の斧は，東壁下の壁溝上から



第145図　第265号住居跡実測図

出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から９世紀前葉と推定される。



第146図　第265号住居跡出土遺物実測図

第265号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第146図 460	小形甕土師器	A 15.1 B 16.5 C 6.9	平底。体部は緩やかに立ち上がり，頸部はくの字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられ，内・外面に１条の沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ，下半横位の手持ちヘラ削り内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石によい橙色 普通	100%　ＰＬ201
461	高台付坏須恵器	A 14.4 B 5.9 D 9.7 E 1.2	体部から口縁部一部欠損。平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で外反する。高台は，外方にふんばる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石によい黄橙色 不良	60%　ＰＬ201
462	鉢須恵器	A [36.4] B 18.3 C 16.4	底部から口縁部の破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁部は短く外側に屈曲し，ほぼ水平。口縁端部は上下につまみ出される。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面斜位の平行叩き，下端手持ちヘラ削り。内面指紋押圧後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	30%　ＰＬ201
463	甕須恵器	B (15.7) C 16.2	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面横位の平行叩き，下端手持ちヘラ削り。内面指紋押圧後，上半横位のナデ。下半放射状のナデ。	砂粒・長石・角閃石 青灰色 普通	40%　ＰＬ201

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第146図464	斧	(7.9)	(3.9)	1.9	(85.3)	鉄	方形の袋部をもつ。袋部には木質が残る。	PL.257

第266号住居跡（第147・148図）

位置　調査区域の南部，F 6 c7区。

重複関係　第267号住居跡の北東部を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸2.92m，短軸2.87mの方形である。

主軸方向　N－98°－E

壁　壁高は41cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅12～18cm，下幅6～11cm，深さ5cmで断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，各コーナー部を除いて中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　東壁の南端部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ75cm，袖部最大幅は105cmである。袖部は，砂粒を混ぜた黄褐色粘土で構築している。煙道部及び火床部は，東壁を幅105cm，奥行き80cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は，下半部が40度，上半部が60度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から61cmの深さで，径22cmのほぼ円形に掘り込んでつくっている。

竈土層解説

1　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック少量
2　赤 褐 色　　焼土大ブロック多量
3　にぶい赤褐色　　ローム粒子中量
4　灰　　色　　炭化粒子中量，焼土粒子少量
5　オリーブ褐色　　粘土中ブロック・粘土小ブロック多量
6　褐　　色　　焼土小ブロック多量，焼土粒子中量，炭化物少量
7　褐　　色　　焼土中ブロック・焼土小ブロック中量
8　にぶい赤褐色　　焼土小ブロック多量，焼土中ブロック中量，ローム粒子少量，粘土小ブロック微量
9　にぶい褐色　　粘土小ブロック・砂粒少量
10　赤 褐 色　　焼土中ブロック多量
11　にぶい赤褐色　　粘土小ブロック多量
12　極暗褐色　　ローム中ブロック少量

ピット　4か所（P 1～P 4）。P 1は長径32cm，短径24cmの楕円形で，深さ16cmである。P 2・P 3は，径21・28cmの円形で，深さ13・22cmである。P 1・P 2は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P 3は，西壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P 4は長径30cm，短径24cmの不整楕円形，深さ33cmで，性格は不明である。

ピット土層解説

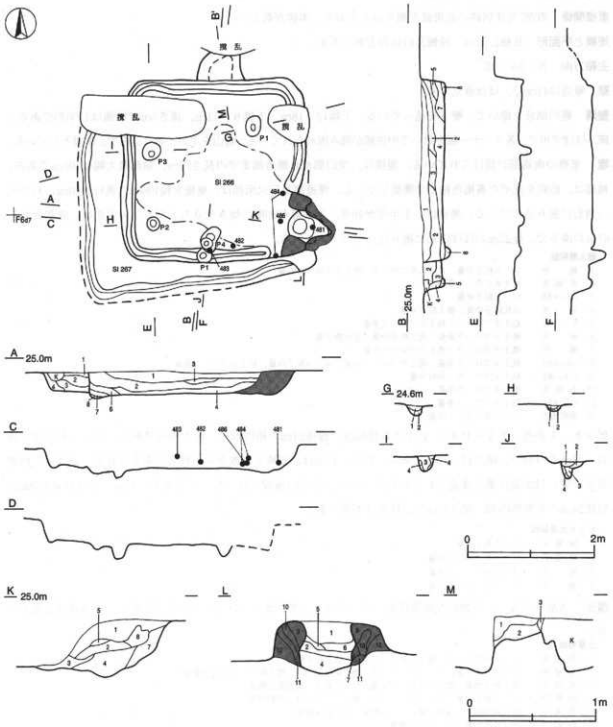
1　暗 褐 色　　ローム粒子少量
2　暗 褐 色　　ローム小ブロック少量
3　褐　　色　　ローム小ブロック多量
4　褐　　色　　ローム中ブロック中量

覆土　8層からなり，不規則な堆積状況とローム ブロック・焼土ブロックを含むことから，人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒 褐 色　　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒微量
5　黒 褐 色　　炭化粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗 褐 色　　炭化粒子少量，ローム粒子微量
7　暗 褐 色　　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
8　褐　　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

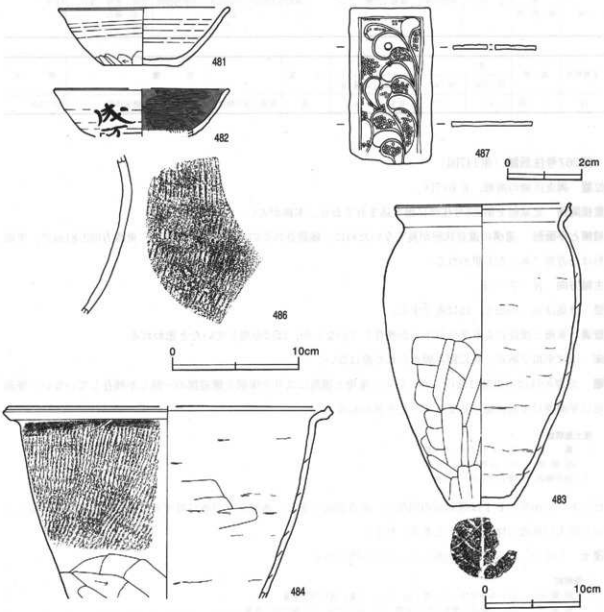
遺物　土師器片113点，須恵器片49点，銅製品１点（不明），流れ込みと思われる陶器片７点が出土している。第148図481の土師器坏は，竈内の赤変硬化した粘土塊の上部から逆位で出土している。火を受けて赤変していることと出土状況から，支脚として使用されていたと考えられる。482の土師器坏は，南部の覆土下層から出土している。体部外面に正位で「成万」の墨書が認められる。483の土師器甕は，南部の覆土中層から出土している。484の須恵器鉢は，南東部の覆土中層から出土している。486の須恵器甕は，南東部竈前の覆土下層から出



第147図　第266・267号住居跡実測図

土している。487の銅製品は南東部の覆土中層から出土している。文様が打ち出されている。飾り金具と思われる。

所見　本跡の時期は，重複関係と出土遺物から10世紀前葉と推定される。



第148図　第266号住居跡出土遺物実測図

第266号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第148図 481	坏 土師器	A 13.5 B 4.7 C 6.0	口縁部，体部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	雲母・長石・石英・赤色粒子 明赤褐色，普通	80%　ＰＬ201 二次焼成
482	坏 土師器	A [13.8] B (3.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内面ロクロナデ後，横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	雲母・長石・赤色粒子 橙色 普通	20%　ＰＬ201 体部外面墨書 正位「成万」
483	甕 土師器	A 18.4 B 31.5 C 6.5	底部から口縁部の破片。体部は長胴で，最大径を上位に持つ。胴部はくの字状に屈曲する。口縁端部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，下半部横位のヘラ削り後，縦位のヘラナデ。底部木葉痕。	雲母・石英 灰褐色 普通	40%　ＰＬ202

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第148図 484	鉢 須恵器	A [33.2] B (20.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり，口縁部で屈曲する。口縁端部は上方につまみ上げられる。	口縁部・内外面ロクロナデ。体部外面上位縦位の平行叩き。下位斜位のヘラ削り。体部内・外面に輪積み痕を残す，ナデ。	砂粒・雲母・石英によい褐色 普通	20%
486	甕 須恵器	B (8.7)	体部の破片。体部は内彎している。	体部外面縦位の平行叩き。内面指頭押圧。	砂粒・雲母・長石によい褐色 普通	5%

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
487	不明	4.1	2.2	0.1	4.3	銅	唐草文状の模様が施される。右孔。鍍金残存。	PL270

第267号住居跡（第147図）

位置　調査区域の南部，F 6c7区。

重複関係　北東部を第266号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　遺構の遺存状態が良くないために，確認されたのは南北方向3.68m，東西方向2.81mで，平面形は長方形であったと思われる。

主軸方向　N－7°－E

壁　壁高は38～40cmで，ほぼ直立する。

壁溝　重複と攪乱により半分以下しか残存していないが，ほぼ全周していたと思われる。

床　ほぼ平坦である。特に踏み固められた痕はない。

竈　北壁のほぼ中央部に設けられている。重複と攪乱により火床部と煙道部の一部しか残存していない。煙道部は平面逆U字形に掘り込まれていたと思われる。

竈土層解説
1　褐　色　　ローム小ブロック少量
2　暗褐色　　ローム中ブロック中量
3　暗赤褐色　　焼土中ブロック中量

ピット　1か所。P 1は径35cmの円形で，深さ25cmである。南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなる。堆積状況については不明である。

土層解説
1　黒褐色　　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化粒子少量
2　暗褐色　　ローム粒子・黒色土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　褐　色　　ローム粒子少量，ローム中ブロック・黒色土粒子微量
5　暗褐色　　ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　土師器片4点，須恵器片1点が出土しているが，いずれも細片である。

所見　遺物が少ないうえに，遺構の遺存状態も悪く時期を決定することは困難であるが，重複関係から，9世紀後葉以前であると推定される。

第268A号住居跡（第149・150図）

位置　調査区域の南部，F 7b1区。

重複関係　第268B号住居跡を掘り込んでおり，第803号土坑に掘り込まれていることから，第268B号住居跡よ

り新しく，第803号土坑より古い。

規模と平面形　長軸2.80m，短軸2.58mの方形である。

主軸方向　N－19°－E

壁　壁高は8～15cmで，ほぼ直立する。

壁溝　南東部，南西部コーナー部に残存する。上幅9～18cm，下幅4～10cm，深さ6～10cmで，断面はU字形である。

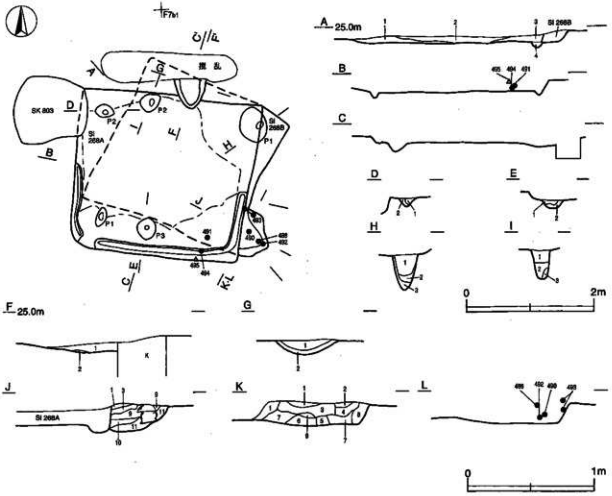
床　ほぼ平坦で，コーナー部を除いて踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　北壁の中央やや東側寄りに設けられている。天井部及び袖部は，残存していない。火床面は一部しか残存していないが，床面を5cmほど掘りくぼめてつくられ，皿状を呈していたと思われる。中央部から北側が攪乱を受けており，規模は不明である。

竈土層解説

1　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
2　にぶい褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　3か所（P1～P3）。P1は長径31cm，短径17cmの楕円形で，深さ9cmである。P2は長径33cm，短径20cmの楕円形，深さ15cmである。P1・P2は，規模と配置から主柱穴であると考えられる。P3は径32cmの円形で，深さ15cmであり，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。



第149図　第268A・B号住居跡実測図

ピット土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック少量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

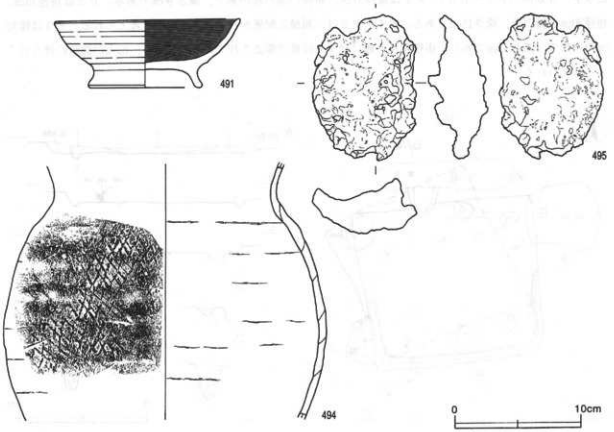
覆土　4層からなる。掘り込みが浅く，堆積状況を判断するのは困難であるが，2層の堆積状況から自然堆積であると思われる。

土層解説

1　暗褐色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　暗褐色　焼土粒子少量

遺物　土師器片28点，須恵器片11点，椀状滓1点，流れ込みと思われる陶器片1点が出土している。第150図491の土師器高台付坏は，南東部の覆土下層から出土している。494の土師器甕片は南部覆土下層から出土し，体部外面に斜格子目叩きが施されている。495の椀状滓は南東部の覆土上層から出土している。覆土上層からの出土であり，炉と思われる痕跡もないことから，住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，重複関係と出土土器から10世紀前葉と推定される。



第150図　第268A号住居跡出土遺物実測図

第268A号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第150図 491	高台付坏 土師器	A 14.6 B 5.4 D 8.7 E 1.7	口縁部一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はやや外反する。高台は底部外周にあり，わずかにハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内面ロクロナデ後，横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	90%　PL.201

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第150図 494	甕 土師器	B (22.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面斜格子目叩き。体部内・外面に輪積み痕を残す。	雲母・石英・赤色粒子 黒褐色 普通	20% 二次焼成

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
495	椀状滓	11.7	8.4	4.6	610	鉄	椀状を呈している。	

第268B号住居跡（第149・151図）

位置　調査区域の南部，F 7 b1区。

重複関係　第268A号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　掘り込みが浅く，ほとんどの部分を第268A号住居に掘り込まれており，竈と北東部の一部が確認できただけである。規模と平面形は推定で，長軸2.38m，短軸2.30mの方形を呈するものと思われる。

主軸方向　N－115°－E

壁　壁高は8～15cmで，ほぼ直立する。

竈　東壁の南端部に設けられている。天井部は崩落し，袖部及び焚口部も第268A号住居に掘り込まれて壊されており，残存していない。東壁を幅58cm，奥行き50cmの三角形に掘り込んで，火床部の一部と煙道部を構築している。煙道は50度の傾きで立ち上がる。火床部から土師器小形甕が逆位で，さらに，その底部に暗赤褐色の粘土粒子と砂粒を多量に含んだ土を包み込むように土師器坏が逆位で重なって出土しており，支脚に転用されたと考えられる。

竈土層解説

1　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック微量
4　にぶい褐色　砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
5　褐　色　焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
6　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
8　明褐色　ローム粒子少量
9　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・砂粒微量
10　灰褐色　焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
11　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

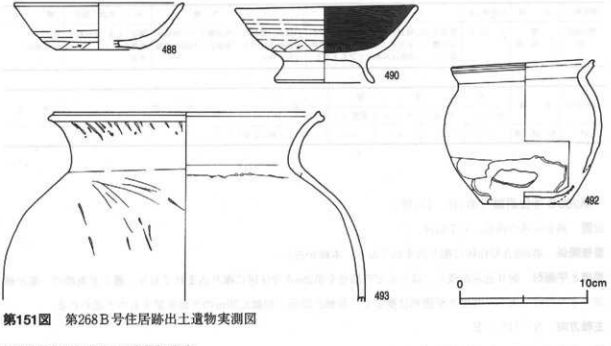
ピット　2か所（P 1・P 2）。P 1は長径55cm，短径41cmの楕円形で，深さ58cmである。P 2は径27cmのほぼ円形で，深さ50cmである。P 1・P 2は，規模と配置から主柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック中量
2　褐　色　ローム中ブロック中量
3　暗褐色　ローム粒子少量

遺物　土師器片14点，須恵器片4点が出土している。第151図488の土師器坏と492の土師器小形甕は，竈の火床部から出土している。492は火床面から逆位で，その底部に暗赤褐色の粘土粒子と砂粒を多量に含んだ土を包み込むように488が逆位で重なって出土している。二次焼成を受けていることから，支脚に転用されたと考えられる。490の高台付椀は，竈内から崩落した天井部の部材と思われる土層上面から出土している。493の土師器甕は，竈内から逆位で出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，9世紀後葉と推定される。



第151図　第268Ｂ号住居跡出土遺物実測図

第268Ｂ号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第151図 488	坏 土師器	A 13.3 B 3.8 C 6.6	口縁部，体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部１方向のヘラ削り。	雲母・長石・赤色粒子によい黄橙色 普通	70%　ＰＬ201
490	高台付椀 土師器	A 13.7 B 6.2 D 7.6 E 1.8	口縁部，体部一部欠損。平底。体部は立ち上がり，口縁部は軽く外反する。高台は内側にあり，ハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内面ロクロナデ後，横位のヘラ磨き。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 明黄褐色 普通	70%　ＰＬ201
492	小形甕 土師器	A 11.2 B 11.5 C 6.7	体部は内弯して立ち上がり，頸部でくの字状に屈曲し，口縁部は外反して開く。口縁端部は外上方につまみ上げられる。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部上半ナデ。下半縦位のヘラ削り。底部１方向のヘラ削り。	砂粒・長石 橙色	95%　ＰＬ202 体部下位に内側からの穿孔有り。二次焼成
493	甕 土師器	A 21.0 B (15.0)	体部から口縁部の破片。体部は内弯しながら立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反して立ち上がり，口縁端部は上方につまみ上げられる。	口縁部，頸部内・外面ロクロナデ。体部外面上位斜位のヘラナデ。内面ナデ。	粗い，赤色粒子多量によい褐色，普通	20%　ＰＬ202

第269号住居跡（第152～154図）

位置　調査区域の南部，Ｆ６d0区。

規模と平面形　一辺が4.68mの方形である。

主軸方向　Ｎ－10°－Ｗ

壁　壁高は50～65cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅８～10cm，下幅５cm，深さ６cmで，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，コーナー部を除いて踏み固められている。各コーナー部が確認面から55～68cmほど掘り込まれ，この掘り込みにロームブロックを含む褐色土で埋土して貼床としている。床面を精査した時点では，ピットを確認することができなかったが，掘り方の調査で６か所のピットを確認した。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ115cm，袖部最大幅は165cmである。袖部は地山を掘り残して芯とし，黄褐色粘土を含む暗褐色土で構築している。煙道部は，北壁を幅70cm，奥行

き25cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は40度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から66cmの深さで三角形に掘り込み，ローム ブロック・炭化粒子を含む暗褐色土で埋土してつくっている。火床面は北壁ラインから内側に位置し，ほぼ平坦で，径24cmの円形に赤変硬化している。

竈土層解説

1 暗 褐 色　炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2 にぶい黄色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
3 オリーブ黄色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
4 オリーブ黄色　粘土粒子多量，砂粒中量
5 黄 褐 色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子少量
6 黒 褐 色　炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
7 黄 褐 色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒少量，焼土粒子微量
8 黒 褐 色　炭化粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
9 にぶい黄色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子微量
10 暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子中量，砂粒少量，炭化粒子微量
11 極暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土中・小ブロック少量，砂粒微量
12 暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，砂粒少量
13 暗赤褐色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量
14 暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
15 鮮赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
16 極暗褐色　粘土中ブロック中量
17 明黄褐色　粘土大ブロック・粘土中ブロック多量，砂粒中量
18 褐　色　粘土大ブロック中量
19 極暗褐色　炭化物中量
20 褐　色　粘土大ブロック多量
21 暗赤褐色　炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック中量（掘り方）
22 暗赤褐色　炭化粒子中量（掘り方）
23 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量（掘り方）
24 褐　色　粘土粒子中量，炭化粒子少量（掘り方）

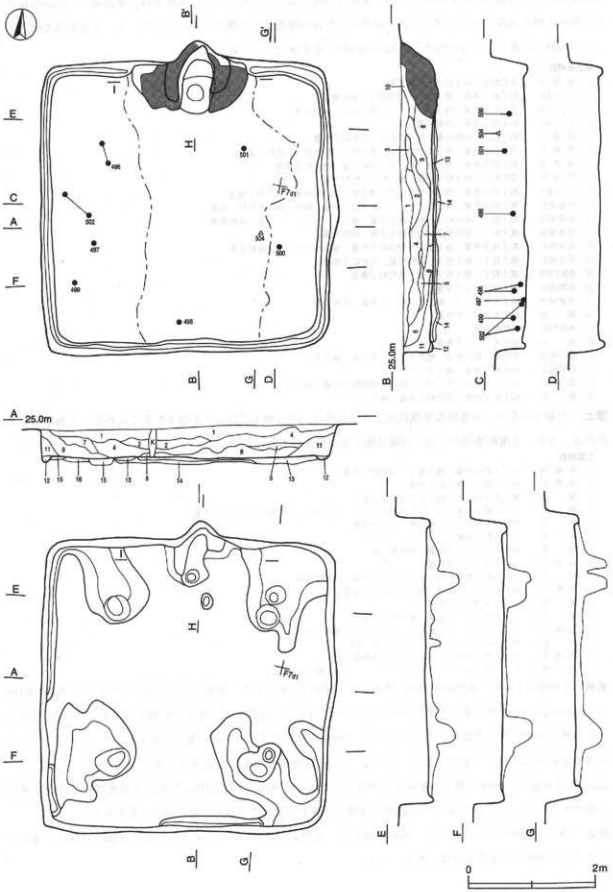
覆土　12層からなり，不規則な堆積状況とローム ブロック・焼土ブロックが含まれることから，人為堆積と思われる。なお，土層断面図中，13～16層は掘り方の埋土である。

土層解説

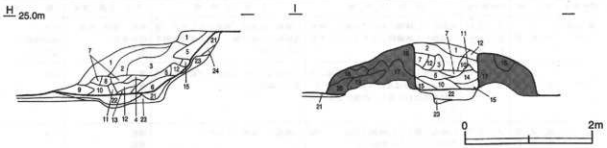
1 暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量
3 褐　色　焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
4 褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
5 褐　色　ローム小ブロック・粘土中ブロック少量
6 褐　色　ローム粒子少量
7 褐　色　ローム小ブロック中量，炭化物少量
8 暗 褐 色　ローム小ブロック少量
9 褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化物少量
10 暗 褐 色　粘土中ブロック中量，焼土小ブロック少量
11 褐　色　ローム中ブロック少量
12 褐　色　ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
13 暗 褐 色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量（貼床）
14 褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量（貼床）
15 暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量（貼床）
16 褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量（貼床）

遺物　土師器片144点，須恵器片28点，鉄器１点（不明），瓦片１点，陶器片１点が出土している。第154図496の土師器坏は，北西部の覆土下層から出土している。497の土師器坏は，西部の床面から出土している。498の土師器甕は南部の覆土中層から出土している。499の須恵器坏は，南西部の覆土下層から出土している。500の須恵器蓋は東部の覆土中層から出土している。501の須恵器長頸瓶は，北東部の覆土中層から出土している。502の須恵器鉢は，西部の覆土下層の２点が接合したものである。同一個体と思われる須恵器片２点が北東部の壁際から出土している。504の不明鉄製品は覆土上層から出土しており，流れ込みと思われる。

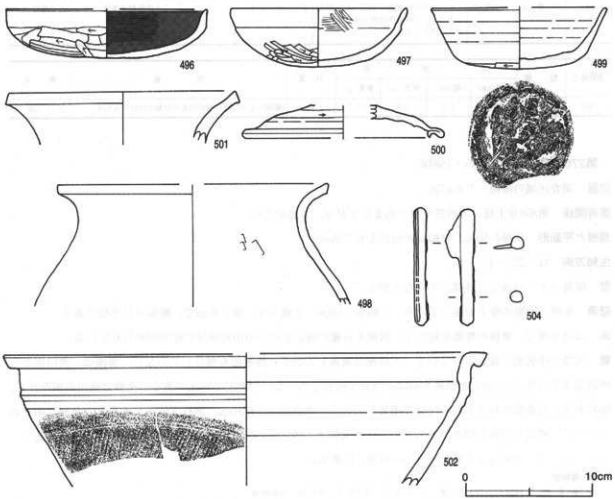
所見　覆土と遺物の出土状況から，本跡は廃絶後，短期間に埋められたと考えられる。本跡の時期は，遺構の形態と出土遺物から８世紀前葉と推定される。



第152図　第269号住居跡実測図（1）



第153図　第269号住居跡実測図（2）



第154図　第269号住居跡出土遺物実測図

第269号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第154図 496	坏 土師器	A 16.1 B 3.9	口縁部，体部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内面ロクロナデ後，横位のヘラ磨き。体部，底部手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・石英 にぶい黄燈色 普通	60%　PL202 二次焼成
497	坏 土師器	A 13.8 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部上の幅に弱い稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ後，ヘラ磨き。体部外面斜位のヘラ削り。底部1方向のヘラ削り後，ナデ。	雲母・長石・赤色粒子 にぶい燈色 普通	95%　PL202
498	甕 土師器	A [21.3] B (9.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反する。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母・石英・赤色粒子 にぶい燈色 普通	5%

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第154図 499	坏 須恵器	A [13.8] B 4.8 C 8.2	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がる。やや丸底。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ナデ。底部外周手持ちヘラ割り。	砂粒・雲母・石英 暗灰黄色 普通	40% 底部外面ヘラ記号「X」
500	壺 須恵器	A [25.4] B (2.6)	天井部から口縁部の破片。天井部は平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁端部は折り返し，内側にかえりが付く。	天井部は右廻りの回転ヘラ割り。外周部・口縁部ロクロナデ。	雲母・長石 橙色 普通	20%
501	長頸瓶 須恵器	A [18.0] B (4.2)	口縁部の破片。口縁部は外反し，口縁端部は上下にやや突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒 黒色 良好	5%
502	鉢 須恵器	A [38.0] B (10.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲し，口縁部に連する。口縁端部は折り返され，下方へ突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面斜位の平行叩き。	粗い， 赤色粒子多量 灰黄色	20% 二次焼成

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
504	不明	9.3	2.3	0.9	(42.7)	鉄	棒状のものに薄い板状のものを貼り付けたものか。	PL 258

第270号住居跡（第155・156図）

位置　調査区域の南部，F6g7区。

重複関係　第808号土坑に北西部を掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.50m，短軸4.20mの方形である。

主軸方向　N－2°－E

壁　壁高は7～14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁と西壁の壁下を巡っている。上幅8～10cm，下幅5cm，深さ6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，東西の壁際を除いて，南側から竈の前にかけての中央部分が踏み固められている。

竈　北壁の中央部に設けられている。天井部は崩落しており，西袖部も残存していない。規模は，焚口部から煙道部までの長さ120cm，袖部最大幅は，西袖が残存していないが推定で80cmである。東袖は地山を掘り残し，砂粒を含んだ黄褐色粘土を貼り付けて構築している。煙道部は，幅80cm，奥行き90cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は65度の傾きで立ち上がる。火床部は，径70cmのほぼ円形で，確認面から20cmほど掘り込んでつくっている。火床面は北壁ラインから外側に位置する。

竈土層解説

1　暗褐色　焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物・砂粒微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
3　褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒微量
4　赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，焼土中ブロック微量
5　褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
6　赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子微量
7　褐色　焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
8　褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量（掘り方）

ピット　5か所（P1～P5）。P1～3は長径32～45cm，短径21～32cmの楕円形で，深さ18～50cmである。P4は径35cmの円形，深さ15cmである。P1～P4は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は径40cmの円形，深さ33cmであり，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1　黒褐色　炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　黒褐色　ローム小ブロック微量
4　褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量

貯蔵穴　北西コーナー部に付設されている。径58cmのほぼ円形，深さ49cmで，断面はU字形である。上層を第808号土坑に掘り込まれている。

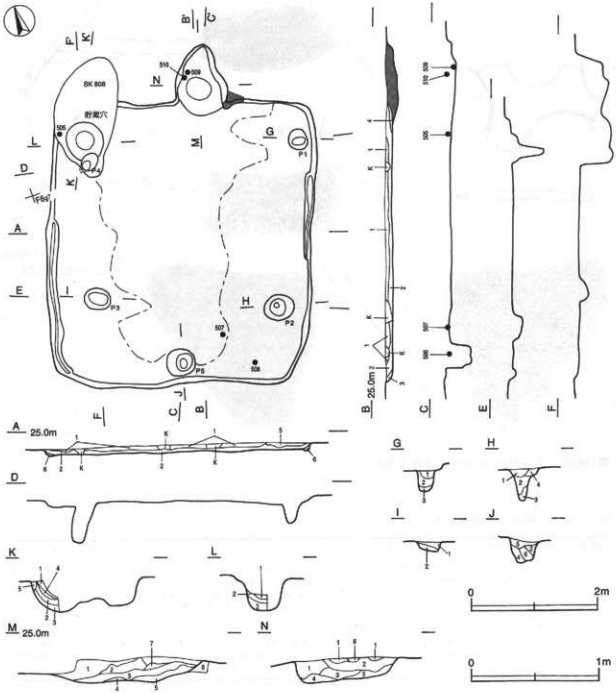
貯蔵穴土層解説

1　黒 褐 色　　焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　　粘土中ブロック中量
3　暗 褐 色　　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
4　黒 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　褐　　色　　ローム中ブロック・ローム粒子少量

覆土　6層からなり，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

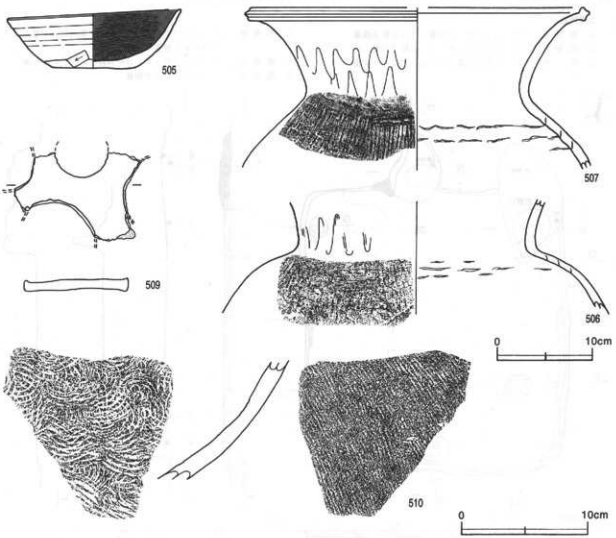
1　黒 褐 色　　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　黒 褐 色　　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
5　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
6　暗 褐 色　　ローム小ブロック微量



第155図　第270号住居跡実測図

遺物　土師器片126点，須恵器片32点，灰釉陶器片２点が出土している。第156図505の土師器坏は，北西部壁際の床面から出土している。506・507の須恵器甕は，南部の覆土下層から出土している。509の須恵器甑は竈内の覆土下層から出土している。510の須恵器甕は，竈の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀中葉と推定される。



第156図　第270号住居跡出土遺物実測図

第270号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第156図 505	坏 土師器	A 13.5 B 4.7 C 6.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内面ロクロナデ後，横位のヘラナデ。体部下端手持ちヘラ削り後，ナデ。底部１方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・石英・赤色粒子にぶい橙色 普通	100%　ＰＬ202
506	甕 須恵器	B (12.0)	体部から頸部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外傾して立ち上がるものと思われる。	頸部内・外面ロクロナデ。頸部外面に振幅の不揃いな弱い波状文が施される。体部外面に横位の平行叩き。	粗い，赤色粒子多量にぶい黄橙色	10% 二次焼成を受け，器面荒れ。

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第156図 507	壺 須恵器	A [34.6] B (17.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，頸部は屈曲して直立する。口縁部は外反し，端部は外上方へつまみ上げられる。	口縁部，頸部内・外面ロクロナデ。頸部外面に振幅の不揃いな波状文が2段施される。体部外面縦位の平行叩き。	砂粒・雲母・石英 赤色粒子 によい黄橙色 普通	10%
509	甕 須恵器	B (1.0)	底部の破片。多孔式。	内・外面ナデ。穿孔部ヘラ切り。	雲母・長石・赤色粒子 によい赤褐色，普通	5%
510	壺 須恵器	B (11.4)	体部の破片。体部は内弯している。	外面斜位の平行叩き。内面に同心円状の当て具痕あり。	砂粒・雲母・石英 灰黄色，普通	5% PL244

第271号住居跡（第157～159図）

位置 調査区域の南部，F 6 g8区。

規模と平面形 長軸4.05m，短軸3.77mの方形である。竈の両側に棚状施設が付設されている。規模は東西の棚部ともほぼ同じで，幅140cm，奥行き30cmの隅丸長方形，床面からの高さ40cmで，確認面から深さ15cmである。

棚状施設土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量

主軸方向 N－13°－E

壁 壁高は50～55cmで，ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅13～15cm，下幅6～12cm，深さ5～8cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ115cm，袖部最大幅は126cmである。袖部は砂粒を含む黄褐色粘土で構築している。煙道部は，北壁を幅82cm，奥行き70cmにわたり逆U字形に掘り込んでいる。煙道は50度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から70cmの深さで長径52cm，短径40cmの楕円形に掘り込み，ロームブロックを含んだ暗褐色土で埋土してつくっている。火床面は，底面から7cmほど皿状にくぼみ，火熱を受け硬化している。

竈土層解説

1 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 褐色 ローム粒子少量
3 褐色 粘土中ブロック中量
4 褐色 焼土中ブロック多量，炭化物少量
5 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，焼土中ブロック少量
6 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子微量
7 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
8 褐色 ローム小ブロック少量
9 褐色 粘土中ブロック・砂粒中量
10 褐色 焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
11 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
12 褐色 粘土中ブロック中量，粘土小ブロック少量
13 褐色 粘土大ブロック多量，砂粒中量
14 褐色 ローム中ブロック中量
15 暗褐色 粘土大ブロック多量，ローム小ブロック少量
16 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック中量，炭化粒子少量（掘り方）
17 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量（掘り方）

ピット 4か所（P 1～P 4）。P 1～P 3は長径31～36cm，短径27～31cmの楕円形で，深さ16～20cmである。P 1～P 3は，規模や各コーナー部に位置していることから主柱穴と考えられる。P 4は長径40cm，短径31cmの楕円形，深さ17cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

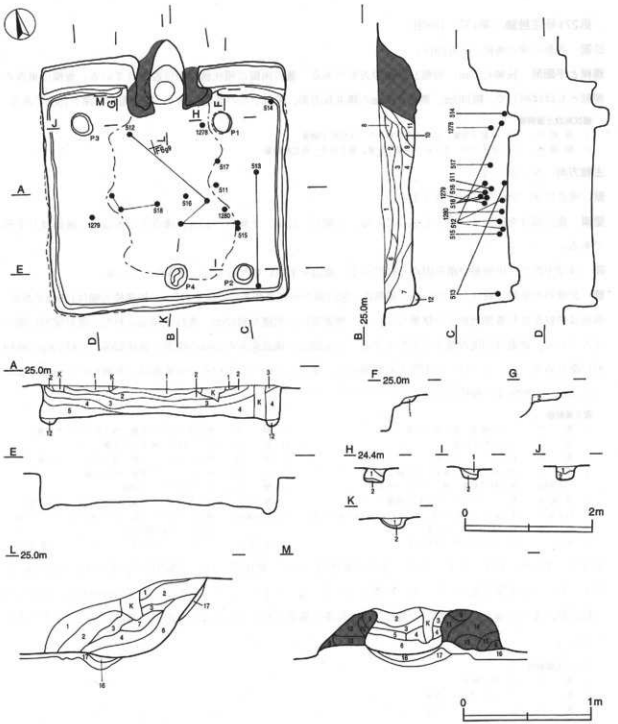
ピット土層解説

1 褐色 焼土粒子微量
2 褐色 ローム中ブロック多量
3 褐色 ローム大ブロック多量

覆土 12層からなり，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

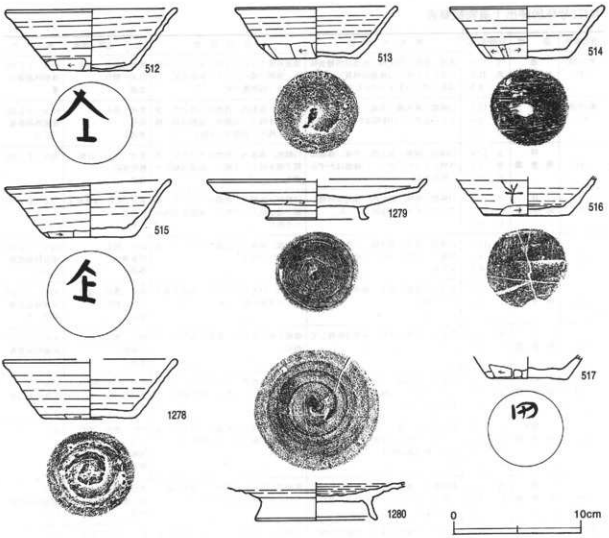
1	黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量	7	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量	8	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化材微量
3	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	9	褐色	ローム小ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，炭化物微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物微量	10	暗褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，ローム小ブロック少量
5	褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	11	暗褐色	粘土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量	12	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量



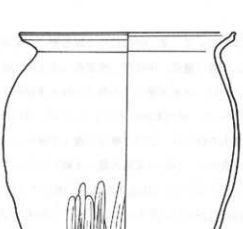
第157図　第271号住居跡実測図

遺物　土師器片145点，須恵器片49点，鉄器２点（刀子・釘）が出土している。第159図511の土師器甕は，東部の覆土中層から出土している。512～517・1278は須恵器の坏である。512は竈前，中央部，東部から出土した破片が接合したもので，いずれの破片も覆土下層から出土している。513は，南東部壁近くの覆土中層と東部中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。514は北東コーナー部の床面から出土している。515は南東部の覆土下層，516は中央部の覆土上層から，517は北東部の覆土中層から，1278は竈前の覆土中層から出土している。1279と1280は須恵器の盤である。1279は西部の覆土中層から，1280は東部の覆土下層から出土している。512・515～517には墨書が認められる。515は底部に「口上」の文字が，516は体部外面に倒位で「太」の文字が，517は底部に「田」の文字が認められる。1278の底部外面と1280の底部内面には，「十」の刻書が認められる。518の須恵器鉢は，中央部の覆土中層から出土している。

所見　本跡は，竈の両側に棚状施設が付設されている住居跡である。棚状施設は，地山のローム土を削り出して作られている。土師器坏片が，左側の棚部から出土している。出土土器の多くは出土状況から，本跡が廃棄されたときに投げ込まれたものと思われる。本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，９世紀中葉と推定される。



第158図　第271号住居跡出土遺物実測図（１）



第159図　第271号住居跡出土遺物実測図（2）

第271号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第158図 511	甕 土師器	A 22.3 B 31.6 C [8.9]	底部，体部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反し，端部は外上方につまみ上げられる。	体部外面上位から下位にかけてヘラ磨き。体部下端ヘラナデ。体部上位，口縁部内・外面横ナデ。	雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	60%　P L.202 体部外面煤付着。
第158図 512	坏 須恵器	A 13.5 B 5.0 C 6.3	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部は切り離し痕を残す１方向のヘラ削り。	雲母・長石 灰色 普通	95%　P L.202 底部外面墨書 「□□」
513	坏 須恵器	A 12.8 B 4.1 C 6.7	口縁部，体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	雲母・長石・石英 暗灰黄色 普通	95%　P L.202
514	坏 須恵器	A 12.1 B 4.1 C 6.5	口縁部，体部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部１方向のヘラ削り。	雲母・長石・赤色粒子 灰黄色 普通	70%　P L.202
515	坏 須恵器	A 13.1 B 4.5 C 6.7	口縁部，体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石 灰黄褐色 普通	60%　P L.202 底部外面墨書 「□上」
516	坏 須恵器	B (3.1) C 6.6	底部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	40%　P L.249 体部外面墨書 倒位「太」
517	坏 須恵器	B (1.7) C 6.1	底部から体部の破片。体部は外傾している。	体部下端ヘラ削り。底部１方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	30%　P L.248 底部外面墨書 「田」
1278	坏 須恵器	A [13.6] B 4.7 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	雲母・長石・黒色粒子 灰白色 普通	45% 底部外面刻書 「十」
1279	壺 須恵器	A [17.2] B 8.2 D [7.8] E 1.1	高台部から口縁部の破片。体部は外傾して外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。高台部はわずかに外方にふんばる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台部貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 灰褐色 普通	35%
1280	盤 須恵器	B (2.9) D 9.4 E 1.8	高台部から体部の破片。体部は外傾して外方に開くものと思われる。高台部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台部貼り付け。	雲母・石英 明赤褐色 普通	45% 底部内面刻書 「十」
第159図 518	鉢 須恵器	A [30.7] B (11.9)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で屈曲する。端部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面指頭押圧後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 暗灰色 普通	10%

第272号住居跡（第160・161図）

位置　調査区域の南部，Ｆ７e1区。

規模と平面形　長軸4.24m，短軸3.92mの方形である。

主軸方向　Ｎ－19°－Ｗ

壁　壁高は49～60cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅９～15cm，下幅６～10，深さ５～９cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，南側から竈の前にかけての中央部が踏み固められている。床は，ロームブロック・ローム粒子が混入した褐色土の，厚さ４～８cmの貼床である。土層断面図中，第13層がこの土層である。北西コーナー部を除いて，各コーナー部が深く掘り込まれ，北東部に確認面から70cmの深さで土坑状の落ち込みが認められる。この掘り込みにロームブロック・焼土ブロック・炭化物を含む暗褐色土を埋土している。その上に貼床をしている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ88cm，袖部最大幅は136cmである。袖部は地山をわずかに掘り残して芯とし，その上に砂粒を含んだ黄褐色粘土で構築している。両袖の内側は，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，北壁を幅86cm，奥行き40cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は40度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から60cmの深さで径40cmの円形に掘り込んでつくっている。火床面は北壁ラインから内側に位置する。

竈土層解説

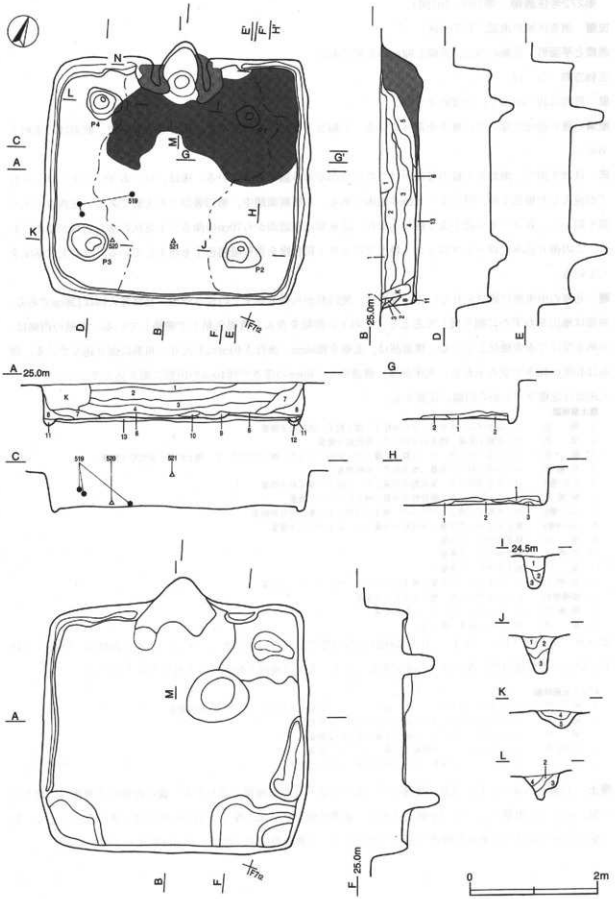
1	褐　色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐　色	ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・砂粒微量
5	にぶい褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
6	暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
7	にぶい褐色	ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物微量
8	にぶい赤褐色	焼土小ブロック中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
9	褐　色	粘土中ブロック少量
10	赤褐色	焼土中ブロック多量
11	褐　色	粘土小ブロック多量
12	暗褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
13	極暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
14	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
15	褐　色	ローム粒子微量（掘り方）

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１は径34cmの円形で，深さ53cmである。Ｐ２～Ｐ４は長径58～65cm，短径45～55cmの不整楕円形，深さ28～61cmである。Ｐ１～Ｐ４は規模と配置から主柱穴と考えられる。

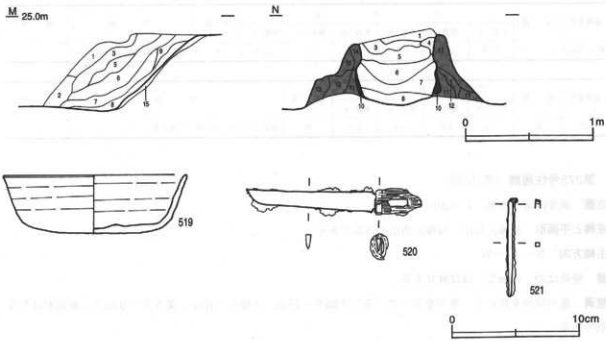
ピット土層解説

1	褐　色	ローム粒子・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
2	褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
5	褐　色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

覆土　11層からなり，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。竈の両側の北壁寄りに粘土が３層にわたって堆積しているのが確認された。北壁の壁下が15cmと厚く，南に向かうほど薄くなっている。粘土層の上面で主柱穴の痕跡を確認することができた。土層断面図中，第12・13層は貼床の土層である。



第160図　第272号住居跡実測図



第161図　第272号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量
5　黒 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム粒子中量
9　褐　　色　粘土粒子多量，ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
10　黒 褐 色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック・炭化物少量
11　褐　　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
12　褐　　色　ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量（貼床）
13　褐　　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック微量（貼床）

粘土層解説

1　褐　　色　焼土小ブロック中量，炭化粒子・粘土小ブロック少量，ローム粒子・焼土中ブロック・黒色土粒子微量
2　褐　　色　粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・黒色土粒子少量
3　褐　　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・粘土小ブロック微量

遺物　土師器片173点，須恵器片35点，混入と思われる灰釉陶器片２点，鉄器２点（刀子・釘）が出土している。第161図519の須恵器坏は，西部の覆土中層と覆土下層から出土した破片が接合したものである。520の刀子は南西部の覆土下層から出土している。521の釘は南部の覆土上層から出土しており，投棄されたものと思われる。

所見　北東部で確認された粘土層は，位置や範囲から北壁に貼られていたものであると思われる。確認状況から，柱が立っている状態で壁からはがれ落ちたものと考えられる。時期は，遺構の形態と出土遺物から８世紀前葉と推定される。

第272号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第161図 519	坏 須恵器	A 14.5 B 4.7 C 10.0	体部から口縁部一部欠損。体部は外傾して直線的に立ち上がる。やや丸底。	口縁部，底部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り後，ナデ。底部２方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	80%　ＰＬ202

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第161図520	刀子	(13.9)	(10.0)	1.6	0.4	(2.3)	(22.3)	鉄	両関。木質付着。鞘金残存。	

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
531	釘	7.9	0.6	0.4	5.5	鉄	頭部は1方向に折り曲げ，長方形。	

第273号住居跡（第162図）

位置　調査区域の南部，F 6 g0区。

規模と平面形　長軸3.12m，短軸2.99mの方形である。

主軸方向　N－4°－W

壁　壁高は39～45cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅9～15cm，下幅6～10cm，深さ5～9cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，南部から竈の焚口部にかけての中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ106cm，袖部最大幅は114cmである。袖部は黄褐色粘土が主体でわずかに砂粒を混ぜて構築している。煙道部は，北壁を幅75cm，奥行き40cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は下半部が20度，上半部が50度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から55cmの深さで長径78cm，短径38cmの不整楕円形に掘り込み，ロームブロックを多く含む明褐色土で埋土してつくっている。火床面は北壁ラインから内側に位置し，ほぼ平坦で，径32cm，厚さ8cmにわたって火熱を受け，赤変硬化している。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
3　にぶい黄褐色　粘土小ブロック中量，粘土大ブロック少量，炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　ローム中ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗赤褐色　炭化粒子・粘土小ブロック中量，粘土粒子・砂粒少量
6　褐　色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒微量
8　にぶい赤褐色　砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗赤褐色　粘土粒子中量，砂粒少量，炭化粒子微量
10　にぶい黄色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
11　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，砂粒少量
12　暗褐色　ローム小ブロック少量
13　暗褐色　焼土中ブロック中量
14　褐　色　ローム中ブロック・焼土小ブロック少量
15　暗褐色　ローム粒子少量
16　褐　色　粘土大ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子多量
17　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
18　褐　色　粘土粒子中量（掘り方）
19　赤褐色　焼土小ブロック中量（掘り方）
20　明褐色　ローム中ブロック多量（掘り方）

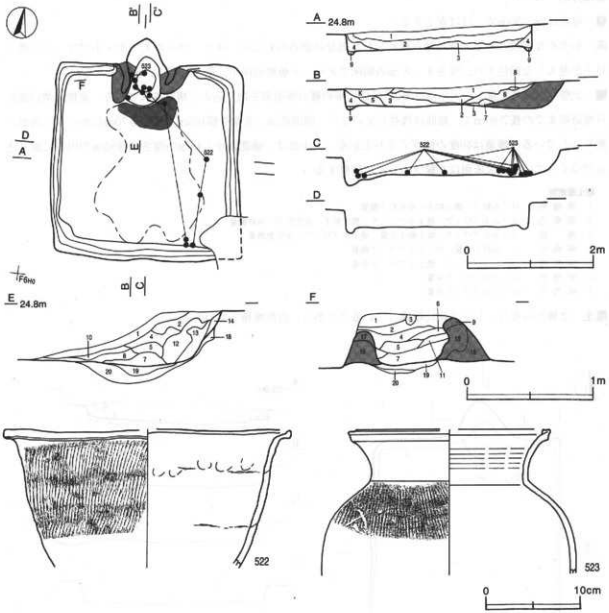
覆土　9層からなり，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
6　黒褐色　ローム中ブロック少量，ローム粒子微量
7　灰黄色　粘土粒子多量，砂粒中量，ローム小ブロック微量
8　褐灰色　粘土粒子・砂粒多量
9　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物　土師器片23点，須恵器片36点，攪乱により混入したとみられる陶器片１点が出土している。第162図522の須恵器鉢は，竈内，東部，南東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。523の須恵器甕は，竈内，東袖部前，南東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から９世紀後葉と推定される。



第162図　第273号住居跡・出土遺物実測図

第273号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第162図 522	鉢 須恵器	A [30.0] B (14.5)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で屈曲する。口縁端部は上方に突出させている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面指頭押圧後，ナデ。	砂粒・長石 暗灰色 普通	30%　ＰＬ202
523	甕 須恵器	A [21.0] B (15.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲し，口縁部は外反する。口縁端部は内側に折り返されている。	口縁部，頸部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・長石・石英 暗黄色	20%　ＰＬ202 二次焼成

第274号住居跡（第163図）

位置　調査区域の南部，Ｆ７g2区。

重複関係　第275・335号住居跡を掘り込んでおり，本跡がいずれよりも新しい。

規模と平面形　一辺が2.95mの方形である。

主軸方向　Ｎ－０°

壁　壁高は28～30cmで，ほぼ直立する。

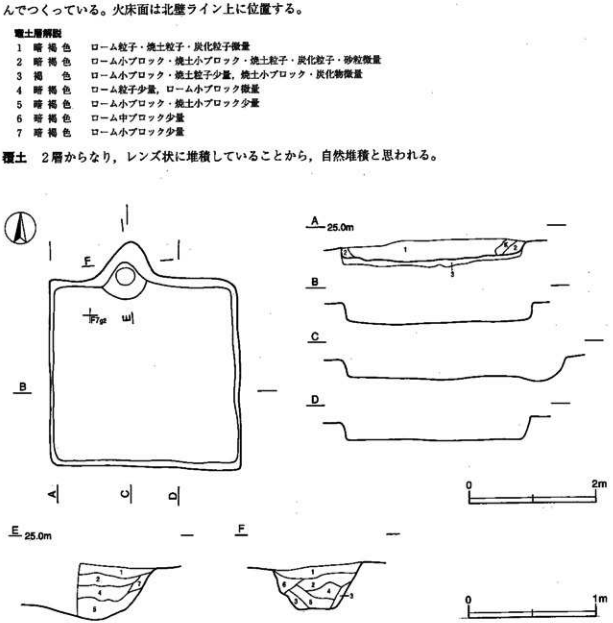
床　わずかな起伏がある。特に踏み締められた部分は認められない。床は，ローム大・中・小ブロックと焼土粒子が混入した褐色土の，厚さ４～８cmの貼床である。土層断面図中，第３層がこの土層である。

竈　北壁中央部に位置し，火床部は第275号住居跡の竈の煙道部を掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ90cmで，袖部は残存していない。煙道部は，北壁を幅105cm，奥行き70cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は40度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から43cmの深さで径55cmの円形に掘り込んでつくっている。火床面は北壁ライン上に位置する。

竈土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
3　褐　　色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
6　暗 褐 色　ローム中ブロック少量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック少量

覆土　２層からなり，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。



第163図　第274号住居跡実測図

土層解説
1　褐　　色　　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　　ローム中ブロック中量
3　明 褐 色　　ローム小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量（貼床）

遺物　土師器片４点，須恵器片12点，灰釉陶器片１点，鉄滓１点が出土している。いずれも細片で，図示できるものはなかった。

所見　遺物も少ないうえに遺構の遺存状態も良くないため時期を決定することは困難であるが，重複関係から，９世紀中葉以降と推定される。

第275号住居跡（第164・165図）

位置　調査区域の南部，Ｆ７g2区。

重複関係　第335号住居跡の北東部を掘り込んでおり，第274号住居に掘り込まれていることから，第335号住居跡より新しく，第274号住居より古い。

規模と平面形　長軸4.60m，短軸3.80mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－０°

壁　壁高は47～63cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅10～15cm，下幅５～８cm，深さ10cmで，断面形はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部から竈の前にかけて踏み固められている。床は，ローム中・小ブロック，焼土小ブロック，炭化粒子が混入した灰褐色土の，厚さ４～８cmの貼床である。土層断面図中，第９層がこの土層である。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，第274号住居跡に煙道部が掘り込まれているため，現存値で焚口部から煙道部までの長さ115cm，袖部最大幅は140cmである。袖部はわずかに砂粒を混ぜた黄褐色粘土で構築している。煙道部は，北壁を幅95cm，奥行き56cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は40度の傾きで立ち上がるものと思われる。火床部は，確認面から28cmの深さで長径75cm，短径58cmの楕円形に掘り込み，焼土ブロック，炭化物を含んだ暗褐色土で埋土してつくっている。火床面は北壁ラインから内側に位置し，床面から５cmほどくぼみ，火熱を受け硬化している。火床面の上には灰が堆積している。

竈土層解説
1　褐　　色　　ローム小ブロック多量
2　褐　　色　　焼土粒子少量，ローム小ブロック少量
3　暗 褐 色　　ローム粒子中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
4　暗 褐 色　　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
5　暗 褐 色　　ローム粒子・焼土粒子少量
6　暗 褐 色　　ローム小ブロック・砂粒少量，焼土粒子微量
7　灰 褐 色　　ローム粒子・焼土小ブロック少量
8　褐　　色　　ローム小ブロック少量
9　暗 褐 色　　粘土小ブロック中量，炭化物少量
10　暗 褐 色　　炭化物少量，焼土小ブロック微量

ピット　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。Ｐ１は長径52cm，短径38cmの楕円形で，深さ41cmである。南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２は径35cmの円形で，深さ22cmで，性格については不明である。

ピット土層解説
1　暗 褐 色　　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　　ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　　ローム中ブロック・ローム粒子少量
4　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　にぶい褐色　　ローム中ブロック少量，ローム小ブロック微量

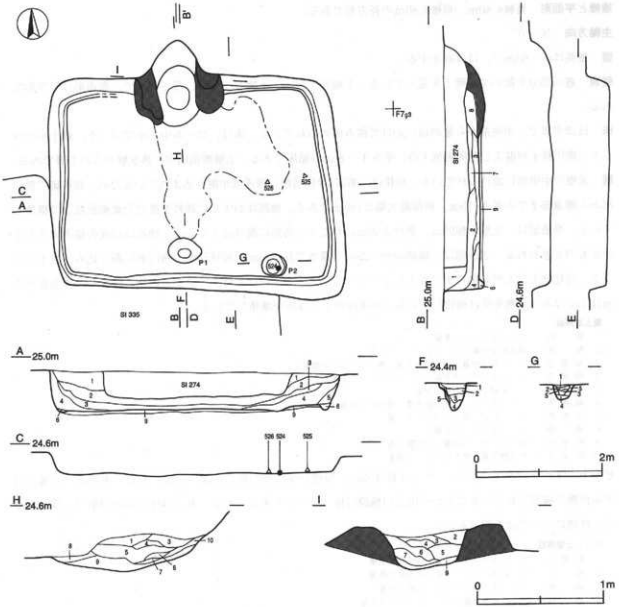
覆土　8層からなり，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

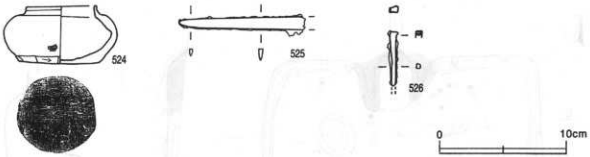
1	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量
2	褐　色	ローム小ブロック中量，焼土粒子・粘土中ブロック少量
3	褐　色	ローム小ブロック多量，焼土小ブロック少量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
5	褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
6	暗褐色	焼土小ブロック・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7	にぶい褐色	焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量
8	暗褐色	ローム粒子・砂粒微量
9	灰褐色	ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量（貼床）

遺物　土師器片172点，須恵器片105点，混入と思われる灰釉陶器片１点，鉄器２点（刀子・釘）が出土している。第165図524の須恵器短頸壺は，Ｐ２の覆土上層から斜位で出土している。525の刀子と526の釘は，東部の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土遺物から，９世紀前葉と推定される。



第164図　第275号住居跡実測図



第165図　第275号住居跡出土遺物実測図

第275号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 524	短頸壺 横位部	A 5.4 B 4.6 C 6.3	完形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は短く直立する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・長石・黒色粒子 灰黄褐色 良好	100% P L.203 体部外面黄褐色

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	鎬ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
525	刀子	(9.9)	(9.9)	1.0	0.4	—	(10.1)	鉄	刃部片。	P L.254

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
526	釘	(4.3)	0.7	0.4	(3.0)	鉄	頭部は1方向に折り曲げ，長方形。	

第276号住居跡（第166・167図）

位置　調査区域の南部，G 7 f5区。

重複関係　第36号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.41m，短軸4.28mの方形である。

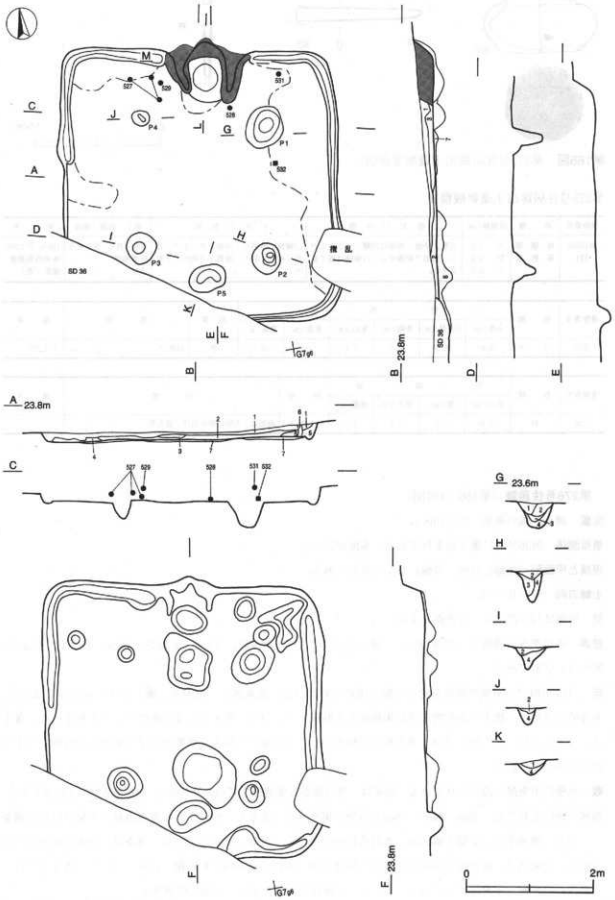
主軸方向　N－9°－E

壁　壁高は14～22cmで，ほぼ直立する。

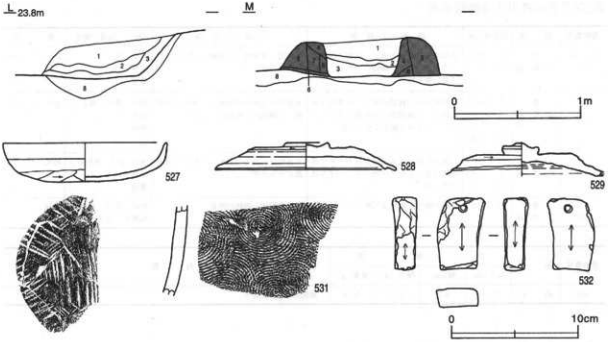
壁溝　竈の部分と西壁の一部を除いて，壁下を巡っている。上幅12～17cm，下幅5～10cm，深さ4～6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，東側の壁際を除いて踏み固められている。北東部の一部が深く掘り下げられているほかは，全体的に平坦で，焼土・炭化物を含む黒褐色土を貼床としている。床下から4か所のピットを検出した。覆土は，ロームブロック・焼土ブロックを含んで極めてしまりが強く，貼床を構築する前に整地する段階で埋土されたものと思われる。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ102cm，袖部最大幅は122cmである。袖部は地山を長さ25～30cm，幅5～16cmで山形に掘り残して芯とし，砂粒を含む黄褐色粘土を貼り付けて構築している。煙道部は，北壁を幅95cm，奥行き15cmにわたり三角形に掘り込でいる。煙道は，40度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から42cmの深さで長径56cm，短径42cmの楕円形に掘り込み，ローム・焼土中ブロックを含んだ黒褐色土を埋土してつくっている。火床面は北壁ラインの内側に位置する。



第166図　第276号住居跡実測図



第167図　第276号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

1　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック微量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，焼土中・小ブロック微量
4　暗　褐　色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
5　にぶい黄褐色　砂粒多量，粘土中ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
6　褐　　色　ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
7　にぶい黄褐色　粘土中ブロック・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
8　黄　褐　色　粘土中ブロック・粘土小ブロック多量，砂粒中量(掘り方)

ピット　5か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１からＰ４は径30～54cmの円形，深さ28～49cmで，規模や位置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は長径54cm，短径40cmの楕円形，深さ22cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1　暗　褐　色　ローム大ブロック多量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム小ブロック中量
4　褐　　色　ローム中ブロック多量

覆土　6層からなる。ローム，焼土及び炭化物の含有状況や不規則な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
3　灰　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
5　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
6　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　暗　褐　色　焼土粒子・炭化物多量(貼床)
8　褐　　色　ローム大ブロック中量，焼土中ブロック・黒色土大ブロック少量(貼床)

遺物　土師器片86点，須恵器片19点，石製品１点，流れ込みと思われる陶器片２点が出土している。第167図の527の土師器坏は，北西部の覆土下層から出土した破片と竈覆土中から出土した破片が接合したものである。528・529はいずれも須恵器蓋である。528は北東部竈前の覆土下層から，529は北西部竈脇の覆土上層から出土している。531の須恵器甕は，北東部の覆土上層から出土している。532の砥石は東部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，８世紀前葉と推定される。

第276号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第167図 527	坏 土師器	A 12.9 B 3.1 C 11.2	底部から口縁部の破片。体部は内弯して立ち上がり，口縁部にいたる。中位に弱い稜を持つ。	口縁部，体部内・外面横ナデ。底部根いヘラ削り。	砂粒・長石 橙色 普通	40% PL202
528	壺 須恵器	A [14.4] B 2.2 F 3.8 D 0.4	天井部から口縁部の破片。天井部は低く扁平。口縁端部には内面にかえりがつく。つまみは扁平なボタン状。	天井部は左回りの回転ヘラ削り。外周部，口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	40% PL202
529	壺 須恵器	B (2.7) F 2.6 G 1.0	口縁部欠損。天井部は頂部が平坦で外周部はなだらかに下降する。つまみはボタン状。	天井部は右回りの回転ヘラ削り。外周部ロクロナデ。	雲母・長石・黒色粒子 灰黄色 普通	60% PL202
531	甕 須恵器	B (7.2)	体部の破片。体部は内弯している。	体部外面同心円状の叩き。	砂粒・雲母・石英 灰黄色，普通	5%

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
532	砥石	5.8	3.7	1.9	54.9	凝灰岩	穿孔あり。	PL253

第277号住居跡（第168・169図）

位置　調査区域の中央部，F 6 i8区。

重複関係　第811号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.97m，短軸3.52mの長方形である。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は35～44cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅12～17cm，下幅5～10cm，深さ4～6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，東西の壁際を除く中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，東袖が一部残存している程度であり，推定で焚口部から煙道部までの長さ107cm，袖部最大幅123cmである。袖部は黄褐色粘土を主体とし，砂粒を混ぜたにぶい黄橙色土で構築されている。煙道部及び火床部は北壁を幅98cm，奥行き85cmにわたり三角形に掘り込んでいる。火床部は，一辺55cmの隅丸三角形を呈している。煙道は，65度の傾きで立ち上がる。火床面は北壁ラインから外側に位置し，径30cmの円形に底面から5cmほどくぼんでいる。

竈土層解説

1　褐　色　ローム中ブロック・焼土小ブロック少量
2　にぶい黄色　粘土大ブロック多量，ローム中ブロック中量
3　褐　色　焼土中ブロック中量，ローム小ブロック少量
4　暗褐色　炭化粒子多量，焼土中ブロック少量
5　にぶい褐色　焼土粒子少量
6　にぶい黄色　粘土大ブロック多量
7　褐　色　ローム中ブロック・焼土粒子少量
8　明褐色　ローム大ブロック・粘土大ブロック多量
9　褐　色　焼土中ブロック中量
10　暗褐色　ローム中ブロック中量
11　にぶい赤褐色　焼土小ブロック多量
12　褐　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
13　暗赤褐色　焼土小ブロック少量，ローム小ブロック微量

ピット　1か所。P 1は径25cmの円形，深さ16cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

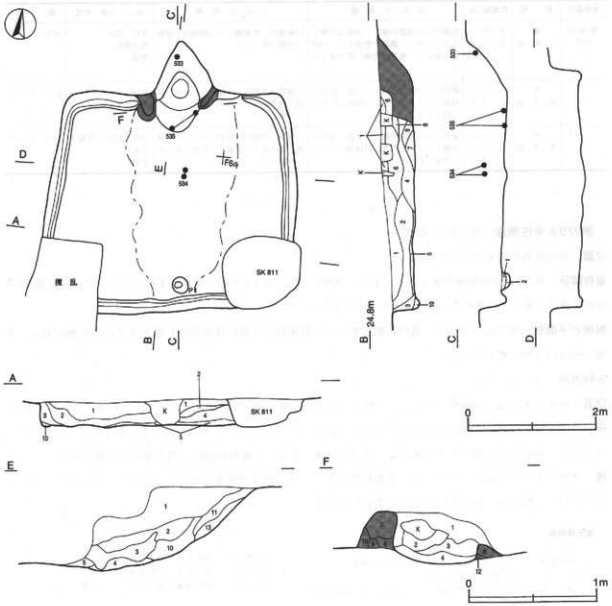
覆土　10層からなる。ローム，焼土及び炭化物の含有状況や不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

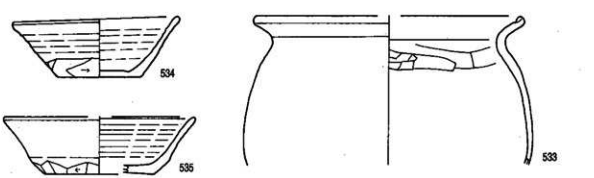
1 にぶい褐色　ローム中ブロック中量
2 褐　色　ローム大ブロック少量，ローム粒子微量
3 褐　色　ローム大ブロック少量
4 暗 褐 色　ローム中ブロック中量
5 暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子微量
6 極暗褐色　ローム中ブロック少量
7 暗 褐 色　ローム中ブロック，炭化粒子少量
8 にぶい褐色　粘土粒子中量，ローム中ブロック・砂粒少量
9 暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
10 褐　色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片85点，須恵器片79点，灰釉陶器片１点が出土している。第169図533の土師器甕は，煙道部の覆土中層から出土している。534の須恵器坏は，中央部の覆土中層から出土しており，廃絶時に投棄されたものと考えられる。535の須恵器坏は，竈前の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，９世紀前葉と推定される。



第168図　第277号住居跡実測図



第169図　第277号住居跡出土遺物実測図

第277号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第169図 533	甕 土師器	A [21.0] B (11.7)	体部から口縁部の破片。体部は内弯して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，端部は内側に折り返される。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面ヘラ削り後，ナデ。	雲母・長石 明赤褐色 普通	20%
534	坏 須恵器	A [13.1] B 4.8 C [6.5]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	雲母・長石・石英 褐灰色 普通	45%　PL202
535	坏 須恵器	A [15.0] B 4.5 C [8.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・黒色粒子 灰褐色 普通	30%　PL202

第278A号住居跡（第170・171図）

位置　調査区域の中央部，F6i6区。

重複関係　第278B号住居跡を掘り込んでおり，第807・812・814号土坑に掘り込まれていることから，第278B号住居跡より新しく，第807・812・814号土坑より古い。

規模と平面形　掘り込みが浅く，遺存状態が悪いが，貼床部分と竈の残存部から推定すると，長軸6.01m，短軸5.95mの方形と考えられる。

主軸方向　N－19°－E

壁溝　貼床の東西に一部残存している。上幅13～25cm，下幅5～12cm，深さ8～10cmで，断面はU字形である。

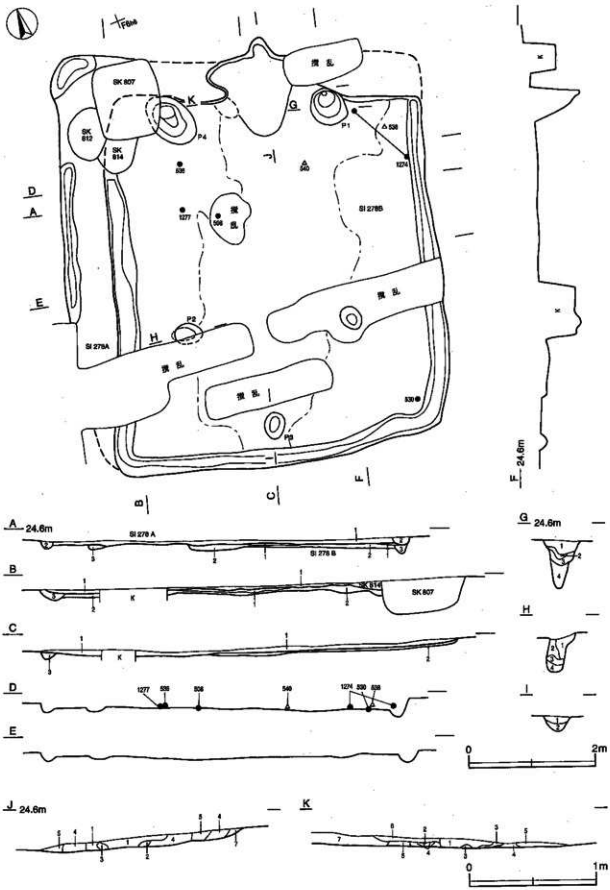
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。床は，ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒を含む褐色土の，厚さ3～8cmの貼床である。土層断面図中，第1層がこの層である。

竈　北壁の中央部に設けられている。遺存状態が悪く，天井部及び袖部は残存していない。煙道部の一部が残存しており，幅40cm，奥行き24cmで逆U字形を呈する。

竈土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック中量
2　明赤褐色　ローム中ブロック・焼土小ブロック多量
3　灰　色　灰多量，炭化粒子中量
4　褐　色　焼土小ブロック多量，ローム小ブロック・砂粒中量
5　暗褐色　砂粒多量，粘土粒子中量
6　褐　色　焼土粒子・砂粒多量
7　褐　色　砂粒多量，焼土小ブロック少量

覆土　2層からなる。掘り込みが非常に浅く，耕作による撹乱も受けており，貼床と壁溝の層を確認したのみである。

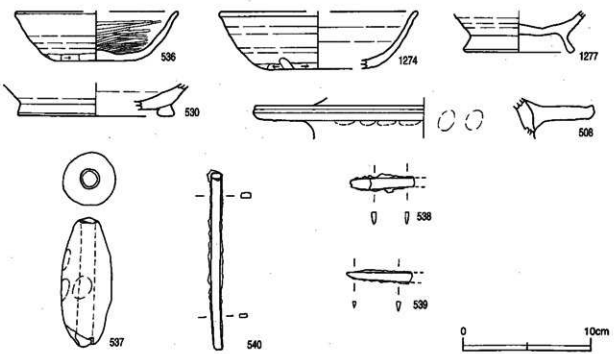


第170図　第278A・B号住居跡実測図

土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量(貼床)
2　暗褐色　　ローム粒子・焼土粒子微量(撹乱)

遺物　土師器片361点，須恵器片111点，灰釉陶器片２点，土製品１点（管状土錘），鉄器３点（刀子・棒状金具）が出土している。第171図1274の土師器坏は，北東コーナー部の床面から出土してる。536の土師器坏と1277の土師器高台付坏は，北西部の床面から出土している。530の灰釉陶器長頸瓶は，南東コーナー部の床面から出土している。508の土師器羽釜は，中央部の床面から出土している。537の管状土錘は，覆土中から出土している。538の刀子は，北東コーナー部の覆土下層から出土している。539の刀子は，覆土中から出土している。540の棒状金具は，北東部竈前の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，９世紀後葉と推定される。



第171図　第278Ａ号住居跡出土遺物実測図

第278Ａ号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第171図 536	坏 土師器	A [12.8] B 3.9 C 6.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は内弯しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部１方向のヘラ削り。	雲母・石英 明赤褐色 普通	40%　ＰＬ203
1274	坏 土師器	A [15.6] B 4.6 C [9.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内弯しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	30%
1277	高台付坏 土師器	B (3.3) D 8.3 E 1.3	底部から体部の破片。体部は内弯して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	雲母・長石・石英 橙色 普通	35%
530	長頸瓶 灰釉陶器	B (2.6) D [12.2] E 0.9	底部から体部の破片。体部は内弯して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石 灰白色 普通	5％ 三河・遠江系
508	羽釜 土師器	B (3.2)	鍔部の破片。	鍔部上・下面ナデ。下面に指頭による押圧。	長石・石英・赤色粒子 浅黄橙色，普通	5％

遺物番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第171図537	管状土錘	9.3	4.1	1.2	140.5	外面に指頭による押圧痕。	PL.250

遺物番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	重量(g)			
538	刀子	(5.0)	(5.0)	0.9	0.4	(4.5)	鉄	折れた切先と刀身が錆着したものか。	
539	刀子	(5.2)	(5.2)	0.8	0.4	(5.4)	鉄	切先部片。	

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
540	棒状金具	(14.1)	0.8	0.4	(25.1)	鉄	断面は長方形。一方で屈曲する。	PL.258

第278B号住居跡（第170図）

位置　調査区域の南部，F6i6区。

重複関係　第278A号住居，第807・814号土坑に掘り込まれており，いずれよりも本跡が古い。

規模と平面形　長軸5.95m，短軸5.25mの長方形である。

主軸方向　N－19°－E

壁　壁高は9～16cmで，ほぼ直立する。

壁溝　北壁を除いて，壁下を巡っている。上幅23～38cm，下幅6～28cm，深さ7cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　4か所（P1～P4）。P1は長径64cm，短径55cmの不整楕円形，深さ77cmである。P2は南側を撹乱されているが，径20cmの円形と推定され，深さ53cmである。P1・P2は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は長径42cm，短径39cmの円形，深さ28cmで，南壁寄りの竈に対する位置に確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は長径80cm，短径69cmの不整楕円形，深さ28cmで，性格は不明である。北西部と南西部の撹乱の埋土を除去したところ，底面に主柱穴と思われる痕跡を確認することができた。

ピット土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
2　にぶい黄褐色　粘土小ブロック中量，ローム粒子・炭化物微量
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量

覆土　3層からなる。ローム，焼土及び炭化物の含有状況や不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
3　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子少量

所見　本跡は出土遺物がなく，時期を決定することは困難であるが，遺構の形態と第278A号住居に掘り込まれていることから，9世紀中葉以前と考えられる。

第279号住居跡（第172・173図）

位置　調査区域の中央部，F6j8区。

規模と平面形　長軸3.48m，短軸3.24mの方形である。

主軸方向　N－11°－E

壁　壁高は8～30cmで，ほぼ直立する。

壁溝　北壁と西壁の一部を除いて，壁下を巡っている。上幅10～17cm，下幅5～11cm，深さ7～9cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで床面としているが，南部中央の土坑状の掘り込み部分だけには，ロームブロックを含む暗褐色土を貼って床を構築している。土層断面図中，第6層がこの土層である。

竈　北壁の中央部に設けられている。天井部は崩落しており，東袖部も残存していない。規模は，焚口部から煙道部までの長さ145cm，袖部最大幅は推定で140cmと考えられる。西袖部は幅15cm，高さ10cmの山形に地山を掘り残して芯とし，灰褐色粘土を多量に含む暗褐色土を貼り付けて構築している。煙道部及び火床部は，北壁を幅92cm，奥行き92cmにわたり逆U字形に掘り込み，壁の一部に灰褐色粘土を含む暗褐色土を貼り付けて構築している。煙道は下位が70度，上位が40度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から44cmの深さで長径105cm，短径52cmの楕円形に掘り込んでつくっている。火床面は，北壁ライン上に位置する。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
2	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	にぶい赤褐色	砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
5	にぶい黄褐色	砂粒多量，粘土中ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
6	暗赤褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
7	黒褐色	粘土中ブロック・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
8	明褐色	粘土中ブロック・粘土小ブロック多量，砂粒中量
9	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化物微量
10	にぶい黄褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
11	赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
12	暗赤褐色	炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
13	暗褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子微量
14	褐　色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量

ピット　2か所（P1・P2）。P1は径48cmのほぼ円形，深さ17cmで，規模と位置から主柱穴と考えられる。P2は長径24cm，短径18cmの楕円形，深さ10cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1	暗褐色	焼土小ブロック少量
2	褐　色	ローム粒子中量
3	褐　色	ローム中ブロック中量

貯蔵穴　北東コーナー部に付設されている。規模は，径58cmのほぼ円形，深さ25cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

1	褐　色	ローム小ブロック少量
2	褐　色	焼土中ブロック・粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量

覆土　5層からなる。ローム，焼土及び炭化物の含有状況や不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

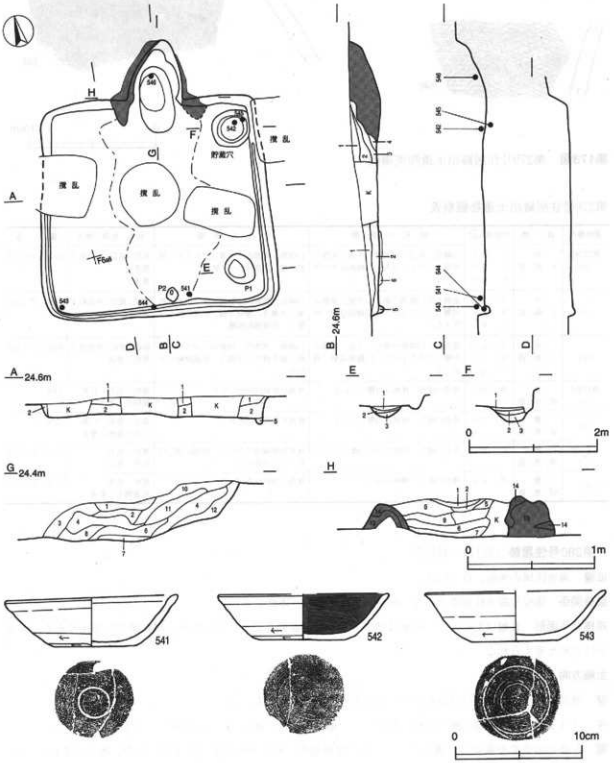
土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
4	褐　色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
5	暗褐色	ローム粒子少量
6	暗褐色	ロームブロック中量，ロームブロック少量（貼床）

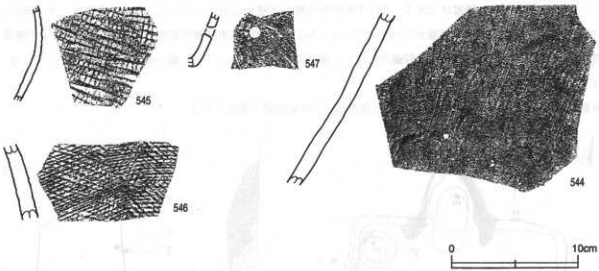
遺物　土師器片194点，須恵器片92点，攪乱により混入したと思われる陶器片6点が出土している。第172図

541～543はいずれも土師器坏である。541は南壁際の覆土下層から出土している。542は北東コーナー部の，543は南西コーナー部の覆土下層から出土している。544～547は，須恵器甕の破片である。544は南壁下の壁溝覆土下層から出土している。545は貯蔵穴の覆土下層から出土している。546は竈の覆土下層から出土している。547は北西部の覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，9世紀後葉と推定される。



第172図　第279号住居跡・出土遺物実測図



第173図　第279号住居跡出土遺物実測図

第279号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第172図 541	坏 土師器	A 13.3 B 3.8 C 6.6	口縁部，体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石・赤色粒子 橙色 普通	90%　ＰＬ203
542	坏 土師器	A [13.2] B 3.6 C 6.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面黑色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 黄橙色，普通	60%　ＰＬ203
543	坏 土師器	A [14.2] B 4.0 C 6.7	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒・長石・赤色粒子 橙色，普通	60%　ＰＬ203
第173図 544	甕 須恵器	B (13.5)	体部の破片。体部は内彎している。	体部外面斜位の平行叩き。	砂粒・長石・石英 黄灰色，普通	10%
545	甕 須恵器	B (7.6)	体部の破片。体部は内彎している。	体部外面格子目叩き。	雲母・長石・石英 にぶい褐色，普通	5%
546	甕 須恵器	B (6.1)	体部の破片。体部はやや内彎している。	体部外面擬格子目叩き。内面に同心円状の当て具痕有り。	雲母・長石 灰色，普通	5%　ＰＬ244
547	甕 須恵器	B (4.4)	体部の破片。補修孔有り。	体部下端斜位のヘラ削り。	雲母・石英 灰黄褐色，普通	5%　ＰＬ244

第280号住居跡（第174・175図）

位置　調査区域の南部，Ｇ７b1区。

重複関係　第87号掘立柱建物のＰ５に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸は2.81mで，短軸は削平され，南壁が残存していないために現存値で2.65mである。平面形は方形と考えられる。

主軸方向　Ｎ－４°－Ｅ

壁　壁高は６～８cmで，ほぼ垂直に立ち上がるものと考えられる。

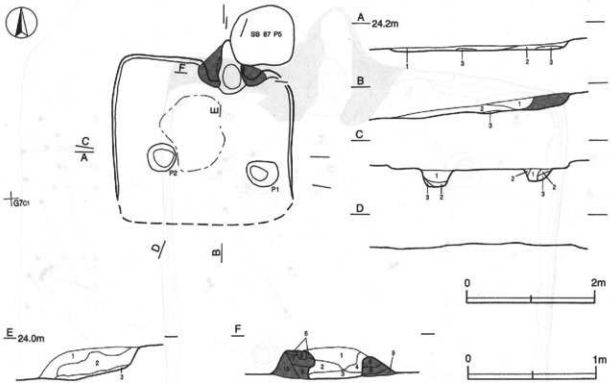
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　北壁の中央やや東寄りに構築されている。煙道部の一部が第87号掘立柱建物のＰ５に掘り込まれている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ80cm，袖部最大幅は102cmである。袖部は砂粒を混ぜた黄褐色粘土で構築している。煙道部は，北壁を幅100cm，奥行き30cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は，45度の傾きで立

ち上がる。火床部は，確認面から28cmの深さで長径40cm，短径27cmの楕円形に掘り込んでつくっている。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。

竈土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2 暗 褐 色　砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量
3 極暗褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，粘土中ブロック・炭化物・砂粒少量，ローム粒子・焼土中ブロック微量
4 暗 褐 色　砂粒多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化物微量
5 黒 褐 色　ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
6 にぶい褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量
7 褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 灰 褐 色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
9 褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
10 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量



第174図　第280号住居跡実測図

ピット　2か所（P1・P2）。P1は径41cmのほぼ円形，深さ22cmである。P2は径42cmのほぼ円形，深さ29cmである。P1・P2は，規模と配置から主柱穴と考えられる。

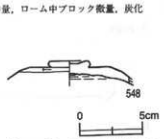
ピット土層解説

1 黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子微量
2 暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3 褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量，炭化粒子微量

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2 暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量



第175図　第280号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片16点が出土している。第175図548の須恵器蓋は覆土中から出土している。

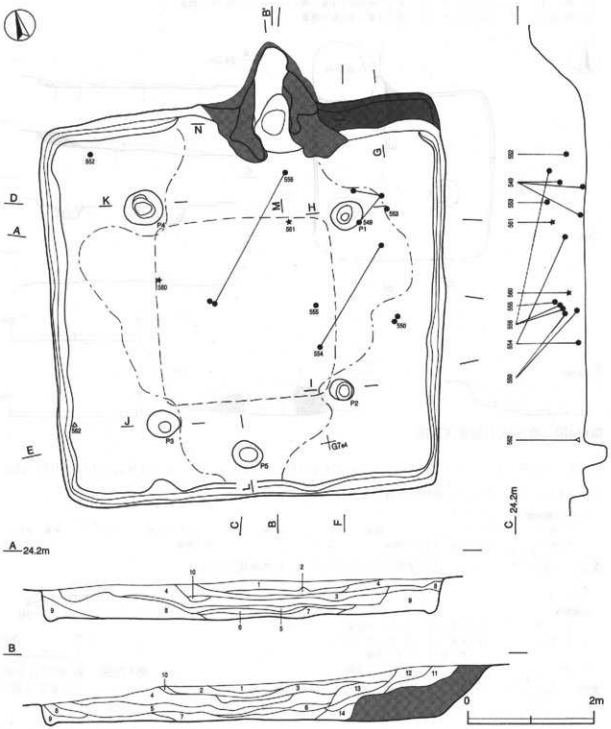
所見　本跡の時期は，8世紀後半と考えられる。

第280号住居跡出土遺物観察表

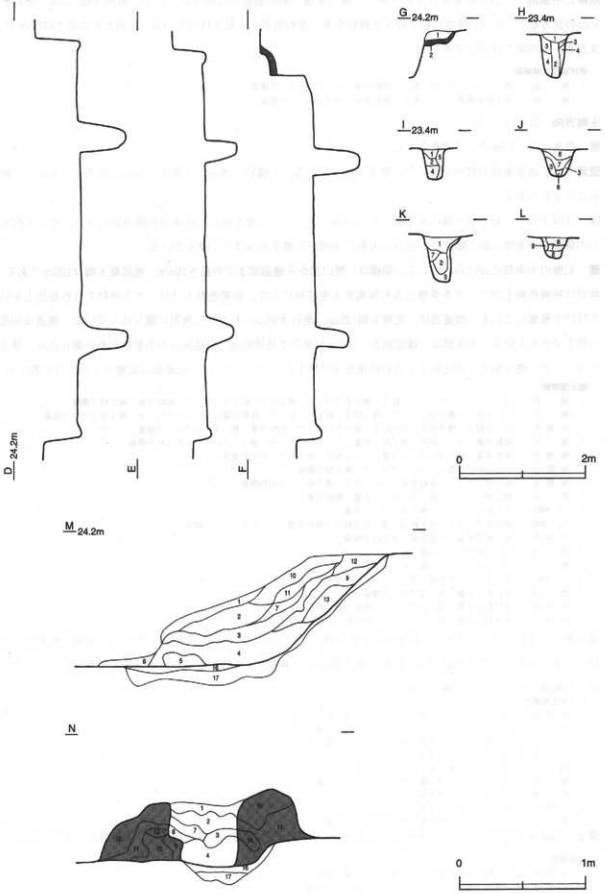
遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第175図 548	壷 須恵器	B (2.0) C 2.8 G 0.5	天井部片。天井部は丸みをもち，なだらかに下降する。つまみは扁平なボタン状。	天井頂部は左回りの回転ヘラ削り。外周部ロクロナデ。	小石・砂粒・雲母・石英・黒色粒子，にぶい黄橙色，普通	20% PL203

第281号住居跡（第176～179図）

位置　調査区域の南部，G 7 d3区。



第176図　第281号住居跡実測図（1）



第177図　第281号住居跡実測図（2）

規模と平面形　一辺が6.36mの方形である。竈の東側に棚状施設が付設されている。規模は幅155cm，奥行き40cmの長方形で，5cmの厚さに粘土粒子と砂粒を多く含む褐色土を貼り付けている。床面からの高さは57cmで，確認面からの深さは16cmである。

棚状施設土層解説

1　褐　色　焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
2　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量

主軸方向　N－16°－E

壁　壁高は21～73cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈と北壁東側の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅10～28cm，下幅4～14cm，深さ4～6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，粘土質の地山を床面としている。各コーナー部を除いて中央部が踏み固められ，特に主柱穴の内側部分が非常に固く締まっており，方形に床面から深さ6cmほどくぼんでいる。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ168cm，袖部最大幅は190cmである。袖部は灰褐色粘土ブロックを多量に含む灰褐色土を芯材にして，灰褐色粘土ブロックと砂粒を含む褐色土を貼り付けて構築している。煙道部は，北壁を幅125cm，奥行き96cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は50度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から101cmの深さで長径92cm，短径56cmの不整楕円形に掘り込み，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を含む暗褐色土で埋土してつくっている。火床面は北壁ライン上に位置する。

竈土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック微量
3　灰褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，焼土中・小ブロック微量
4　褐　色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　砂粒多量，粘土中ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
7　暗褐色　粘土中ブロック・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
8　褐　色　粘土中ブロック・粘土小ブロック多量，砂粒中量
9　にぶい赤褐色　ローム中ブロック・焼土中ブロック中量
10　にぶい褐色　焼土小ブロック・粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
11　灰褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，炭化粒子微量
12　褐　色　ローム中ブロック中量
13　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
14　にぶい赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
15　褐　色　炭化粒子少量，焼土中ブロック微量
16　暗褐色　炭化粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量（掘り方）
17　灰褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量（掘り方）

ピット　5か所（P1～P5）。P1からP4は径31～56cmのほぼ円形，深さ40～70cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は径43cmの円形，深さ36cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム中ブロック多量，焼土小ブロック少量
4　褐　色　ローム中ブロック中量
5　褐　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
6　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
7　褐　色　ローム中ブロック多量
8　暗褐色　ローム小ブロック多量
9　褐　色　ローム中ブロック多量，粘土中ブロック少量

覆土　14層からなる。ローム，焼土及び炭化物の含有状況や不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

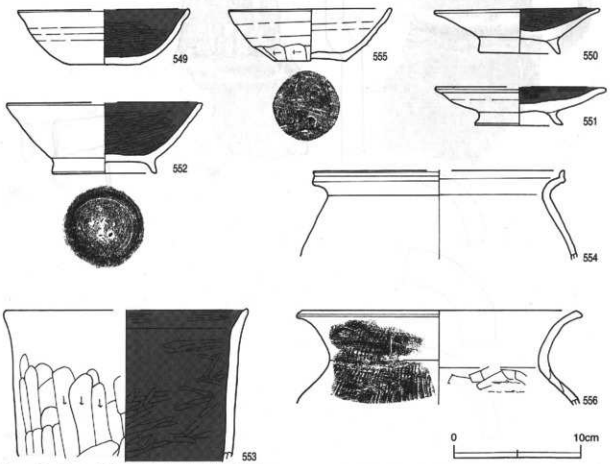
土層解説

1　暗褐色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量

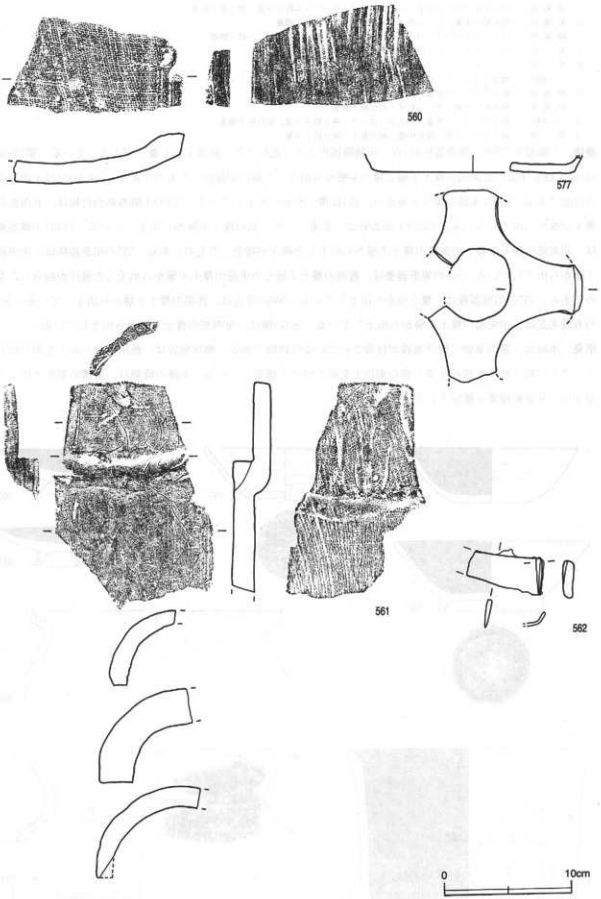
5　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　黒 褐 色　炭化粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
7　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
8　褐　　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
11　暗 褐 色　粘土小ブロック少量，炭化粒子微量
12　暗 褐 色　粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
13　にぶい赤褐色　粘土中ブロック多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
14　褐　　色　粘土小ブロック・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片773点，須恵器片411点，灰釉陶器片３点，瓦片２点，鉄器１点（鎌）が出土している。第178図549の土師器坏は，北東部の覆土下層と覆土中層から出土した破片が接合したものである。550と551は土師器高台付皿である。550は東部の覆土下層から，551は覆土中から出土している。552の土師器高台付椀は，北西部の覆土中層から出土している。553の土師器鉢は，北東コーナー部の覆土上層から出土している。554の土師器甕は，北東部の覆土中層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。555の須恵器坏は，中央部上層から出土している。556の須恵器甕は，竈前の覆土上層と中央部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。557の須恵器甑は，覆土中から出土している。560の平瓦は，西部の覆土下層から出土している。561の有段丸瓦は，中央部の覆土上層から出土している。562の鎌は，南西部の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，竈の東側に棚状施設が付設されている住居跡である。棚状施設は，地山のローム土を削り出して，さらに粘土粒子と砂粒を多く含む褐色土を貼り付けて構築している。本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，９世紀後葉と推定される。



第178図　第281号住居跡出土遺物実測図（１）



第179図　第281号住居跡出土遺物実測図（2）

第281号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第178図 549	坏 土師器	A [13.4] B 4.3 C 5.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り後，ナデ。 内面ヘラ磨き。底部1方向のヘラ削り。 内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 によい橙色 普通	60%　P L 203
550	高台付皿 土師器	A 12.9 B 3.5 D [6.3] E 1.2	高台部，口縁部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。高台は，ハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色，普通	60%　P L 203
551	高台付皿 土師器	A [13.5] B 3.0 D 7.0 E 1.1	高台部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はややや外反する。高台は短く開き，端部は外方にふんばる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子・黒色粒子 によい黄橙色 普通	40%　P L 203
552	高台付椀 土師器	A [15.4] B 5.6 D 8.1 E 1.1	体部，口縁部一部欠損。体部は外開して立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒・石英・赤色粒子 によい褐色 普通	60%　P L 203
553	鉢 土師器	A [19.0] B (12.0)	体部から口縁部の破片。体部ははぼ直立して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半縦位のヘラ削り。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 によい黄橙色，普通	10%　P L 203
554	甕 土師器	A [19.8] B (7.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくの字状に屈曲する。口縁端部は上方につまみ上げられる。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母・石英・赤色粒子 によい橙色 普通	5%
555	坏 須恵器	A 12.7 B 4.2 C 5.7	口縁部一部欠損。平底。体部は外開して立ち上がり口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・長石・黒色粒子 灰オリーブ色	95%　P L 203 二次焼成
556	甕 須恵器	A 21.7 B (7.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくの字状に屈曲する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。頸部，体部外面縦位の平行叩き。体部内面ヘラナデ。内面に輪積み痕を残す。	雲母・長石・石英 によい黄橙色 普通	10%
第179図 557	瓶 須恵器	B (1.4) C [15.6]	底部の破片。多孔式。	内・外面ナデ。穿孔部ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子，褐灰色，普通	5%

遺物番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
560	平瓦	(14.8)	(8.3)	1.9	(260.0)	凹面布目痕。凸面平行叩き。	
561	丸瓦	(17.5)	(10.6)	2.8	(470.0)	玉縁。凸面ヘラナデ。凹面布目痕。	P L 261

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
562	鏃	(6.2)	3.0	0.3	(19.7)	鉄	刺付部金部折り曲げ。	

第282号住居跡（第180・181図）

位置　調査区域の南東部，G 7 a5区。

重複関係　第27C・D号溝，第833・834号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.91m，短軸3.68mの方形である。

主軸方向　N－10°－E

壁　壁高は14～22cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅14～20cm，下幅5～10cm，深さ6～15cmで，断面はU字形である。

床　西壁際が一段低くなっており，北東部が踏み固められている。中央部と東部が1段高く貼床されている。

貼床は，ローム・焼土・黒色土ブロックを含む褐色土で，構築されている。

竈　北壁の中央部からやや東寄りに設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ99cm，袖部最大幅は152cmである。袖部は地山を山形に掘り残して芯とし，粘土粒子・砂粒を含む暗褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は北壁を幅95cm，奥行き48cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は，60度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から28cmの深さで径45cmの円形に掘り込んでつくっている。火床面は，北壁ライン上に位置する。

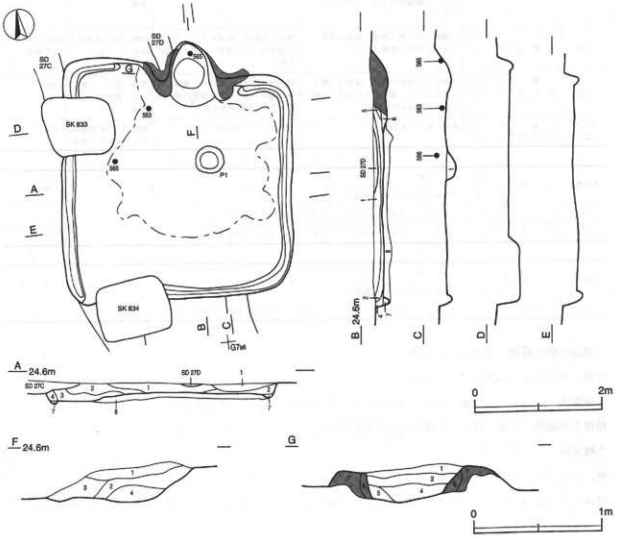
竈土層解説

1　暗 褐 色　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
2　暗 褐 色　焼土中ブロック中量
3　暗 褐 色　焼土粒子少量
4　暗赤褐色　粘土中ブロック多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム中ブロック多量，焼土小ブロック中量
6　暗 褐 色　粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗 褐 色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　1か所。P 1は径43cmの円形，深さ18cmである。覆土は焼土粒子を少量含む暗褐色土で，遺物等も出土しておらず，ピットの性格については不明である。

ピット土層解説

1　暗 褐 色　焼土粒子少量



第180図　第282号住居跡実測図

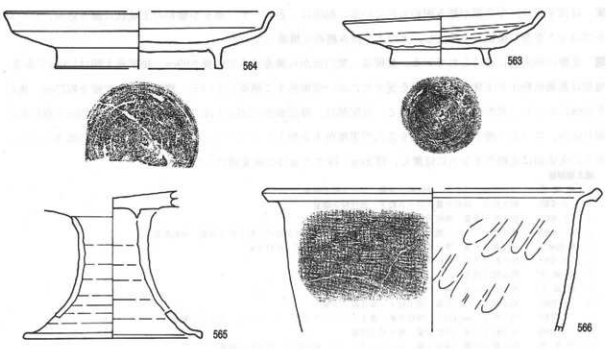
覆土　7層からなる。ローム，焼土及び炭化物の含有状況や不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム中ブロック少量，ローム粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子少量
6　褐　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
7　褐　　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
8　褐　　色　ローム大ブロック中量，焼土小ブロック・黒色土小ブロック少量（貼床）

遺物　土師器片88点，須恵器片63点が出土している。第181図563の須恵器盤は，北西部の覆土下層から出土している。564の須恵器盤は，覆土中から出土している。565の須恵器高盤は，竈煙道部の覆土下層から出土している。566の須恵器鉢は，西部の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，9世紀前葉と推定される。



第181図　第282号住居跡出土遺物実測図

第282号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第181図 563	盤 須恵器	A 15.9 B 4.1 D 7.8 E 1.2	体部・口縁部一部欠損。体部はやや内弯して外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。高台は，わずかに八の字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部は回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	雲母・長石・石英・黒色粒子 にぶい橙色 普通	90%　PL203
564	盤 須恵器	A [21.1] B 4.5 D [13.2] E 1.7	高台部から口縁部の破片。体部はやや内弯して外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台は軽く外方にふんばる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部は回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	角閃・雲母・長石・黒色粒子 灰色 普通	40%　PL203
565	高盤 須恵器	B (11.6) D 14.2 E 10.2	脚部片。脚部はラッパ状に開き，裾部は屈曲して短く垂下する。2方に台形の透かし孔。	脚部内・外面ロクロナデ。透かし孔は ヘラ切り。	雲母・長石・石英 灰色 普通	50%　PL203

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第181図 566	鉢 須恵器	A [34.4] B (15.1)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり，口縁部で屈曲する。口縁端部は上下に突出させている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面格子目叩き。内面指頭押圧後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	20%　PL203

第283号住居跡（第182・183図）

位置　調査区域の南部，G 7 e5区。

規模と平面形　一辺が3.53mの方形である。

主軸方向　N－5°－E

壁　壁高は15～47cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅12～17cm，下幅5～10cm，深さ4～6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。貼床は，各コーナー部を不整形の土坑状に掘り込み，ローム小ブロックを含む褐色土を埋土し，その土を踏み締めて構築している。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ99cm，袖部最大幅は120cmである。袖部は黄褐色粘土を主体とし，砂粒を混ぜたにぶい黄褐色土で構築している。煙道部は，北壁を幅75cm，奥行き20cmにわたり三角形に掘り込んでいる。火床部は，確認面から50cmの深さで長径73cm，短径62cmの楕円形に掘り込み，ローム・焼土中ブロックを含んだ黒褐色土を埋土してつくっている。煙道は，50度の傾きで立ち上がる。火床面は北壁ライン上に位置し，径30cm，厚さ5cmほど赤変硬化している。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，砂粒微量
5　暗赤褐色　炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
6　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，炭化粒子微量
7　暗褐色　焼土粒子微量
8　暗褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
9　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
10　にぶい黄褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
11　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，砂粒少量，焼土粒子微量
12　暗褐色　粘土粒子中量，砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量（掘り方）

ピット　4か所（P 1～P 4）。P 1からP 3は径20～30cmのほぼ円形，深さ14～21cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P 4は径35cmのほぼ円形，深さ33cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

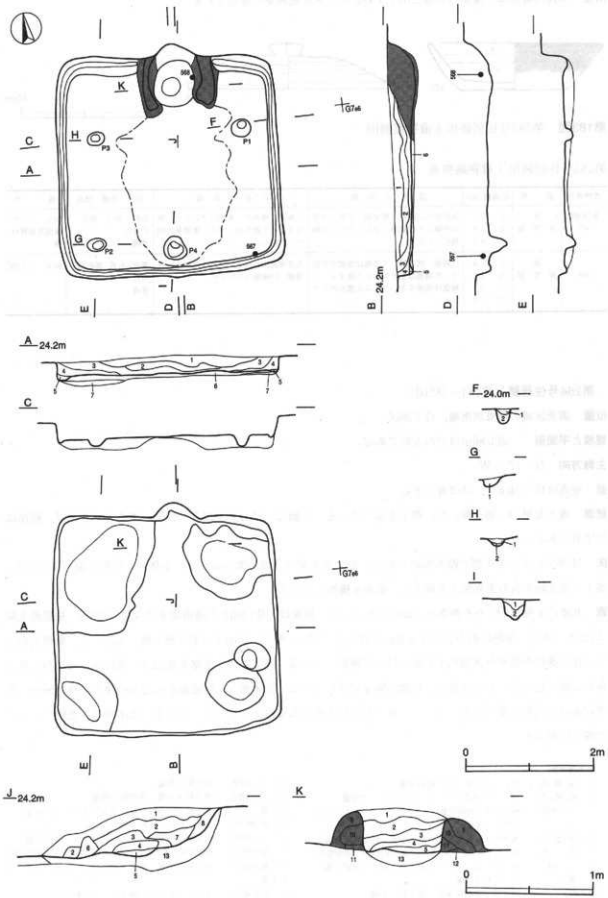
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム中ブロック中量

覆土　5層からなる。ローム，焼土及び炭化物の含有状況や不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

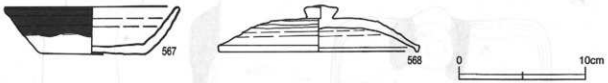
1　褐　色　ローム小ブロック・砂粒中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　褐　色　ローム小ブロック少量（貼床）
7　褐　色　ローム小ブロック微量（貼床）

遺物　土師器片16点，須恵器片16点が出土している。第183図567の須恵器坏は，南東コーナー部の覆土下層から出土している。568の須恵器蓋は，竈内の覆土下層から出土している。



第182図　第283号住居跡実測図

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，８世紀後葉と推定される。



第183図　第283号住居跡出土遺物実測図

第283号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第183図 567	坏 須恵器	A 13.7 B 3.8 C 8.1	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して直線的に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り後，ナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	80%　ＰＬ203 体部外面煤付着
568	蓋 須恵器	A 15.8 B 3.6 F 2.7 G 1.0	口縁部一部欠損。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲する。つまみは擬高のボタン状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部，口縁部ロクロナデ。	雲母・石英・黒色粒子 灰色 普通	90%　ＰＬ203

第284号住居跡（第184・185図）

位置　調査区域の南東部南端，Ｇ７d6区。

規模と平面形　一辺3.86ｍほどの方形である。

主軸方向　Ｎ－17°－Ｗ

壁　壁高は15～34cmで，ほぼ直立する。

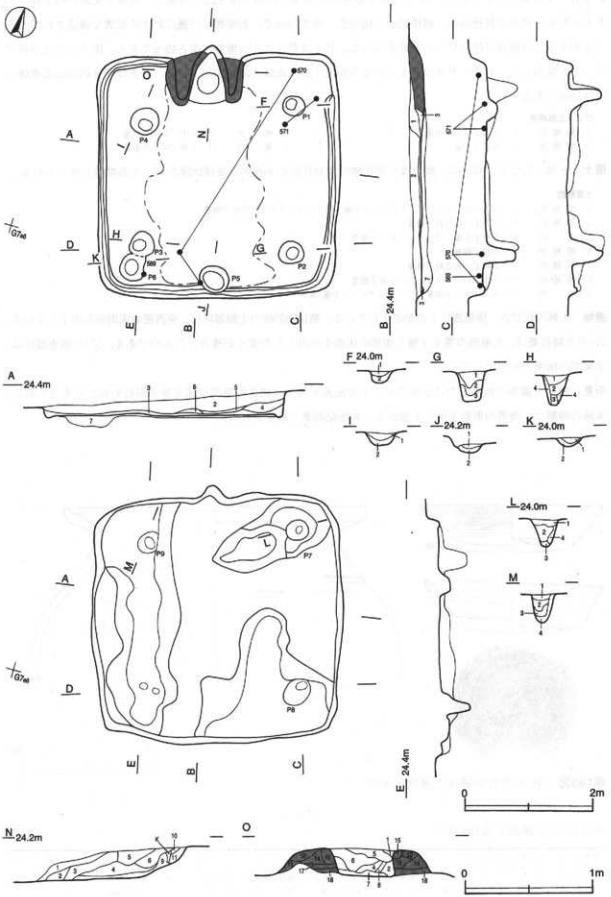
壁溝　竈と北壁の一部を除いて，壁下を巡っている。上幅12～17cm，下幅５～10cm，深さ４～６cmで，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北東部の一部が深いほかは，全体的に平坦に掘り下げられ，焼土・炭化物を含む黒褐色土を埋土し，貼床を構築している。

竈　北壁の中央部からやや西寄りに設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ102cm，袖部最大幅は122cmである。袖部は袖の芯になる地山を長さ25～30cm，幅５～16cmで山形に掘り残して芯とし，黄褐色粘土を主体に砂粒を混ぜた黄褐色土を貼り付けて構築している。煙道部は，北壁を幅95cm，奥行き15cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は，40度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から22cmの深さで長径56cm，短径42cmの楕円形に掘り込み，ローム・焼土を含む黒褐色土を埋土してつくっている。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・砂粒少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
3　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
4　暗褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
5　褐色　焼土小ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
6　にぶい黄褐色　焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
7　褐色　ローム粒子微量
8　褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
9　にぶい黄褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物・砂粒少量
10　にぶい黄褐色　炭化粒子少量
11　にぶい黄褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
12　褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック少量
13　暗褐色　ローム粒子・砂粒少量
14　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・砂粒少量
15　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
16　暗赤褐色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
17　極暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
18　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック少量



第184図　第284号住居跡実測図

ピット　9か所（Ｐ１～Ｐ９）。Ｐ１～Ｐ４は径30～54cmの円形，深さ22～51cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は長径54cm，短径40cmの楕円形，深さ12cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６はＰ３の20cm南側に深さ49cmである。床下から３か所のピットを検出した。Ｐ７・Ｐ９はＰ１・Ｐ４の30cm・35cm北側に深さ50cm・47cm，Ｐ８はＰ２の10cm北東側に深さ52cmである。

ピット土層解説

1　暗褐色　ローム大ブロック多量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　褐　色　ローム小ブロック中量
4　褐　色　ローム中ブロック多量

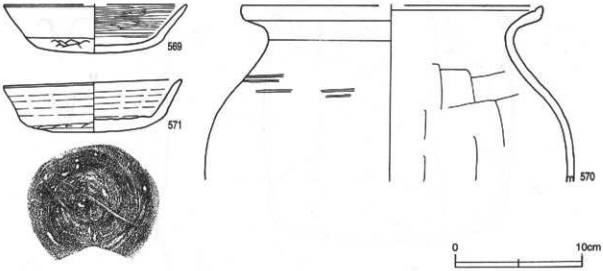
覆土　６層からなる。ローム，焼土及び炭化物の含有状況や不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
7　褐　色　ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量（貼床）

遺物　土師器片37点，須恵器片５点が出土している。第185図569の土師器坏は，南西部の床面から出土している。570の土師器甕は，北東部の覆土下層と南部の床面から出土した破片が接合したものである。571の須恵器坏は，北東部の床面から出土している。

所見　掘り方調査で検出した３か所のピットの配置から，比較的短期間に建て替えが行われたと考えられる。本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，８世紀前葉と推定される。



第185図　第284号住居跡出土遺物実測図

第284号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第185図 569	坏 土師器	A [14.4] B 3.9	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を有する。口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面横ナデ。内面ヘラ磨き。底部ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	30%　ＰＬ203

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第185図 570	壺 土師器	A [23.8] B (13.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ちとがり，開閉でくの字状に屈曲する。口縁部は外反して開き，端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面被位のヘラナデ。	砂粒・雲母・石英によい黄褐色 普通	20% P L.204
571	坏 須恵器	A 14.0 B 4.2 C 10.5	体部，口縁部一部欠損。丸底気味。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子によい黄褐色，普通	70% P L.203 底部外面ヘラ記号「一」

第285号住居跡（第186・187図）

位置　調査区域の南部，F 7 d3区。

規模と平面形　長軸3.15m，短軸2.75mの長方形である。

主軸方向　N－10°－E

壁　壁高は25～28cmで，ほぼ直立する。

壁溝　北壁を除いて，壁下を巡っている。上幅10～18cm，下幅5～8cm，深さ4～6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　北壁の中央部から西寄りに設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ76cm，袖部最大幅は90cmである。袖部は砂粒を混ぜた黄褐色粘土で構築している。煙道部は，北壁を幅65cmに，奥行き45cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は，45度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から30cmの深さで径48cmのほぼ円形に掘り込んでつくっている。火床面は，北壁ライン上に位置する。

竈土層解説

1　にぶい褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　褐　色　粘土中ブロック・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
3　にぶい黄色　粘土大ブロック多量，砂粒中量
4　暗褐色　焼土小ブロック中量
5　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
6　明褐色　焼土中ブロック多量
7　明褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
8　褐　色　ローム小ブロック少量

ピット　2か所（P 1・P 2）。P 1・P 2は径21cm・14cmの円形，深さ19cm・17cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

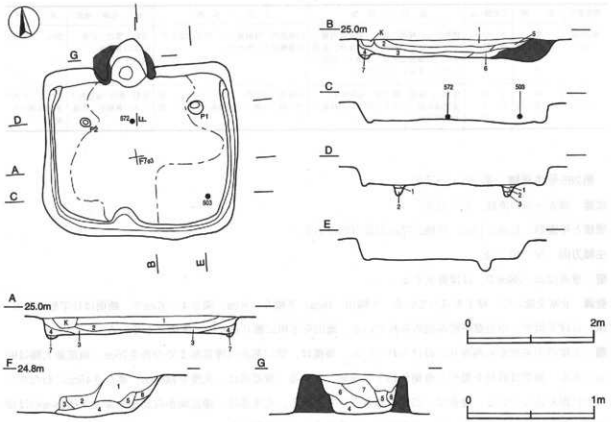
覆土　7層からなる。レンズ状の堆積をしていることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

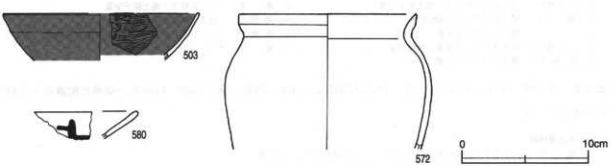
1　暗褐色　焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
5　にぶい褐色　粘土粒子中量，ローム中ブロック・砂粒少量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
7　褐　色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片160点，須恵器片45点，緑釉陶器片1点が出土している。第187図580の土師器坏は，覆土中から出土している。572の土師器甕は，中央部の覆土下層から出土している。503は緑釉緑彩文椀の口縁部片で，南東部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，10世紀前葉と推定される。



第186図　第285号住居跡実測図



第187図　第285号住居跡出土遺物実測図

第285号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第187図 580	坏 土師器	B（2.1）	口縁部の破片。口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。	雲母・白色粒子 橙色 普通	5％　P L 245 体部外面間書 側位「下」=
572	甕 土師器	A　14.0 B（10.7）	体部は内弯して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部はわずかに外反し，端部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい黄橙色 普通	30％
503	椀 緑釉陶器	A［15.4］ B（3.7）	口縁部の破片。体部は内弯して口縁部にいたる。	体部内面ヘラ磨き。施釉，刷毛塗り。文様は暗オリーブで線彫文を施す。	精良・軟質，細砂， 胎土　灰白色，オリーブ黄釉，良好	5％

第286号住居跡（第188・189図）

位置　調査区域の中央部，Ｆ７d4区。

重複関係　第27Ａ号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　一辺が4.25ｍの方形である。

主軸方向　Ｎ－７°－Ｗ

壁　壁高は20～41cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅15～27cm，下幅８～20cm，深さ11～15cmで，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，東西の壁際を除いて踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ107cm，袖部最大幅は100cmである。袖部は砂粒を混ぜた灰褐色粘土で構築している。煙道部は，北壁を幅32cm，奥行き20cmにわたり逆Ｕ字形に掘り込んでいる。煙道は，25度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から48cmの深さで長径83cm，短径41cmの楕円形に掘り込み，ロームブロック・焼土粒子を含んだ褐色土を堆土してつくっている。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。

竈土層解説

1　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，粘土粒子・砂粒少量，焼土中ブロック微量
2　褐　　色　焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
3　灰 褐 色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
4　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
5　暗 褐 色　焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，焼土中ブロック微量
6　灰 褐 色　粘土中ブロック中量，炭化粒子微量
7　褐　　色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
8　褐　　色　炭化物・粘土粒子微量
9　暗赤褐色　焼土小ブロック多量，ローム小ブロック少量，焼土大ブロック微量
10　暗 褐 色　砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
11　暗 褐 色　ローム粒子少量，粘土粒子・砂粒微量
12　褐　　色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
13　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
14　褐　　色　砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
15　褐　　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量（掘り方）
16　褐　　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量（掘り方）

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は径21～27cmの円形，深さ35～50cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は径25cmの円形，深さ42cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム小ブロック中量
4　褐　　色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

覆土　８層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

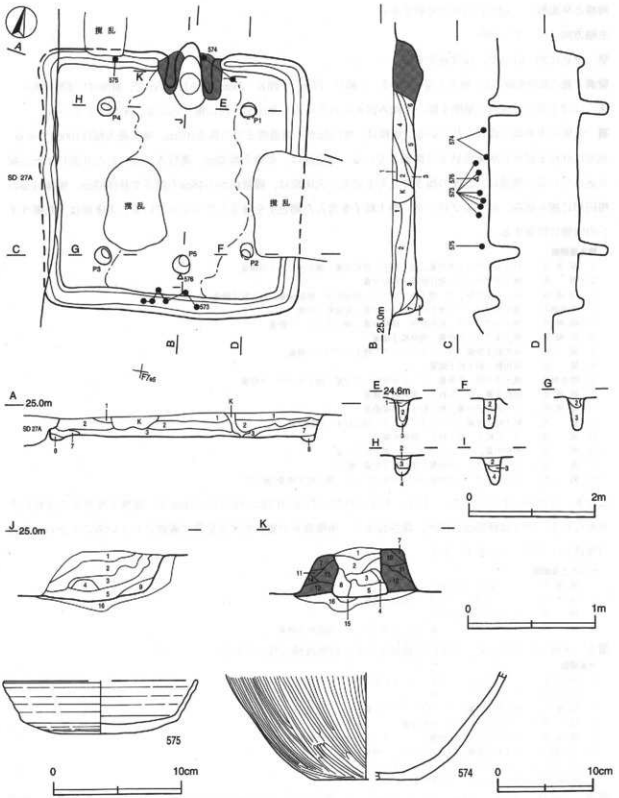
土層解説

1　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック少量
3　黒 褐 色　炭化粒子中量，ローム中ブロック少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・砂粒少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化物少量
6　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，ローム小ブロック微量
7　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
8　暗 褐 色　ローム小ブロック中量

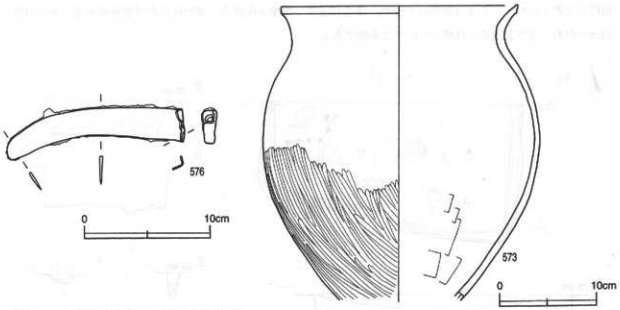
遺物　土師器片115点，須恵器片12点，鉄器２点（鎌・刀子）が出土している。第189図573の土師器甕は，南壁際の覆土中層から出土した破片が接合したものである。574の土師器甕は，竈内の覆土中層と竈の東側の覆土下層から出土した破片が接合したものである。575の須恵器坏は，北西部の覆土中層から出土している。576の鎌

は，南壁寄りの覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，８世紀前葉と推定される。



第188図　第286号住居跡・出土遺物実測図



第189図　第286号住居跡出土遺物実測図

第286号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第189図 573	甕 土師器	A 24.7 B (31.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくの字状に屈曲する。口縁部は外反して開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，中位から下位にかけて縦位のヘラ磨き。	砂粒・雲母・石英によい褐色 普通	60%　ＰＬ204
第188図 574	甕 土師器	B (11.3) C [11.2]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・赤色粒子によい黄橙色，普通	20%　ＰＬ204
575	坏 須恵器	A [15.2] B 4.2 C 12.0	底部から口縁部の破片。底部は平底で体部との境に幅広の面を有する。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部１方向のヘラ削り後，外周ナデ。	角礫・雲母・長石 灰色 普通	50%　ＰＬ204

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第189図576	鎌	14.0	2.6	0.2	40.1	鉄	曲刃。柄付部折り返し。	ＰＬ256

第287号住居跡（第190図）

位置　調査区域の中央部，Ｆ７b7区。

規模と平面形　東西方向14.4m，北部が調査区域外のために南北方向は現存値で2.18m，平面形については不明である。

主軸方向　Ｎ－10°－Ｗ（推定）。出入口施設に伴うと考えられるピットが南壁際にあり，調査区域外の北壁に竈が存在していると考えられることから，南壁と直行方向を主軸と推定した。

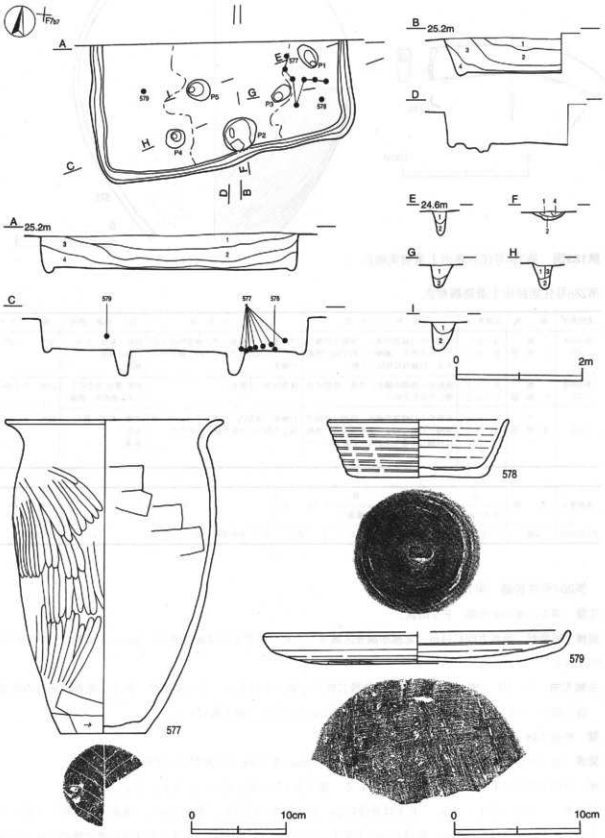
壁　壁高は48～53cmで，ほぼ直立する。

壁溝　壁下を巡っている。上幅11～22cm，下幅５～13cm，深さ5cmで，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１は長径40cm，短径25cmの楕円形，深さ36cmで，規模と位置から主柱穴と考えられる。Ｐ２は長径58cm，短径49cmの不定形，深さ15cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ３は長径32cm，短径19cmの楕円形，深さ38cmで，Ｐ１の補

助柱穴と考えられる。Ｐ４は径30cmの円形，深さ42cmで，規模と配置から補助柱穴の可能性がある。Ｐ５は径33cmの円形，深さ50cmで，性格については不明である。



第190図　第287号住居跡・出土遺物実測図

ピット土層解説
1　暗 褐 色　炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　炭化物少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量

覆土　4層からなる。ローム，焼土及び炭化物の含有状況や不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・炭化物少量，焼土小ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム粒子微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
4　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片101点，須恵器片91点が出土している。第190図577の土師器甕は，東部の覆土下層と床面から出土した破片が接合したものである。578の須恵器坏は，東部の床面から逆位で出土している。胎土に白色針状鉱物がみられ，体部外面に平行した沈線状の強いロクロ目があることから，木業下窯産と考えられる。579の須恵器皿は，西部の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，８世紀中葉と推定される。

第287号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第190図 577	甕 土師器	A 22.2 B 32.6 C 8.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は内弯して立ち上がり，頸部で屈曲し，口縁部は外方に開く。	口縁部，体部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。体部下端横位のヘラ削り。底部木葉痕。	砂粒・長石 橙色 普通	60%　ＰＬ204
578	坏 須恵器	A 14.3 B 4.6 C 10.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して直線的に立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。底部回転ヘラ削り後，外周ナデ。	小石・石英・白色針状物 灰黄色，普通	90%　ＰＬ204 木業下窯産
579	皿 須恵器	A [24.0] B 2.5 C 17.0	底部から口縁部の破片。平底。体部はやや内弯して外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部は多方向のヘラ削り。	雲母・石英・黒色粒子 褐灰色，普通	50%　ＰＬ204

第288号住居跡（第191・192図）

位置　調査区域の中央部，Ｆ７f5区。

規模と平面形　長軸5.52m，短軸4.85mの長方形である。

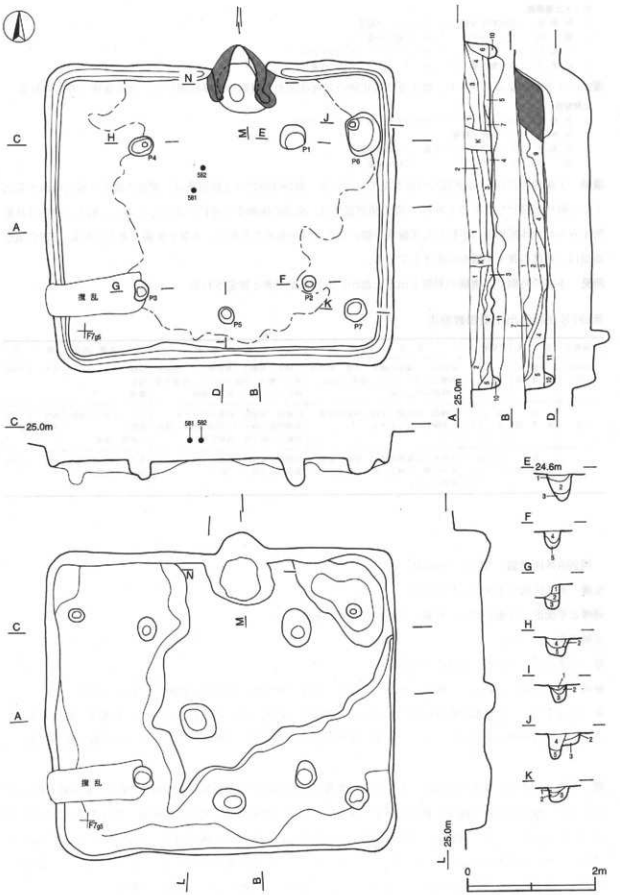
主軸方向　Ｎ－０°

壁　壁高は27～54cmで，ほぼ直立する。

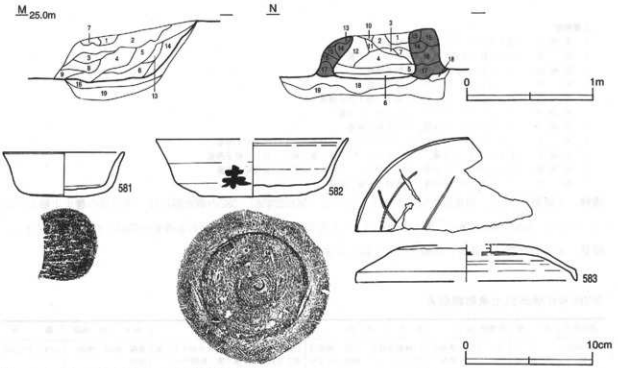
壁溝　壁下を巡っている。上幅18～28cm，下幅５～13cm，深さ10～12cmで，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。西部は一段低く掘り込まれ，中央部は土坑状に掘り込まれている。これらの掘り方はローム大ブロック・炭化粒子を含む褐色土で埋め戻され，その土を踏み締めて床としている。

竈　北壁の中央やや東寄りに設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ106cm，袖部最大幅は107cmである。袖部は砂粒を混ぜた黄褐色粘土で構築している。煙道部は，北壁を幅80cm，奥行き32cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は，30度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から51cmの深さで長径75cm，短径55cmの不定形に掘り込み，ロームブロック・炭化粒子を含んだ暗褐色土を埋土してつくっている。火床面は径27cmの円形で，底面から３cmほどくぼんでいる。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。



第191図　第288号住居跡実測図



第192図　第288号住居跡・出土遺物実測図

覆土層解説

1　暗 褐 色　粘土中ブロック・砂粒中量，炭化粒子微量
2　黒 褐 色　炭化粒子・粘土小ブロック少量
3　黒 褐 色　炭化粒子少量，焼土粒子・粘土中ブロック微量
4　暗赤褐色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
6　極暗褐色　炭化粒子中量，焼土粒子微量
7　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　　色　粘土中ブロック少量
9　褐　　色　粘土中ブロック微量
10　褐　　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
11　褐　　色　粘土中ブロック多量，砂粒中量，焼土粒子・炭化物少量
12　暗 褐 色　粘土中ブロック中量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　明 褐 色　粘土小ブロック少量
14　褐　　色　焼土中ブロック・灰中量，ローム小ブロック少量
15　暗 褐 色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，砂粒微量
16　褐　　色　粘土小ブロック中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化物微量
17　褐　　色　粘土中ブロック多量，砂粒中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
18　暗 褐 色　ローム中ブロック・炭化粒子中量，砂粒少量（掘り方）
19　暗 褐 色　ローム大ブロック中量，炭化粒子少量（掘り方）

ピット　7か所（Ｐ１～Ｐ７）。Ｐ１～Ｐ４は長径25～45㎝，短径22～36㎝の楕円形，深さ31～45㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は径24㎝の円形，深さ27㎝で，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・Ｐ７は径19㎝・35㎝の円形，深さ42㎝・26㎝で，規模や位置から主柱穴の補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1　暗 褐 色　ローム中ブロック少量，ローム小ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子微量
4　褐　　色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

覆土　10層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1 黒褐色　焼土小ブロック，炭化粒子少量
2 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3 暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
4 褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5 暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
6 暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
7 暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
8 褐　色　ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
9 暗褐色　粘土大ブロック中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・ローム粒子微量
10 暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
11 褐　色　ローム大ブロック中量，炭化粒子少量（貼床）

遺物　土師器片156点，須恵器片34点が出土している。第192図581・582の須恵器坏は，中央部の覆土上層から出土している。583の須恵器蓋は，覆土中から出土したもので，ヘラ記号と思われる線刻が頂部と外周部にみられる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から８世紀前葉と推定される。

第288号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第192図 581	坏 須恵器	A 9.5 B 3.5 C 5.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部１方向のヘラ削り後，外周ナデ。	角礫・砂粒・雲母 灰色 普通	60%　ＰＬ204
582	坏 須恵器	A [15.1] B 4.6 C 11.8	底部から口縁部の破片。底部は平底で外周部にいわゆる二次底面を有する。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，外周ナデ。	砂粒・雲母・石英片 黄褐色 普通	60%　ＰＬ204 体部外面墨書 正位「来」か
583	蓋 須恵器	A [17.6] B (2.9)	天井部から口縁部の破片。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲する。	天井部は右回りの回転ヘラ削り。外周部ロクロナデ。	雲母・長石・黒色粒子 灰白色，普通	30%　ＰＬ204 天井部外面ヘラ記号

第289号住居跡（第193・194図）

位置　調査区域の中央部，Ｆ７ｂ９区。

規模と平面形　東西方向4.32m，北部が調査区域外のために南北方向は現存値で2.62mで，平面形については不明である。

主軸方向　Ｎ－10°－Ｗ（推定）。出入口施設に伴うと考えられるピットが南壁にあり，調査区域外の北壁に竈が存在していると考えられることから，南壁と直行方向を主軸と推定した。

壁　壁高は47～50cmで，ほぼ直立する。

壁溝　壁下を巡っている。上幅10～20cm，下幅３～12cm，深さ４～７cmで，断面はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，南東コーナー部を除いて踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１は径26cmの円形，深さ44cmである。Ｐ２は長径38cm，短径27cmの不整楕円形，深さ33cmである。Ｐ１・Ｐ２は，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ３は径42cmの円形，深さ22cmで，南壁寄りに位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ４は長径30cm，短径20cmの楕円形，深さ12cmで，規模と配置から補助柱穴であると考えられる。Ｐ５・Ｐ６は径25cmの円形，深さ18cm・14cmで，性格については不明である。

ピット土層解説
1 暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 褐　色　ローム小ブロック少量

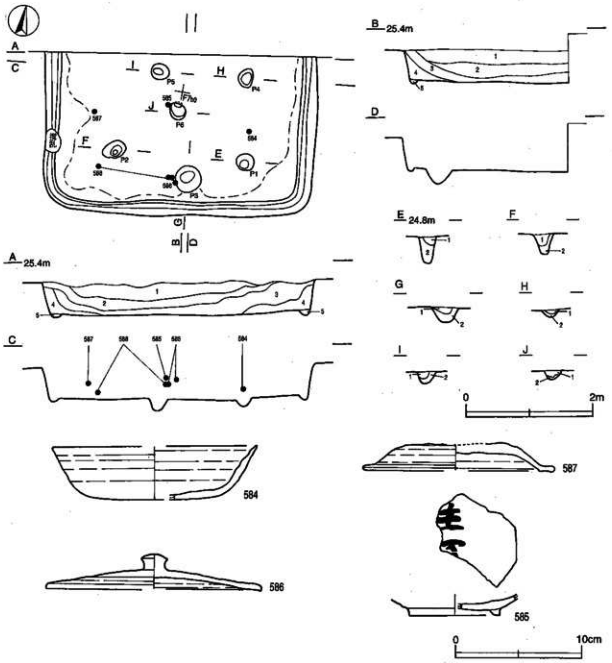
覆土　５層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

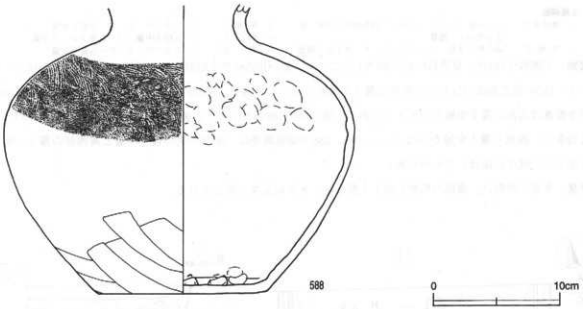
1	極暗褐色	ローム中ブロック・炭化粒子・白色微粒子少量，焼土小ブロック微量	3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
2	黒褐色	炭化粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子微量	4	褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
			5	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片121点，須恵器片45点が出土している。第193図584の土師器坏は，東部の覆土下層から出土している。585の須恵器高台付坏は中央部の覆土中層から出土しており，底部内面に「主万」の墨書がある。586の須恵器蓋は南部の覆土中層から出土しており，第335住居跡から出土した破片と接合したものである。587の須恵器蓋は，西部の覆土中層から出土している。588の須恵器甕は，南部中央の覆土中層と南西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，8世紀前葉と推定される。



第193図　第289号住居跡・出土遺物実測図



第194図　第289号住居跡出土遺物実測図

第289号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第193図 584	坏 土師器	A [16.2] B 4.2 C [10.2]	底部から口縁部の破片。丸底気味の平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り後，外周ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	40%　ＰＬ204
585	高台付坏 須恵器	B (1.7) D [7.1] E 0.6	底部の破片。高台は短く，断面逆台形を呈する。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母 灰色 普通	15%　ＰＬ249 底部内面墨書 「主万」
586	蓋 須恵器	A 17.1 B 2.8 F 2.2 G 1.3	口縁部一部欠損。天井部から外周部にかけてなだらかに下降する。口縁部は角張らせている。つまみは扁高の擬宝珠状。	天井部は右回りの回転ヘラ削り。外周部ロクロナデ。	砂粒・白色針状物 灰黄色 普通	60%　ＰＬ204 木葉下窯産
587	蓋 須恵器	A [15.3] B (2.2)	天井部から口縁部の破片。つまみ部欠損。天井部は平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁端部にはわずかにかえりが付く。	天井部は左回りの回転ヘラ削り。外周部ロクロナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	40%　ＰＬ204
第194図 588	甕 須恵器	B (23.0) C 13.2	底部から頸部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくの字状に屈曲する。	頸部内・外面横ナデ。体部外面上部に同心円状の叩き。体部内・外面ナデ。体部下端斜位のヘラ削り。内面上位に指頭押圧痕。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰白色 普通	75%　ＰＬ204

第290号住居跡（第195・196図）

位置　調査区域の中央部，Ｆ７c9区。

規模と平面形　長軸2.60m，短軸2.27mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－15°－Ｅ

壁　壁高は10～14cmで，ほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈　北壁の中央やや東寄りに設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ74cm，袖部最大幅は105cmである。袖部は，ローム小ブロック・粘土中ブロック・砂粒を含む褐色土を芯材にして，ローム粒子・粘土小ブロック・砂粒を含む暗褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は，北壁を幅60cm，奥行き43cmほど三角

形に掘り込んでいる。煙道は，65度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から28cmの深さで長径59cm，短径40cmの不整楕円形に掘り込んでつくっている。火床面は，北壁ライン上に位置する。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	粘土小ブロック中量，焼土粒子・砂粒少量	8	灰褐色	粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
2	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	粘土中ブロック・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子微量	10	暗褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量，ローム粒子微量
4	暗褐色	焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量	11	褐色	粘土中ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
5	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量			
6	灰褐色	粘土粒子中量			
7	にぶい赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，粘土小ブロック・砂粒少量			

ピット　3か所（P１～P３）。P１は長径24cm，短径19cmの楕円形，深さ25cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P２は長径60cm，短径50cmの不整楕円形，深さ18cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P３は径62cmの円形，深さ30cmで，遺物等も出土しておらず，ピットの性格については不明である。

ピット土層解説

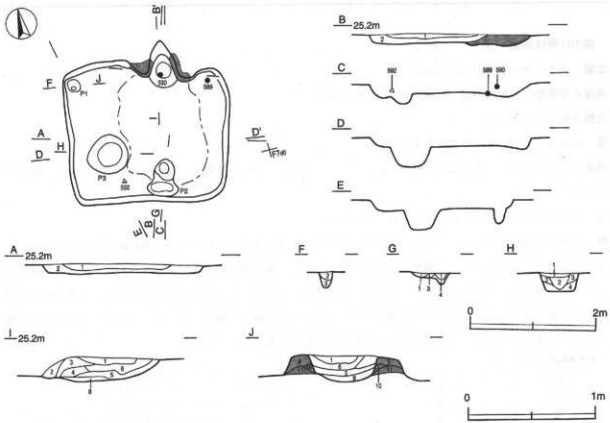
1	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック微量	3	褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム中ブロック中量，炭化粒子少量	4	褐色	ローム中ブロック少量，焼土粒子微量

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子微量

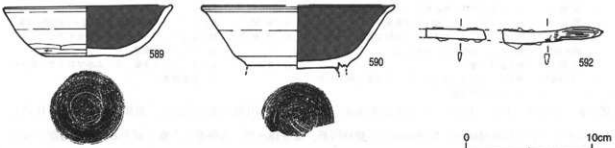
遺物　土師器片77点，須恵器片14点，鉄器１点（刀子）が出土している。第196図589の土師器坏は，北東コーナー部の床面から出土している。590の土師器高台付椀は，竈火床部中央の覆土上層から正位で出土している。



第195図　第290号住居跡実測図

592の刀子は，南部の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，10世紀前葉と推定される。



第196図　第290号住居跡出土遺物実測図

第290号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第196図 589	坏 土師器	A 13.2 B 4.0 C 6.0	完形。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	100%　P L.204 底部ヘラ記号
590	高台付椀 土師器	A [15.1] B (5.3)	底部から口縁部の破片。高台部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	40%　P L.204

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
592	刀子	(14.0)	(8.0)	1.0	0.3	6.0	(13.2)	鉄	茎部木質付着。	

第291号住居跡（第197・198図）

位置　調査区域の中央部，F 8 d8区。

規模と平面形　長軸2.89m，短軸2.77mの方形である。

主軸方向　N－20°－E

壁　壁高は15～18cmで，ほぼ直立する。

壁溝　北壁，西壁の一部を除き，壁下を巡っている。上幅13～18cm，下幅5～10cm，深さ4～6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ78cm，袖部最大幅は128cmである。袖部は砂粒を混ぜた白色粘土で構築している。煙道部は，北壁を幅68cm，奥行き50cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は，50度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から40cmの深さで長径60cm，短径48cmの不整楕円形に掘り込み，ロームブロック・焼土ブロックを含んだ褐色土を埋土してつくっている。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。火床部内には，石製支脚が正位で遺存していた。

竈土層解説

1　暗褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
2　にぶい褐色　粘土大ブロック中量
3　明赤褐色　焼土小ブロック多量
4　暗褐色　焼土小ブロック少量
5　暗褐色　粘土中ブロック中量
6　暗褐色　粘土小ブロック少量
7　褐色　ローム中ブロック中量
8　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，砂粒中量
9　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック少量

10	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（掘り方）
11	暗褐色	粘土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量	14	褐　色	ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量（掘り方）
12	褐　色	粘土粒子少量，ローム小ブロック微量	15	褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量（掘り方）

ピット　2か所（P1・P2）。P1は径38cmの円形，深さ23cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P2は径50cmの不定形，深さ24cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1	褐　色	ローム中ブロック中量	3	褐　色	ローム大ブロック多量
2	暗褐色	ローム小ブロック少量			

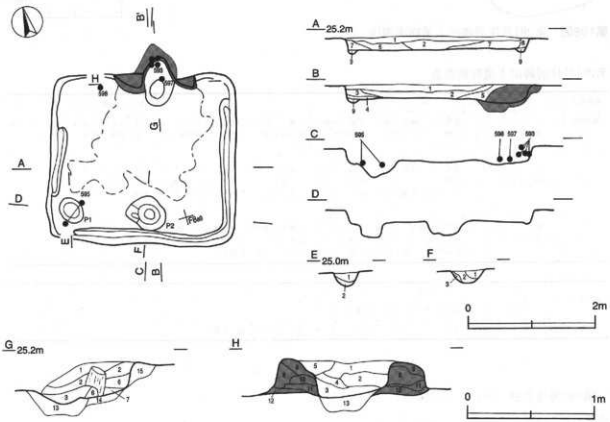
覆土　9層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

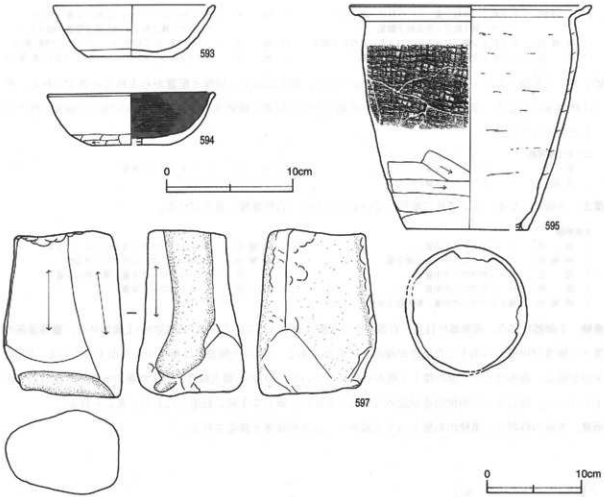
1	褐　色	ローム小ブロック中量	6	暗褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック少量
2	暗褐色	ローム小ブロック・炭化物中量	7	暗褐色	炭化物中量，ローム中ブロック少量
3	褐　色	ローム中ブロック少量	8	褐　色	ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
4	褐　色	ローム中ブロック中量	9	褐　色	ローム小ブロック少量
5	暗褐色	焼土小ブロック中量，粘土粒子少量			

遺物　土師器片15点，須恵器片11点，石器1点（支脚）が出土している。第198図593の土師器坏は，竈煙道部の覆土上層及び中層から出土した破片が接合したものである。594の土師器坏は覆土中から出土している。595の須恵器甑は，南西コーナー部の覆土下層から出土している。597の石製支脚は，火床部奥の底面から直立して出土している。砥石としての使用痕が認められることから，砥石を支脚に転用したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，9世紀後葉と推定される。



第197図　第291号住居跡実測図



第198図　第291号住居跡出土遺物実測図

第291号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第198図 593	坏 土師器	A 12.8 B 4.2 C 6.7	底部から口縁部の破片。平底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	雲母・石英・赤色粒子にぶい橙色，普通	75%　PL.204
594	坏 土師器	A [13.2] B 4.2 C [6.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部はやや外反する。口縁端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	雲母・石英・赤色粒子にぶい橙色 普通	40%　PL.204
595	甕 須恵器	A 25.0 B 23.4 C 12.7	底部，口縁部一部欠損。五孔式か。体部は外傾して立ち上がり，頸部で強く屈曲する。口縁部は外方に開く。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面格子目状の叩き。体部下端横位のヘラ削り。内面に輪積み痕。	雲母・石英・赤色粒子灰黄褐色，普通	80%　PL.204

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
597	支脚	(17.5)	12.3	11.1	(3,290.0)	砂岩	紡石を支脚に転用。	PL.253

第293号住居跡（第199・200図）

位置　調査区域の中央部，Ｆ８d2区。

規模と平面形　長軸3.72m，短軸3.28mの長方形である。

主軸方向　N－5°－E

壁　壁高は28～30cmで，ほぼ直立する。

壁溝　竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅10～22cm，下幅5～15cm，深さ10～13cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，各コーナー部を除いて踏み固められている。北東コーナー部を除くコーナー部が不整形の土坑状に掘り込まれている。また，ピット状の掘り込みも3か所検出されている。この掘り込みにロームブロック・ローム粒子等を含む暗褐色土及び褐色土で埋め戻し，その上にロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子を含む褐色土をいれ，踏み締めて，厚さ3～9cmの貼床としている。土層断面図中，第5層がこの土層である。

竈　北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ120cm，袖部最大幅は139cmである。袖部はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む暗褐色土を芯材にして，砂粒を含む灰褐色土を貼り付けて構築している。煙道部は，北壁を幅110cm，奥行き54cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は，50度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から49cmの深さで長径95cm，短径70cmの楕円形に掘り込み，ロームブロック・ローム粒子等を含む，暗褐色土と褐色土を埋土してつくっている。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。

竈土層解説

1	褐　色	焼土小ブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック微量
3	暗褐色	粘土大ブロック中量，焼土小ブロック・砂粒少量，焼土中ブロック微量
4	暗赤褐色	焼土小ブロック中量，焼土大ブロック・炭化粒子少量
5	暗褐色	焼土大ブロック・焼土小ブロック中量，ローム粒子微量
6	暗赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子少量
7	暗褐色	焼土粒子中量，炭化粒子少量
8	暗赤褐色	焼土粒子多量
9	暗褐色	焼土粒子少量
10	暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック微量
11	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量(掘り方)
12	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量(掘り方)
13	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
14	灰褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
15	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
16	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
17	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量

ピット　1か所。P1は径28cmの円形，深さ36cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック少量
2	暗褐色	ローム粒子微量
3	褐　色	ローム小ブロック少量
4	褐　色	ローム中ブロック少量

覆土　4層からなる。レンズ状の堆積をしていることから，自然堆積と考えられる。

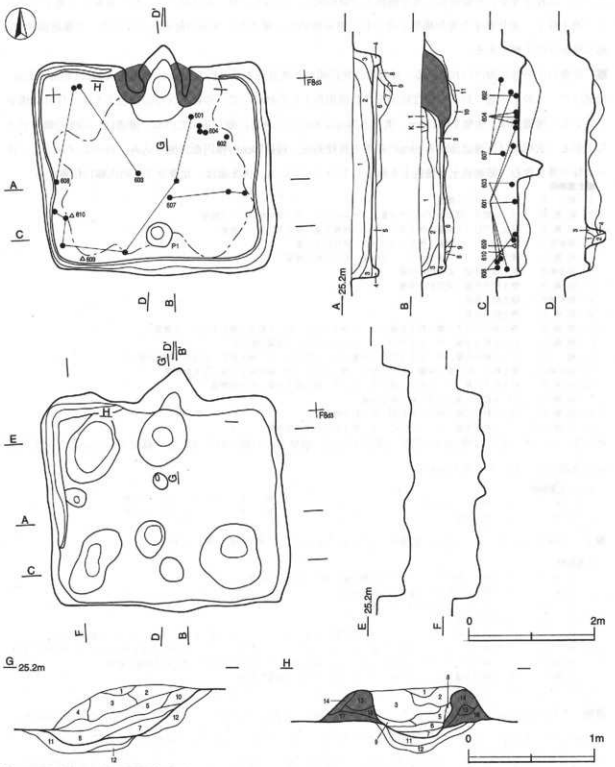
土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量，焼土中ブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3	褐　色	ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
4	褐　色	ローム粒子中量
5	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック微量（貼床）
6	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物微量（貼床）
7	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量（貼床）
8	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量（貼床）
9	褐　色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量（貼床）

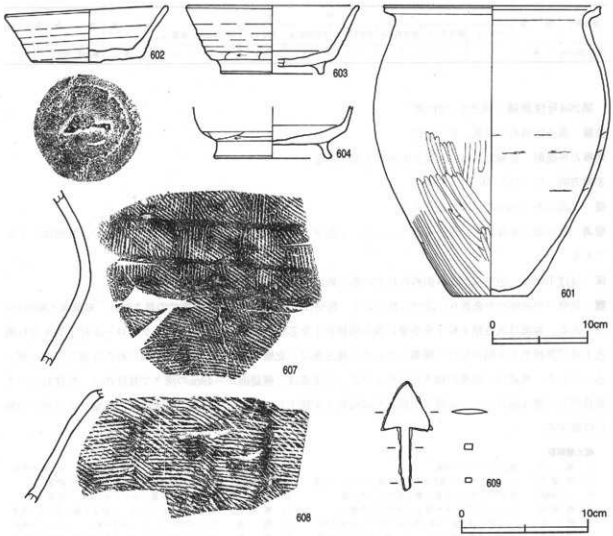
遺物　土師器片118点，須恵器片162点，鉄器1点（鏃），鉄滓1点が出土している。第200図601の土師器甕は，南西部から北東部にかけての広い範囲の破片が接合したものである。破片は土層断面図中の第2層中から，そのほとんどが出土している。602の須恵器坏は，北東部の覆土下層から出土している。603と604は須恵器高台付坏である。603は，中央部の覆土下層と北西部の床面から出土した破片が接合したものである。604は竈の東袖

前の覆土下層から出土している。607の須恵器甕は，中央部の覆土上層と東部の覆土上層及び中層から出土した破片が接合したものである。608の須恵器鉢は，西部の覆土上層と北西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。609の鉄鏃は，南西部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，8世紀中葉と推定される。



第199図　第293号住居跡実測図



第200図　第293号住居跡出土遺物実測図

第293号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第200図 601	甕 土師器	A [22.6] B 30.3 C 7.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲し，口縁部は外方に開く。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部，頸部横ナデ。体部外面中位から下位縦位のヘラ磨き。内面に輪積み痕を残す。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	60%　ＰＬ205
602	坏 須恵器	A 13.0 B 4.5 C 8.7	口縁部，体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り離し痕を残す。箱なナデ。	雲母・長石・石英・赤色粒子 灰黄色，普通	80%　ＰＬ205
603	高台付坏 須恵器	A [13.6] B 5.4 D [7.8] E 1.1	底部から口縁部の破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり，口縁部にいたる。高台はわずかにハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	粗い，雲母・砂粒多量 灰色 普通	25%　ＰＬ205
604	高台付坏 須恵器	B (4.2) D 9.3 E 1.4	底部から体部の破片。体部はやや外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開き，わずかに外方にふんばる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・石英・雲母 灰黄色 普通	30%　ＰＬ205
607	甕 須恵器	B (14.0)	体部の破片。体部は内彎している。	体部外面縦格子目叩き。内面指頭押圧痕。	砂粒・雲母 灰色，普通	10%
608	鉢 須恵器	B (9.1)	体部の破片。体部は外傾している。	体部外面縦格子目叩き。内面指頭押圧痕。	砂粒・雲母・黒色粒子 灰色，普通	10%